

水上(2)遺跡Ⅲ

【第3分冊

掘立柱建物跡・焼土遺構・土器
埋設遺構・土坑・ピット・
盛土遺構・遺構外出土遺物編】

二〇一七・三

青森県教育委員会

水上(2)遺跡Ⅲ

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

【第3分冊 掘立柱建物跡・焼土遺構・土器埋設遺構・
土坑・ピット・盛土遺構・遺構外出土遺物編】

2017年3月

青森県教育委員会

水上(2)遺跡Ⅲ

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

【第3分冊 掘立柱建物跡・焼土遺構・土器埋設遺構・
土坑・ピット・盛土遺構・遺構外出土遺物編】

2017年3月

青森県教育委員会

目 次

(第3分冊 掘立柱建物跡・焼土遺構・土器埋設遺構・土坑・ピット・盛土遺構・遺構外出土遺物編)

第3章 検出遺構と出土遺物

第3節 掘立柱建物跡	1
第4節 焼土遺構	4
第5節 土器埋設遺構	7
第6節 土坑	12
第7節 ピット	16
第8節 盛土遺構	21
第9節 沢1・沢2・沢3・北斜面・西斜面・遺構外出土遺物	24
第1項 沢1	25
第2項 沢2	26
第3項 沢3	28
第4項 北斜面	29
第5項 西斜面	29
第6項 遺構外出土遺物	30
掘立柱建物跡観察表	372
焼土遺構観察表	373
土器埋設遺構観察表	375
土坑観察表	378
ピット観察表	383
振り替え・統合・抹消遺構一覧表	408
ピットに振り替えた遺構一覧表	413
遺構別出土遺物一覧表	415
遺構外出土遺物一覧表	426
土器観察表	427
剥片石器観察表	472
礫石器観察表	476
土製品観察表	480
石製品観察表	485

挿図目次

☒ 1 掘立柱建物跡1 (SB1001)	39	☒ 14 焼土遺構9 (SN1023~4012)	52
☒ 2 掘立柱建物跡2 (SB1002)	40	☒ 15 焼土遺構10 (SN4013~5001)	53
☒ 3 掘立柱建物跡3 (SB5001)	41	☒ 16 焼土遺構11 (SN5002~5007)	54
☒ 4 掘立柱建物跡4 (SB10001・10002)	42	☒ 17 焼土遺構12 (SN5008~5014)	55
☒ 5 掘立柱建物跡5 (SB10003)	43	☒ 18 焼土遺構13 (SN5016~5505)	56
☒ 6 焼土遺構1 (SN1~14)	44	☒ 19 焼土遺構14 (SN6001~10005)	57
☒ 7 焼土遺構2 (SN15~73)	45	☒ 20 焼土遺構15 (SN10006~10008)	58
☒ 8 焼土遺構3 (SN56~104)	46	☒ 21 土器埋設遺構1 (SR1~10)	59
☒ 9 焼土遺構4 (SN105~122)	47	☒ 22 土器埋設遺構2 (SR12~23)	60
☒ 10 焼土遺構5 (SN121・126)	48	☒ 23 土器埋設遺構3 (SR24~33)	61
☒ 11 焼土遺構6 (SN123~125)	49	☒ 24 土器埋設遺構4 (SR51~64)	62
☒ 12 焼土遺構7 (㊦SN1002~1008)	50	☒ 25 土器埋設遺構5 (SR65~80)	63
☒ 13 焼土遺構8 (SN1010~1022)	51	☒ 26 土器埋設遺構6 (SR81~93)	64

図 27	土器埋設遺構7 (SR101~114)	65	図 94	土坑28 (SK6035~6055)	132
図 28	土器埋設遺構8 (SR109~1011)	66	図 95	土坑29 (SK6043~6058)	133
図 29	土器埋設遺構9 (SR1013~1023)	67	図 96	土坑30 (SK6059~6072)	134
図 30	土器埋設遺構10 (SR1024~4010)	68	図 97	土坑31 (SK10001~10013)	135
図 31	土器埋設遺構11 (SR4011~4022)	69	図 98	土坑32 (SK10015~10027)	136
図 32	土器埋設遺構12 (SR4024~4044)	70	図 99	土坑33 (SK10028~10048)	137
図 33	土器埋設遺構13 (SR4045~4055)	71	図 100	土坑34 (SK10033~10043)	138
図 34	土器埋設遺構14 (SR4053~4061)	72	図 101	土坑35 (SK10044~10103)	139
図 35	土器埋設遺構15 (SR4062~5008)	73	図 102	ピット1 (SP332~883)	140
図 36	土器埋設遺構16 (SR5009~10004)	74	図 103	ピット2 (SP887~1349)	141
図 37	土坑・ピット配置図位置図	75	図 104	ピット3 (SP1352~1376)	142
図 38	土坑・ピット配置図1	76	図 105	ピット4 (SP1381~1492)	143
図 39	土坑・ピット配置図2	77	図 106	ピット5 (SP1513~2401)	144
図 40	土坑・ピット配置図3	78	図 107	ピット6 (SP2484~2510)	145
図 41	土坑・ピット配置図4	79	図 108	ピット7 (SP3004~4624)	146
図 42	土坑・ピット配置図5	80	図 109	ピット8 (SP4649~4919)	147
図 43	土坑・ピット配置図6	81	図 110	ピット9 (SP4920~5100)	148
図 44	土坑・ピット配置図7	82	図 111	ピット10 (SP5108~5517)	149
図 45	土坑・ピット配置図8	83	図 112	ピット11 (SP5518~5553)	150
図 46	土坑・ピット配置図9	84	図 113	ピット12 (SP5558B~5585)	151
図 47	土坑・ピット配置図10	85	図 114	ピット13 (SP5586~6000)	152
図 48	土坑・ピット配置図11	86	図 115	ピット14 (SP6001~9062)	153
図 49	土坑・ピット配置図12	87	図 116	ピット15 (SP9075~9262)	154
図 50	土坑・ピット配置図13	88	図 117	ピット16 (SP9273~10152)	155
図 51	土坑・ピット配置図14	89	図 118	ピット17 (SP10161~10401)	156
図 52	土坑・ピット配置図15	90	図 119	ピット18 (SP10522~11293)	157
図 53	土坑・ピット配置図16	91	図 120	ピット19 (SP11294~12201)	158
図 54	土坑・ピット配置図17	92	図 121	盛土遺構1	159
図 55	土坑・ピット配置図18	93	図 122	盛土遺構2	160
図 56	土坑・ピット配置図19	94	図 123	沢1~3・北斜面・西斜面位置図	161
図 57	土坑・ピット配置図20	95	図 124	沢2範囲図	162
図 58	土坑・ピット配置図21	96	図 125	沢1・2断面図	163
図 59	土坑・ピット配置図22	97	図 126	沢3範囲図・断面図	164
図 60	土坑・ピット配置図23	98	図 127	北斜面・西斜面断面図	165
図 61	土坑・ピット配置図24・26	99	図 128	土器1 (SB1001~10002、SN55~1008)	166
図 62	土坑・ピット配置図25・27	100	図 129	土器2 (SN1005~4003)	167
図 63	土坑・ピット配置図28~30	101	図 130	土器3 (SN4013~10007)	168
図 64	土坑・ピット配置図31・34	102	図 131	土器4 (SR1~6)	169
図 65	土坑・ピット配置図32	103	図 132	土器5 (SR7~12)	170
図 66	土坑・ピット配置図33	104	図 133	土器6 (SR13~15)	171
図 67	土坑1 (SK1~104)	105	図 134	土器7 (SR16~21)	172
図 68	土坑2 (SK1062~1069)	106	図 135	土器8 (SR22~26)	173
図 69	土坑3 (SK1070~1078)	107	図 136	土器9 (SR27~31)	174
図 70	土坑4 (SK1079~1087)	108	図 137	土器10 (SR32~53)	175
図 71	土坑5 (SK1088~1114)	109	図 138	土器11 (SR54~59)	176
図 72	土坑6 (SK1112・1113)	110	図 139	土器12 (SR60~64)	177
図 73	土坑7 (SK1115~1507)	111	図 140	土器13 (SR65~69)	178
図 74	土坑8 (SK1508~1518)	112	図 141	土器14 (SR70~73)	179
図 75	土坑9 (SK1519~1528)	113	図 142	土器15 (SR77~85)	180
図 76	土坑10 (SK3001~3004)	114	図 143	土器16 (SR83~89)	181
図 77	土坑11 (SK3002~3012)	115	図 144	土器17 (SR88~92)	182
図 78	土坑12 (SK4001~4031)	116	図 145	土器18 (SR93~104)	183
図 79	土坑13 (SK4502~5005)	117	図 146	土器19 (SR105・106)	184
図 80	土坑14 (SK5006~5012)	118	図 147	土器20 (SR107~114)	185
図 81	土坑15 (SK5014~5029)	119	図 148	土器21 (SR115~119)	186
図 82	土坑16 (SK5030~5043)	120	図 149	土器22 (SR120~124)	187
図 83	土坑17 (SK5045~5060)	121	図 150	土器23 (SR125~1009)	188
図 84	土坑18 (SK5062~5527)	122	図 151	土器24 (SR1010~1013)	189
図 85	土坑19 (SK5530~5543)	123	図 152	土器25 (SR1014~1019)	190
図 86	土坑20 (SK5544~5560)	124	図 153	土器26 (SR1018~1022)	191
図 87	土坑21 (SK5562~5571)	125	図 154	土器27 (SR1023~4004)	192
図 88	土坑22 (SK5572~5579)	126	図 155	土器28 (SR4005~4009)	193
図 89	土坑23 (SK5583~5590)	127	図 156	土器29 (SR4008~4012)	194
図 90	土坑24 (SK5592・5593)	128	図 157	土器30 (SR4013~4019)	195
図 91	土坑25 (SK6001~6019)	129	図 158	土器31 (SR4021~4025)	196
図 92	土坑26 (SK6009~6018)	130	図 159	土器32 (SR4035~4038)	197
図 93	土坑27 (SK6020~6034)	131	図 160	土器33 (SR4039・4042)	198

☒ 161	土器34(SR4040~4044)	199	☒ 228	土器101(遺構外)	266
☒ 162	土器35(SR4045~4047)	200	☒ 229	土器102(遺構外)	267
☒ 163	土器36(SR4048~4053)	201	☒ 230	土器103(遺構外)	268
☒ 164	土器37(SR4052~4056)	202	☒ 231	土器104(遺構外)	269
☒ 165	土器38(SR4057~4062)	203	☒ 232	土器105(遺構外)	270
☒ 166	土器39(SR4063~4502)	204	☒ 233	土器106(遺構外)	271
☒ 167	土器40(SR4052~5004)	205	☒ 234	土器107(遺構外)	272
☒ 168	土器41(SR5005~5009)	206	☒ 235	土器108(遺構外)	273
☒ 169	土器42(SR5010~10001)	207	☒ 236	土器109(遺構外)	274
☒ 170	土器43(SR10001~10004)	208	☒ 237	土器110(遺構外)	275
☒ 171	土器44(SK1~9)	209	☒ 238	土器111(遺構外)	276
☒ 172	土器45(SK9~1080)	210	☒ 239	土器112(遺構外)	277
☒ 173	土器46(SK1069~1076)	211	☒ 240	土器113(遺構外)	278
☒ 174	土器47(SK1077~1113)	212	☒ 241	土器114(遺構外)	279
☒ 175	土器48(SK1098~4004)	213	☒ 242	土器115(遺構外)	280
☒ 176	土器49(SK4006~5001)	214	☒ 243	剥片石器1(SB・SN・SR・SK6~53)	281
☒ 177	土器50(SK5001~5014)	215	☒ 244	剥片石器2(SK1・9)	282
☒ 178	土器51(SK5020~5062)	216	☒ 245	剥片石器3(SK1098~6025)	283
☒ 179	土器52(SK5066~5571)	217	☒ 246	剥片石器4(SK10020~10027・SP12~560)	284
☒ 180	土器53(SK5565~10005)	218	☒ 247	剥片石器5(SP536~2088)	285
☒ 181	土器54(SK10006~10025)	219	☒ 248	剥片石器6(SP2011~5101)	286
☒ 182	土器55(SK10027~10049)	220	☒ 249	剥片石器7(SP4563~12342)	287
☒ 183	土器56(SP11~476)	221	☒ 250	剥片石器8(盛土遺構)	288
☒ 184	土器57(SP482~1348)	222	☒ 251	剥片石器9(沢1・沢2・沢3・北斜面・西斜面)	289
☒ 185	土器58(SP1353~4121)	223	☒ 252	剥片石器10(遺構外)	290
☒ 186	土器59(SP4112~4516)	224	☒ 253	剥片石器11(遺構外)	291
☒ 187	土器60(SP4615~5133)	225	☒ 254	剥片石器12(遺構外)	292
☒ 188	土器61(SP5134~5455)	226	☒ 255	剥片石器13(遺構外)	293
☒ 189	土器62(SP5457~5769)	227	☒ 256	剥片石器14(遺構外)	294
☒ 190	土器63(SP5736~5981)	228	☒ 257	剥片石器15(遺構外)	295
☒ 191	土器64(SP5990~8022)	229	☒ 258	剥片石器16(遺構外)	296
☒ 192	土器65(SP8062~8650)	230	☒ 259	剥片石器17(遺構外)	297
☒ 193	土器66(SP8651~9572)	231	☒ 260	剥片石器18(遺構外)	298
☒ 194	土器67(SP9573~10161)	232	☒ 261	剥片石器19(遺構外)	299
☒ 195	土器68(SP10193~10373)	233	☒ 262	剥片石器20(遺構外)	300
☒ 196	土器69(SP10452~10789)	234	☒ 263	剥片石器21(遺構外)	301
☒ 197	土器70(SP10792~12216)	235	☒ 264	剥片石器22(遺構外)	302
☒ 198	土器71(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)1)	236	☒ 265	剥片石器23(遺構外)	303
☒ 199	土器72(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)1)	237	☒ 266	剥片石器24(遺構外)	304
☒ 200	土器73(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)1)	238	☒ 267	礫石器1(SB・SN121~5503)	305
☒ 201	土器74(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)1~2)	239	☒ 268	礫石器2(SN5504・6002)	306
☒ 202	土器75(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)2~9)	240	☒ 269	礫石器3(SR8~90)	307
☒ 203	土器76(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)7~11)	241	☒ 270	礫石器4(SR1007~4501)	308
☒ 204	土器77(盛土遺構・Ⅲ(廃棄層)11~14・他)	242	☒ 271	礫石器5(SK1~1080)	309
☒ 205	土器78(沢1・沢2)	243	☒ 272	礫石器6(SK1097~10020・盛土遺構)	310
☒ 206	土器79(沢2・沢3)	244	☒ 273	礫石器7(SP126~4350)	311
☒ 207	土器80(北斜面・西斜面・遺構外)	245	☒ 274	礫石器8(SP4384~8609)	312
☒ 208	土器81(遺構外)	246	☒ 275	礫石器9(SP10131~12047)	313
☒ 209	土器82(遺構外)	247	☒ 276	礫石器10(沢1)	314
☒ 210	土器83(遺構外)	248	☒ 277	礫石器11(沢2)	315
☒ 211	土器84(遺構外)	249	☒ 278	礫石器12(沢2・沢3)	316
☒ 212	土器85(遺構外)	250	☒ 279	礫石器13(北斜面・西斜面)	317
☒ 213	土器86(遺構外)	251	☒ 280	礫石器14(西斜面)	318
☒ 214	土器87(遺構外)	252	☒ 281	礫石器15(西斜面)	319
☒ 215	土器88(遺構外)	253	☒ 282	礫石器16(遺構外)	320
☒ 216	土器89(遺構外)	254	☒ 283	礫石器17(遺構外)	321
☒ 217	土器90(遺構外)	255	☒ 284	礫石器18(遺構外)	322
☒ 218	土器91(遺構外)	256	☒ 285	礫石器19(遺構外)	323
☒ 219	土器92(遺構外)	257	☒ 286	礫石器20(遺構外)	324
☒ 220	土器93(遺構外)	258	☒ 287	礫石器21(遺構外)	325
☒ 221	土器94(遺構外)	259	☒ 288	礫石器22(遺構外)	326
☒ 222	土器95(遺構外)	260	☒ 289	礫石器23(遺構外)	327
☒ 223	土器96(遺構外)	261	☒ 290	礫石器24(遺構外)	328
☒ 224	土器97(遺構外)	262	☒ 291	礫石器25(遺構外)	329
☒ 225	土器98(遺構外)	263	☒ 292	礫石器26(遺構外)	330
☒ 226	土器99(遺構外)	264	☒ 293	礫石器27(遺構外)	331
☒ 227	土器100(遺構外)	265	☒ 294	礫石器28(遺構外)	332

☒ 295	礫石器29(遺構外)	333	☒ 315	土製品17(遺構外)	353
☒ 296	礫石器30(遺構外)	334	☒ 316	石製品1(SN・SR・SK1~1073)	354
☒ 297	礫石器31(遺構外)	335	☒ 317	石製品2(SK1078~5563・SP1921)	355
☒ 298	礫石器32(遺構外)	336	☒ 318	石製品3(SK6017~10050・SP57~SP4010)	356
☒ 299	土製品1(SB・SN・SK)	337	☒ 319	石製品4(SP4311~6167)	357
☒ 300	土製品2(SP384~5203)	338	☒ 320	石製品5(SP8628~12344)	358
☒ 301	土製品3(SP5252~12325)	339	☒ 321	石製品6(盛土遺構・沢1・沢2・北斜面)	359
☒ 302	土製品4(SP9278)	340	☒ 322	石製品7(北斜面・西斜面)	360
☒ 303	土製品5(盛土遺構・沢1)	341	☒ 323	石製品8(遺構外)	361
☒ 304	土製品6(沢1・沢2・北斜面・西斜面)	342	☒ 324	石製品9(遺構外)	362
☒ 305	土製品7(西斜面・遺構外)	343	☒ 325	石製品10(遺構外)	363
☒ 306	土製品8(遺構外)	344	☒ 326	石製品11(遺構外)	364
☒ 307	土製品9(遺構外)	345	☒ 327	石製品12(遺構外)	365
☒ 308	土製品10(遺構外)	346	☒ 328	石製品13(遺構外)	366
☒ 309	土製品11(遺構外)	347	☒ 329	石製品14(遺構外)	367
☒ 310	土製品12(遺構外)	348	☒ 330	石製品15(遺構外)	368
☒ 311	土製品13(遺構外)	349	☒ 331	石製品16(遺構外)	369
☒ 312	土製品14(遺構外)	350	☒ 332	石製品17(遺構外)	370
☒ 313	土製品15(遺構外)	351	☒ 333	石製品18(遺構外)	371
☒ 314	土製品16(遺構外)	352			

第3分冊では、掘立柱建物跡・焼土遺構・土器埋設遺構・土坑・ピット・盛土遺構及び遺構外出土遺物について報告する。

掘立柱建物跡・盛土遺構を除く各遺構については、遺構個別の事実記載を各遺構の観察表及び遺構別出土遺物一覧表に譲り、遺構種別ごとに看取された傾向や様相を中心に記載した。また、掲載土器は、土器の属性に重点を置いて抽出したものもあり、必ずしも遺構の時期を示すものではない。なお、各遺構の観察表には、掲載されなかった土器や遺構の重複関係も含めて検討した時期を記載してある。

本分冊の遺構図版において重複を示す場合、古い遺構の表現には点線を用いた。また、重複が著しく煩雑な部分については、この点線を省略し、表現しなかったものもある。なお、同じ遺構種別でも、番号順が必ずしも遺構の新旧を表していない。遺構名の後ろにA・Bとあるものは、調査時に誤って同名で調査してしまった別遺構を便宜的に区別するために整理作業時に付したものである。

第3節 掘立柱建物跡

6棟確認した。各柱穴から出土する土器には円筒下層・上層式もあるが、これらはいずれも中期後葉以降の土器と共伴している。このことから、掘立柱建物跡の時期は中期後葉以降とすることができ、これはピットの検出数が増加する時期とも一致している(第7節ピット参照)。なお、出土土器から考えられる最新時期は、蛭沢式の可能性があるもの(SB5001・10002)となる。

ここで報告する6棟は、あくまで調査時に把握できたもののみである。これら以外にも建物跡の柱穴としたものと規模・形状が類似する多数の土坑・ピットを検出した。そのため、ここで報告するもの以外にも多くの掘立柱建物跡が存在したと考えられる。特にSB10001～10003の周囲では多くの土坑・ピットを確認しており、建物の存在をうかがわせる。この内、整理作業を経て建物の可能性を指摘し得るものに関しては、章を移して検討をおこなっている(第5章第1節第5項)。

また、建物を構成する柱穴には、「当初から建物ごとに固有のPit番号を付したもの(SB1001・1002)」と「土坑・ピットとして調査したものの、調査の進展に伴い掘立柱建物の柱穴と認識を改め、それらを統合して建物としたもの(SB5001・10001～10003)」がある。なお、後者の土坑・ピットについては、遺構種別の変更はおこなわず、「掘立柱建物跡を構成する土坑・ピット」として報告する。

SB1001

【位置・確認】VIII Q・R-102・103グリッドに位置している。第IV・V層上面で確認したPit1～5で構成される。

【重複】なし

【柱穴構成・規模】攪乱により5基しか柱穴が残存しないが、本来は6本の柱で構成される建物と考えられる。平面形は梁行1間(総長3.4m)、桁行2間(総長6.3m)の長方形である。

【柱穴・堆積土】長軸87～122cmの円形で、検出面からの深さは34～60cmである。Pit1・2では柱痕を確認できた。柱痕の径はPit1が25cm、Pit2が26cmで共に柱穴中央からやや外れた位置で確認し、掘方埋土には礫が多く混入していた。柱間距離は、梁方向のPit1-2間で2.2m、Pit3-4間で2.3m、桁方向のPit2-3間で2.3m、Pit3-5間で2.7m、Pit1-4間で2.5mである。

【出土遺物】土器は、Pit1・2・4から榎林式が出土し、Pit3・4からは異系統の大木8b式が出土している。

【小結】出土土器から榎林式(大木8b式)期と考えられる。

SB1002

【位置・確認】ⅧM-102・103、ⅧN-101・102・103、ⅧO-102グリッドに位置している。第Ⅳ・Ⅴ層上面で確認したPit1～9で構成される。

【重複】なし

【柱穴構成・規模】Pit1～6による6本柱で構成される建物であったと考えられる。平面形は亀甲形で、長軸は7.2m、短軸は4.2mとなる。なお、Pit7～9は関連を考慮して掘立柱建物跡の一部として調査したが、単独のピットの可能性もある。

【柱穴・堆積土】長軸64～101cmの円形で、検出面からの深さは42～73cmである。Pit3～8の第1層は柱痕の可能性はあるが、堆積土の観察からはこれを明確にできなかった。柱間距離はPit2-5間で6.6m、Pit3-4間で3.3m、Pit1-6間で3.2m、Pit4-6間で3.0m、Pit1-3間で3.2mである。

【出土遺物】土器は、Pit3・4・8から榎林式が、Pit2から最花式が出土している。また、Pit7からは土器片加工品(図299-1)が出土した。

【小結】出土土器から榎林式～最花式期の可能性があるとしておく。しかし、当地域における柱穴配置が亀甲形となる掘立柱建物跡は一般に後期以降に多い。掘立柱建物跡以外の可能性を考慮すれば、本遺構の周囲は近世以降と考えられる削平が著しいことから、本来、竪穴住居跡であったものが竪穴部分を失って柱穴のみとなった可能性も指摘できる。なお、本遺構の南西側には近接して榎林式の竪穴住居跡が7軒ある(第528集)。竪穴部分が残存していた場合の平面規模はSI1057(第528集)に近いものとなるだろうか。

SB5001

【位置・確認】ⅧI・J-87・88・89、ⅧK-87・88グリッドに位置している。第Ⅳ・Ⅴ層上面で確認したSK5063、SP5190・5327・6182・6232・9356で構成される。

【重複】SK5063はSK6072と重複し、古い。SP5190はSP5188・9161・9162と重複し、新しい。SP5327はSP9295と重複し、古い。SP9248と重複し、新しい。SP6182はSP6181と重複し、古い。SP6190と重複し、新しい。SP6232はSP6178・6209・6210・6231と重複し、古い。SP9344と重複し、新しい。SP9356はSP9343・9350・9368と重複し、新しい。

【柱穴構成・規模】6本の柱で構成される建物であったと考えられる。平面形は、梁行1間(総長4.3m)、桁行2間(総長7.4m)の長方形である。

【柱穴・堆積土】長軸66～157cmの円形～楕円形で、検出面からの深さは68～94cmである。全ての柱穴で柱痕を確認できた。柱痕の径は31～86cm、北側に寄るSP5327を除いて柱穴中央からやや外れた位置で確認した。掘方埋土には礫が多く混入していた。柱間距離は、梁方向のSP6182-SK5063間で2.6m、SP6232-SP5190間で3.0m、SP9356-SP5327間で2.9m、桁方向のSP6182-SP6232間で3.0m、SP6232-SP9356間で3.1m、SK5063-SP5190間で2.9m、SP5190-SP5327間で2.7mである。

【出土遺物】土器は、SK5063から最花式が、SP6182から蛸沢式が出土している。

【小結】出土土器は円筒下層・上層式のものを除けば、中期後葉のものが主体となる。しかし、SP6182からは蛭沢式が出土していることから、時期は広く中期後葉～蛭沢式の可能性があるとしておく。

SB10001

【位置・確認】VIII・I-76・77グリッドに位置している。第IV・V層上面で確認したSP10087・10089・10098・10206・11290・11291で構成される。

【重複】SP10087はSP10086と重複し、新しい。SP10089はSP10088と重複し、新しい。SP10098はSP10670と重複し、新しい。

【柱穴構成・規模】6本柱で構成される建物であったと考えられる。平面形は、梁行1間（総長3.6m）、桁行2間（総長7.3m）の長方形である。

【柱穴・堆積土】長軸97～171cmの円形～不整形で、検出面からの深さは69～103cmである。柱間距離は、梁方向のSP10089-SP10206間で2.4m、SP10087-SP11291間で2.4m、SP10098-SP11290間で2.3m、桁方向のSP10089-SP10087間で2.7m、SP10087-SP10098間で3.1m、SP10206-SP11291間で3.0m、SP11291-SP11290間で3.1mである。

【出土遺物】土器は、SP10089・10098から大木10式併行が出土している。

【小結】出土土器から、時期は大木10式併行期と考えられる。

SB10002

【位置・確認】VIII・L-70・71・72グリッドに位置している。第IV・V層上面で確認したSP10238・10242・10292・10293・10294・10295で構成される。

【重複】なし。

【柱穴構成・規模】6本柱で構成される建物であったと考えられる。平面形は、梁行1間（総長3.8m）、桁行2間（総長7.0m）の長方形である。

【柱穴・堆積土】長軸110～205cmの円形～不整形で、検出面からの深さは69～99cmである。柱間距離は、桁方向のSP10295-SP10294間で1.9m、SP10242-SP10293間で2.1m、SP10238-SP10292間で2.5m、桁方向のSP10295-SP10242間で2.8m、SP10242-SP10238間で2.8m、SP10294-SP10293間で2.7m、SP10293-SP10292間で2.6mである。

【出土遺物】土器は、SP10292を除くピット5基から牛ヶ沢式が出土している。このほか、蛭沢式の可能性があるものも出土している（SP10294）。

【小結】出土土器から牛ヶ沢式～蛭沢式期の可能性があるとしておく。

SB10003

【位置・確認】VIII・J・K-73・74グリッドに位置している。第IV・V層上面で確認したSP10153・10160・10351・10704・10791・11286で構成される。

【重複】SP10351はSK10015と重複し、古い。SP10791はSP10790と重複し、新しい。SP11286はSP10702と重複し、新しい。また、本遺構との関連は不明ながらも、SP10153と近接して焼土遺構（SN10002）を確認した。

【柱穴構成・規模】6本柱で構成される建物であったと考えられる。平面形は、梁行1間（総長4.4m）、

桁行2間(総長6.8m)の長方形である。

【柱穴・堆積土】長軸104～142cmの円形～楕円形で、検出面からの深さは86～107cmである。SP10153・10160・10351・10704で柱痕を確認できた。柱痕の径は28～60cmである。柱間距離は梁方向でSP10791-SP10704間で2.8m、SP10153-SP10160間で2.9m、SP11286-SP10351間で3.1m、桁方向のSP10791-SP10153間で2.8m、SP10153-SP11286間で2.7m、SP10704-SP10160間で2.8m、SP10160-SP10351間で2.6mである。

【出土遺物】土器は、SP10351・10704から大木10式併行が出土している。

【小結】出土土器から大木10式併行期と考えられる。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

円筒下層d式から蛭沢式までの各型式が出土している。うち6.4kgの9点を図化・掲載した。各土器の観察内容は巻末表に記したが、特に補足を要するものについて以下に記述する。

図128-2・9は共に断面形が三角形を呈する隆帯が貼付されるが、胎土・焼成の特徴から2を榎林式の壺形、口端の特徴から9を牛ヶ沢Ⅲ群の深鉢と見なした。5も9と同様の理由から、牛ヶ沢Ⅲ群に位置付けられると考えられる。

図128-8は地文に単軸絡条体第1類が縦位回転される破片である。沈線文様はS字区画文の可能性もあるが、J字文又は波頭文を構成すると考えられる。

礫石器

図267-1は凝灰岩製の凹石で小型の円礫の両面に凹痕が形成される。

第4節 焼土遺構

ここでは焼土遺構としたもの全てを対象に検討を加え、【時期・数量】・【分類】・【分布】・【出土遺物】について傾向・様相を記載した。個別の事実記載は「焼土遺構観察表」と「遺構別出土遺物一覧表」に譲り、【特記事項】があるもののみ、以下に記載した。

ここで報告するものの中には、焼土の形成が明確に捉えられなくても礫の配置等の類似性から焼土遺構と認定したものを含む。また、その性格上、本来は竪穴住居跡の炉であったものを含むと考えられる。そのため、周囲で確認した貼床状の施設及び硬化面についても焼土遺構に帰属させて報告したものがあ

る。図の網掛範囲は、焼土の範囲に加え、被熱が及んでいると考えられる範囲も示している。また、平面では焼土と認識したものの、断面では焼土の形成や被熱痕跡を明確に捉えられなかったものもあり、網掛範囲は平面図と断面図で必ずしも一致しない。なお、この網掛が礫にされている場合は、礫の被熱痕跡の範囲を示している。

①SN1002・①SN1003については第514集で報告済みのものと遺構番号が重複しているため、便宜的に調査区名の①を付して区別したものである。調査区については、第1章第2節第1項を参照のこと。

【時期・数量】112基確認した。このうち、出土土器から、もしくは層位的に時期を推定できたものは47基あり、円筒下層d式期から蛭沢式期の可能性があるものまでがある。

【分類】地床炉68基、石囲炉43基、土器埋設炉1基である。

地床炉は、当時の地表面をそのまま被熱面とするものが大半を占めるが、SN4003のように掘り窪めた可能性のある落ち込みの中で焼土を確認したものもある。

石囲炉は、礫を方形に配置したと考えられるものが多い。全形を把握できるものではさらに、正方形に近いもの(SN21・68・125・4023・4026・5018・10001など)と長方形に近いもの(SN4025・5008・10007など)がある。また、数は少ないものの礫を楕円形に配置するもの(SN55・4024など)もある。このうちSN55は石囲部の内部中央に土器を埋設している。石囲炉の礫の設置方法には二通りあり、礫の大きさに応じて掘方を掘削して個々に据え付けるもの、大きく掘った掘方に石を据え付けるものがある。

また、石囲炉としたものの中には、竪穴住居跡で見られる複式炉に類するものを5基(SN121～124・10006)含んでいる。いずれも、単独で存在したものでは無く、本来は竪穴住居跡に伴う炉であったと考えられる。なお、複式炉の石囲部の平面形は正方形に近いものが多い。

石囲炉の内部に土器を埋設するSN55を除くと、土器埋設炉としたのはSN73の1基のみである。しかし、その性格上、土器埋設遺構としたものの中にも土器埋設炉の可能性のあるものを含むと考えられる。

【分布】竪穴住居跡の分布範囲と概ね一致する。なお、捨て場対象範囲(第5分冊図1参照)では49基を確認した。この中には、本来は竪穴住居跡の炉であったと考えられるものがある一方で、捨て場堆積層の勾配と一致した「傾斜する被熱面」をもつもの(SN3・5・13・19・65・66・4012など)がある。これらは傾斜地に形成されていることから竪穴住居跡の炉とは考えにくく、周囲の状況を勘案しても、捨て場形成途中に単独で形成された可能性が高いといえるものである。

石棺墓A群の東側にあるSN5501～5503・5505は、周囲の遺構群から時期は中期末葉～後期前葉と考えられる。加えて、周囲に多数のピットがあること、近接する同時期の竪穴住居跡の多くが、明瞭な掘り込みを持たず平面形を持たないことから、これらも単独で存在したものではなく、周囲のピットと共に竪穴住居跡を形成していた可能性が高い。

【出土遺物】土器を埋設するものは前述の2基がある。SN55に埋設される土器は、器高9.6cmの胴部で、時期は大木10式併行と考えられる。SN73に埋設される土器は、器高6.1cmの胴部で、時期は榎林式～最花式と考えられる。SN122・1018では共に、焼土上の検出面から土器が出土した。SN122では大木10式併行(図128-12・13)が、SN1018では円筒上層c式(図129-3・4)が出土している。

【特記事項】SN66は、掘方の底面に黄褐色土を貼り付けており、焼土はこの上に形成されている。SN70とSR92は隣接した位置で確認した。それぞれ別遺構として調査したが、SR92は最花式～大木10式併行の土器を埋設しており、位置関係からも両方で土器埋設炉+石囲炉の複式炉を形成していた可能性がある。

SN122は複式炉と考えたが、焼土範囲が2ヶ所にわたっていることや礫の配置状況から、複数の炉の重複があると考えられる。

SN123とSN124は隣接して構築される複式炉である。土器も出土しておらず、新旧は明確にできなかった。SN123の西側がSN124の石囲炉部分を避けて構築しているようにもみえることから、SN123が新しい可能性を指摘しておく。

SN4002は焼土と隣接した地点から、骨片の可能性のある白色片が出土した。

SN5006は写真図版にあるように本来、礫を伴う石囲炉であった。しかし、調査時に礫部分を作図

し忘れたため、掘方部分のみの平面図となっている。

SN5502・5503は石囲炉であるが、共に掘方が深い。周囲では土坑・ピットを多く確認したことから、深い掘方部分は、重複として認識できなかった石囲炉より古い土坑・ピットの可能性(SN5502の3層、SN5503の5・6層か)もある。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

焼土・検出面を中心に、出土土器総重量の0.2%にあたる62.8kgの土器が出土した。円筒下層d式から牛ヶ沢式の各型式が認められ、このうち8.5kgにあたる27点について図化・掲載している。各土器の観察内容は巻末表に記したが、特に補足を要するものについて以下に記述する。

図128-12は口縁が内傾し、口縁直下と胴部中位が張り出す、いわゆるキャリパー器形の深鉢である。口縁部にヒレ状貼付が施されることから、大木10式併行に位置付けられる。検出面出土の図128-13も同様の位置付けが考えられる。

図130-1は胴部地文に縄端結縛(端部結束・ほつれ止め)の痕跡が認められる。形状の異なる2段のS字を呈しているが、S字の噛み合い位置、原体本体の条との関係から、直前段での自条Rそれぞれを結節している可能性がある。

図130-4は胴部に沈線文が施される深鉢である。玉抱きの十字垂下文、渦巻が充填されるY字形垂下文の2種が渦巻端部の沈線によって区画・連結されたものと推測されるが、3単位の波状口縁頂部と垂下文の位置は合致しない。

礫石器

巻末には遺構別出土遺物数量を示した。この数量は焼土遺構として調査した、様々な層位や位置を含んでいる。このうち炉石に転用された礫石器は3基の3点(台石石皿類2点、砥石1点)である。時期は縄文時代中期後葉～後期初頭期と見られ、炉形態として石囲炉が採用される時期と一致する。

出土状況としては、SN121では南辺の一部に台石(図267-2)が利用されている。またSN5501とSN5503は焼け面を伴うことから石囲炉と判断された遺構で、SN5501では細長い扁平礫2個が25cm離れ長軸方向を揃えて出土した。このうち一方が砥石(図267-5)を転用している。SN5503では台石(図267-6)を転用しており、設置された状況で割れている。両遺構周辺は縄文時代中期末葉～後期前葉期の竪穴住居跡や土坑・ピットが分布し、特に後期初頭期の遺物が多く出土する地点である。いずれの遺構も直接時期を示す遺物は伴わないが、重複上これらの遺構より新しい遺構は無く、検出面も最上面であることから、時期は後期初頭頃と見て良い。SN6002は炉石ではなく炉内出土の台石である。関連土からは大木10式併行期までの土器が出土している。

このほか炉石の特異な出土状況として、礫石器ではないがSN22では小型の自然礫をL字に配した石囲炉の南東辺に縦横に4分割した石材(28×27cm、6.5kgの緑色凝灰岩)を用いている。接合資料の観察では分割以前にすでに被熱しており、(SN22以前の)炉石へ転用・被熱→分割(割る・割れる)→SN22炉石という流れを追える。

遺物は図267-2～268-2に7点を掲載した。図267-2は緑色凝灰岩製の台石で、やや反った扁平礫の凹んだ面、膨らんだ面の両面を使用面とする。同-3は小型の泥岩製の磨石I類で、細かい擦痕がほぼ

全面に無数に観察される。同-5は流紋岩製の砥石で、幅40mm程度のごく浅い溝状砥面が形成される。

図268-1は相馬安山岩製の打製石器で、板状節理の素材礫の縁辺に剥離が連続し、この縁辺周辺が顕著に磨耗する。捨て場(IXD-85)出土の5-図172-1は同一個体ないしは同一石材と見られるが、直接の接合関係はなく、また剥離面に本例のような磨耗痕もない。直線距離で約40m離れている。

土製品

図299-4は土偶体部である。SN4024と沢1から出土したものが接合した。細沈線によりほぼ全面に文様が描かれている。頭部・腕部・体下部を欠く。乳房と臍部分は剥落しており、臍周辺はやや広い範囲が緩やかに盛り上がっている。正面側は乳房の下端に沿う沈線と刺突を境に下位は縦方向の、上位は横方向の沈線が基本となる。下位では、4本一對の沈線間に刺突が充填された文様が体中央部を垂下し、乳房下位から三本一對の沈線が垂下する。背面側では体側から中心に向かう矢状の沈線モチーフが連続している。伴出土器がないため詳細な帰属時期は不明であるが、土偶の特徴から円筒下層d式～上層a式に帰属する可能性が高い。

石製品

図316-1はSN126から出土した石冠の類品である。研磨により全体形は二等辺三角形に整形されている。正面には縁が全周し石皿状に凹んでいる。底辺側面には凹みが見られる。

第5節 土器埋設遺構

ここでは土器埋設遺構としたもの全てを対象に検討を加え、【時期・数量】・【土器埋設状態】・【礫設置状況】・【その他の出土状況】・【掘方】・【分布】・【出土遺物】について傾向・様相を記載した。個別の事実記載は「土器埋設遺構観察表」と「遺構別出土遺物一覧表」に譲り、【特記事項】があるもののみ、以下に記載した。

なお、個別図中に(捨て場堆積層)とあるものは、土器埋設遺構が捨て場堆積土を掘り込んで構築されていることを示す。また、層番号に()が付加されるものも同様に、そこが捨て場堆積層であることを示している。

【時期・数量】174基確認した。埋設された土器の時期は、円筒下層d式から蛭沢式の可能性があるものまでがある。この内、型式まで細別できた139基についてみると、円筒下層d式期が96基、円筒上層a式期が8基、円筒上層b式期は無し、円筒上層c式期が7基、円筒上層d式期が9基、円筒上層e式期が3基、榎林式期が2基、最花式期が5基、大木10式併行期が9基となる。円筒下層d式期のものが半数以上を占め、以後は各期10基以下となる。なお、最も新しい後期初頭～前葉の可能性のあるものは3基であった。

【土器埋設状態】埋設状態は正位、倒立、横位・斜位、不明の4つに分類した。横位と斜位については明確な分類基準を見出せなかったため一括した。

調査では、正立111基、倒立49基、横位・斜位11基、不明5基を確認した(1基に複数の土器を埋設するものがあるため、合計は先に示した174基を上回る)。

この内、倒立は、円筒下層d式期のものが37基と過半を占めている。また、埋設状態ごとの分布状況についても検討したが、特筆すべき傾向を捉えることはできなかった。

【礫設置状況】土器の上部や内部、あるいは掘方内に礫を置くものを64基確認した。

土器上部に礫を置くものは22基、内部に置くものは35基で、内部に置くものがやや多い。なお、設置位置の違いによる時期的傾向は、捉えることはできなかった。土器埋設状態別にみると、土器上部、内部を問わず正立のものに多く、倒立のものに少ない。しかし、この差は正立と倒立の組成比の内理解できる範疇にあり、結果、礫設置状況と土器埋設状況との間に有意な相関関係を見出せなかったといえる。

設置される礫の数は、土器上部の場合は大形礫1点が置かれる場合が大半であるが、SR15・69・80などでは礫2点の設置を確認した。また、土器上部ではなく、近接して礫が置かれるもの(SR25・30・69・80など)がある。これには、意図的に土器上部に置かなかったものや土器上部に置いた礫が動いてしまったものなど様々な要因が考えられる。なお、設置後の礫の移動に関しては、埋設状態を横位・斜位としたSR4021で、土器上部に設置した礫が何らかの理由で外れ、土器自体を押し潰すように倒してしまったとも理解できる状況を捉えることができた。

一方、土器内部に礫を置くものでは、比較的大形の礫を1点置くもの(SR30・51など)と複数置くもの(SR27など)、比較的小形の礫だが、これを多数置くもの(SR4501など)など、様々な様相を捉えられた。

また、これとは別に掘方内に礫を置いたものが13基ある。SR1006・4053・4056は掘方下部に設置した礫の上に土器を埋設している。SR4053とSR4056は、共に倒立で、上部と下部の礫で土器を挟み込む状況が共通している。なおSR1006は土器内部でも礫2点を確認した。

【その他の出土状況】出土状況で特筆すべきものとして、土器上部が欠損し、破片となって地表面に散らばったと考えられるものがある。これは、埋設時に土器上部が地表面上に露出していたことを示しており、破片は、この露出部分が割れて当時の地表面に散らばったものと考えられる。確認数は少ないものの、当時の埋設状況を考える上で重要な事例である。SR8・19・60・63などは土器上部の5～10cm分程度が欠損し、その破片が土器から割れ広がるように放射状に散らばっていた。SR80では胴部中位から欠損し、そこから上が倒れ込んだような状態で確認した。ここで示した事例は、いずれも捨て場堆積層中に構築されたもので、割れた土器片が散逸する前に周囲に土が堆積するという、捨て場の特性により捉えられる状況と考えられる。よって、これらの事例は埋設状況を推察すると共に、捨て場の堆積過程を考える上でも重要な事例といえる。

このほか、埋設土器内部で別個体土器を確認した例があり、入れ子状の完形土器を確認したものが2基(SR106・5009)、底部破片を確認したものが2基(SR53・10001)ある。どちらも、内部の土器は底面を上にした倒立の状態を確認した。また、SR106は内部の土器(P-1)のさらに内側から、底部破片が出土している。このように、これらは出土状況だけをみると特異な事例ともいえるが、それが意図的に行われたものかどうかは判断できなかった。埋設時の土器内部に空洞があったとすれば、内部への偶然の混入は避けられない。いずれも倒立のものであるが、調査時まで埋設土器内に空洞を残すもの(SR51・90・4004・4053・4056・4057)は確認されており、これについては土器埋設時の状況を加味したさらなる検討が必要である。

加えて、埋設土器周囲での別個体土器出土例としては、埋設土器上部での確認例がある。SR13の上部で確認した土器は、埋設されるものと同じ円筒下層d2式のもので、残存率も高く、埋設土器の上部に廃棄されたものと考えられる。埋設土器上部から残存率の高い別個体土器が出土するものとしては他にSR53・65がある。

SR7は、掘方に埋設する土器とは別個体の土器破片を立てた状態で埋設したのと考えられる。意

図的なものかどうかは、判断できなかった。

【掘方】平面、断面いずれかの方法で掘方を確認できたものが143基ある。掘方を確認できなかったものの大半が捨て場堆積層中で確認したものであることから、本来あるはずの掘方と、その埋め土を認識できなかったものが多数あると考えられる。また、掘方が埋設土器の大きさと同じであれば、その確認はそもそも困難である。しかし一方で、個体土器を切って掘方を掘削したはずのSR65や特徴的な捨て場堆積土を切っているにも関わらず掘方を確認できないSR30などがある。これらについては、掘方の認識が困難という理由だけでは説明しきれない事例といえる。様々な可能性を考慮するならば、据え置いた土器の周囲に土を盛って土器を埋設したとすれば、先の2例は埋設過程を理解し易いかも示れない。いずれにせよ、掘方を伴わない埋設方法の存在も考慮する必要があると思われる。

掘方の規模は、その大半が土器よりやや大きい程度の円筒状のものである。しかし、SR58・63・88・119・1025など、土器よりかなり大きい楕円形の掘方をもつものがある。この内、SR58・63・88・119では掘方の長軸中央から短辺に寄せて土器を埋設している。

【分布】(捨て場)捨て場対象範囲(第5分冊図1参照)からは、約7割の120基を確認した。これらは、北側の台地縁辺から斜面にかけて分布し、捨て場堆積層の範囲とほぼ一致する。

時期は、円筒下層d式期のものが88基と大半を占め、以後は数を大きく減らすものの大木10式併行期のものまで確認した。これらは、西端をⅧR-60グリッド、東端をⅨA-84グリッドに置く、東西約100m、幅約20mの範囲に大多数が収まり、さらに、この範囲中のⅧT・U-66・67グリッド、ⅧW・X-71・72グリッド、ⅨA・B-77・78グリッドで特に集中が認められる。また、ⅧX・Y-78周辺では重複する竪穴住居跡の間で円筒下層d式期のものを多く確認した。加えて、SR33・86・88の存在から、斜面下半にも広く分布が及んでいることがわかる。また、隣接するものはあるが、土器埋設遺構が直接的に重複するものはみられなかった。

(捨て場以外)上記の捨て場以外の範囲からは54基確認した。捨て場範囲内で大半を占めた円筒下層d式期のものは8基と大きく割合を減らし、以降の時期と大きな差はない。同時期の他遺構の周囲に構築されるものが多いといえるが、これ以外に特筆すべき傾向を捉えることはできなかった。

【出土遺物】

(埋設土器)器種は、円筒下層d1式から榎林式までは深鉢のみが用いられ、最花式以降にその他の器種が加わる。それでも、その数は少なく、最花式の広口壺(SR4502)、大木10式併行～蛭沢式の壺形(SR1025)があるのみである。

埋設された土器にみられるスス・コゲ等を使用痕として観察した。74基で認められ、全体の約4割で確認した。この比率は、感覚的であるが、土器埋設遺構以外の出土土器群と大きな差を抱かせないものであり、埋設以前は、日常的に使用されたものであったと考えられる。また、穿孔もしくは補修孔と擦り切り痕といった加工痕のあるものについては8基で確認した。これも使用痕同様、埋設以前に土器に施されたものと考えられる。

(埋設土器以外の出土遺物)特筆される出土遺物としてSR109から出土したヒスイ大珠があげられる。SR109は浅い掘方底面に小形の土器を倒立に据えて埋設していた。また、土器に隣接して礫も多く確認した。土器の底部は確認時に失われたと考えられ、ヒスイ大珠はこの欠損部からのぞく土器内部で確認した。土器は底部を欠く、推定器高10cm前後の非常に小形の深鉢で、時期は最花～大木10式

併行期と考えられる。

【特記事項】SR65は個体土器430(個体土器の概念については、第5分冊を参照)を切るような状態で埋設されており、さらに上部でも埋設土器を覆い隠すような状態で個体土器429を確認した。

SR105は、埋設された土器の内部から、埋設された部分よりも上部の同一個体片が出土した。埋設後に欠落したものだとすれば、埋設時に土器内部が空洞であった可能性を示す。

SR1025は、埋設土器として調査したが、前述のように時期が3例のみの後期初頭～前葉の可能性のあるもの(大木10式併行～蛭沢式期)である点、他と比較して一際大きな楕円形の掘方を持つ点を勘案すると、次節で報告する土坑の範疇で考えるのが適当かもしれない。加えて、ここに埋設された土器は、本遺跡でも出土の少ない壺形で、外面には赤色顔料が施される点も特異性を際立たせている。

SR4039は、堆積土中からも別個体片が出土しているが、いずれも埋設土器とは時期を違えることから混入の可能性が高い。

SR5503は、断面図では土器埋設遺構の埋め土と石棺墓構築土の堆積が連続している。しかし、本来は新旧関係を有していた可能性が高く、現場での所見では石棺墓構築土より古いとされた。

SR10003は1層からも別個体片が出土している。意図的なものかどうかについては明確にできなかった。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

出土土器総重量の1.2%にあたる336.8kgの土器が出土した。内269.1kg(192点)について図化・掲載を行っている。なお、SR9・25・86・107・125・1006・1007・4038・4048・4058・4063・4502・5003・5501は土中で原形を保っていたが、劣化が進んで接合・復元に至らなかったため、同一破片の一部を選んで図化・掲載している。SR4058・5008・5502・5503・6001については取り上げを行っているものの、所在不明となってしまう図の掲載に至らなかった。

埋設された土器の残存状態については、口縁を欠く例が85個体と最も多く、口縁から底部まで接合したものは67個体に留まる。推定値・残存値を除いた法量平均は、口径で21.3cm、底径で10.9cm、器高で30.1cmである。利用・再利用痕跡については、器内外面にスス状・タール状炭化物の付着が認められたのが79個体、補修孔が認められたのは6個体である。顔料あるいは漆の付着が認められたのは縄文時代後期の1例(図154-3)のみである。

円筒下層d1式から蛭沢式の可能性のあるものまでの各型式が認められ、重量内訳は円筒下層d1式が42.2kg(30点)、円筒下層d2式111.0kg(70点)、円筒上層a式12.6kg(7点)、b式2.6kg(1点)、c式9.6kg(13点)、d式12.2kg(9点)、e式9.6kg(3点)、榎林式1.0kg(2点)、最花式12.8kg(6点)、大木10式併行12.6kg(10点)である。遺跡全体での出土傾向に比して、円筒下層d2式の出土量が突出し、円筒上層c式・榎林式が落ち込む。他遺構や包含層で出土した大木6～9式、朝日下層式等、非在地型式が埋設本体に使用された例は認められなかった。

各土器の観察内容は巻末表に記したが、個別に補足を要するものについて以下に記述する。

図131-1は、沈線区画文と充填縄文が施される土器である。胴部上半の主文様は重複するJ字文の可能性が高く、分岐・垂下する付加J字文の存在から、大木10式併行新相或いは後期初頭期の位置付

けが考えられる。

図134-2は、焼成後に胴部が穿孔された深鉢である。穿孔は外面方向から打ち抜かれたもので、ヒビを挟んで対になる穿孔が認められないことから、いわゆる補修孔とは別種の穿孔と考えられる。

図134-4は口縁部に単軸絡条体第1類の側面圧痕が認められる深鉢である。施文単位長軸方向の断面形が器面のカーブに逆らって直線的となることから、軸には施文の圧力によって湾曲しない、硬質素材が用いられたものと把握された。重複部の観察から、原体の長さは約4cmと推測される。

図136-3は胴部に特殊な結節回転文が施された深鉢である。結束第2種の結束部に似るが、両側に伴う斜縄文が全く認められず、条の走行形状・潜り目の位置が異なっている。施文実験を行った中では、1条の縄からなる結び目の1種、フィギュア・オブ・エイト・ノット(前島2005)が最も近い文様であった。

図138-4は、土器の擦り切り過程を示すと考えられる深鉢である。内面胴部下半から底部にかけての一方に、縦位の乱雑な擦痕が集中する。外面側には同様の痕跡が認められず、何らかの理由で擦り切りが中止されたものと推測される。

図142-2の頸部には、本遺跡では希な結節回転文が認められる。S字圧痕の1単位が3条で構成されるもので、1段の縄を3本のオーバーハンドノットが原体として使用されたと考えられる。

図148-1は口縁部文様の各区画で鋸歯状文、馬蹄形文の何れかが施文される深鉢である。文様区画形態等から円筒上層a式と捉えたが、同b式に近い位置付けがなされる可能性がある。

図153-1は特徴的な沈線文様が施される深鉢の胴部である。垂下沈線によって4単位に分割された器面に、横走沈線が充填される点では標準的な円筒上層e式であるが、横走沈線間に縦位短沈線・X字形対弧文が充填されることによって工字文状のモチーフが生じている。縦位沈線下には、土偶にも見られるハの字文が不規則に付加される。垂下沈線の直下に見られる付加文については、ハの字の下に逆ハの字、クランク状の沈線が接続し、他との差別化がなされている。

図154-3は、外面に赤色顔料が付着した小型壺である。内面には光沢をもつ塗膜状物質が残存しており、漆である可能性がある。切断壺である可能性もあるが、割れ口に穿孔や擦り切り、打ち欠き等の加工痕は認められない。SR中で唯一顔料の付着が認められる例で、胎土・器形から大木10式併行～蛍沢期と考えられる。

図154-6は隆帯脇にナデ又は浅い沈線が認められる深鉢である。地文施文後に隆帯文様が施されることから円筒上層d式としたが、沈線の存在と連続横圧がなされる垂下隆帯、縄で刻まれた口縁等円筒上層e式の要素が共存する。

図166-2は、地文上の一部で浅く幅広の引きずり痕が認められる。確認範囲は一単位未満であるが、波頭文を意図した文様の下描き線と考えられる。引きずり痕を境とした無文範囲も形成されており、下描き→地文の選択的施文(→沈線)の施文手順が推測される。拓本で提示した部分以外の下描き線については描かれなかったか、地文施文時に塗り潰されたものと思われる。

礫石器

巻末には遺構別出土遺物数量を示した。この数量は土器埋設遺構の調査過程で取り上げられた遺物のすべてで、検出面、掘方、土器内といった確実に土器埋設遺構に伴う遺物のほか、層位不明や断割調査時のトレンチ一括遺物も含まれている。土器上部や内部、掘方などに礫を設置した64基(全体の約35%)のうち、礫石器が出土した8基8点であることは、土器埋設遺構に関する礫には礫石器がほとんど含まれ

ていなかったことを示している。

出土位置は土器内が5例(SR8・19・90・1023・4501)、掘方内が3例(SR58・85・1013)で、器種の内訳は凹石3点、磨凹石2点、凹敲石1点、打製石器1点、台石1点である。土器内の出土状況として、SR19(円筒下層d2式期)は検出面付近(内部に充満した堆積土上面)で小型の凹石が出土している。SR90(円筒下層d2式期)は倒立状況の土器の下位(掘方底面)で、凹敲石を片側に寄せている。SR1023(大木10式併行期)は上部が大幅に削平されているが、正立状況の土器底面付近で凹石が出土している。また掘方内の出土状況は、SR58(円筒下層d2式期)では楕円形の掘方の片側に土器を寄せ、この傍らに凹石を据えており意図的な埋納の可能性が高い。

遺物は図269・270に11点を掲載した。図269-2は緑色凝灰岩製の磨凹敲石で、磨痕と凹痕は表裏両面に、敲痕は片側端部に確認される。図269-5は粗粒玄武岩製の打製石器D1類で、厚みのある素材礫に全体形状が半円となるように縁辺に剥離を連続させるが、直線となる辺には主要な使用痕は見られない。一方で両端部には敲打痕が確認される。図270-2は粗粒玄武岩製の磨凹石で、凹痕と磨痕が表裏両面に確認され、共存する。両痕跡の観察から、凹石から磨石へ転用された可能性が高い。

石製品

図316-2はSR109から出土したヒスイ大珠である。円形で中心部に正面側から穿たれた貫通孔がみられる。背面側は貫通孔周囲が出臍状に盛り上がっている。横断面の形状などから、本来根付形の厚みのある大珠を側面側から擦切って二分割したものの一つである可能性が高い。色調は白とヒスイの緑色が半々ぐらい現れている。埋設された土器は最花式～大木10式併行期の土器に比定されているため、この大珠も同時期に帰属する可能性が高い。

第6節 土坑

ここでは土坑としたもの全てを対象に検討を加え、【時期・数量】・【分布】・【形態・規模】について傾向・様相を記載した。個別の事実記載は「土坑観察表」と「遺構別出土遺物一覧表」に譲り、【特記事項】があるもののみ以下に記載した。図は、小縮尺の配置図と大縮尺の個別図を作成した。配置図(図37～66)は、土坑の位置を示すのに用いた。1/150を基本に、一部は1/60とした。個別図(図67～101)は、各土坑の平面図及び断面図である。1/60を基本に、一部は1/30とした。なお、個別図は、断面図を作成したものを中心に編集したため、全ての土坑については掲載していない。

時期については、遺構の性格上明確にし難い部分もある。ここでは出土した土器の内、時期を示す可能性が高いものを観察表に記載した。そのため、極めてわずかながらも、調査時に把握した重複遺構との新旧関係と時期が一致しないものが生じた。これについては、土坑の時期断定の難しさに加え、調査の誤りの可能性を指摘するためにも、あえてそのままの時期を記載することとした。

今回、土坑としたものだが、調査時にはピットとの明確な区分ができなかった。そのため、形状や規模等ピットとしたほうが適切と考えられるものを含み、柱と思われる痕跡(柱痕)を捉えられたもの(SK5029ほか)もある。また、竪穴住居跡の柱穴の可能性のあるものも含むと考えられる。

⑥SK4・⑥SK5・⑥SK7については第528集で報告済みのものと遺構番号が重複しているため、便宜的に調査区名の⑥を付して区別したものである。調査区については、第1章第2節第1項を参照のこと。

【時期・数量】372基確認した。時期は円筒下層d式から蛸沢式のものがある。型式まで細別できた169基についてみると、円筒下層d式期が7基、円筒上層a式期が1基、円筒上層b式期は無し、円筒上層c式期が9基、円筒上層d式期が7基、円筒上層e式期が4基、榎林式期が20基、最花式期が27基、大木10式併行期が81基、牛ヶ沢式期が8基、蛸沢式期が5基となる。大木10式併行期のものが突出して多い。

【分布】調査範囲全域で確認できたが、特に⑦・⑧b・⑨・⑩エリアに多い。

【形態・規模】形態は円形・楕円形・方形・長方形・溝状・不整形・不明の7つに分類した。形態別の数量は、円形が124基、楕円形が160基、方形が13基、長方形が2基、溝状が4基、不整形が23基、不明が46基である。長軸は32cmから477cmのものがあり、平均は146cmである。形態と長軸との相関関係は見出せなかった。

【特記事項】SK1063・5042・5530・5590・10005・10019・10037は、壁がオーバーハングする、いわゆるフラスコ状土坑である。この内、SK5590では堆積土中で大形の礫を確認した。周囲の石棺墓や配石遺構との関連がうかがえる。なお、本遺跡で最も古いフラスコ状土坑は、円筒下層d2式期のSK5042、最も新しいものはSK5530の牛ヶ沢式期のものである。また、板状礫を確認したSK10031も下部の断面形状がフラスコ状といえるが、1～8層と9層で堆積の様相が異なっている。これを重複によるものとすれば、9層部分が先に構築されたフラスコ状土坑で、この上部を壊して1～8層部分が別遺構として構築された可能性も指摘できる。

SK1080は底面で埋設土器を確認した。規模が小さいため土坑と判断して調査したが、この埋設土器を土器埋設炉とすれば、SK1080は竪穴住居跡であった可能性がある。なお、埋設土器が本遺構に伴わないものとすれば、これは本遺構より古い土器埋設遺構であったと考えられる。

SK1084は堆積土中で、炭化物を特に多く含む範囲を平面的に認識できた。

SK1115は堆積土上面にSI1136の炉が構築されており、SI1136より古い、もしくは同時に構築された可能性もある。堆積土中から大形礫2点が出土しており、内1点(S-1)は人為的に立てて据えられた可能性が高い。この礫はSI1136の床面より40cm以上突き出ていると考えられる。また、SK1115の西約4mに位置するSK1117からも大形の礫3点が出土している。この内S-2・3に関しては地山礫の可能性を残すが、S-1はSK1115と同様に人為的に立てて据えられたものと考えられる。なお、完掘写真(第7分冊・写真図版199)ではS-1が土坑内に残っているが、これはS-1を持ち上げて土坑外に動かすことができなかつたため、やむなく残して撮影したものである。

SK1505は、S-1とした扁平礫が西壁上部に掘方から突き出すように据えられている。なお、これ以外の図示した礫は、人為的に置かれたものではない可能性が高い。

SK4024はPitを伴うが、これは本遺構より古い独立したピットの可能性がある。周囲を竪穴住居跡に囲まれることから、これらに帰属するPitであった可能性もある。

SK5001は、斜めに倒れた状態で土器が出土した。土器は円筒上層c～d式で、土坑上部を削平で欠くが、残る部分は口縁から底部まで遺存率は高く、意図的に置かれた可能性が高い。また、近接するSK5003でも同時期の土器が、こちらは堆積土中に横に倒れた状態で出土している。なお、このような出土状況は、これら以外でもSI1099Pit1、SI5002・5003・5006、SP1407・4226などで確認されている。

SK5009は底面2ヶ所で硬化面を確認した。

SK5020～5022・5024・5025・5029・5030・5031・5034・5048は、SI5047各段階の主柱又は壁柱穴を構成した可能性がある。

SK5056は土器片が敷かれたような状態で出土した。土器は円筒下層c式で、土坑上部を削平で失ったと考えれば、SK5001と同様に意図的に置かれた可能性もある。

SK5542Aは、礫が立てて据えられていた可能性がある。

SK5568Aは、堆積土中から多量の礫が出土した。礫は20～30cm前後のものが多く、意図的に土坑内に置かれたものと考えられる。

VIII P-89・90グリッドに位置するSK5570・5571は、共に扁平礫が立てて据えられていたと考えられる。両土坑の東側には1008号配石や石棺墓B群が位置しており、関連もうかがえる。

SK6017は、底面から約20cm上の堆積土の下位から石棒が出土した。この土坑は平面形が方形で、規模も長軸264cm、深さ101cmと大きい。時期は大木10式併行～牛ヶ沢式期と考えられる。

SK10006・10007・10039・10049からは、後期初頭～前葉もしくはその可能性がある壺形土器が出土している。

このほか、⑧bエリアで確認したSK5500番台を中心とした土坑は石棺墓・配石と関連するものが多くある。個別図・観察表はここで掲載するが、石棺墓・配石との関連性については第3章第10・11節でも記載してある。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

出土土器総重量の0.9%にあたる254.2kgの土器が出土し、内174点(33.1kg)を図化・掲載した。土器型式では円筒下層d1式から蛭沢式の各型式が認められる。掲載された土器の型式別では、円筒上層c式が9.6kg(14点)、榎林式が7.1kg(35点)、大木10式併行が3.5kg(35点)、円筒上層a式が2.5kg(1点)、蛭沢式が1.5kg(2点)、牛ヶ沢式が1.4kg(7点)で、遺跡全体の出土傾向に比べて中期後葉から後期前葉の出土・掲載比率が高いものとなっている。

各土器の観察内容は巻末表に記したが、特に補足を要するものについて以下に記述する。

図176-6は、胴部に異なる2種の沈線垂下文が施される。内1種は環付垂下文に剣先状文が付加され、人体様の表現となる。

図181-1、図182-13は口頸部を欠損した壺形土器である。切断壺の可能性も考えられるが、割れ口に穿孔や擦り切り等の加工痕は認められない。図182-13の内面には、漆と考えられる塗膜状の顔料が付着する。

図181-2は、口頸部に隆帯と捺糸圧痕文が施された壺形土器である。器形は胴部中央が強く張り出し、口縁部が直線的に立ち上がる。口頸部を横位、縦位に区画する隆帯の断面形状が三角形を呈する点、区画隆帯の交点にボタン状貼付がなされる点、口縁断面が肥厚して口端に平坦面が形成される点等から、牛ヶ沢Ⅲ群に伴うものと考えられる。

剥片石器

図245-10はカルセドニーを素材として作出された石鏃である。無茎石鏃凹基に細分したもので、側縁は直線状に作出され、基部も抉りも直線状である。

図245-11は両面調整石器とした。大形の剥片を槍先形に整形したもので、この調整剥離も比較的大きいことから石核の可能性も考えたが、側縁に調整目的と考えられる剥離が連続することから、ひとまず本類に含めた。

礫石器

土坑出土の礫石器は図271・272に14点を掲載した。図271-1は緑色凝灰岩製の磨凹石である。石材は緑色凝灰岩中に含まれた小礫が礫面の各所に瘤状に突き出ており、表面は平坦だが裏面はこれが顕著に突き出て、乳房様の特異な形状となる。表面は磨痕Aと凹痕が共存し、裏面には長軸方向に擦痕が観察される。図271-2はホルンフェルス製の小型の磨製石斧で、節理面で割れた石材の端部のみを研磨し、器体その他は自然面をそのまま残す。図271-3～5は捨て場堆積土中に掘り込まれたSK9の出土遺物で、隣接するSI102と同様に底面から堆積土上層まではほぼ円筒上層c式期の中で埋め戻された土坑である。他時期の混入の少ない遺物包含層と見られ、当該時期の石器の様相を示しているものと思われる。同-4は断面形が角の取れた三角形の石材の、平坦面と隣り合う両側面に磨痕が広がる磨石I類で、SI102出土の2-図126-2にも類例がある。SI102では非掲載資料でも同様の事例が1点ある。同-6は相馬安山岩製の打製石器A1類で、機能面となる側縁は緩く湾曲している。同-7は断面円形の平坦面をもたない曲面のみからなる柱状礫で、この曲面に磨痕が観察される台石である。

図272-3はSK5033(縄文時代中期後葉期)出土の砂岩製の磨製石斧である。なお、SK5033は土坑として調査したものの柱痕が確認されたものである。磨製石斧はこの掘方から出土している。同-4・5はともに石棺墓A群に近接した土坑で出土した石錘II類である。土坑として調査したもののともに配石遺構の可能性がある。SK5590は重複状況並びに出土土器から縄文時代中期末葉期と考えられ、石棺墓A群近辺での石錘II類の集中傾向とも調和する。またSK5542Aは出土土器から時期の特定はできないが、周囲は縄文時代中期末葉から後期前葉期の遺構で占められる状況からこの時期の可能性が高く、石錘II類が当該時期と強く結びつくことを示す間接的な証拠である。

土製品

図299-5はSK9から出土した土偶の腕部である。正面腕先端部、上側面、中央部分と、裏面中央部分に多裁竹管状工具による刺突列がみられる。同遺構からは円筒上層c式土器が出土している。文様の面からも同時期に帰属すると考えられる。

図299-7はSK1076から出土した焼成粘土塊である。土器や土製品製作の際に余った粘土が焼成されたものである。粘土塊表面には細い篋状工具による粗いミガキの他、広葉樹とみられる葉の圧痕がみられる。

図299-8はSK1096から出土したミニチュア土器である。深鉢形で上半部を欠く。体部にはLRを縦位回転施文後、LRが側面押捺される。同遺構からは牛ヶ沢式土器が出土しており、この遺物も文様特徴などからも同時期に帰属すると考えられる。

図299-15はSK5583から出土した土偶顔面の破片である。全体形は逆三角形で、眉と鼻が隆線で、目と口は刺突で表現されている。眉の上面にも刺突がみられる。顔面は頭部から突き出す様に付いていたとみられ、破断面には刺突列も見られる。同遺構からは蛭沢式土器が出土しており、この土偶も同時期に帰属する可能性が高い。

図299-12・13はSK5563から出土した土器片加工品である。12は実測図を上下逆に見ると半円形に

みることが可能である。13は六角形状にみえる。これら2点はいずれも大木10式併行期の土器片を利用して作られている。同遺構からも大木10式併行期の土器が出土しており、これらの遺物も同時期に帰属する。

図299-16と17はSK10015から出土した。16は土偶体部破片、17は器物模倣品である。16は両腕部と頭部、体下部を欠く。粘土粒貼付による乳房と臍の表現があり、体部表裏面には体側縁に沿う刺突列による文様がみられる。刺突列は乳房の横を通過し臍で左右の列が合流する。腕部の破断面には脇から肩付近にかけての貫通孔の跡が見られる。17は木製掬い具の模倣品とみられる。棒状の把手部分には横位の貫通孔が見られる。同遺構からは大木10式併行期～牛ヶ沢式の土器が出土している。遺物の諸特徴からもこれらの遺物は同時期に帰属する可能性が高い。

石製品

図316-3・4はSK1からの出土である。3は全体形が三角柱状の石冠で、本遺跡では唯一E類に分類されるものである。小型で全体に研磨整形が及び、丁寧に作られている。4は棒状の垂飾品でD類に分類される。棒状礫の両端部に表裏両側からの穿孔で孔があげられている。SK1からは最花式～大木10式併行期の土器が出土している。これらの石製品も同時期に帰属する可能性がある。

図316-6はSK1073から出土した石刀である。板状の砂岩を用い、剥離成形後特に下端部刻線を入れ柄状に作出している。横断面形は両刃である。同遺構からは榎林式以降の土器が出土しているため、この遺物も同時期に帰属する可能性が高い。

図317-1はSK1078から出土した垂飾品である。凝灰岩製で上部の一部を欠く。研磨整形により下部が柄状に整形され、左側縁から底面にかけて貫通する孔が穿たれている。両側面には溝線が彫り込まれている。同遺構からは大木10式併行期の土器が出土しているため、この垂飾品も同時期に帰属する可能性がある。

図318-3はSK10015から出土した三角形岩版である。凝灰岩製で左側の一部を欠く。正面には刻線と盲孔による文様が描かれている。文様の基本的な構成は、側縁に沿う沈線と盲孔と、その内部に配置される矢羽根状のモチーフで、施文順序は前者から後者である。詳細な全体形状が不明であるため、どの辺を上にするか迷うところであるが、実測図のように置くか、右上角を下に置くかのどちらかである。欠損部分の角が実測図下角のようにやや鋭角であると後者が正しいのかもしれない。矢羽根状のモチーフは矢柄状の直線を最初に描いた後、矢羽根状と円形のモチーフを描き足している。同遺構からは大木10式併行期～牛ヶ沢式期の土器が出土しているため、この遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図318-4はSK10050から出土した石刀の先端部破片である。頁岩製で全面が研磨整形されている。刃部は右辺側が相当するとみられる。同遺構からは円筒下層d式土器が出土しているため、この遺物も同時期に帰属する可能性がある。

第7節 ピット

ここではピットとしたもの全てを対象に検討を加え、【時期・数量】・【分布】・【形態・規模】について傾向・様相を記載した。個別の計測値や推定される時期は「ピット観察表」に譲り、【特記事項】があるもののみ以下に記載した。図は、小縮尺の配置図と大縮尺の個別図を作成した。配置図(図37～

66)は、ピットの位置を示すのに用いた。1/150を基本に、一部は1/60とした。なお、配置図中の表記では遺構略号の「SP」を省略している。個別図(図102~120)は、各ピットの平面図及び断面図である。1/60を基本に、一部は1/30とした。なお、個別図は、断面図を作成したものを中心に編集したため、全てのピットについては掲載していない。また、ピット観察表等では入力都合でSP10をSP00010、SP1450をSP01450のように5桁で記載してある。

時期については、遺構の性格上明確にし難い部分もあるが、ここでは出土した土器の内、時期を示す可能性が高いものを観察表に記載した。しかし、ピットは確認した数が特に多く、その全てに詳細な検討をおこなえなかった。そのため、極めてわずかながらも、調査時に把握した重複遺構との新旧関係と時期が一致しないものが生じた。これについては、ピットの時期断定の難しさに加え、調査の誤りの可能性を指摘するためにも、あえてそのままの時期を記載することとした。

今回、ピットとしたものだが、調査時には土坑との明確な区分ができなかった。そのため、形状や規模等土坑としたほうが適切と考えられるものを含む。この点は土坑についても同様である。建物を構成したであろう柱穴だったと考えられるものを含み、柱と思われる痕跡(柱痕)を捉えられたもの(SP763など)もある。また、竪穴住居跡の柱穴(Pit)であったものを床面の調査時に確認できず、竪穴住居跡の調査後にピット(SP)として調査したものを相当数含むと考えられる。

【時期・数量】6705基確認した。時期は円筒下層d1式から十腰内式期とされるものまでがある。土器が出土したものの内、型式まで細別できた1655基についてみると、円筒下層d式期のものが90基、円筒上層a式期が18基、円筒上層b式期が10基、円筒上層c式期が91基、円筒上層d式期が67基、円筒上層e式期が29基、榎林式期が93基、最花式期が528基、大木10式期が629基、牛ヶ沢式期が49基、蛭沢式期が51基となる。最花式期に至り、顕著な増加が認められる。この数は続く大木10式期においても維持されるが、牛ヶ沢式期以降は、他の遺構数の減少と歩調を合わせるように大きくその数を減らしている。

【分布】調査範囲全域で確認できたが、旧岩木川を臨む北西側と湯ノ沢川を望む南西側の段丘縁辺部に広く帯状に分布している。その中でも特に分布が集中する範囲としては、ⅧV・W-85・86・87グリッド周辺(図65)があげられる。

【形態・規模】円形基調のものが過半を占める。規模は、残存長軸を平均すると59cmとなり、1mを超える大形のものも543基ある。さらに残存長軸については榎林式を境に大形化する傾向が捉えられ、円筒上層e式までの平均が52cmであるのに対して、榎林式以降の平均は67cmとなる。深さは平均すると34cmで、深いものでは140cm台のものもある。

【特記事項】SP905・936は、堆積土中から多くの剥片が出土した(写真図版236)。SP905からは26.2g、SP936から810.6g出土しているが、どちらも二次加工が施されるものは皆無であった。

SP1353・1365は、沢1(第9節参照)の堆積土中に構築されるものである。SP1353からは大木10式併行の土器が出土しており、これは、この時期までには沢が埋没し、その上に遺構が構築されるようになる状況を示す一例である。

SP1407は、底面で横に倒れた状態の土器が出土した。土器は円筒上層c式で、遺存率が高く、意図的に置かれた可能性が高い。内部では礫も確認した。なお、このような出土状況は、これ以外でもSI1099Pit1、SI5002・5003・5006、SK5001・5003・SP4226などで確認されている。

SP5045・5066・5072・5075・5077・5097・5107・9494は、SI5047各段階の主柱又は壁柱穴を構成

した可能性がある。

SP5780・11141は、礫が立てて据えられたような状態を確認したが、これが意図的なものかどうかは判断できなかった。

SP9491は1層の上面が硬化面の可能性がある。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

出土土器総重量の1.7%にあたる477.5kgの土器が出土し、内182点(16.5kg)を図化・掲載した。型式では円筒下層d1式から蛭沢式まで認められ、十腰内式期のものもわずかながら出土している(SP10630)。特に大木10式併行の出土が目立つ。

各土器の観察内容は表に記したが、個別に説明を要するものについて以下に補足する。

図183-17は算盤玉器形の壺形を呈しているが、底部の剥離痕跡から他の個体に付着する装飾突起と解釈される。胎土・焼成は後期初頭又は前葉のものと考えられ、門前・宝ヶ峰式に併行するものと考えられる。

図186-7は、隆帯の貼付手順に特殊性が認められる深鉢である。隆帯弧文の大部分は縦位区画隆帯の後に貼付されるが、1単位のみ縦位区画帯に先行して貼付される。

図193-11は台付土器の底部～脚部上位にあたる破片である。脚部は底部に接合後、4方向から挟りこんで成形される。欠損部分では4脚又は透かし孔状となっていた可能性がある。

図195-10は内面にも斜縄文が認められる口縁部破片である。外面・口端と同種の縄文原体LRが用いられ、内面では口端から3cm幅で横位施文される。口縁の断面形状及び胎土から、牛ヶ沢又蛭沢式に伴うと考えられる。

図196-1は、平坦面と曲面によって構成される立体装飾突起と考えられる。一部でヘラ状工具による刻み列が認められ、門前・宝ヶ峰式の影響下で製作された可能性が考えられる。

剥片石器

図248-8は剥片端部を利用した石錐で、2カ所を錐部として使用している。

図248-17はスクレイパーとしたが、「一側辺が弧を描く」(君島2012)形状及び丁寧な剥離が施される点を「嘴状石器」(秋田県教委1989)との類似点として指摘できる。

礫石器

ピット出土の礫石器は、図273～275に24点を掲載した。図273-1は泥岩製の敲石Ⅰ類で、礫面全面に細かい敲打痕が観察される、いわゆる多面体敲石である。同-2は緑色凝灰岩製の凹石で、小型の棒状礫の2面に凹痕(C1+B2)が観察される。同-3は粘板岩製の磨製石斧の破片で、器体の中央付近に擦り切り痕跡の可能性のある長軸方向の擦痕が集中する。同-5は緑色岩製の小型の磨製石斧で、本遺跡の中でももっとも小さい資料のひとつである。基部側に相当する位置にも刃部が作出される。同-6は凝灰岩製の磨凹石で、裏面には幅10mm程度の浅い溝状の砥面が観察される。同-9はデイサイト製の磨石Ⅰ類で、小型扁平な長円礫の表裏両面に短軸方向の無数の擦痕が観察される。同-10は緑色凝灰岩製の石錘Ⅱ類で、本遺跡ではもっとも大型の資料である。

図274-1は緑色凝灰岩製の有脚石皿で、底面には脚から派生させた弧状隆帯を作り出す。同-3は緑

色凝灰岩製の砥石で、周囲は全面が欠けている。表面の一方は幅3～4mm程度の深めの線状痕が長軸方向に形成され、他方にもやはり長軸方向の無数の擦痕が磨り減るほどに形成されている。同-5は緑色岩製の磨製石斧で破損した基部側には加工調整の痕跡が、また器体の中央には擦り切り痕跡が観察される。

図275-3は緑色凝灰岩製の打製石器C1類としたが、同類の多くで通有の磨痕Dは確認できず、側縁部には短軸方向の擦痕が無数に観察される。また表裏面のほぼ全面の磨痕Bが縁辺部にまで連続する。同-4は粗粒玄武岩製の磨石Ⅱ類としたが、ほぼ全面に磨痕Aがおよぶ、表面の稜線部付近は、持ち替えて面を形成している点は、研磨と呼ぶに相応しい。両側面は比較的平坦に作り出され、ほぼ全面に磨痕Dに似た痕跡が確認される。また表裏両面には凹痕(A1・C1)も観察される。同-5は凝灰岩製の磨凹敲石で、磨痕と凹痕の共存状況はEである。同-6は分類上凹敲石にしたが、本遺跡内には類例が無く固有の石器と見られる。断面円形の緑色凝灰岩の棒状礫の表面を全周するように敲打し、これと重複する位置に凹痕(B2)が観察される。また端部片側に敲痕が形成される。同-7は分類上磨凹石としたが、本遺跡内には類例がほとんど無く固有の石器と見られる。磨痕Aは表裏2面に観察されるが、一方は非常に弱く、他方は三面鏡のような平坦な磨面を形成し、そこに短軸方向の擦痕が無数に形成される。また稜部を潰すような位置にあばた状の凹痕(B1)が観察され、磨痕と共存する。

土製品

図300-5はSP615から出土した土製装飾品の一部分で、完形時はおそらく環状であったと思われる。側面観は傾斜しており、横断面では正面側中央に明瞭な稜がみられる。表面にはおそらく全面に赤色顔料が塗布されていたと思われ、薄く痕跡が残っている。同遺構からは最花式土器が出土しているが、この遺物の帰属時期を示すかは不明である。

図300-8はSP936から出土した擦切り痕がある土器片である。円筒下層d2式土器破片の左右両端部に溝状の擦切り痕跡が直線状にみられる。擦切りにより得られる短冊状の破片を整形して斧または石刀状の土製品を作るための素材を切り出した残りであると考えられる。

図300-11はSP1530から出土した鉢形のミニチュア土器破片である。波状口縁で外面にはLRが縦位に回転施文されている。内面には漆とみられる物質が付着している。文様や器形などの諸特徴から大木9式に類似すると考えられる。

図300-12はSP1583から出土した鉢形のミニチュア土器破片である。口縁端部に弱い刻みと突起がみられる。口縁部には小さい長方形の刺突列がみられ、口縁部突起の直下からは下位に刺突列が垂下する。胎土や文様の特徴から中期後葉以降の可能性が高い。

図300-13はSP4010から出土した台付のミニチュア土器破片である。口縁部・体部・高台部を欠く。外面にRLが縦位に回転施文されている。胎土や文様の特徴から大木10式併行期以降に帰属すると考えられる。

図301-2はSP5261から出土した土偶の体部破片である。頭部と腕部及び体下部を欠く。両脇から頸の付け根付近にかけて貫通孔が見られる。体部の文様は刺突列により構成されており、正面側では腕部からの刺突列が乳房を通過し臍の上あたりで合流する。背面側では腕部からの刺突列が体側に沿って体下部へと続く。頸の付け根は横位に破断しているが、背面中央上位付近が広い範囲でV字状に厚くなっている。この部分は頭部パーツの接合が理由で厚くなったと考えられる。同遺構からは大木10

式併行期～牛ヶ沢式期の土器が出土しているが、この土偶についても諸特徴から見て同時期に帰属すると考えられる。

図301-4はSP5603から出土した土器片加工品である。最花式土器の口縁部付近の破片を用い全体を角が丸い三角形に仕上げている。

図301-8と9はSP5991から出土した。8は土偶の体部破片、9は石冠を模したと考えられる土製品である。8は土偶の右胸付近で、腕部破断面には脇から頸の付け根に抜ける貫通孔の痕跡が見られる。表裏面には細長く伸びたS字文を繋いだ文様がみられる。9は上面が傾斜するが左右端部を欠くため全体件が不明である。表裏面には中央部を通る隆線があり、正面側ではその上位に、裏面側ではその下位に刺突列が見られる。また、上下側面にも刺突列が見られ、下面にはやや大きい刺突の間を細かい刺突が埋めている。刺突は断面が丸く先端部の平らな細い棒状工具をやや斜めに突き刺したものである。同遺構からは蛭沢式土器が出土しているため、これらの遺物の帰属時期も同時期の可能性が高い。

図301-11はSP8573から出土した性格不明の土製品である。主に正面側に棒状工具によるなでつけ状の短い沈線が多数見られる。取り上げの際は石製品として取り上げられているが、詳細に観察すると工具により粘土中の砂粒が動いている部分があるため土製品とした。焼成粘土塊とも似ているが、手でこねた様な痕跡があまり見られないため、その他の土製品とした。同遺構からは大木10式併行期の土器が出土しているため、この遺物も同時期以降に帰属する可能性がある。

図302-1はSP9278検出面と沢1・遺構外から出土したものが接合した。残存高が約20cmある大型の土偶の脚部である。3つに分かれて出土したが、それぞれの接合面にはアスファルトとみられる黒色物質が塗られており、破損後に修復されていたことがわかる。また、縦方向の破断面にはやや細めの貫通孔の痕跡がみられる。全体に焼成は甘く、風化している部分が多い。破片の部位は右下半身で脚と臍と臀部の表現がみられる。脚には踝と指の表現も見られる。足裏はほぼ平坦であるため現状でも自立する。自立した場合体部は極弱く前傾する。土偶表面の文様は3本一対の縄側面押捺により構成される。使用原体はL2本とR1本である。正面側の文様構成は、臍付近の上下で偏差する。上位はおそらく乳房から垂下する縄押捺で、下位は縄押捺が側面腰部から臍下部にかけて横断しパンツ状文様を構成し、脚部にも縄押捺が連続して横走する。背面側は臀部状の高まりを巻くように縄押捺がみられる。同遺構からは土器の出土がないためこの土偶の帰属時期を確定するのは難しいが、縄押捺の状況や文様構成から円筒上層式の前半期(円筒上層b式期以降)に帰属する可能性が高いと思われる。

石製品

図318-8はSP644から出土した凝灰岩製の三角形岩版である。本遺跡出土の三角形岩版の中で最大である。正面左右側縁に沿った細い刻線がみられる。本遺構からは牛ヶ沢式土器が出土しているため、これらの遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図319-1はSP4311から出土した容器状石製品である。緑色凝灰岩製の素材の中央付近が敲打によりすり鉢状に凹んでいる。同遺構からは最花式～大木10式併行期の土器が出土しているため、この遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図319-2はSP4903から出土した垂飾品である。凝灰岩製で一部を欠く。表裏面を貫通する孔が2箇所みられるが、欠損した部分にも孔がある場合、両端部と真ん中に孔があった可能性がある。穿孔の他は素材をそのまま利用しており研磨などは見られない。同遺構からは最花式以降の土器が出土して

いるため、この遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図319-4はSP5736から出土した被熱した礫である。正面に凹みが数カ所見られるが、被熱によりはじけたものと判断した。

図319-7はSP6167から出土した凝灰岩製の自然礫利用石棒である。下端部を欠き、中央部に敲打による凹みがみられる。同遺構からは最花式の土器が出土しているためこの遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図320-2はSP8645から出土した擦痕のある礫である。凝灰岩製で全面が粗く研磨されている。

図320-3はSP10596から出土した容器状石製品である。凝灰岩製の素材を用い正面側の広い範囲を敲打で皿状に浅く凹ませている。裏面中央部の狭い範囲には敲打による凹みが見られる。

図320-5はSP10764から出土した斧状の石製品である。上端部に表裏両面から穿孔を試みた結果の盲孔がみられるため垂飾品の未製品と考えられる。下端部は斧刃状に研ぎ出されてはいない。

図320-6はSP11331から出土した石冠の類品である。二等辺三角形に敲打・剥離成形後に研磨整形され、左右側縁には刻線がみられる。正面側は僅かに湾曲するがおおむね平坦である。同遺構からは円筒上層c式土器が出土しており、この遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図320-7はSP12344から出土した三角形岩版である。上辺がやや膨らみ、下角は角が面取りされ平らになっているためこちらを下に据えた。凝灰岩製で全面研磨整形が施されている。

第8節 盛土遺構

【概要】⑨a・⑨bエリアの堅穴住居跡集中域の直上で盛土遺構を確認した。調査開始前の表土上で不自然な地形の高まりを認識し、トレンチでの断面観察の結果、住居床面からの厚さが70cmを超える人為的堆積土であることを確認した。調査時には各層の特徴・分布・時期・重複関係の把握に留意し、縄文時代中期中葉までの堅穴住居跡群の直上に形成された中期中葉～中期後葉の廃棄層群であるとの見解に至った。ここでは、この廃棄層の総体を盛土遺構と呼称することとした。以下に把握内容を記述する。

【層の特徴・区分】盛土遺構内トレンチ・土層観察用ベルトにおいて、計45層の構成層に細分された。各層の断面形状は下に弧を描くものが多く、全体で重複・累積するレンズ状堆積の様相を呈している。また各層は、

- S a 第IV層の砂質シルトからなる地山再堆積層
- S b 焼土粒・ブロックが目立つ褐色～明褐色土層
- S c 炭化粒を多く含む暗褐色～黒色土層

の何れかの層種に分類でき、それらが互層となって繰り返されている。各単位内でS a・S b・S cに認定した細分層については、図122下表に対応関係を示した。本報告においてはS a～S cの繰り返しが周期的な廃棄行為を示唆するものと想定し、S a・S b・S cのセットを大別盛土単位（以下「単位」）として再構成した。構成にあたっては、S aが最上層となる1サイクルを先に抽出し・区分する手順をとったため、一部S aが含まれない余剰単位も生じている。こうして再構成された単位についてはⅢ（廃棄層）1・2・3・・・と名称付け、単位内の細分層は「Ⅲ（廃棄層）単位番号－細分層番号」で示した。

以下、文・図・表中では「Ⅲ単位番号(-細分層番号)」と略記したところもある。竪穴住居跡として遺物を取り上げたSI5004の1～4層(以下SI5004-1～4)、SI5028の1a～1d層(以下SI5028-1)については調査終了後の検討によって単位と認定されたが、名称振り替えは行っていない。

単位内での堆積順はSb→Sc→Sb→Sa、Sc→Sb→Sc→Sa、Sb→Saなど一見多様に見え、断面作成位置外に単位構成層が存在し、部分的な単位区分や複数単位の混同を招いている可能性も考えられる。細分層の部分的欠落・繰り返しを前提に含めるならば、Sc→Sb→SaとSb→Sc→Saの基本形2パターンとその派生パターンが抽出出来る。

【位置・規模】分布範囲の把握・記録ができた単位はⅢ1、Ⅲ5、Ⅲ11・SI5028-1である。所属グリッドと計測値については表1に示した。Ⅲ13とSI5004-1～4については、断面情報と重複関係から導き出された推定範囲で示している。その他の単位では断面情報の域を出ないため図示に至らなかったが、周辺の竪穴住居跡の時期・重複関係から、盛土遺構の最大範囲はⅧC～G-84～90で、東西25m以上、南北約6mに及んでいたと推測される。残存最大厚は、SI5019上での55cmである。

【重複関係】確認された全ての単位で認められた。単位間での先後関係は、古い順からⅢ9・11→Ⅲ7→Ⅲ6→Ⅲ5→Ⅲ4→Ⅲ3→Ⅲ2→Ⅲ1となる。Ⅲ5はSI5028-1とも重複し、新しい。Ⅲ13とSI5004-1～4の重複関係は未確認であるが、Ⅲ13がSI5045堆積土上にも堆積することから、SI5004-1～4が古い可能性が高い。また単位間での重複においては、Ⅲ5-Ⅲ7・8間やⅢ11-Ⅲ12間に見られる様な不整合面が生じている場合がある。不整合面は立ち上がりの緩い窪地状に分層され、層界が明瞭なことからも廃棄直前に対象区の掘削が行われていたと考えられる。竪穴住居跡とは、全ての単位が重複関係を有している。上記の掘削も含めて単位が新しい例が多いが、Ⅲ3以下ではSI5006・5010・5011・5020等、円筒上層d式以降の竪穴住居跡に切られる単位が存在する。埋設土器、土坑とは、明らかな重複関係が認められなかった。

【出土遺物】各単位で個体土器(個体土器の概念については、第5分冊を参照)が多く出土した。層種ではSb又はScで集中して個体土器が出土し、Saはほぼ無遺物層となる傾向がある。土器型式ではⅢ1が榎林2まで、Ⅲ2が榎林1まで、Ⅲ3～5が円筒上層e式まで、Ⅲ6以下は円筒上層d式が下限となる。Ⅲ13については出土土器が少なく不明瞭だが、住居との重複関係から大木10式併行に位置付けられる。重複単位内の細分層間では明瞭な型式差は認められなかったが、Ⅲ1では2層が榎林2まで、3層に榎林1～円筒上層e式と、伴出土器が分かれていた可能性がある。土製品・石製品では垂飾品、土偶、線刻入り石冠等が出土したが、出土比率において捨て場や住居内廃棄を上回る量ではない。

【小結】円筒上層d式期までの住居跡群上に形成された、円筒上層d式～榎林2式期の盛土遺構である。当初は居住区域と混在する小規模廃棄であったが、榎林2式期までに大規模化し、同時に居住施設が東西に配置され、広場的空間となったと考えられる。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

出土土器総重量の0.9%にあたる256.3kgの土器が出土し、うち52点(46.4kg)を図化・掲載した。構成単位別では、Ⅲ1で84.4kg、Ⅲ11で62.1kg、Ⅲ2で19.4kg、Ⅲ7で8.9kg、Ⅲ6で7.5kg、Ⅲ5で7.3kg、これ以外の単位ではそれぞれ5kg未満の土器が出土している。単位間での出土量の差は

本来的な廃棄土器量の差ではなく、単位の面的把握がなされた上で遺物取り上げを行ったか、土層観察用ベルト内のみの遺物取り上げに留まったかの差である。

土器型式別では、単位全体で円筒上層c式から榎林2式の各型式が出土している。掲載土器中、型式が限定できるものでは榎林1・2式が18.2kg(15点)と最も出土量が多い。

各土器の観察内容は表に記したが、以下で出土単位毎に各個補足を加える。

Ⅲ 1 出土土器

2・3層からの出土が多く、個体復元に至る割合、大型個体を含む割合は他の単位に比して高い。破片では円筒上層e式が見られるが、復元個体については榎林1式及び榎林2式が主体となる。

図198-1は、胴部に大柄の渦巻きつなぎ沈線文が施される深鉢である。渦巻付弧文と渦巻付Y字垂下文が、交互に連結して横位展開する文様構成である。沈線の重複関係から、図左から右の順で渦巻付弧文の中心線が配置され、その後に補助線による区画文化・渦巻付弧文の充填の順で文様単位が配置される。

図198-2は、胴部に2単位の沈線単位文様が割り付けられた深鉢である。単位文様には2種の大柄な双頭渦文が用いられ、図198-1と同様、単位文様配置後に区画文化・渦巻付弧文の充填がなされる。

図198-3は、橋状把手を有していたと推測される深鉢である。

図199-1は、口縁部に渦巻隆帯区画文をもつ深鉢である。2単位と想定される口縁突起のうち、1単位で施文が認められる。隆帯区画内には沈線が施されていない。区画内突起の中間点にはS字形貼付があったと思われる。

図199-7は、口縁突起の1単位のみ、上下に貫通孔を有する偏頂突起となっている。

図200-1・4は、口縁に4単位の先割れ突起をもつ深鉢である。垂下文による器面の4分割と山形文が充填される文様構成上の共通点がある。4は山形文内部と横位沈線に、ハの字文が付加される。

図201-10の突起内面には人面表現が認められる。土偶と同様に、隆帯のT字形貼付により眉庇と鼻梁が、円形刺突によって両目と口腔が表現されている

Ⅲ 2 出土土器

Ⅲ 1に次ぐ出土量であるが、復元に至った個体は少ない。出土土器型式では、榎林2式以降の破片が認められない単位である。

Ⅲ 3～5 出土土器

Ⅲ 3・4では個別で取り上げた遺物が少なく、両者の内容差については不明瞭な単位である。Ⅲ 2及び5との層序から円筒上層e式から榎林式の移行期にあたる土器が主体であったと思われる。Ⅲ 5では円筒上層e式の個体廃棄が見られ、同型式が下限となる。

図202-4は、胴部に沈線文様をもつ円筒上層e式の深鉢である。口縁には、地文と同種の縄による横位・縦位の側面圧痕が施される。

Ⅲ 6～9 出土土器

円筒上層d式、次いで円筒上層c式の個体が多く出土した。出土単位が限定されるものでは、Ⅲ 6から円筒上層d式の図202-7が、Ⅲ 7からは同じく円筒上層d式の図203-1がある。

Ⅲ 10・11 出土土器

Ⅲ 10からは図203-5、Ⅲ 11の2層からは図203-6の土器が出土した。共に円筒上層c又はd式に伴う

ものと考えられる。Ⅲ11の5層からは、Ⅲ1に次ぐ量の土器が出土した。円筒上層d式その他、図203-7・204-4のような密にヘラ刺突がなされる円筒上層c式が出土している。

他、単位一括で取り上げた遺物には、図204-8の朝日下層式と見られる口縁部破片がある。

礫石器

盛土遺構出土の礫石器は、巻末に遺構別出土遺物数量で示した。廃棄層単位での礫石器点数は2～3点程度しか出土せず、盛土遺構の全体量としても土器総量に比し点数は少なく、盛土遺構の形成や廃棄行為の一端を示す可能性がある。掲載遺物は1点、図272-7は安山岩製の磨凹敲石で、磨痕は表面1面、凹痕は表裏2面、敲痕は両端と両側面に形成される。

土製品

図303-1はⅢ1から出土した土製装飾品である。環状で薄く平坦に作られており、約半分を欠く。外面は無文である。同層からは図303-2の榎林式土器破片を使用した土製品の他、榎林式土器がまとまって出土している。従ってこの土製品も同時期に帰属する可能性がある。

図303-4はⅢ11から出土した鉢形のミニチュア土器破片である。上面観が方形と推定され、内外面ともにナデ調整がみられる。同層からは円筒上層d～e式土器が出土しているため、この遺物も同時期に帰属する可能性がある。

図303-5は土偶体部の破片である。上半身を欠く。正面には臍の表現が見られ、体下部から上方に向かい細い孔が穿たれている。正面側の文様は細い沈線を主体とし、体側縁に2本一対の沈線が見られる。また、臍の上方には正中線がみられ、臍の下位には方形の文様が見られる。側面と背面にはRLが縦位に回転施文されている。盛土遺構からは円筒上層d式～榎林式にかけての遺物がまとまって出土しているため、この土偶も同時期に帰属する可能性がある。

石製品

図321-1はⅢ1から出土した自然孔を持つ礫を使用した垂飾品である。凝灰岩製で整形痕は見られない。

図321-2はⅢ10から出土した石冠である。傾斜する斧刃状の頂部をもち、先端に向かって底面や全体がすぼまる形状である。全面に研磨整形がみられ、底面以外の各面には菱形・波形文などの刻線が描かれている。同層からは円筒上層d式土器が出土しており、この石冠も同時期に帰属する可能性がある。

第9節 沢1・沢2・沢3・北斜面・西斜面・遺構外出土遺物

本節では、遺構外出土遺物を扱う。この内、第2章第4節で示した基本層序の範疇で調査できなかった範囲5地点については、第1～5項としてそれぞれ【位置・確認・規模】【堆積土と堆積過程】といった様相を記載した後で、改めてその地点での【出土遺物】について記載することとした。なお、第2章第4節で示した基本層序第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層から出土した遺物については、狭義の遺構外出土遺物として第6項で記載した。なお、各遺物の出土数量については遺構外出土遺物一覧表に記載してある。

第1項 沢1

【位置・確認・規模】図123中に示した最大長約80m、最大幅約15m、約900㎡に及ぶ範囲で確認した自然堆積層である。南端と北端では約2mの高低差があり、段丘先端の北側へ下る水の流下作用に伴う土層堆積を想定できることから、名称を「沢1」として調査を行った。

【堆積土と堆積過程】水の流下作用は、この範囲で出土する土器の一部に摩滅が認められるものがあること、図125E-E'の下部で混入物の小礫がラミナ状の水成堆積となる点からも追認し得た。しかし、『沢』と表現するものの、全体的にみた堆積土の特徴はⅢ層に近く、水成堆積が明確でない部分も広く存在する。そのため降雨時など、水の流れは一時的なもので常時流れている状況ではなかったと考えられ、「降雨時等の水の流下で開析された窪地に堆積したⅢ層」とも理解できる。

しかし、基本層序のⅢ層が遺物の有無を問わず黒色土層を一括しているのに対し、沢1は堆積年代をある程度限定できる可能性がある。図125 B-B'をみると円筒上層c式期のSI1114は沢1の堆積土に切られている。一方、同じ図125 B-B'でも最花式～牛ヶ沢式期のSI1120は沢1の堆積土上から掘り込まれていることからこの時期に至り、沢1とした窪地はほぼ埋まりきってしまったことがわかる。つまり、沢1は最花式のあたりまでは周囲の遺構や遺物を巻き込みつつ、開析と堆積を繰り返していたと考えられる。水に浸かりやすい状況からか、ここに構築される遺構も少なかったと思われる。出土する土器もそれを裏付けるように円筒式期のものが主体となっており、前述の通り摩滅の著しい土器も散見された。その後、最花式以降になると、沢1とした窪みは大部分が埋まり、その上には遺構が構築されるようになる。先述のSI1120以外でもSP1353(大木10式併行期)やSP1365(土器出土無し)がある。なお、このような状況から沢1とした範囲では、堆積土の上面とそれ以下で少なくとも2時期の変遷が想定されるが、調査ではこの時期差を認識した上での調査はできなかった。

【出土遺物】

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

沢1からは牛ヶ沢式までの土器327.7kgが出土した。重量・個体数の上で中心となるのは円筒上層c・d式と榎林式である。図205-3は底部との境界に隆帯が巡る台付深鉢である。隆帯の断面形状は三角形を呈し、やや縁辺よりに刺突列が施文される。牛ヶ沢Ⅲ群に伴うものと考えられる。

剥片石器

図251-2は羽黒・櫛引産とされる黒曜石を素材として作出された石鏃で、無茎石鏃凹基に細分した。石鏃だが、形状は曲線が多く、丸みを帯びている。

礫石器

沢1で出土した礫石器の数量は巻末の遺構外出土遺物数量表に示した。多量の石器が出土しているが、沢1の対象範囲が広範囲に及ぶため、各グリッドでの出土遺物数量としては少量で、特別な集中も示さない。沢1は榎林式期までに埋没がある程度進んだものと見られるが、出土土器にはこれ以降の時期の資料も含まれている。

遺物は図276に6点を掲載した。図276-1は凝灰岩製の磨石Ⅰ類で小型棒状の礫の1面に短軸方向の擦痕が見られる。同-2は分類上、擦痕をもつ磨石Ⅰ類としたが、擦痕の一部で二重となること、側面部では深く切り込むことから、意図された可能性や砥石のような用途も考えることができる。同-3は扁平礫の側面に磨痕Dを形成する磨石Ⅱ類である。礫面は表裏面とも微弱な磨痕が形成されるが

手擦れのようなものであろうか。残存デンプン粒分析を実施し、グループ①・⑥・⑨・⑩のデンプンを検出している。同-4は扁平礫の短辺両側を打ち欠き、側面に磨痕Dを形成した打製石器C4類である。表裏面に凹痕(C2・C2)が観察される。残存デンプン粒分析を実施し、グループ⑦のデンプンを検出している。同-6は扁平の凝灰岩の両側縁を中心に剥離と敲打痕が形成される石器群でその他の打製石器としたが、遺跡内に類例の無い固有の石器である。

土製品

図303-7～11bは沢1から出土した土偶である。11aと11bは同一個体である。11bは沢1から、11aは捨て場から出土した。脚部を持つ土偶の下半身破片である。脚部はややO脚気味に付いており、踵とつま先が明らかである。指の表現はないが、11aの足裏には5本の浅い沈線がみられる。11aの股間部分から体上部にむかってやや太めの貫通孔が見られる。体部文様は2本一対の縄による縄側面押捺で構成されている。11aの正面には腰部から股間にかけて斜行する縄押捺と、股間から横走する縄押捺が組み合わさりパンツ状の文様になっている。背面側は縄押捺が斜行している。7は沈線文主体の土偶破片である。8・9は刺突文主体の土偶破片である。8の正面には太めの沈線で正中線が描かれている。背面中央にも刺突列が見られる。10は無文の土偶破片とみられる。破片上位には表裏面を貫通する孔がみられる。

図304-2は土器片加工品である。大木10式併行期の土器を利用して円形に加工している。器体左側には刺突がみられ、その部分に黒色物質が充填されている。

図304-3は環状の土製装飾品の破片である。完形であれば滑車形を呈し、対向する端部に鱗状の突起が付くものと思われる。主たる文様は刺突列で、表裏面と鱗状突起を縁取っている。

これらの沢1出土品については、沢1出土土器が主に円筒上層d式～榎林式の他、大木10式併行期～牛ヶ沢式であることから、これらの時期のどこかに帰属すると考えられる。文様や形状などからみると図303-11a・11bは円筒上層式土器に、図303-8と9及び図304-2・3は大木10式併行期～牛ヶ沢式土器に、それぞれ帰属すると推定される。

石製品

図321-3～6は沢1から出土した。3は泥岩製の石刀の刃部破片である。やや内ぞり気味の形状で全体が研磨整形されている。4はヒスイ製大珠の破片である。本来は根付形であったものと推定される。全体に被熱し茶色みがかかっている。5は石製垂飾品である。凝灰岩製で自然礫の形状をほぼそのまま利用し、上端部に表裏両面からの穿孔で貫通孔をあけている。また表面は弱く研磨されている。6は緑色凝灰岩製の石棒である。下端部は破断しており、上端部と表面側の広い範囲に敲打痕が見られる。沢1からは円筒上層d式～牛ヶ沢式期の土器が出土しているため、これらの遺物もおおむね同時期に帰属すると思われる。

第2項 沢2

【位置・確認・規模】図123中に示した沢1の北側、段丘先端で沢2を確認した。沢1とは連続しているものの、段丘先端ということで深く開析されている。さらに、この開析された部分において西側の捨て場に近い遺物の出土状況が捉えられたことから、沢1とは別に報告することとした。

沢2の範囲は、南はⅧV-88グリッド、北はⅨE-89・90グリッドの間、約260㎡とした(図123・

124)。沢1から続く流れは、ⅧV～Y-88グリッド付近で一度逆S字状に蛇行してから段丘先端を流れ下る。これにより開析された高さは約4mに及ぶと考えられる。

【堆積土と堆積過程】この窪みに堆積した土層は、図125A-A'で7層、B-B'で7層に分層した。A-A'の第3c層とB-B'の第3A層が同一層であるが、これ以外の層序については対応関係を明確にできなかった。堆積土はいずれもシルト質で、A-A'の第2層とB-B'の第2層では礫が多く混入している。これらは基本的に自然堆積によるものと考えられるが、A-A'の第3e層からは円筒下層d1式の個体土器が出土しており、炭化物等の混入状況も捨て場18・19ベルトの当該期の堆積土と似ていた。そのため、円筒下層d1式期に関しては西側の捨て場と同様の人為的な廃棄行為が行われていた可能性が高い。しかし、以後は面積の限定性もあつてか、積極的に人為的と解釈できる堆積土は認められない。その後、この窪みは最花式期までには概ね埋まりきるようで、段丘先端ではこの堆積土上に遺構が構築されるようになる。ここで確認できた遺構としてはSI4043・4044、SN4024、SR4024があり、土器が出土していないSN4024を除いて、いずれも最花式期、もしくは最花式以降とされるものであった。この「最花式期までに埋まり、堆積土上に遺構が構築される」状況は、沢1の様相に近いといえる。また、これら最花式期の遺構構築と前後して、A-A'の第1・2層とB-B'の第1・2層が堆積する。特にB-B'の第1・2層は最花式期のSI4044を切っている窪みに堆積している。つまり、沢の窪みが埋まって堅穴住居が構築されてからも、この場所が開析作用を受ける場所であったことを示している。なお、B-B'の第1・2層自体も出土土器の主体は最花式であり、「SI4044の構築→廃絶→開析→第1・2層の堆積」までが最花一型式内で完結したものと考えられる。

【出土遺物】

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

沢2からは蛭沢式までの土器116.5kgが出土した。重量・個体数の上で中心となるのは円筒上層c・d式である。図205-9は円筒上層d～e式に位置付けられる深鉢である。口縁突起から垂下する隆帯は、地文をナゲ消してから貼付されている。図206-4は唯一蛭沢式に分類される破片であり、混入が疑われる。

礫石器

沢2で出土した礫石器の数量は巻末の遺構外出土遺物数量表に示した。沢2の遺物包含層が260m²程度のごく限られた範囲であることからすると、沢1に較べある程度集中的な廃棄がなされたものと判断される。個体土器の出土する第3層では、遺物包含層自体に大きな時期的な攪乱様相は無く、円筒下層d～上層c式期までの資料群と判断される。一方第1・2層はそれ以降の包含層と見られる。

沢2出土礫石器は、図277・278に5点を掲載した。図277-2は短辺両端を打ち欠き、機能面は剥離のみで磨痕Dを伴わない打製石器A4類である。同-3は凝灰質砂岩製の打製石器B5類で一方の側面全面と、他方の側面の一部に剥離を伴う磨痕Dが観察される。同-4は第3層出土の相馬安山岩製の台石で、当遺跡において円筒下層d～上層c式期にはすでに相馬安山岩の石材利用が始まっていたことを示す例である。

図278-1は流紋岩製の砥石で、やや厚みのある石材の両面に磨痕Aが観察される。片面では長軸方向に向かう、幅30mm程度の浅い溝状砥面が集合する。

石製品

図321-7・8は沢2から出土した。7は刻線のある石製品である。軟質の凝灰岩製で右下端部と上部側縁を欠く。本来の形状は半円状の可能性があり、中心よりやや下部側に表裏両面からの穿孔でやや

大きい孔があげられている。正面側には刻線や盲孔による文様が描かれているが裏面側は無文である。正面側の文様は、側縁のやや内側の方形もしくは半円状の区画内に貫通孔を起点とした放射状の刻線を描き、その間に盲孔を配置するものである。垂飾品にも分類できそうであるが、仮面の可能性も考えられる。8は円盤状石製品である。板状の凝灰岩製素材を研磨整形で仕上げている。沢2からは円筒下層d2式土器や円筒上層c～d式土器等が出土している。これらの遺物はその特徴などから円筒上層式土器に伴う可能性がある。

第3項 沢3

【位置・確認・規模】60号配石及び57・58号配石を調査する過程で、これら遺構の下部で溝状の落ち込みを確認した(図123・126)。当初は北側にある60号配石まで続く可能性もあることから、これに関連した人為的な遺構SD5502として調査した。しかし、調査の進展に伴い60号配石とは接していないこと、堆積土の観察から人為的な遺構と断定するに至らなかったことから、自然堆積の「沢3」に振り替えて報告することとした。

VIII・M・N・O-81・82グリッドに位置し、石棺墓A群の西側構築土の一部が重複している。沢3の上には7号墓と54号配石、9号墓とその関連配石である52・57・58号配石、14号墓関連配石である18・19号配石が構築されており、いずれも沢3より新しい。加えて、14号墓や9号墓より古いSP12002も、沢3より新しく、沢3より古いと考えられる遺構は確認できなかった。なお、北側にある60号配石とは接していないため重複関係は不明である。

形状は、不整な溝状で南北方向の長軸の最大長が10.9m、東西の短軸方向の最大長が4.0m、深さは最も深いところで65cmである。

【堆積土と堆積過程】堆積土は黄褐色土で、炭化物をわずかに含む。さらに地質学担当調査員の現地指導では水成堆積の可能性も指摘された。

【出土遺物】土器は、前期末葉から後期初頭のものが出土した。この内、後期初頭のものは、わずかに出土しているものの、大木10式併行とされる7号墓が沢3の上に構築されていることを考慮すれば、混入の可能性が高い。大木10式併行の可能性のある土器は複数出土しており、前述の7号墓との新旧関係を考慮すれば、沢3は大木10式併行までに埋没したと可能性が高いといえる。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

沢3は土器の出土量は0.9kgと少なく、小破片が主体となる。特徴的な文様を有する破片に乏しく型式比定が難しいが、多くは最花式～大木10式併行の範囲で捉えられるものである。

礫石器

沢3から出土した礫石器は磨石I1点、凹石8点、打製石器B類1点、石皿1点の10点のみで、土量に対する遺物数量は極端に少ない。調査当初は基本層第IV層と捉えていたが、遺物の出土を契機に、遺物包含層と捉え直した調査所見とも符合する。遺物は図278に2点を掲載した。図278-2は緑色凝灰岩製の石皿未製品と見られる。扁平礫の片側中央に敲打痕による凹みを作成し、使用痕は見られない。

第4項 北斜面

【位置・確認・規模】「捨て場」とは沢2を挟んで東側にある段丘北側の斜面、東西約80m、幅約8mの範囲を北斜面とした(図123・127)。範囲下での遺物散布により確認した。西側に展開する「捨て場」と比べて斜度が大きく、図127A-A'、B-B'共に約35°となる。そのため、調査は人力での掘削を断念し、重機を用いて少しずつ堆積土を掘削する方法でおこなった。

【堆積土と堆積過程】堆積土は3層に分層した。第1・2層が遺物包含層、第3層が無遺物層である。遺物包含層とした2層も、現状の急傾斜を考えると縄文時代の堆積層がそのまま残っている可能性は低く、上部から流れ込んだ遺物を主体とした二次的な包含層と考えられる。また、そのように考えると無遺物の第3層は二次的な包含層としても捉え難く、自然堆積土で第Ⅳ・Ⅴ層との漸移層である可能性が高い。

【出土遺物】

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

北斜面からは出土土器総重量の0.7%にあたる195.6kgの土器が出土し、内3点(0.2kg)を図化・掲載した。土器型式では榎林式や最花式など、中期後葉の破片が目立つ。

礫石器

巻末の遺構外出土遺物数量表に、北斜面で出土した礫石器の数量を示した。このうち図279に4点の遺物を掲載した。図279-1は凝灰岩製の磨石Ⅰ類で、断面形が角の取れた三角形の石材の、隣り合う二面に磨痕Aが観察される。同-3は磨石Ⅱ類としたが、典型例とは様相が異なり、側面には同類に通有な磨痕Dではなく、長軸方向の擦痕を伴う磨痕Aが形成される。また表裏面の全面が磨かれ、端部片側(図の上部)は平坦に整えられた形跡もあり、石冠類との関連も想起させる。同-4は短辺両側の挟入状況から石錘Ⅰ類に分類したが、片面には短軸方向の無数の擦痕、また両面に凹痕(B2・A1)が観察される。

石製品

図321-9～11、図322-1・2は北斜面から出土した。図321-9は勾玉状の形状で表裏面に盲孔による文様が描かれている。10は三角形岩版の可能性もある。緑色凝灰岩製で表裏面に二本一対の刻線による文様が見られる。11は穿孔や研磨の見られる石製品である。下端と右側の多くを欠く。器表面には成形に伴う剥離痕や回転穿孔の痕跡が見られる。全体形は三角形を意識しているようにも見えるが、何かの形状を作出するためというよりは研磨や穿孔などの試しに使用された可能性も考えられる。図322-1は緑色凝灰岩製の石刀である。全体を敲打・剥離により成形している。特に柄部と刃部の間と先端峰側の敲打成形は入念である。成形後、全体を研磨し、刃部を研ぎ出している。2は流紋岩製の石刀である。先端側の約半分を欠く。柄頭部は側面観が極弱く傾斜し端面は椀状に凹んでいる。

第5項 西斜面

【位置・確認・規模】湯ノ沢川に面した南西側の斜面、東西約100m、幅約10mの範囲を西斜面とした(図123・127)。範囲下での遺物散布により確認した。「捨て場」と比べて斜度が大きく、図127A-A'で30°となる。そのため、調査は人力での掘削を断念し、重機を用いて少しずつ堆積土を掘削する方法でおこなった。

【堆積土と堆積過程】堆積土は6層に分層し、全てで遺物を包含していた。第5・6層は土器が個体を識

別できる状態で出土している。その上部の第1～4層に関しては出土遺物の一括性に乏しく、上部から流れ込んだ遺物を主体とした二次的な包含層と考えられる。

【出土遺物】

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

西斜面からは出土土器総重量の2.5%にあたる728.1kgの土器が出土し、内8点(0.2kg kg)を図化・掲載した。土器型式では円筒下層d1～や榎林式などが認められる。

礫石器

巻末の遺構外出土遺物数量表に、西斜面で出土した礫石器の数量を示した。このうち図279～281に14点の遺物を掲載した。

図279-5は、断面方形となる柱状石材の、四隅の稜部に磨痕Dに相当するざらついた面が形成される資料で、磨石Ⅱ類に含めたが、遺跡内には類例が無い。同-6は砂質凝灰岩製の磨凹石で、表裏両面ともに幅3～5mm程度の溝状砥面を伴う。同-7は緑色凝灰岩製の磨凹石で、表裏両面ともに磨痕Aは凹痕(C2・C2)の合間のみ観察される。また片側の側縁には鋸のような磨面を形成する。

図280-1～5は打製石器類で、1・2は剥離を伴う磨痕Dを機能面とするB1類、3は磨痕DのみのC4類である。4・5は短辺を打ち欠き、側面に主要機能面をもたないことから石錘Ⅰ類としたが、4には磨痕と凹痕(C2・C2)が形成される。同-6は凝灰岩製の砥石で、扁平礫の片面に幅40mmの浅い溝状砥面が形成される。端部片側には対になる挟入が見られ、意図的に作出された可能性がある。

図281-2も砥石で幅40～50mmの浅い溝状砥面が形成される。同-1・3は石皿で2面利用である。

土製品

図304-11～13は西斜面出土土偶破片である。11は胸部付近の破片で縄の側面押捺(渦巻き状)と口の表現と貫通孔が特徴的である。12は細沈線と細い刺突文が特徴的である。背面には太い沈線による正中線が見られる。これらは文様の特徴等から円筒上層式前半期に帰属するものと思われる。

図305-1～5は西斜面出土土偶破片である。主に沈線・刺突を主体とした文様を特徴としている。

石製品

図322-3～9は西斜面から出土した。3は安山岩製の環状石製品である。軟質・多孔質の素材が用いられ、全体に研磨成形がなされている。4は凝灰岩製の石棒模倣品である。両端部が平坦に成形されており、端部彫刻型石棒を模倣したものと考えられる。5は容器状石製品である。緑色凝灰岩製の素材を敲打と研磨により削りぬいている。底面の貫通孔は底面側から回転穿孔されてあいたものである。6・7は石冠、8は小型の石冠類品である。6は基底部が明瞭に張り出しており、全体に丁寧に研磨成形されている。9は凝灰岩製の端部彫刻型石棒である。全体を敲打後研磨して整形している。両端部には二重円文がみられる。

第6項 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物としたものの内、第2章第4節で示した基本層序の第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層から出土したものを遺物種別ごとに報告する。なお、表採、攪乱、抹消遺構からの出土などで出土位置や層位が不明確なものも便宜的にここで一括して報告する。

以下、出土した遺物について、種別ごとに掲載遺物の特記事項を中心に記載する。

土器

本項で扱う土器は出土土器総重量の31.4%にあたる8,775.4kgとなり、うち、374点(203.2kg)を図化・掲載した。図化掲載にあたっては、本遺跡出土土器のバリエーションを示すため、補完関係にあると判断したものを選択している。

各土器の観察内容は巻末表に記したが、特に補足を要するものについて以下に記述する。

図207-11は、深い連続刺突文が施された土器の胴～底部である。刺突には先割れした棒状工具が用いられ、深い部分では器厚の2/3に達している。平底ではあるが、物見台式に伴うものと見られる。

図211-10は、頸部・胴部に半裁竹管の内面側を用いた刺突が施される深鉢である。縦位刺突列は胴部器面を6分割しており、それぞれを充填する形でLRとRLRが横位施文される。LRには二重つなぎと考えられる特殊な結束の痕跡が認められる。

図217-4は、横位4単位の対弧文が上下2段、対弧文を縦・斜位に繋ぐ連結線と内部への充填、への字形区画の垂下文の隆帯文様が地文の上に施される。隆帯上には、地文のLRとは異なる原体Lの回転施文が認められる。

図219-4・220-2は、隆帯縁辺のナデ付け痕が顕著な土器である。220-2はより痕跡が明瞭で、隆帯脇沈線に近い。共に円筒上層d式に分類されるが、220-2は口縁突起、隆帯文モチーフの点で円筒上層e式的に近い特徴を有している。

図226-4～7は足形突起がついた土器片である。全て図正面から見て右に足先が向けられる。6に残存する足先では、4単位の刻みで5本指を表現している。226-4の足裏には、円筒上層e式～榎林1式の過渡期的土器に散見されるへの字付加文が認められる。

図225-12、226-8、229-5は、透かしが施された立体装飾突起である。225-12・226-8は透かしの仕切りとなる脚部を口端に立て、楕円形の隆帯を1～4面に貼り付けたのち、透かし孔他の形状を撫で整える手順で成形される。榎林式に相当すると考えられる。

図227-10は、突起の配置、胴部の区画の何れにおいても不均等な配分がなされる深鉢である。2つの山形突起は口縁の円周上1/4内に偏って配置される。胴部は直線・蛇行の垂下文によって、1:1:2の不均等な3単位の区画され、計4単位の山形文が充填される。榎林1式に相当する。

図229-8は、櫛描き様の条痕を胴部地文とする深鉢である。幅約3センチの櫛歯状工具が用いられており、底部側面から口縁直下にかけて一気に施文されたとみられる。榎林1～2式に相当すると考えられる。

図237-1は、単軸絡条体第5類を地文とする沈線文土器である。斜向刺突列による横位区画、大柄の沈線区画文から、大木9式に併行するものと考えられる。

図240-1は、子持ち土器状の口縁装飾がつく口縁部である。貫通孔直上の欠損した突起は器状を呈していたと推定され、口縁文様、突起、器形の点で門前・宝ヶ峰式の影響が考えられる。

図240-24は台付土器の胴部下位～脚部である。バンド状の貼付帯は全周の1/2が剥落しており、剥落面にも縄文・刺突文が施されている。黒色化は底部内面のみで、脚部内面には認められない。所属形式は不明であるが、他の脚部に区画隆帯を持つ例から、牛ヶ沢Ⅲ群に伴う可能性が高い。

剥片石器

図252-1～22は石鏃である。

図252-6は木造・出来島産とされる黒曜石を素材として作出された石鏃で、有茎石鏃凸基に細分した。先端と基部の両端が欠損している。これ以外に、珪質頁岩以外の石材を用いる石鏃として鉄石英の2点(図252-12・15)を図示した。

図252-23～図253-6は石槍である。

図253-5は赤井川・赤井川産とされる黒曜石を素材として作出された石槍である。基部を有するもので、先端は丸みを帯びている。

図253-7～図257-11は石筥である。

図258-1～23は石錐である。

図258-12は木造・出来島産とされる黒曜石を素材として作出された石錐である。つまみ部が作出されるものである。図258-23は北上川・北上折居1産とされる黒曜石を素材として作出された石錐である。石鏃を転用したものと考えられ、元は有茎石鏃凸基であったと考えられる。これ以外に、珪質頁岩以外の石材を用いる石錐としてカルセドニーの1点(図258-5)を図示した。図258-22は剥片端部を利用した石錐で、2カ所を錐部として使用している。

図259-1～図260-14は石匙である。

図260-1は木造・出来島産とされる黒曜石を素材として作出された石匙である。つまみ部以下が三角形となる横形で、側縁は使用に伴うと考えられる摩耗が著しい。図260-14は斜軸形の石匙で、刃部の下辺が大きく抉られており、形状が異形となる。

図261-1～図265-3はスクレイパーである。

図264-8～図265-3は、剥片端部に刃部が急角度で形成されるものである。これまで、いわゆる搔器として報告されているものに類する。図264-11は深浦・八森山産とされる黒曜石を素材として作出されたスクレイパーである。端部に作出される刃部は湾曲している。

図265-4～図266-2は二次加工剥片である。

図265-4は石鏃の未製品、図265-6・10は石筥の未製品の可能性を考えた。

図266-3は微細剥離剥片である。打面を除く側縁に微細な剥離痕が連続して形成されている。

図266-4～16は異形石器である。

図266-4～12は比較的小形のもので、剥離も丁寧な印象を受ける。「衣類ハンガー状」や「ブーメラン状」(青森県教委2012)とされる形状のものがある。一方、図266-13～16は前者に比べるとやや大きく、剥離も他の剥片石器に似る。そのため、スクレイパーに含め得るものとも理解出来るが、特異な形状であることを優先して本器種とした。

図266-17は石核である。

礫石器

遺構外出土の礫石器は図282～298に器種別に掲載した。

図282～288は敲磨器類で、図282-1～8は磨石Ⅰ類、図282-9～図284-1は磨石Ⅱ類、同2～7は凹石、同8～13は敲石Ⅰ類、図285-1～5は敲石Ⅱ類の単独機能の敲磨器類である。また図285-6～図286は磨凹石、図287-1～3・5～8は磨敲石、同-9は凹敲石、図287-4、図288は磨凹敲石の複合機能の敲磨器類である。

図282-1～3は小型、同-4は球状礫(A形状)、同-5は断面円形の柱状礫を素材とする。同-3は石材

両面に短軸方向の擦痕が無数に観察される。図282-6～8は線状痕・擦痕をもつ資料で、6は長軸方向に礫全体を半周するように、7は片側の表面に数条の、断面三角形となる鋭利な線状痕が見られる。同-8は異なる二方向の線状痕が集合している。

図282-9・283-2～5は厚みのあるB2形状、図283-1がC1形状、図283-6・284-1は扁平のC2形状の磨石Ⅱ類である。図282-9の側面には磨石Ⅱ類に通有の磨痕Dでなく磨痕Bが観察される。磨痕D以外の痕跡をもつ資料は全出土資料中で4～5例ほど確認でき、図275-3にも類例を図示している。磨石Ⅱ類は表裏面の一部あるいは全面を磨るものも多く、擦痕の形成される場合は短軸方向が多い。なお図283-1は原礫面をそのまま残す。同-3・4・6では表裏面に凹痕が確認されるが、3は側面の機能面にも凹痕(C2)が確認される事例で、遺跡全体で4～5例確認している。5-図167-4などに類例がある。

図284-6は表裏に穿孔具による小穴の開いた石材を凹石として利用した資料である。小穴の位置と凹痕が一致する箇所もあり、この石材を好んで選択・使用した節もうかがえる。同-8・9は小型の石材、10・11は棒状礫の敲石Ⅰ類である。同-9は瑪瑙製で本遺跡の敲石Ⅰ類では唯一の例である。

図285-1～5は珪質頁岩製の敲石Ⅱ類で、素材は1・2・4が剥片利用、3は石器転用、5は石核転用である。

図285-6～図286は磨痕と凹痕が個体内で共存する磨凹石であるが、使用の結果としての磨痕ではなく、整形目的(研磨)と見るべきものを含んでいる。図285-8・9は顕著な磨痕ではないものの、片面のみが平坦に整形されている。また図286-1も端部を除くほぼ全面が、短軸方向や長軸方向に磨かれることで各面が比較的平坦となる。整った凹痕は図285-9とも共通し、凹石の大半に見られる痕跡とは一風異なる。図286-4は三角錐状の石材の、1面を除く各面を平坦に磨く。線状痕を顕著に残す面と、ほとんど残さず平滑な面とが共存する。同-7は断面三角形の扁平礫で、端部も含む各所に擦痕が無数に観察される。稜部を切り込むような幅1～2mmの線状痕や、稜部を敲打で潰したような痕跡も見られる。

図287-1～3・5～8は磨敲石で、5では残存デンプン粒分析を実施し、グループ⑤・⑨を検出している。同-7は破損礫を使用した資料で、もとはB2形状の石材だったと見られるが、破断面部におよぶ敲打痕や破断面側に巻き込むような磨痕が観察される。

図287-9は凹敲石で、敲痕は稜部を潰すような位置に形成されている。

図287-4・図288-1～5は磨凹敲石である。図287-4では残存デンプン粒分析を実施し、グループ①を検出している。図288-5は片側側面に顕著な敲痕を形成する。

打製石器類では、図289-2・4・5・290-1・4・5は機能面が剥離を伴う磨痕DのB類、図290-2・3は微細な剥離を伴うが、連続する剥離をもたない点でC類に分類した。図290-3は残存デンプン粒分析を実施し、グループ②を検出している。同-4は両側面を使用した資料で一方の機能面は、持ち替えて使用した痕跡と見られる、中央に稜線の形成された傾斜の異なる二面が観察される。同-5は破断面部に磨痕が観察された資料で、既報告第528集では3例確認されているが、今報告対象資料では唯一の事例である。同-6は両端部を打ち欠くが側面には使用痕を持たず、分類上は石錘Ⅰ類となるが、表裏面は全体的に磨って整形し特に一方の側縁は鎬状に作り出す。

図292-1～5は、いわゆる「扁平石器」に相当しない、その他の打製石器で、1は片側の側面を両面から剥離、2は片面は縁辺を全体的に剥離し、もう一方の面は片側縁のみ剥離する。3は鏗節形状の珪質頁岩の転石で、縁辺に剥離を加えている。4・5は撥形の素材礫の縁辺に剥離を加えている。石質は、4

は流紋岩、5はデイサイトである。

図293-1・3～5は石錘Ⅰ類、図294は石錘Ⅱ類である。出土状況的には、石錘Ⅱ類は全体の約半数が石棺墓A群周辺で出土し、縄文時代中期末葉から後期前葉という時期と強く結びつく。石棺墓A群周囲の第Ⅰ・Ⅱ層は、石棺墓A群の形成に直接伴う土層(=石棺墓A群構築土)とは区別されたものの、何らかの形でこれに関わっていたことを明示している。

図293-2は、端部両側には幅のごく狭い平坦な磨面が見られる特殊な資料である。同-4・5は良く似た資料で、ともに石材は端部側の一方が広く他方が狭いの扁平礫で、表裏両面のほぼ全面に磨痕と凹痕(C2・C2)が形成される。同-7の凹痕の片側に偏した磨痕の位置は、側面に磨痕Dを伴う打製石器B類やC類等のあり方にも共通する。

図294-1～3は小型の石錘Ⅱ類で、本遺跡内でも最小の部類に入る。同-5はやや厚みのある石材で片側に凹痕(A2)が観察される。

図295-1は凝灰岩製の石皿で、裏面は曲面になるほどの磨痕が観察される。同-2は凝灰岩製の小型の石皿破片で、4号墓の短辺西壁に相当する壁石抜き取り痕から出土した。同-3～5も小型の有脚石皿でいずれも20cm前後である。3ではごく低い脚が前後の対角線上に位置しており、脚として意識的に作出されたものかわからない。4は凝灰岩製で、表裏両面に磨痕が見られる。5は周囲に縁が無く、脚は三脚である。長軸方向とは異なる向きの幅20mm前後の浅い溝状砥面をもっている。

図296-1・3・4・図297-1は台石である。図296-1は長円礫の稜線部に長軸方向に連なる凹痕を作り出した資料で、これ以外にも敲打痕や短軸方向の擦痕が見られる。同-4は断面三角形の柱状礫で、三面の全面に長軸方向の線状痕・擦痕が無数に観察される。図297-1は緑色凝灰岩製で表裏両面に線状痕と擦痕が顕著に見られる。

図296-2・5・図297-2～5は砥石で、3は流紋岩の角礫を素材とし、各面に線状痕や擦痕、幅10mm程度の浅い溝状砥面をもつ。表面での線状痕は稜線部に集中する。同-4は厚みのある凝灰岩製の砥石で、表面は同一方向の擦痕が集合し、裏面では主に二方向の擦痕と線状痕が観察される。同-5は凝灰岩製の砥石で凹面となる曲面を中心に無数の擦痕が観察される。

図298は磨製石斧で、10は側面に擦り切りと折り取りの痕跡が確認される。12は5cmにも満たない黒色片岩製の磨製石斧で、本遺跡では最も小型の資料である。

土製品

図305-10～図312-15は遺構外出土土偶である。以下に分類に沿って記述する。

土偶A類(図305-9・10)：主に細沈線及び細刺突で文様が構成される。9は3列一対の細刺突列で文様が構成され、特に背面にみられる横位・矢状のモチーフが特徴的である。10は頭部と腕部を欠く。乳房と臍は突起状に表現され、乳房の中間やや上方に円形の浅い凹みによる口が表現されている。正面側のモチーフは乳房下端に沿う沈線と刺突列から垂下する沈線と、体部中央に臍まで垂下する刺突列と沈線に加え、臍から下端部に向かう三角形のモチーフが見られる。背面側には9と類似した矢状モチーフが見られる。これらは土偶A類では典型的なモチーフの組み合わせとなる。9・10ともに胎土に繊維を含む。

土偶B類b2(図305-11・12・図306-1・2)：主に縄の押捺で文様が構成されるもののうち、二本一対の縄が全体に疎らに使用されるものである。全体形状がわかるものはないが、基本的に両腕をほぼ水

平に広げた十字形が想定される。体部中心に、図305-12には体部の貫通孔がないが、図306-1にはみられる。図306-1と2は接合しないが同一個体である。1の右側縁の破断面と2の腕部付け根の破断面にはアスファルトとみられる黒色物質が付着している。

土偶D類b(図305-13・図306-3)：多裁竹管状工具による幅広の刺突文が主文様に用いられるものである。図306-3は頭部と下半身の一部を欠くが、全体形状が十字形であることがわかる。乳房と臍を突起状に表現する他、首元には縁が弱くもりあがる凹みがみられ、その底面から体下部へ孔が貫通している。文様は正面・裏面ともに体側縁に沿う刺突列が見られる他、正面側では臍の上下を通る刺突列が、背面側では背面中央付近で十字に交差する刺突列がみられる。

土偶E類(図306～308)：沈線文が主文様に用いられるものである。図306-5・図307-1はE類aに分類される。図306-5の鼻の下位にみられるカニの手状の文様が特徴的である。頭部から体下部まで全身が一覧できるものはないが、全体形は十字形で、体部の断面形状が平板ではなく厚みのある楕円形になる。図306-5は頭部が残存している。頭頂部は皿状に浅く凹んでおり、内面に渦巻き文が描かれている。眉と鼻は粘土紐を貼り付けて表現されている。また、頭の周囲を全周するように粘土紐が蛇行している。目は刺突で表現されるが刺突3つで一つの目を表現しており特異である。口の部分は先述したカニの手状文様が上向きに描かれておりその文様はそのまま下位へと垂下しておりまるで涎のように見える。体部には円錐状に突き出た乳房の表現と、浅く細い沈線による文様が見られる。乳房の周囲には肩から出る沈線が全周している。体部の半分と腕部を欠くためこの部分の文様構成は不明であるが、少なくとも正面側には体側縁に沿う沈線は見られない。図307-1は頭部から右腕部を欠く。乳房は剥落しているが臍と同様突起として表現されていたと考えられる。腕の付け根には上下に貫通する孔がみられる。腕部には渦巻き文や縦位の沈線やカニの手文などにより充填されている。体部中央には臍に向かい沈線が1本見られ、臍を周回している。臍の下位にはカニの手文が付く方形区画文様が見られ、内部には横位に短沈線が充填されている。また、区画文の下部からは2箇所孔が穿たれている。断面図で垂直に近い方の孔はもう少し上まで到達しているが、斜位に穿たれた孔により途中が塞がれている。体側縁部には渦巻き文とカニの手文が複合した文様が見られる。背面側には臀部の直上ラインを表現した線が見られる。これらの沈線はすべて二本一対の細く浅い沈線で描かれている。図307-2～5・図308-1は剣菱付渦巻き文が見られるものでE類bに分類される。全体形は図307-2にみられるように十字形である。頭部は図307-2ではほぼ平坦で、図308-1では皿状に浅く凹んでいる。顔の表現は図307-2で眉と鼻を隆線で表現し、目と口は断面が丸い棒状工具をほぼ垂直に突き刺して表現しているのが特徴的である。また、この個体には側頭部から反対側に貫通する孔がみられ、耳を表現している可能性がある。乳房は剥落しているものが多いが、図308-1のように円錐状の突起で表現されていたものが多いと推定される。図308-2・4はE類cに分類される。体側縁部に沿う枝分かれ状の沈線が特徴的である。図308-8～11はE類eに分類される。破片のみで全体形は不明であるが、8や9のように腕部が短く突きだし、斜位に貫通孔が見られるのが特徴である。文様は9のように端部が渦を巻く沈線や細長いS字文が連結してモチーフが描かれていると思われる。

土偶F類(図308-5・図309-1～4)：縄の回転文が地文に用いられるものである。遺構外から出土したものでは地文施文後に沈線を描いているものが多い。全体形がわかるものはないが、1はおおむね上半身の状況が、2と4で体部～下半身にかけての状況を知ることができる。1の頭頂部は皿状に凹んでい

る。眉と鼻は隆線により表現され、目と口を断面が丸い棒状工具の垂直刺突で表現している。目と口にはアスファルトの可能性のある黒色物質が充填されている。体部には二本一對の沈線で渦巻き文や剣菱付渦巻き文が描かれている。沈線は浅く不明瞭なものも多い。地文は主に正面側に施文されており、背面側にはほとんど見られない。これは2についても同様である。4は下端部の破片である。背面側が剥離している。下端部が裾広がりになり、自立可能である。底面は弱く凹んでいる。正面下部には方形区画文中に短沈線が横位に充填されている。

土偶G類(図309-5~7)：無文のものである。遺構外からは全体形を知ることのできるものは出土していない。7は土偶としたが、石刀などの模倣品である可能性も否定できない。

土偶H類(図310~312-6)：小刺突文が主文様に用いられるものである。刺突列や正中線の状況により分類している。図310-1~8はH類aに分類される。図310-1は両腕部と頭部を欠く。胎土中に混入した小礫が数カ所表面に現れている。両腕部には上下に貫通する孔が見られる。首の破断面にも左右に貫通する孔の痕跡がみられる。文様は、4~5列の刺突列が左右腕部から乳房を通し臍上部で合流している。2・5・6・7については下端部が弱く裾広がりになり、底面が弱く凹んでいる。3は下端部の裾広がりが明確で、完形であれば自立可能であったと思われる。左胸の剥離痕にはアスファルトとみられる黒色物質が付着している。背面側の文様には沈線が用いられている。図310-9~12はH類bに分類される。正面には細い沈線による正中線が見られる。おそらく首直下から臍付近まで到達するものと思われる。背面には刺突列による正中線がみられる。図311-1~6はH類cに分類される。臍の上下に見られる太い沈線による正中線が特徴的である。背面には刺突列による正中線がみられる。2の下端部は前後に裾が広がり、底面が弱く凹んでいる。図311-8・9はH類dに分類される。

図312-7~15は上記に分類が難しい頭部や脚部の破片である。

図313-1~17はミニチュア土器に分類される。

図313-18~20は土製装飾品に分類される。18・19は鼓形の耳飾である。20は側面観が笠状で裾部分に二箇所孔がみられる。細い粘土紐を輪積みして整形し、外面には刺突がみられる。図313-21~図315-11は土器片加工品である。遺構外からは中期中葉以降のA類d~fやB類が多く出土している。図315-12~14は三角形土製品である。12と14は背面側に湾曲し、13は平坦である。14の上辺には突起が付いている。13の上部左右端部付近には貫通孔がみられる。

図315-15~21は器物の模倣品と考えられる。15・16は石棒B類の模倣品とみられる。18は四脚付の石皿の模倣品とみられる。19は三角形で三脚が付く石皿の模倣品である。下端部のすぼまる部分は縁が切れている。裏面の脚が剥離している部分に黒色物質が付着している。20は有頭石棒を模したものの可能性があるが、土器底面に付く脚である可能性もある。21は石冠を模した可能性があるが、詳細は不明である。

石製品

図323~333は遺構外から出土した。以下に分類に沿って特記事項を記述する。

岩偶(図323-1~4)：1はA類に分類される。凝灰岩製で全体形は二等辺三角形状である。上辺中央部が弱く突き出しておりその部分が頭部と考えられる。頭部両側とその左右にはやや太めの刻線がみられる。体部左右側縁付近にも細い刻線がみられる。全体に研磨整形されている。2は凝灰岩製の岩偶の腕部破片と考えられる。薄い板状に整形され、正面側には側縁に沿う刻線がみられる。3は凝灰岩製の岩

偶で全体形が二等辺三角形である。表裏面には短刻線で文様が描かれている。4は凝灰岩製の岩偶下半身の破片である。表裏面に細い刻線で文様が描かれている。正面側には上半部に三本の沈線で正中線を描いている。下半ではT字状に刻線が描かれ、パンツ状の文様にみえる。背面側には細い刻線による正中線の他、縦位方向にランダムな刻線が描かれている。これらの岩偶は、遺構外からの出土であるため土器との詳細な供伴完形は掴みがたいが、形状などから中期以降に帰属する可能性を指摘しておく。

三角形岩版(図323-5・6)：緑色凝灰岩製で全体を三角形状に整形したものである。5は上部に横走る刻線がみられる。6は表裏ともに研磨整形のみがみられる。

円盤状石製品(図323-7~16)：素材を円形状に整形した石製品である。12~15は全面が研磨整形されている。そのうち13はややハート形もしくは半円形に近い形状である。16は正面側がごく緩く湾曲しているため容器状石製品に分類される可能性もある。7~11は周縁部を剥離整形している。剥離後の研磨がなされないため全体形状はやや不整形である。

石棒(図324~図325-5)：図324-1~12は端部彫刻型石棒である。1~8は両端部が平坦に整形されているB類aに分類される。8以外はいわゆるエンタシス柱状の正面形であり、8のみ細長い円柱状を呈する。9~12は両端部に凹みがみられるB類bに分類される。9~11は凹みが腕状であるが、12は凹みの底面が平坦に整形されている。形状はすべてエンタシス柱状である。図325-1は片方の先端部がすぼまるB類dである。先端部は浅い腕状に凹み、下端部は剥離と敲打でおおむね平らに整形されている。器表面にはやや強めの擦痕がみられる。2は断面楕円形の礫素材を研磨している。研磨は粗く、刻線状に見える部分がある。3・4は有頭の石棒である。5・6は有頭石棒か石刀の可能性もある。5の頭部はバットのグリップエンドのように整形され、端面が腕状に凹んでいる。

石刀(図325-7~図326-6)：図325-7と図326-1は全体形のわかる資料である。ともに器体中央付近に断面楔状の刃部を作出している。刃部の下方は柄部になり、上方は刃部の作出が弱くなり先端部へと続く。図326-1ではその様子がよくわかる。図325-6は先端部の破片である。鋒側はほぼ直線状で、刃部側は先端に向かい幅が狭くなっている。9は柄部から関部分の破片である。正面側には研磨痕が著しい。図326-2は角柱状の素材に研磨整形が施されているが、完成に至っていない。石刀の未製品の可能性もある。3~6は青竜刀形石器に類似するものである。3と4は正面右側縁に刃部が明瞭に作出されているが、対向する側縁が直線ではなく湾曲する可能性が高いため、青竜刀形石器である可能性を指摘する。5はそれらの柄部である可能性がある。これらは他の石刀と比べ整形が丁寧であり、小型であることも特徴的である。6は石刀の刃部破片である可能性がある。

石冠及びその類品(図326-7~図329-2)：図326-7・8は全体形が楕円形を呈するA類に分類される。7の裏面には刻線による文様が描かれている。図326-9はB類である。図327-1~3はC類に分類される。2の底面には後部側面にかけて太めの刻線が彫り込まれている。また、表裏面中央部には敲打による凹みがみられる。3は表裏面と前後側面を縁取る刻線が描かれている。図327-4・5はD類である。4は特に作りが丁寧である。烏帽子状の頂部をもち、基底部が張り出す形状であり、張り出し部分の側面には盲孔と刻線がみられる。図328-1~図329-1はF類の石冠の類品に分類される。図328-1~3はF類aで全体形が二等辺三角形である。正面側が弱く湾曲するもので、全体に敲打成形後研磨整形されている。3の表裏面には整形後の敲打による凹みがみられる。4・5と図329-1はF類bに分類され、全体形が長楕円形である。図328-4は一見敲磨器類のようであるが正面側にやや湾曲する形状や両側縁が研磨

整形されていることから本類に含めた。図329-1も同様の理由である。図328-5は全体に研磨整形が行き届き、丁寧な作りである。上端部左側を欠き、上下端部がすぼまる形状である。側縁には凹みと幅広の溝線がみられる。正面側の湾曲はない。図329-2はG類に分類される。器体中央付近に敲打痕が帯状にみられ、底面にはスリの痕跡がみられる。

容器状石製品(図329-3～図330-1)：凝灰岩などの軟質の石材を用い、敲打や研磨などで片面を碗状や皿状に整形したものである。図329-3はA類で内面が平坦に整形されている。7はB類で緩いすり鉢状に整形されている。5はB類で内面を回転穿孔により割りぬいている。6はE類で舟形に整形されている。

石製垂飾品類(図330-2～図331-3)：図330-2は三角形の塊状耳飾の破片の可能性ある。ホルンフェルス製で2箇所に貫通孔がみられる。3～15はB類に分類される。器体の端部寄りの一箇所に貫通孔がみられる。貫通孔の多くは両面からの穿孔による。3はやや大きめの孔がみられる。円形の塊状耳飾の可能性もある。4は斧状に整形されている。両面から穿孔を試みているが未貫通である。6～8は板状の粘板岩を素材とし、穿孔のみ行っている。9～11は勾玉状あるいは牙状に整形されている。5と12は長楕円形あるいは楔状である。12は上下端部を欠き、表裏面と側面に盲孔が多数みられる。14は全体形が楕円形で中央に大きめの貫通孔を、その少し上方に小さな貫通孔を持つ。石質はヒスイと鑑定されたが比重が軽く蛇紋岩製の可能性がある。このように大小の孔をもつ垂飾は「の」の字状石製品に類例を求めることができる。図330-16～18は複数の孔がみられる垂飾品でC類に分類される。孔は器体端部に寄って横位に並ぶ場合が多い。図331-1～3はD類に分類される。棒状礫を素材とし、その端部に斜位の貫通孔がみられる。1は長軸端部側と正面側からの穿孔が内部で貫通している。2と3は正面側の孔の入り口が器体中央によるものである。また、入り口間が溝線で結ばれており、2については中央部で入り組むような溝線が刻まれている。

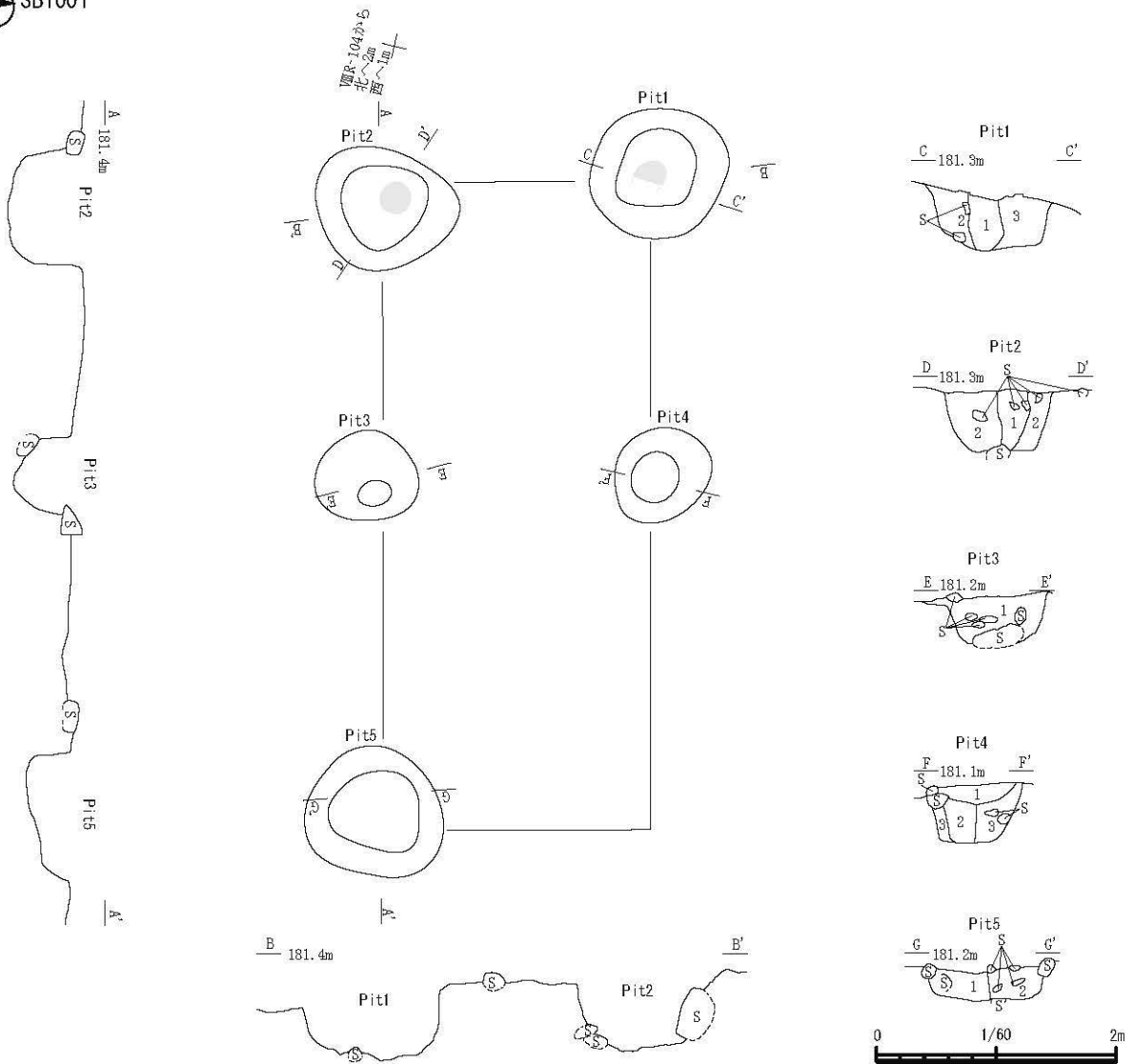
有孔石製品(図331-4～9)：器体中央部に石製垂飾品の孔とほぼ同規模の小さな孔がみられるものである。円形基調ものが多いが、8のように楔状のものや、10のように鮫の歯状のものもある。

環状石製品(図331-10・11)：中央部にやや大きめの環がみられるものである。10は緑色凝灰岩製で全体形が隅丸方形である。12は凝灰岩製で全体形が円形である。

擦痕および線刻などがみられる石製品(図331-12～図333-3)：器体に研磨整形などに伴う擦痕がみられるもので、不定形なものが多い。図331-15・16は頁岩製で全体が研磨され黒光りしている。側面に溝線と盲孔・短刻線等がみられる。15は約半分程度を欠くとみられる。残存部の形状が「し」の字状を呈し、右側面には盲孔がみられるので全体形が環状になることはないと思われる。形状・用途ともに不明である。17は正面側に刻線がみられ、この刻線を切るように盲孔がみられる。図332～図333-2は線刻礫である。自然礫や石製品の一部に刻線による記号のような文様が描かれる。描かれる文様は直線を組み合わせて三角形等の図形を描くものや、図333-1のように曲線を用いて何かを模写したようなものもある。図332-2は石製垂飾品C類aに分類される石製品の一部に刻線がみられる。概して刻線は細く浅い。

その他の石製品(図333-4・5)：図333-4は脚付石皿を模倣したミニチュア品と考えられる。5は石冠状の形をした自然礫の底面に穴が開いているものである。底面の穴の一部分に若干敲打痕がみられる。

SB1001



Pit1			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物粒3%、礫(30mm~40mm)2%混入、柱痕
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10mm~30mm)10%混入
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10mm~30mm)7%混入
Pit2			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~4mm)3%、礫(5mm~30mm)1%混入、柱痕
第2層	黑褐色土	10YR2/3	礫(φ10mm~140mm)20%、炭化物(φ1mm~2mm)2%混入
Pit3			
第1層	黑褐色土	10YR3/2	礫(10mm~400mm)50%混入
Pit4			
第1層	黑褐色土	10YR2/2	炭化物(φ1~3mm)5%、礫(10mm~40mm)1%混入
第2層	黑褐色土	10YR3/2	炭化物(φ1mm~2mm)3%、礫(φ15mm~50mm)2%混入、柱痕
第3層	黑褐色土	10YR2/3	礫(φ30mm~90mm)20%、炭化物(φ~4mm)1%混入
Pit5			
第1層	黑褐色土	10YR2/3	礫(5mm~40mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%混入
第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10mm~120mm)7%、炭化物(φ1mm~2mm)1%混入

图1 掘立柱建物跡1 (SB1001)

SB1002

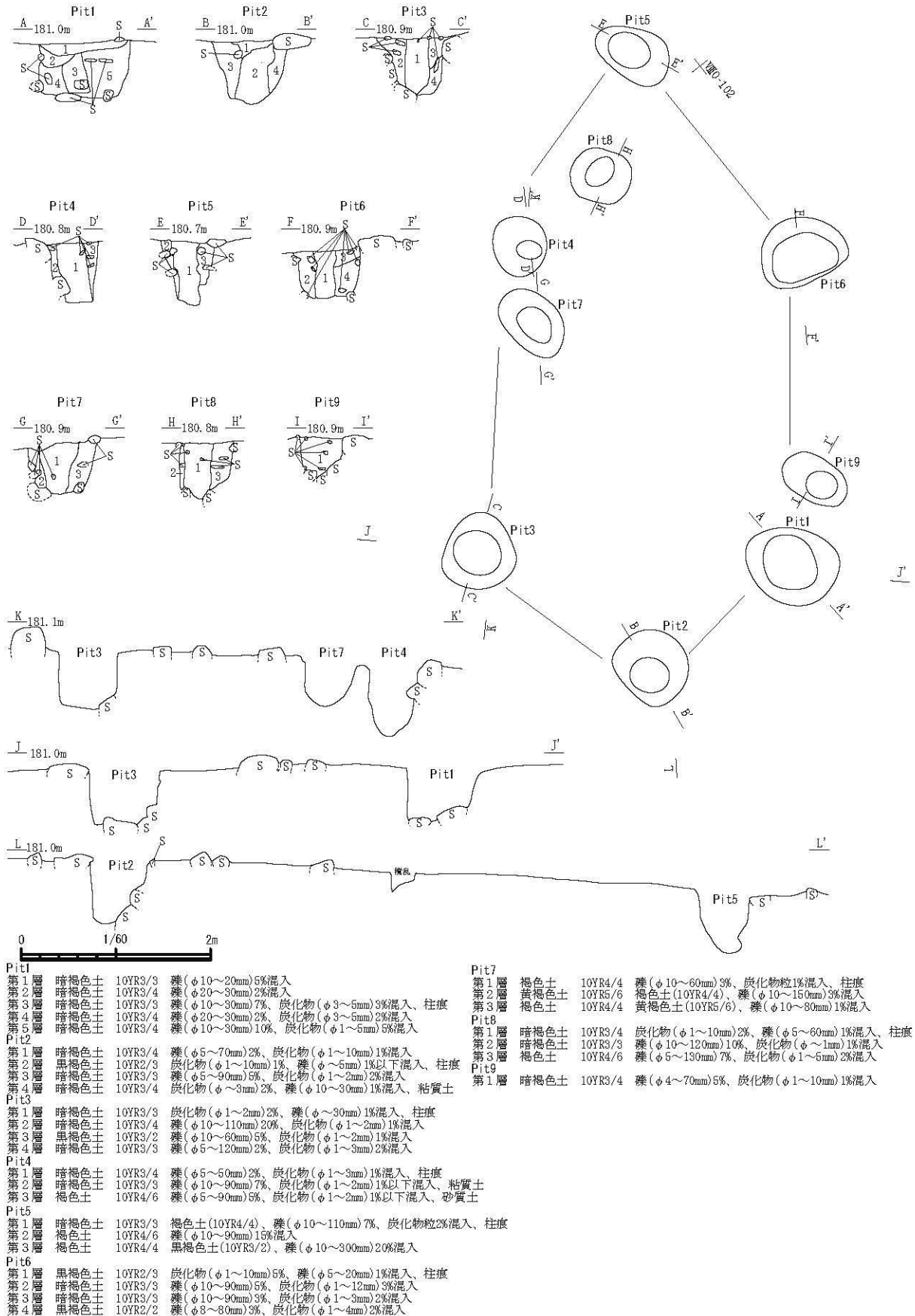
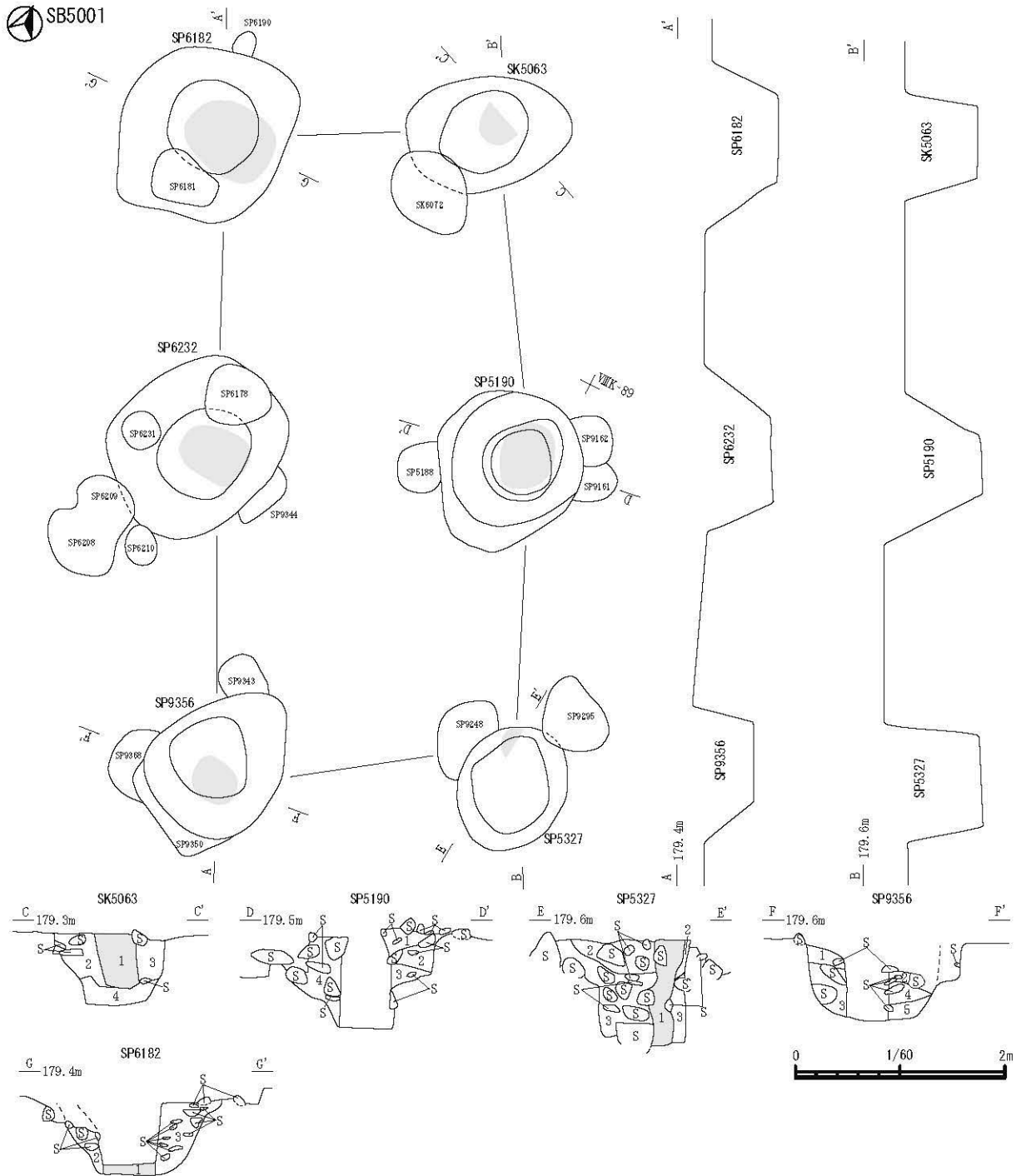


図2 掘立柱建物跡2(SB1002)

SB5001



SK5063			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ3~110mm)3%、炭化物(φ1~14mm)7% 柱痕
第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ5~220mm)5%、炭化物(φ1~15mm)2% 掘り方
第3層	黒色土	10YR2/1	礫(φ10~100mm)2%、炭化物(φ1~20mm)3% 掘り方
第4層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~40mm)1%、炭化物(φ1~6mm)2% 掘り方
SP5190			
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~100mm)7%、炭化物(φ10mm以下)3%
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ10mm以下)2%
第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~90mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~160mm)50%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5327			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~80mm)15%、炭化物(φ5~10mm)5% 柱痕
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ40~220mm)50%、炭化物(φ5~20mm)3% 掘り方
第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ60~330mm)60%、炭化物(φ5~20mm)5% 掘り方
SP9356			
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~90mm)2%、炭化物(φ1~20mm)3%
第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~80mm)7%、炭化物(φ10mm以下)2%
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ40~110mm)10%、炭化物(φ10mm以下)1%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ50~190mm)15%、炭化物(φ10mm以下)1%
第5層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP6182			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ10mm以下)2% 柱痕
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ20~120mm)15%、炭化物(φ10mm以下)1% 掘り方
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~170mm)50%、炭化物(φ10mm以下)5% 掘り方

図3 掘立柱建物跡3(SB5001)

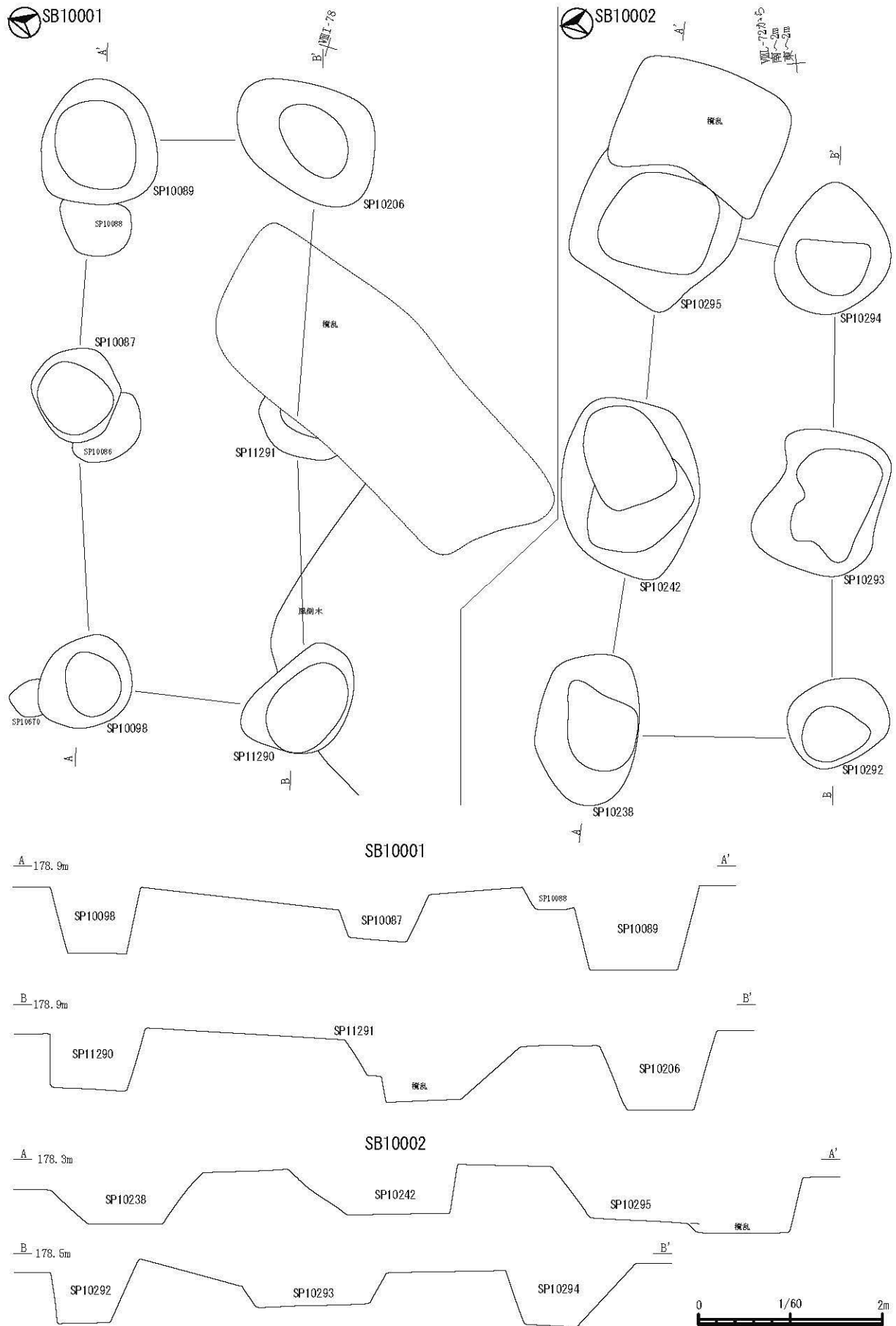
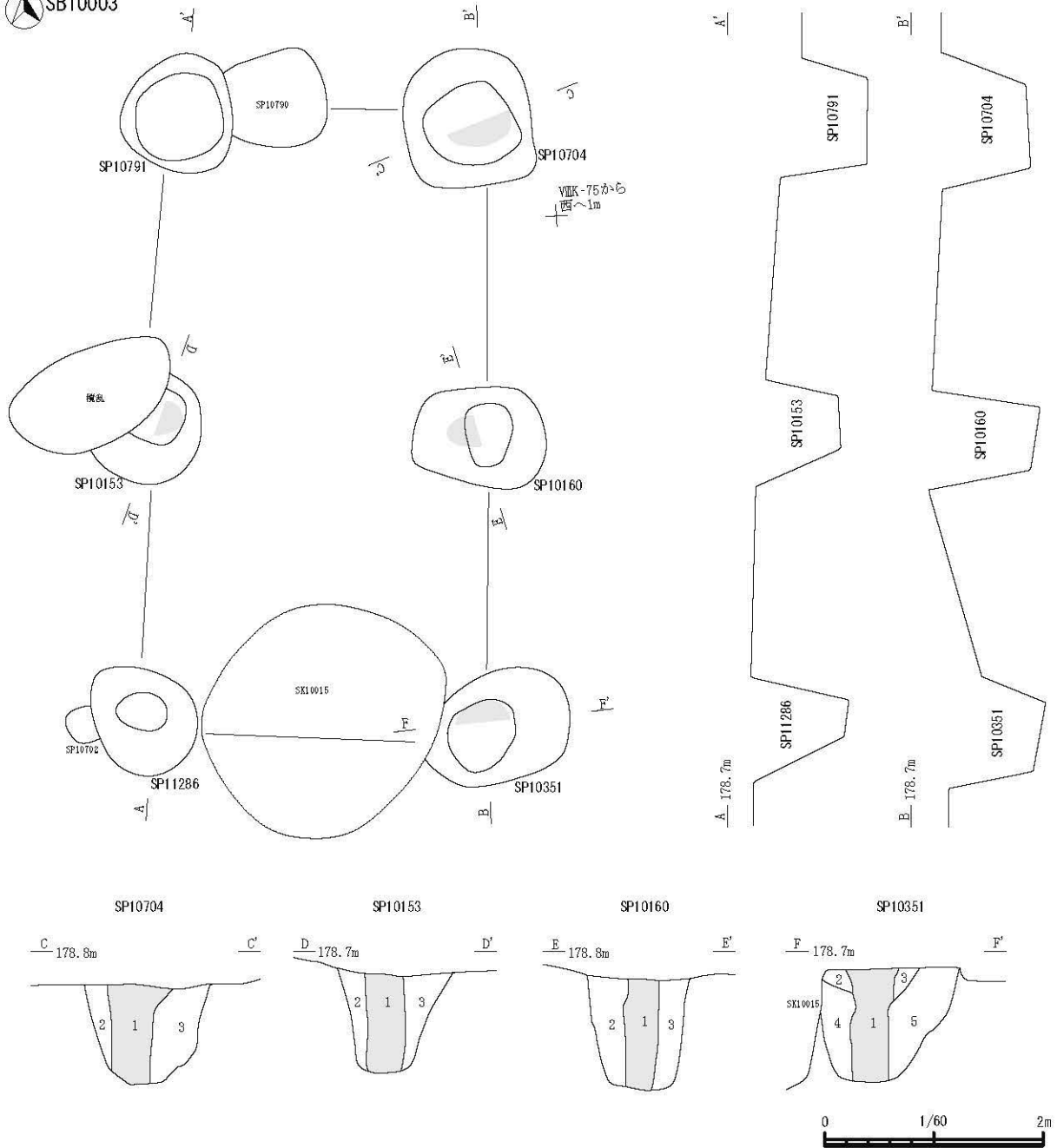


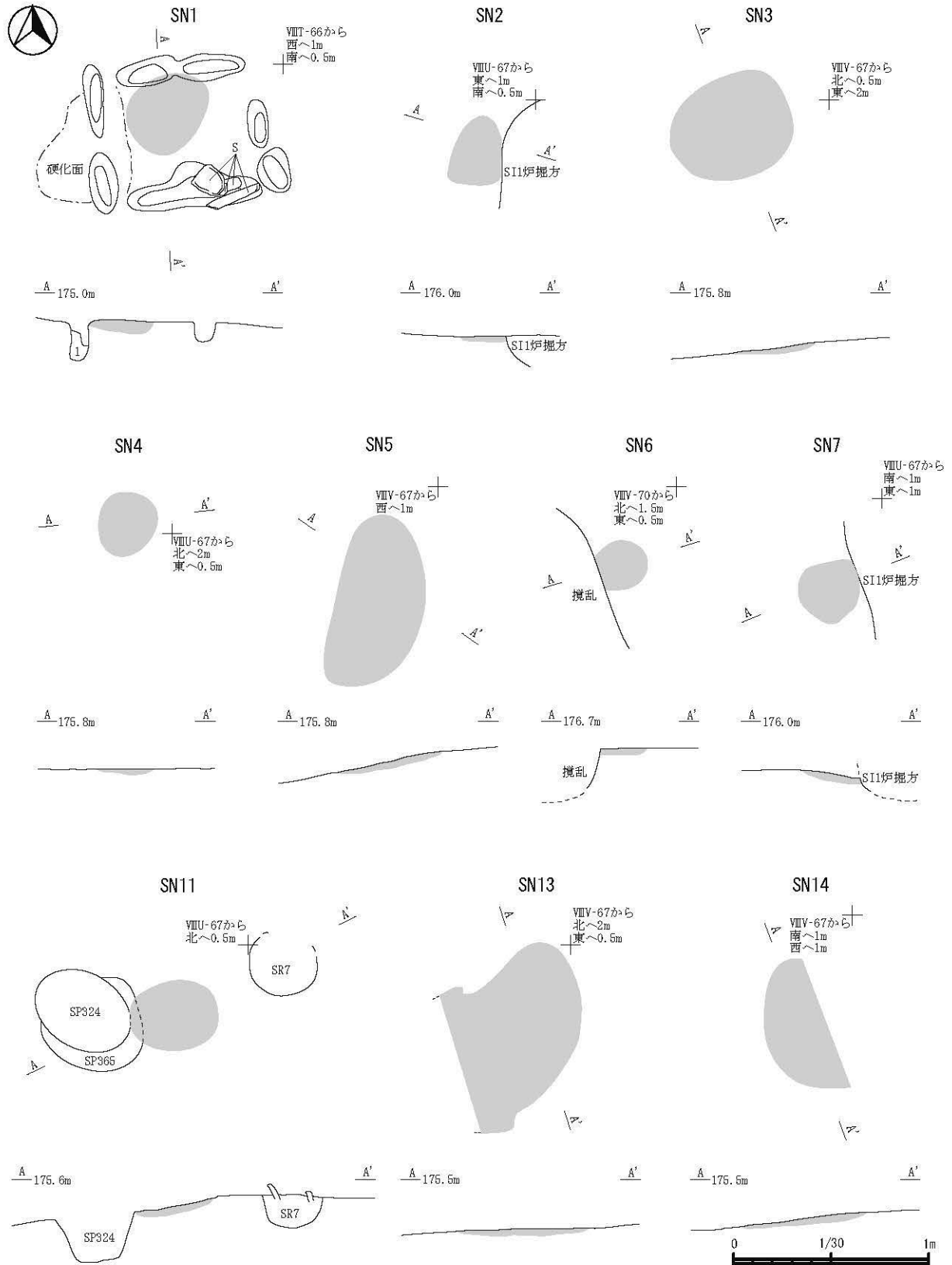
図4 掘立柱建物跡4(SB10001・10002)

SB10003



- SP10153
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ1~130mm)5%、炭化物(φ1~5mm)2% 柱痕
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~150mm)20%、炭化物(φ1mm)1%
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~180mm)30%、炭化物(φ1~2mm)1%
- SP10160
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ1~3mm)3% 柱痕
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~180mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~210mm)15%、炭化物(φ1mm)1%
- SP10351
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~80mm)10%、炭化物(φ5mm)1% 柱痕
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ40mm)5%、炭化物(φ20mm)1%
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ20~50mm)20%
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ40~280mm)50%
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ20~180mm)50%
- SP10704
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~50mm)20%、炭化物(φ1mm)1% 柱痕
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~100mm)30%
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~80mm)35%

図5 掘立柱建物跡5(SB10003)



SN1
第1層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物(φ1~2mm)1%, 浮石(φ1mm)1%以下

図6 焼土遺構1(SN1~14)

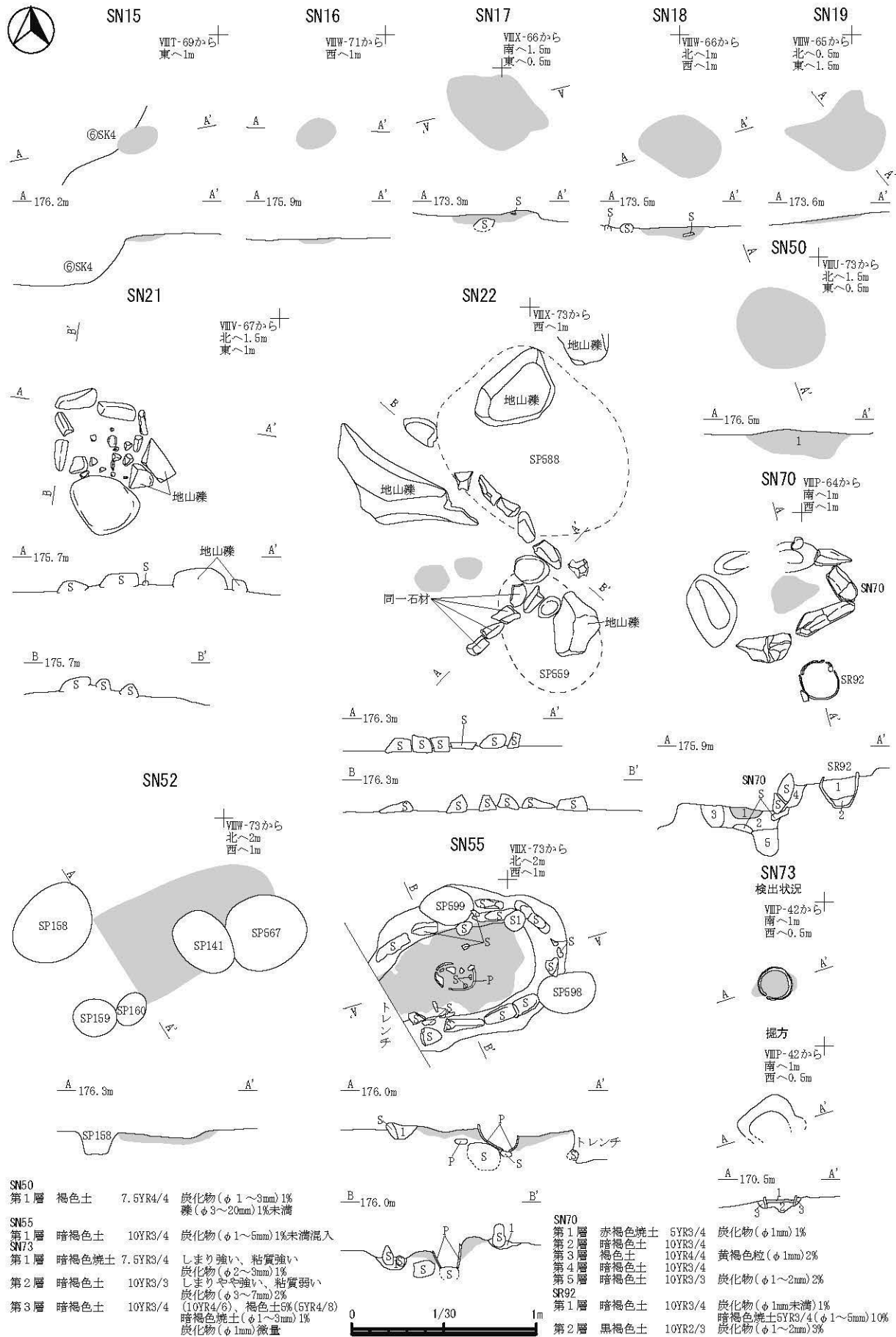
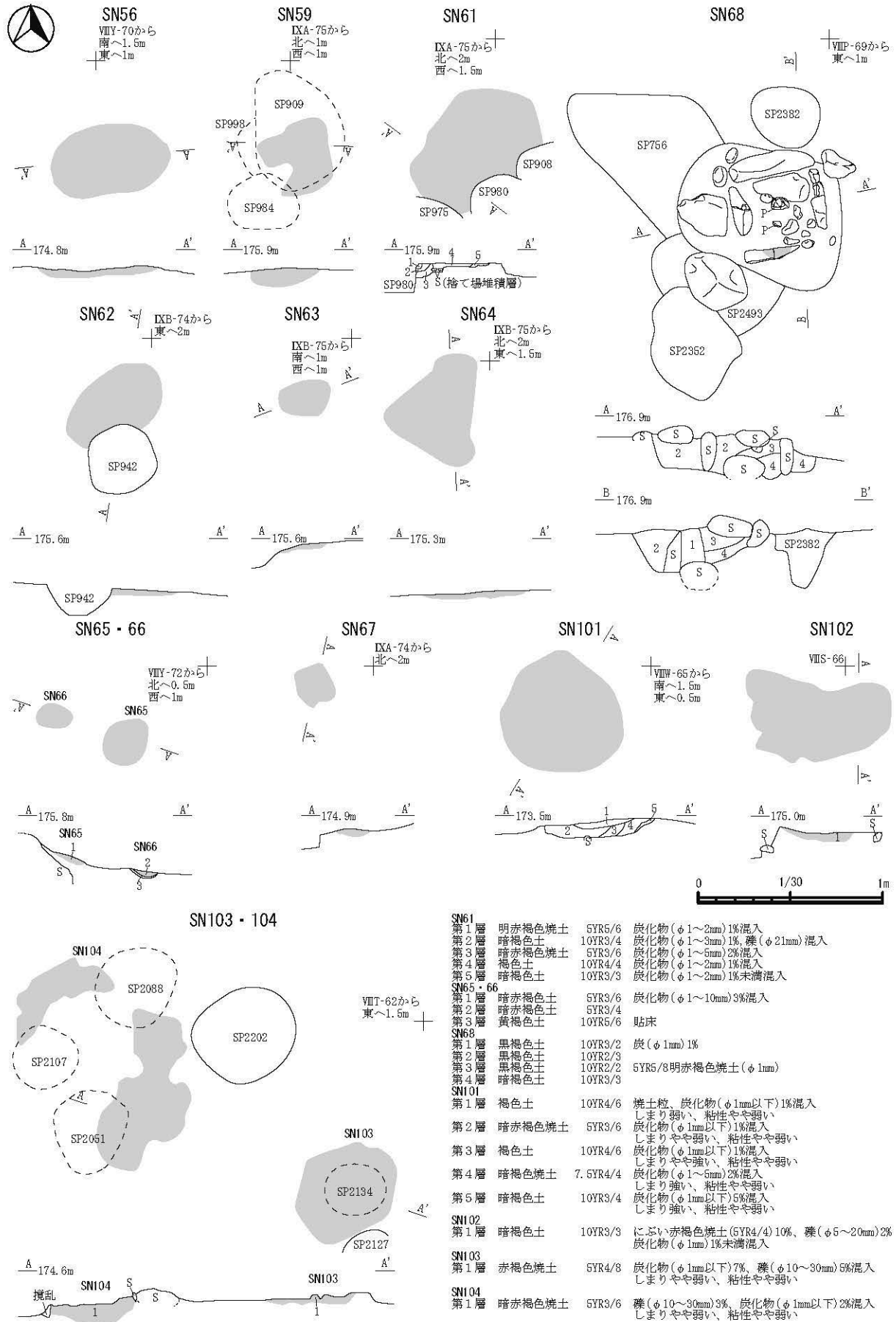
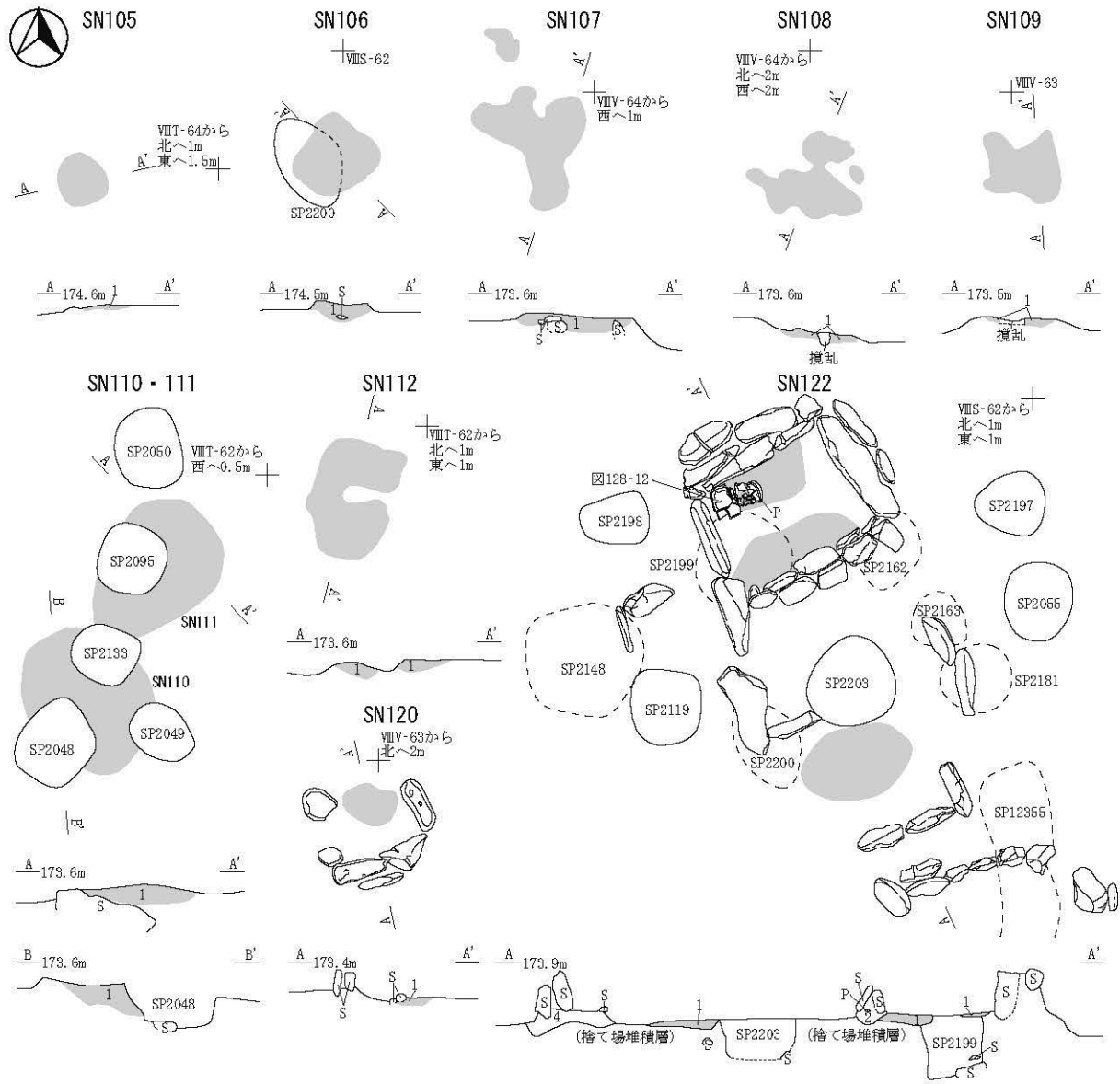


図7 焼土遺構2(SN15~73)



SN61	第1層	明赤褐色焼土	5YR5/6	炭化物(φ1~2mm)1%混入
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~3mm)1%, 礫(φ21mm)混入
	第3層	暗赤褐色焼土	5YR3/6	炭化物(φ1~5mm)2%混入
	第4層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%混入
	第5層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)1%未混入
SN65・66	第1層	暗赤褐色土	5YR3/6	炭化物(φ1~10mm)3%混入
	第2層	暗赤褐色土	5YR3/4	
	第3層	黄褐色土	10YR5/6	貼床
SN68	第1層	黒褐色土	10YR3/2	炭(φ1mm)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	
	第3層	黒褐色土	10YR2/2	5YR5/8明赤褐色焼土(φ1mm)
	第4層	暗褐色土	10YR3/3	
SN101	第1層	褐色土	10YR4/6	焼土粒、炭化物(φ1mm以下)1%混入 しまり弱い、粘性やや弱い
	第2層	暗赤褐色焼土	5YR3/6	炭化物(φ1mm以下)1%混入 しまりやや弱い、粘性やや弱い
	第3層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1mm以下)1%混入 しまりやや強い、粘性やや弱い
	第4層	暗褐色焼土	7.5YR4/4	炭化物(φ1~5mm)2%混入 しまり強い、粘性やや弱い
	第5層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm以下)5%混入 しまり強い、粘性やや弱い
SN102	第1層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい赤褐色焼土(5YR4/4)10%、礫(φ5~20mm)2% 炭化物(φ1mm)1%未混入
SN103	第1層	赤褐色焼土	5YR4/8	炭化物(φ1mm以下)7%、礫(φ10~30mm)5%混入 しまりやや弱い、粘性やや弱い
SN104	第1層	暗赤褐色焼土	5YR3/6	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1mm以下)2%混入 しまりやや弱い、粘性やや弱い

図8 焼土遺構3(SN56~104)



SN105 第1層	赤褐色焼土	2. 5YR4/6	炭化物(φ2mm)1%未満混入
SN106 第1層	暗褐色土	10YR3/4	明赤褐色焼土(5YR5/8)30%、炭化物粒(φ1mm程度)1%混入
SN107 第1層	褐色焼土	7. 5YR4/4	礫(φ10~60mm)7%、炭化物(φ1mm以下)1%混入
SN108 第1層	明褐色焼土	7. 5YR5/6	礫(φ1mm以下)1%、炭化物(φ1mm以下)1%混入
SN109 第1層	赤褐色焼土	5YR4/8	炭化物(φ1mm以下)1%混入
SN110 第1層	暗赤褐色焼土	5YR3/6	炭化物(φ2~3mm)2%混入、しまり弱い、粘性弱い
SN111 第1層	暗赤褐色焼土	5YR3/6	炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまりやや弱い、粘性弱い
SN112 第1層	暗赤褐色焼土	5YR3/6	炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまり弱い、粘性弱い
SN120 第1層	明褐色焼土	7. 5YR5/6	炭化物(φ1mm以下)1%
SN122 第1層	にぶい赤褐色焼土	5YR4/4	礫(φ10mm)1%未満、しまりやや弱い、粘性弱い、焼土層
第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10mm)1%未満、炭化物(φ1~2mm)1%未満、しまりやや弱い、粘性やや弱い、礫の掘方層
第4層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ4~8mm)5%、礫(φ15~70mm)3%、しまりやや弱い、粘性弱い、石囲い礫の掘方



図9 焼土遺構4(SN105~122)

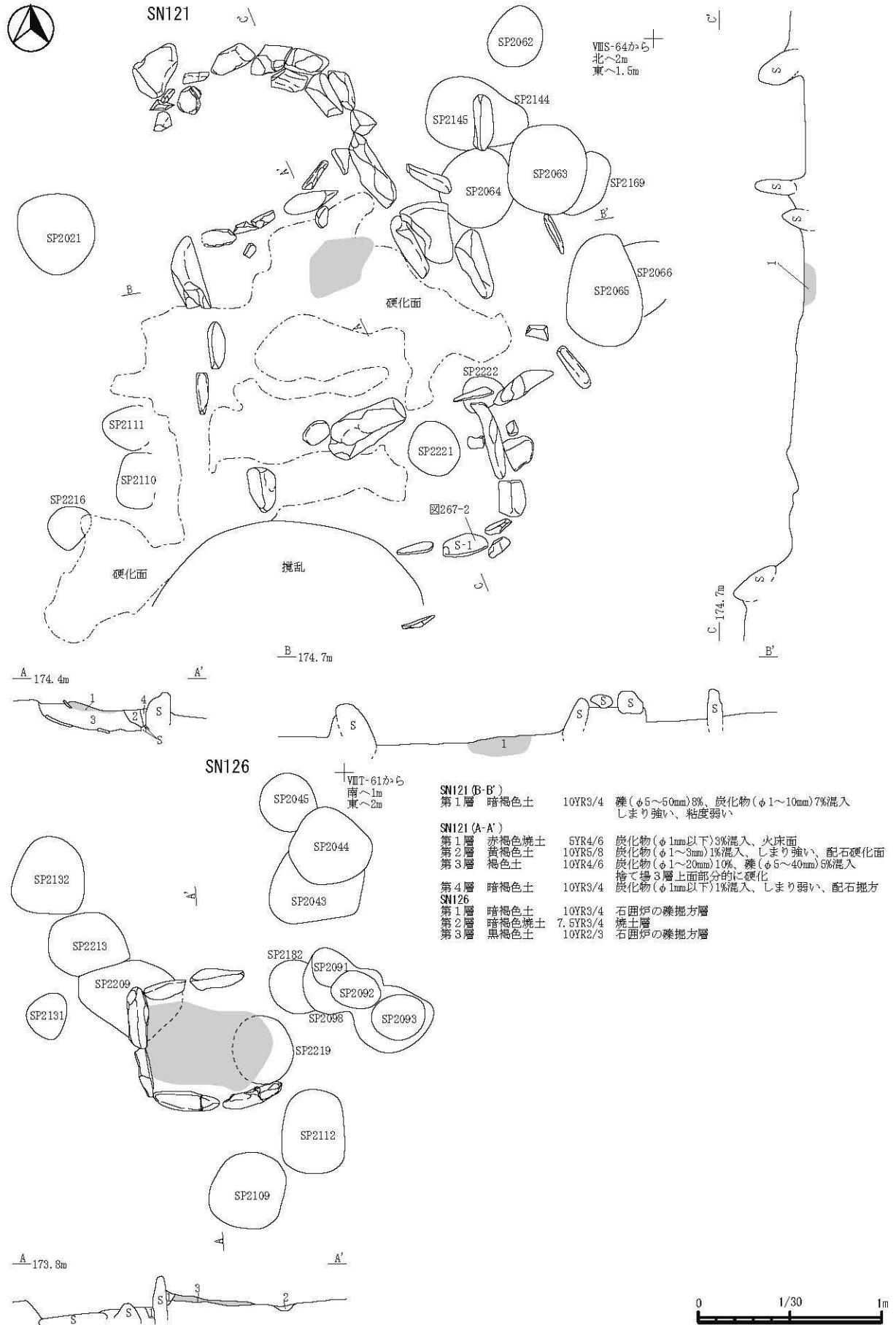


図10 焼土遺構5 (SN121・126)

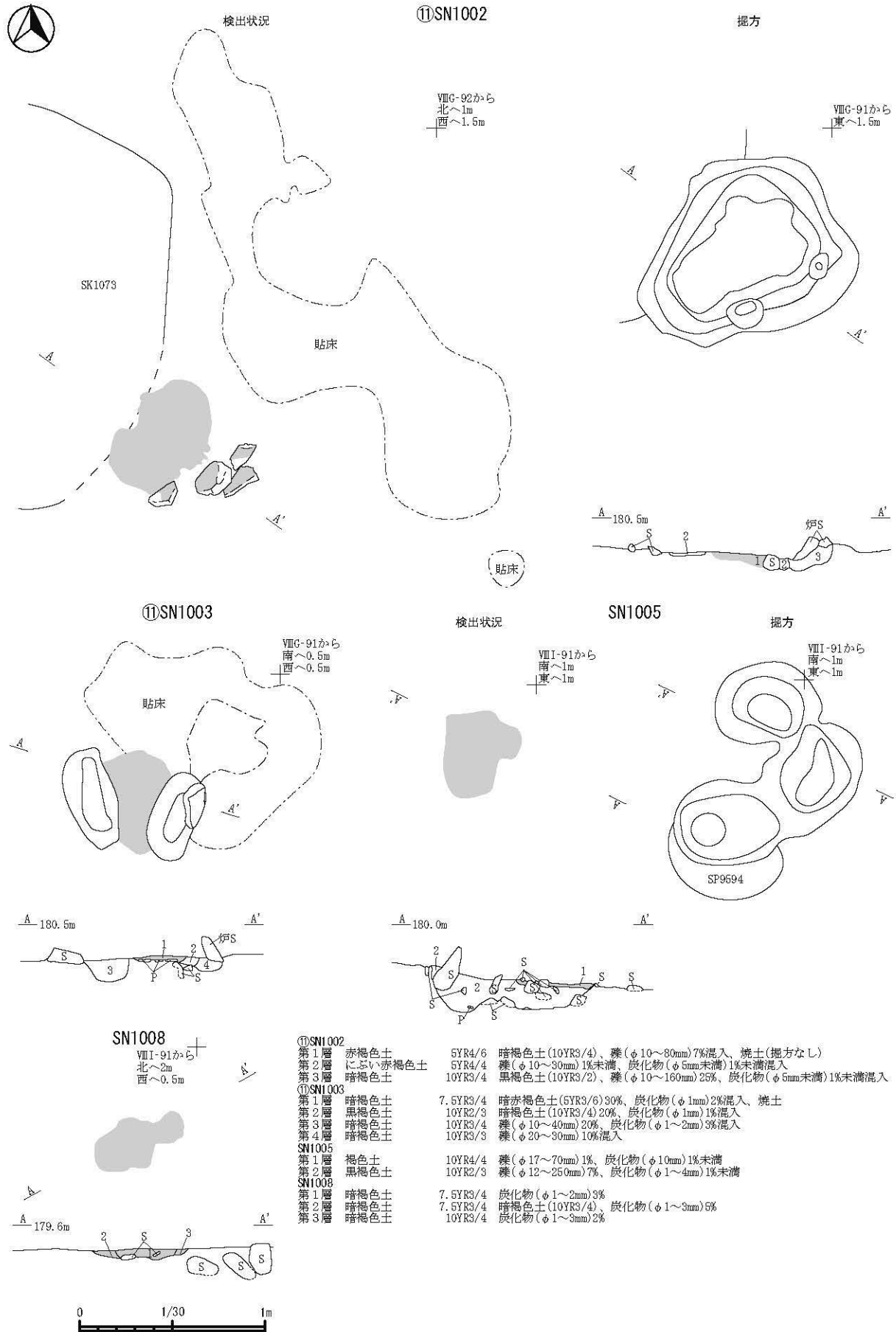
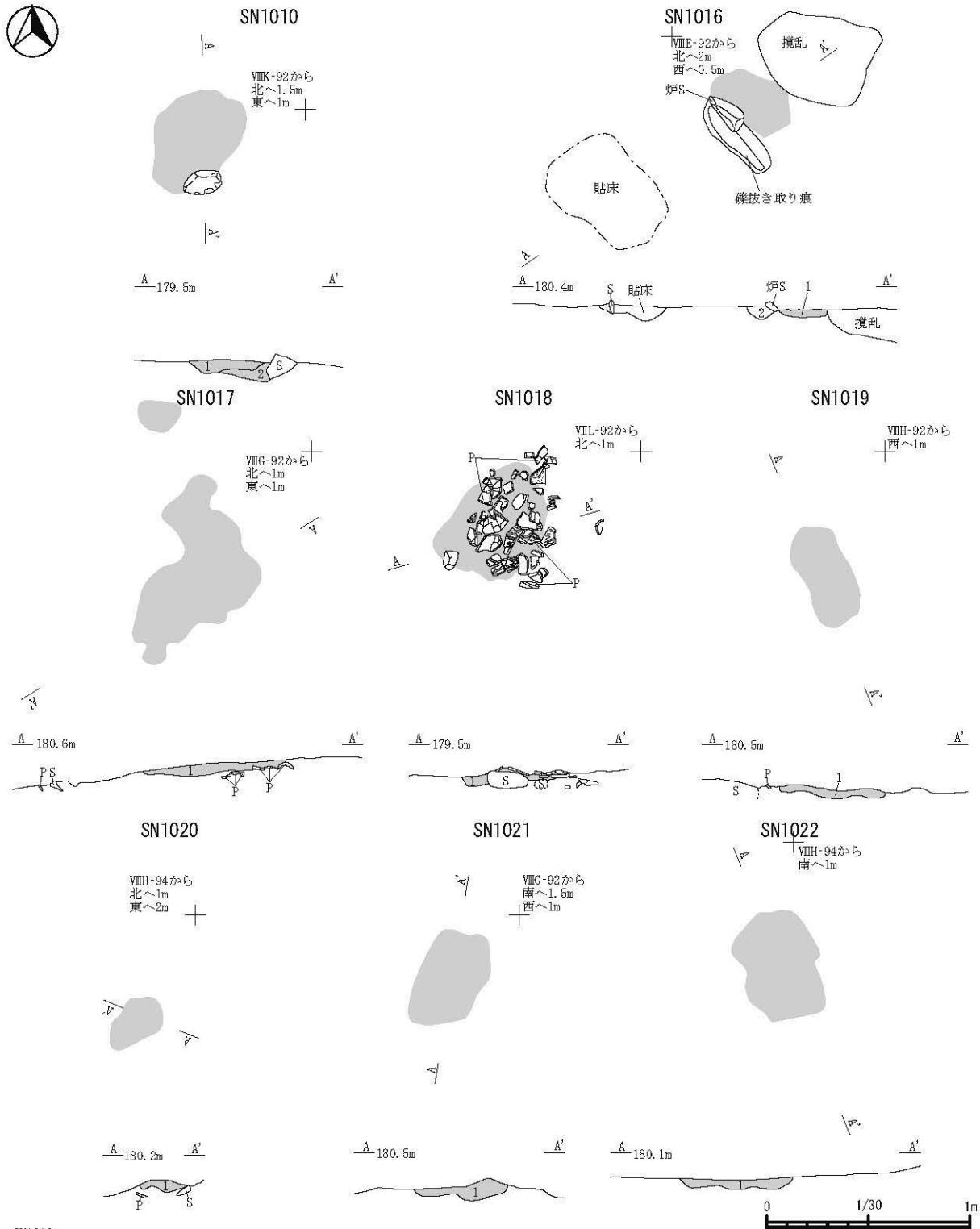
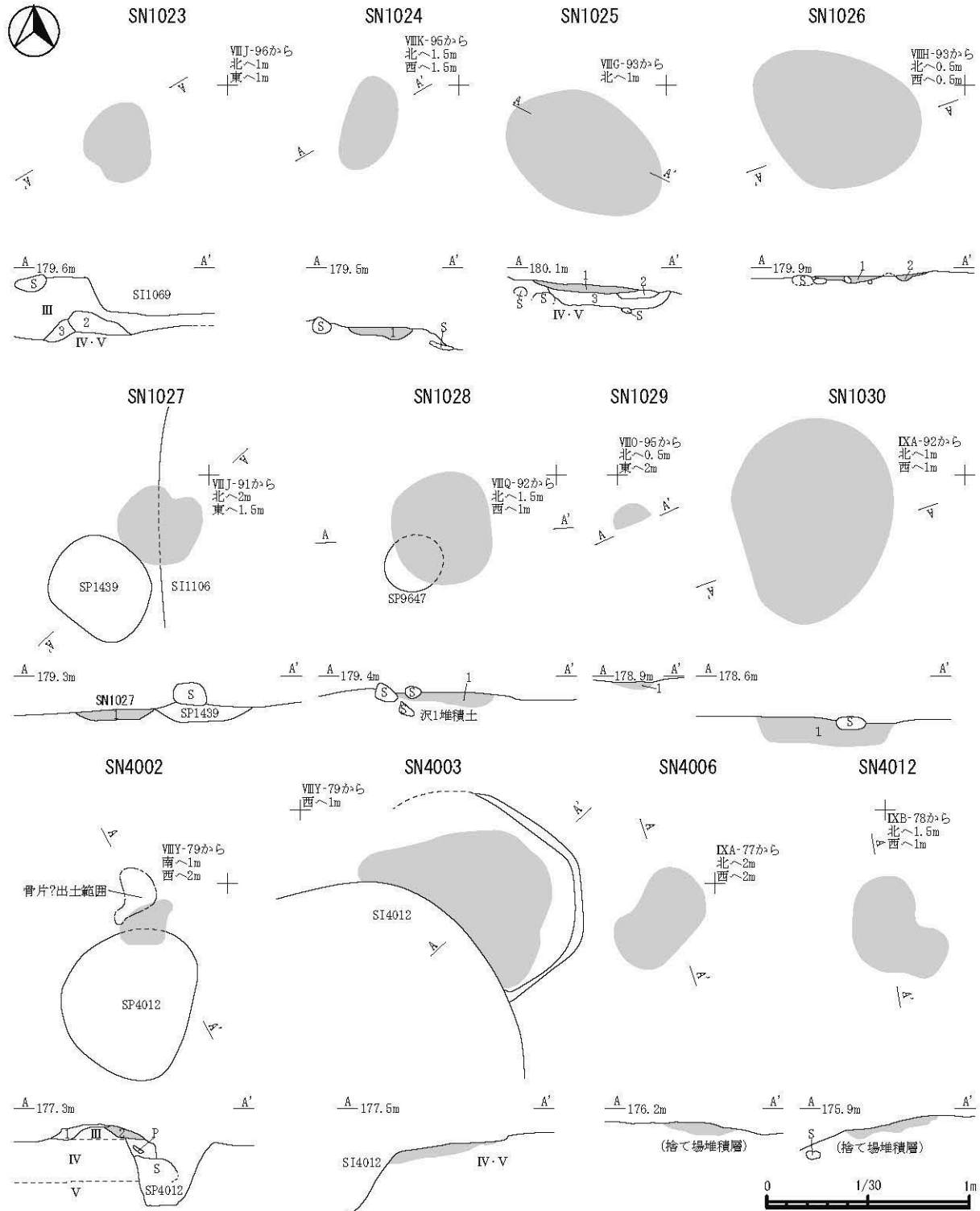


図12 焼土遺構7(①SN1002~SN1008)



SN1010	第1層	明褐色土	7. 5YR5/8	炭化物(φ15mm)2%、礫(φ10~30mm)2%、焼土
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ5mm)1%、礫(φ10~40mm)2%
SN1016	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ40mm)1%以下混入
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~20mm)1%以下混入
	貼床	黄褐色土	10YR5/8	礫(φ10~80mm)10%混入
SN1017	第1層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)、礫(φ10~30mm)1%以下、炭化物(φ1~3mm)1%以下混入
SN1018	第1層	明赤褐色土	5YR5/6	にぶい黄褐色土(10YR5/3)2%、礫(φ~10mm)1%、しまり:あり
SN1019	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~30mm)1%、炭化物(3~8mm)3%混入、しまり:やや弱い、粘性:やや弱い
SN1020	第1層	暗赤褐色焼土	5YR3/2	炭化物(φ1~3mm)2%、礫(φ2~5mm)1%、粘性:やや弱、しまり:弱
SN1021	第1層	赤褐色焼土	5YR4/8	礫(φ5~15mm)2%、炭化物(φ1~10mm)5%、粘性:やや弱、しまり:やや強
SN1022	第1層	褐色土	7. 5YR4/6	明赤褐色焼土(5YR5/8)(φ1mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%、粘性:やや強、しまり:弱

図13 焼土遺構8(SN1010~1022)



SN1023	第Ⅲ層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)2%, 炭化物(φ4~15mm)1%, 粘性やや弱い
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10mm以下)1%, 粘性やや弱い, しまりやや強い
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10mm以下)1%, 粘性やや弱い, しまりやや強い
SN1024	第1層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物(φ1~5mm)3%, 礫(φ10~30mm)2%, 粘性やや強い, しまりやや弱い
SN1025	第1層	褐色土	7.5YR4/4	礫(φ10~20mm)1%, 炭化物(φ10~15mm)1%, 粘性弱い, しまりやや強い, 焼土, 地床炉, 炭化種子出土
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~15mm)1%, 粘性弱い, しまりやや強い, 焼土
	第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~15mm)1%, 粘性弱い, 焼土
SN1026	第1層	黒褐色土	7.5YR2/2	礫(φ10~30mm)10%, 焼土
	第2層	暗褐色土	7.5YR3/3	礫(φ1~10mm)3%, 炭化物(φ10mm以下)1%
SN1027	第1層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物(φ1mm)1%

SN1028	第1層	暗褐色土	10YR3/2	黒色土(10YR1.7/1)1%, 礫(φ3~10mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	掘方なし
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ7~120mm)3%, 炭化物(φ3~4mm)1%未滿
SN1029	第1層	褐色土	10YR4/4	沢底面土の被熱による焼土
SN1030	第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ2~3mm)1%, 上部に骨片?を含む
SN4002	第2層	明赤褐色土	5YR5/6	礫(φ40mm)2%, 炭化物(φ1~2mm)1%, 炉面

図14 焼土遺構9(SN1023~4012)

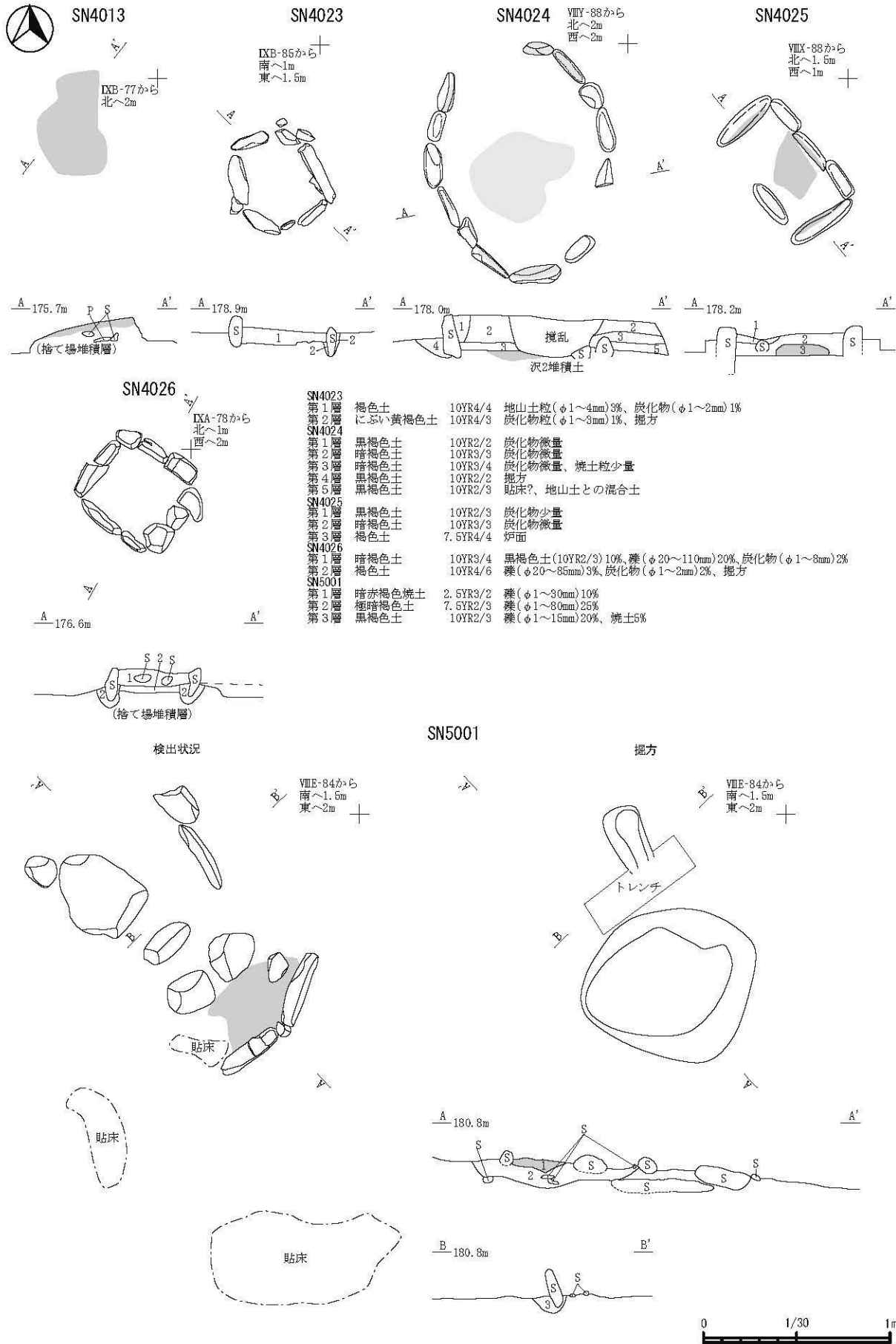


図15 焼土遺構10(SN4013~5001)

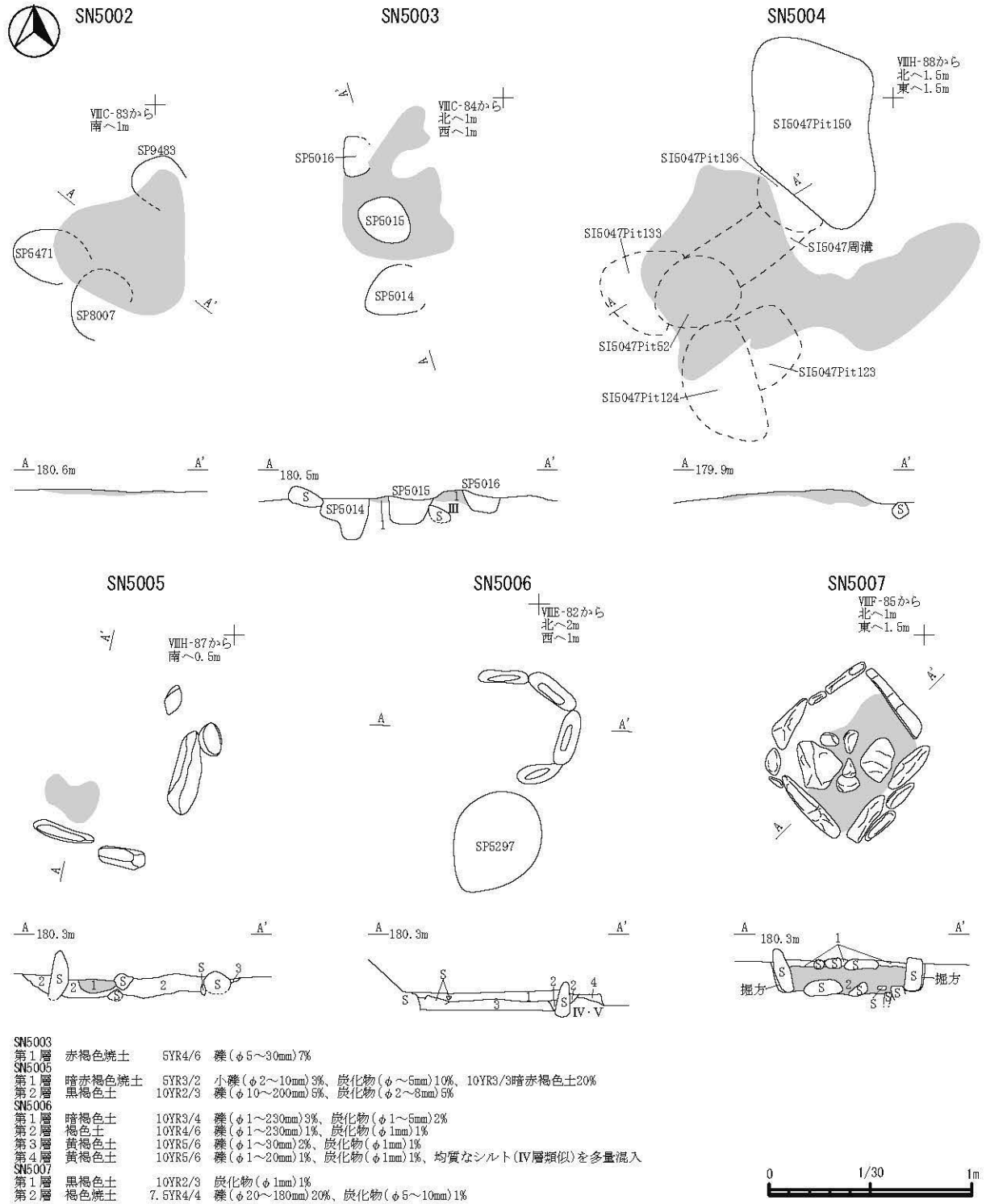


図16 焼土遺構11(SN5002~5007)

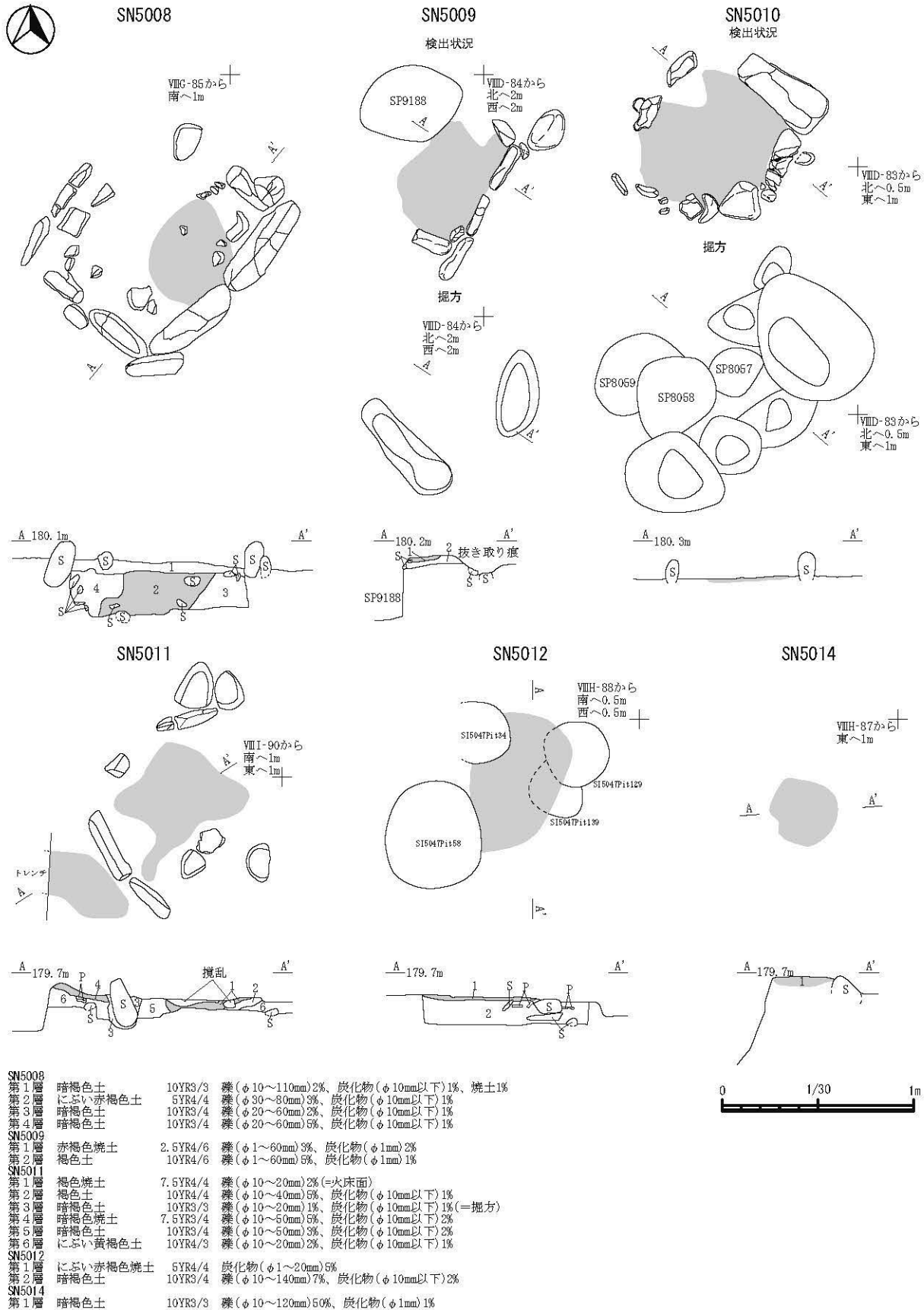


図17 焼土遺構12(SN5008~5014)

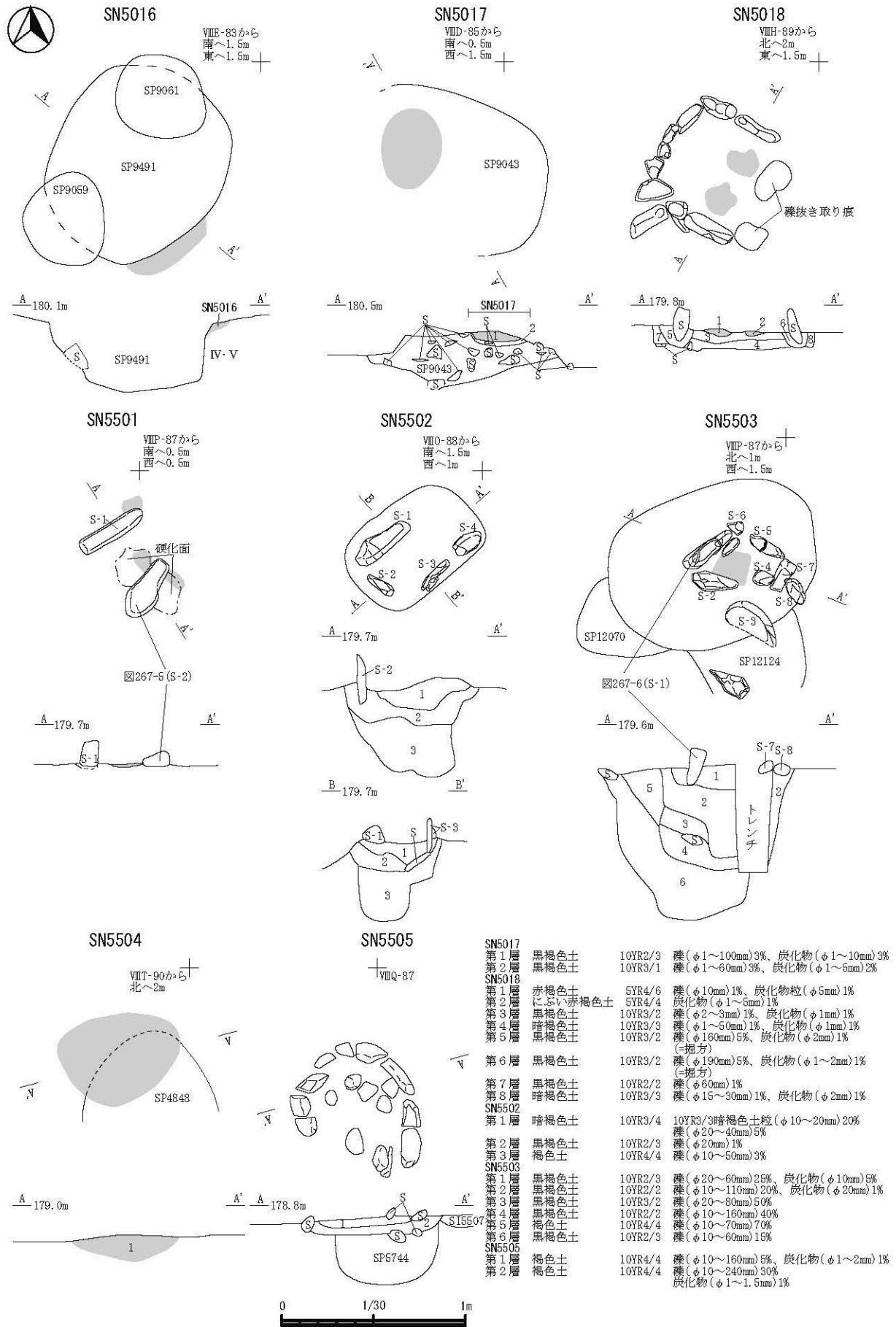


図18 焼土遺構13 (SN5016~5505)

SN5017	第1層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~100mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
SN5017	第2層 黒褐色土	10YR3/1	礫(φ1~60mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%
SN5018	第1層 赤褐色土 に赤い赤褐色土	5YR4/6	礫(φ10mm)1%、炭化物粒(φ5mm)1%
SN5018	第2層 黒褐色土	5YR4/4	炭化物(φ1~5mm)1%
SN5018	第3層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ2~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%
SN5018	第4層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~50mm)1%、炭化物(φ1mm)1%
SN5018	第5層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ160mm)5%、炭化物(φ2mm)1% (=掘方)
SN5502	第6層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ190mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1% (=掘方)
SN5502	第7層 黒褐色土	10YR2/2	礫(φ60mm)1%
SN5502	第8層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ15~30mm)1%、炭化物(φ2mm)1%
SN5505	第1層 暗褐色土	10YR3/4	10YR3/3暗褐色土粒(φ10~20mm)20% 礫(φ20~40mm)5%
SN5505	第2層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ20mm)1%
SN5505	第3層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)3%
SN5503	第1層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ20~60mm)25%、炭化物(φ10mm)5%
SN5503	第2層 黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~110mm)20%、炭化物(φ20mm)1%
SN5503	第3層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ20~80mm)50%
SN5503	第4層 黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~160mm)40%
SN5503	第5層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~70mm)70%
SN5503	第6層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~60mm)15%
SN5505	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~160mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
SN5505	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~240mm)30% 炭化物(φ1~1.5mm)1%

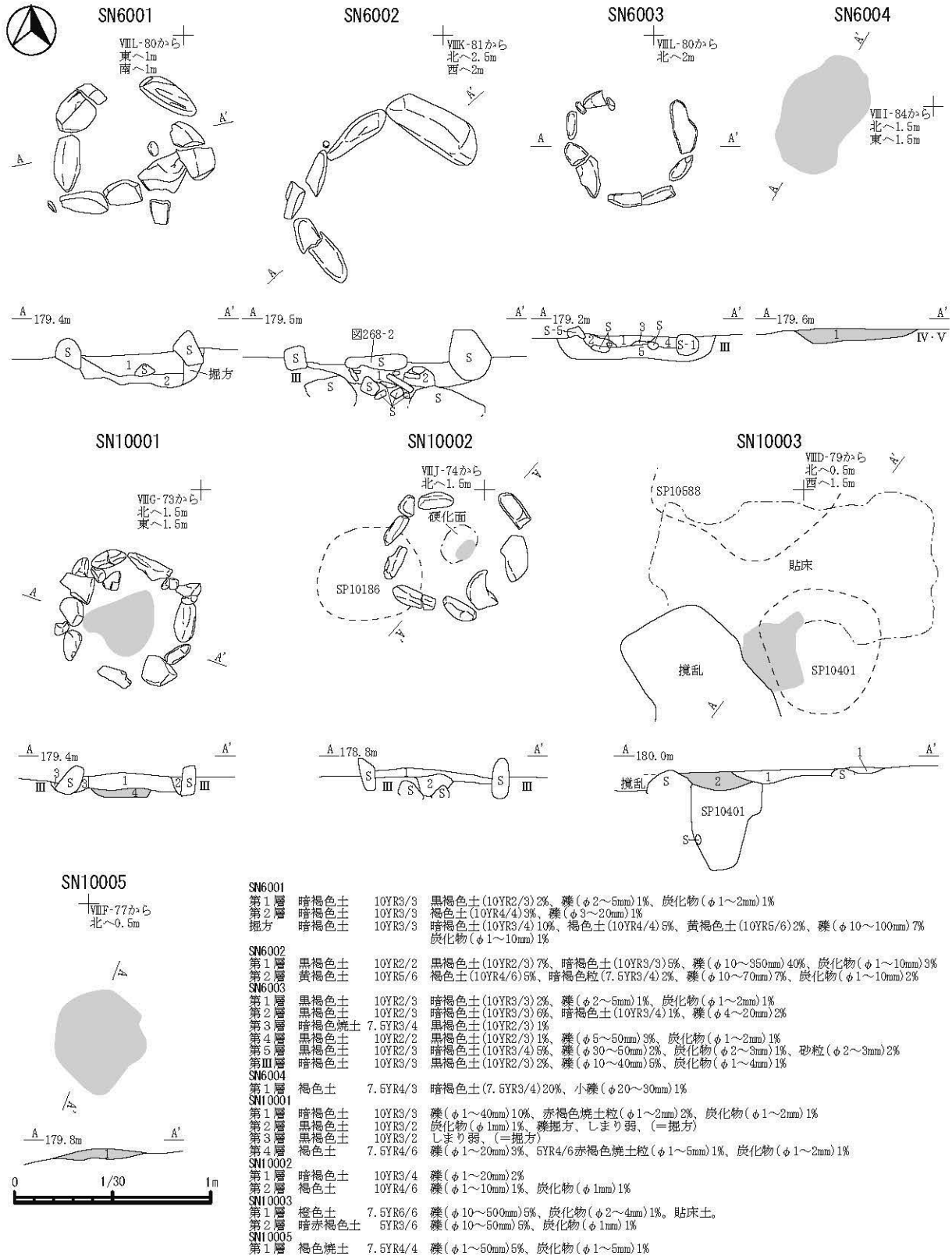


図19 焼土遺構14(SN6001~10005)

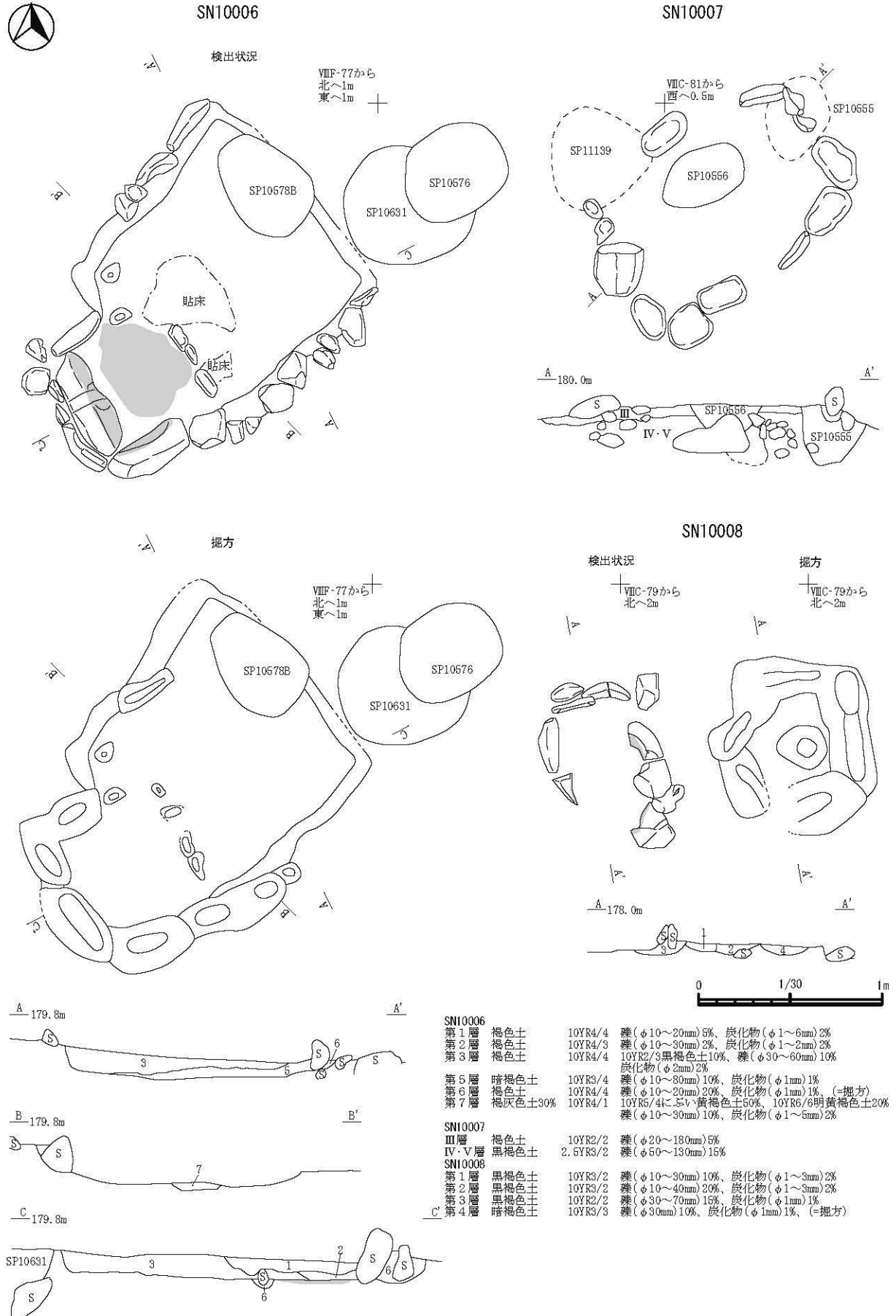


図20 焼土遺構15(SN10006~10008)

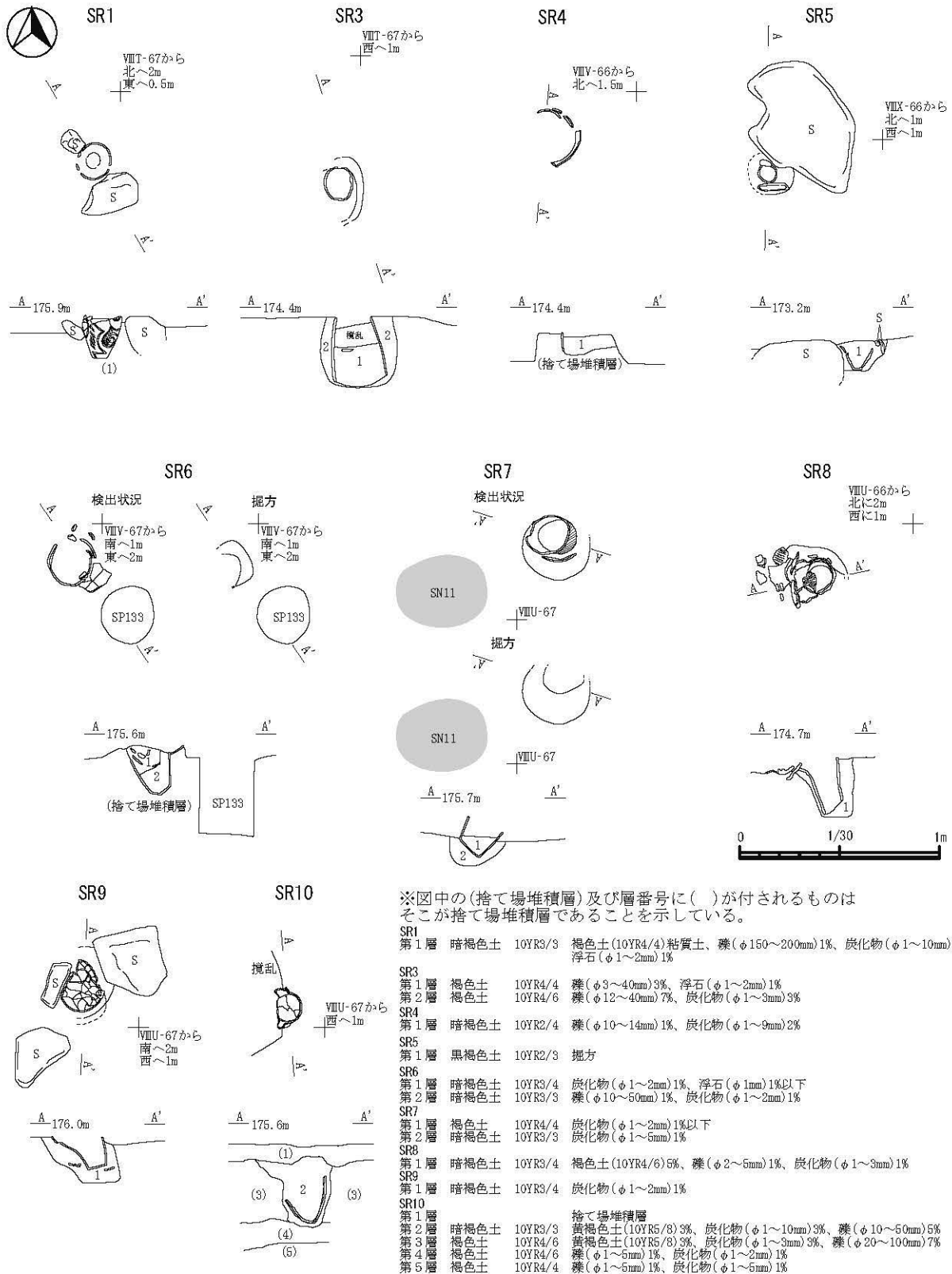
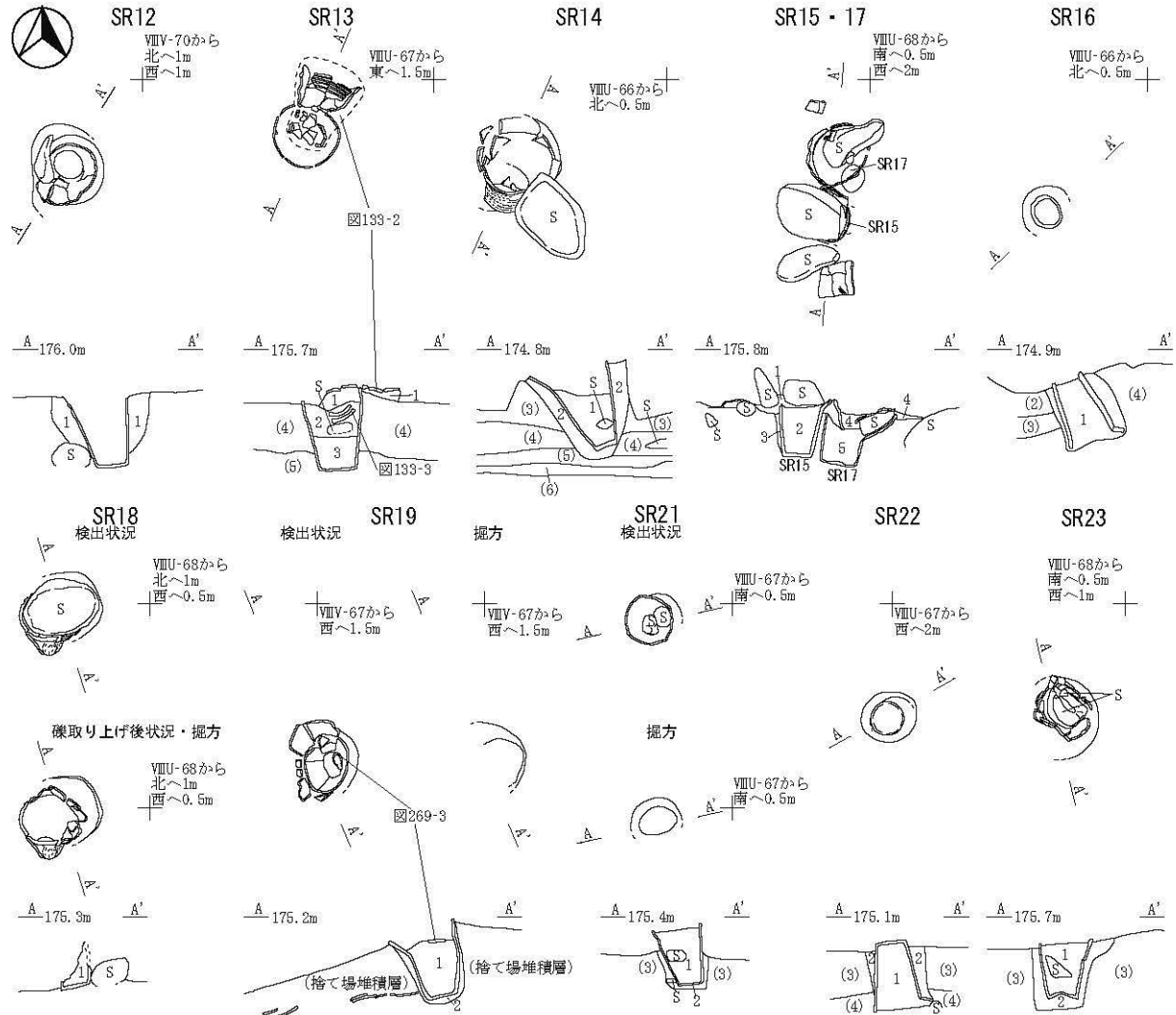


図21 土器埋設遺構1(SR1~10)



※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SR12	第1層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)3%, 礫(φ20~50mm)5%, 炭化物(φ1mm以下)1%以下=掘方
SR13	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~3mm)1%, 浮石(φ1mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ30~40mm)2%, 炭化物(φ1~2mm)1%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~5mm)2%
	第4層	褐色土	10YR4/6	礫(φ5~10mm)2%, 炭化物(φ1~10mm)1%
	第5層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)5%, 炭化物(φ1~10mm)2%
SR14	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ80mm)1個, 炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~10mm)2%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ40mm)1個, 炭化物(φ1~8mm)2%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~10mm)2%
	第5層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~9mm)3%
	第6層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~12mm)1%
SR15・17	第1層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ5~20mm)5%, 浮石(φ1mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~3mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)3%, 浮石(φ1mm)1%以下
	第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~2mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%以下
	第4層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~3mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%
	第5層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)10%, 礫(φ10~20mm)3%, 炭化物(φ1~3mm)1%
SR16	第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~10mm)3%, 浮石(φ1~5mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/4	黄褐色土(10YR5/6)10%, 礫(φ100mm)1個, 炭化物(φ1~10mm)2%
	第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物(φ1~20mm)5%
	第4層	褐色土	10YR4/6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)20%, 暗褐色土(10YR3/4)10%, 炭化物(φ1~30mm)10%
SR18	第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~2mm)1%以下
SR19	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ30~40mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~11mm)2%
SR21	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ70mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ40mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ30mm)1%, 炭化物(φ1~11mm)1%
SR22	第1層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)20%, 炭化物(φ1~5mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~15mm)2%
	第4層	黒色土	10YR2/3	褐色土(10YR4/4)3%, 炭化物(φ1~13mm)3%
SR23	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ200mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~30mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%

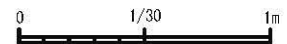
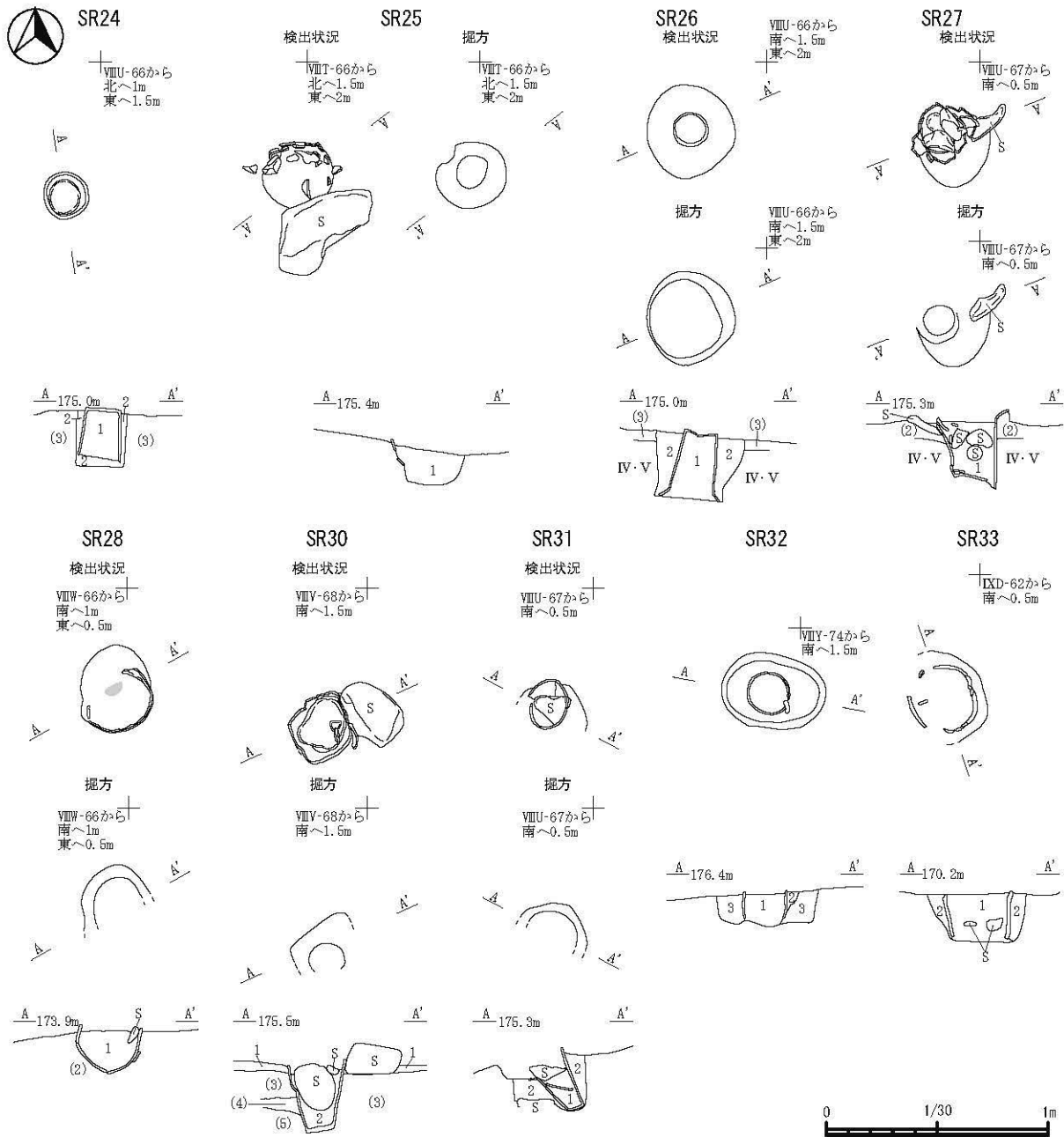


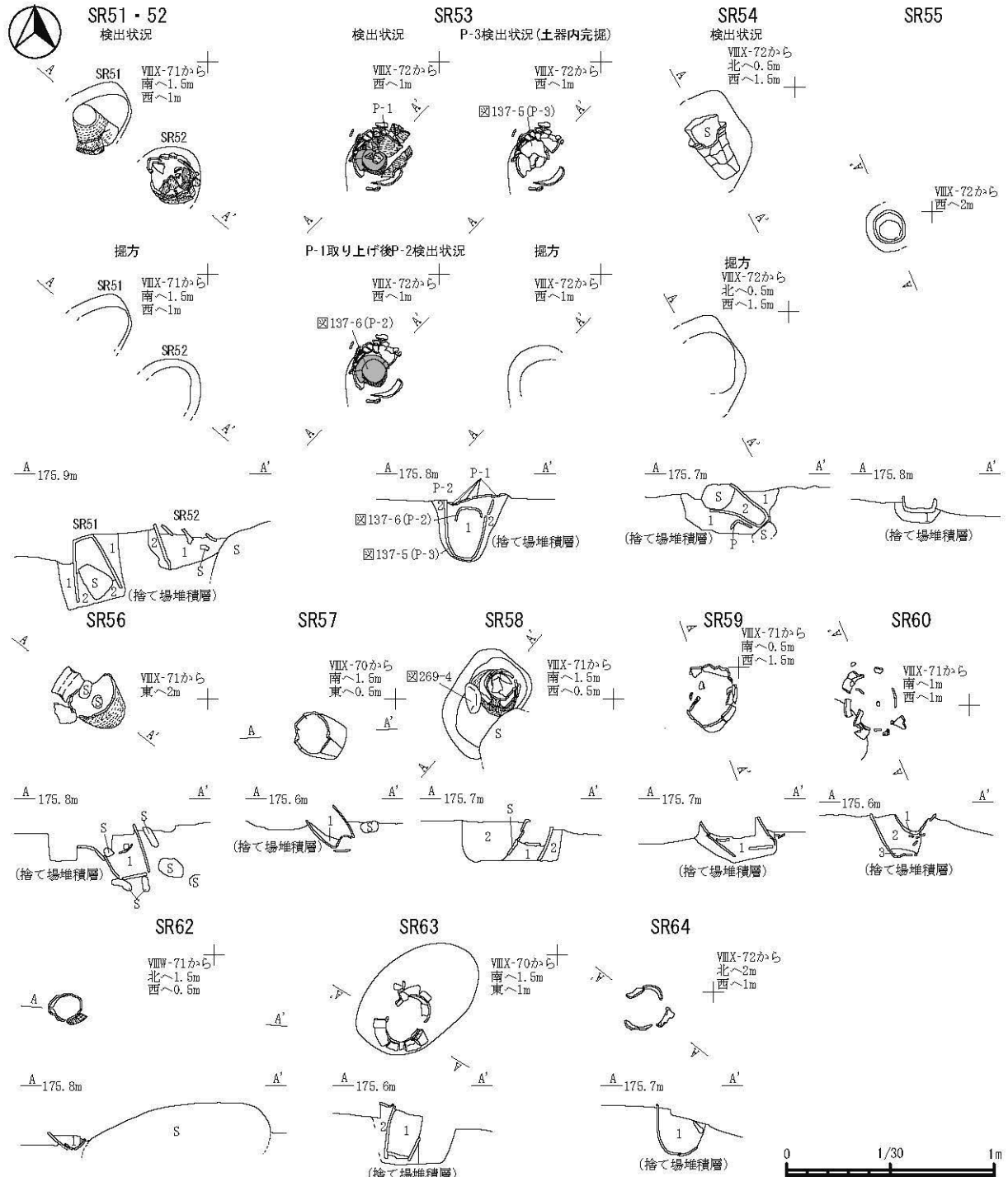
図22 土器埋設遺構2 (SR12~23)



SR24	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~20mm)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ15~20mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%
SR25	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~20mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%
SR26	第1層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)、炭化物(φ1~2mm)2%
	第2層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)20%、礫(φ10~30mm)1%、炭化物(1~4mm)2%
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~3mm)7%
SR27	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~8mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~150mm)1%、炭化物(φ1~10mm)7%
SR28	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(40~70mm)1%、炭化物(1~13mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(20~50mm)2%、炭化物(1~11mm)3%
SR30	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~8mm)2%、浮石(φ1~2mm)1%以下
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%以下
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~30mm)2個、炭化物(φ1~8mm)1%
	第4層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~3mm)1%以下
	第5層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~130mm)2個、炭化物(φ1~2mm)1%以下
SR31	第1層	暗褐色土	10YR3/4	
SR32	第1層	黒褐色土	10YR3/2	暗褐色土(7.5YR3/3)10%、礫(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)40%、褐色土(7.5YR4/6)3%、礫(φ1~50mm)10%、炭化物(φ1~20mm)3%
SR33	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ2~5mm)3%、浮石(φ1mm)
	第2層	暗褐色土	10YR4/3	礫(φ10~20mm)3%

※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそれが捨て場堆積層であることを示している。

図23 土器埋設遺構3 (SR24~33)

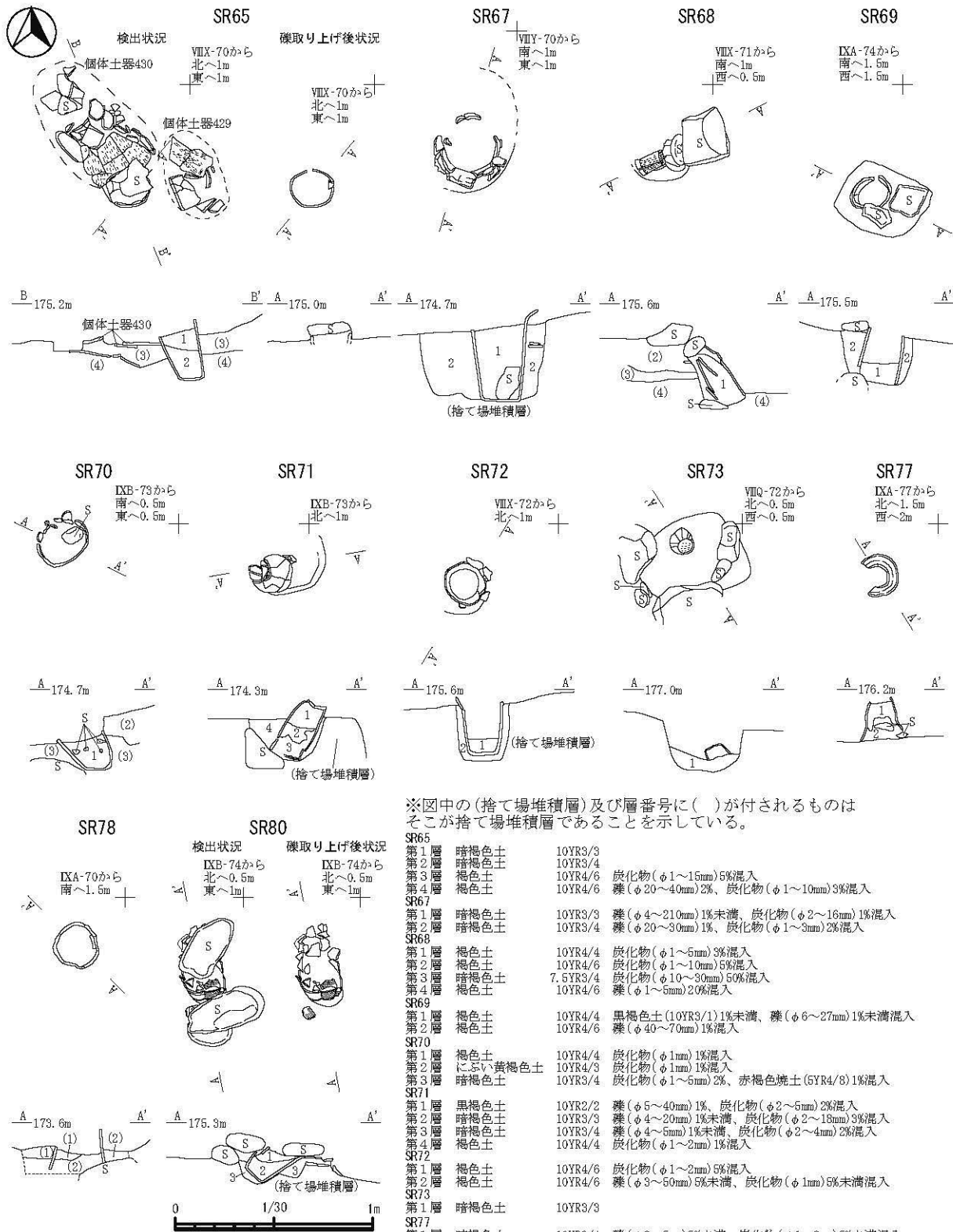


SR51	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20mm)1%未滿、炭化物(φ2~20mm)1%混入
	第2層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~2mm)1%混入
SR52	第1層 ぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ7~40mm)1%、炭化物小1%混入
	第2層 ぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ25~30mm)1%未滿、炭化物中1%未滿混入
SR53	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ0.5~1mm)5%混入
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)40%混入
SR54	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ5~130mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%混入
	第2層 暗褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~10mm)1%未滿混入
SR55	第1層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%未滿混入
SR56	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ2~5mm)5%混入、炭化物(φ0.5~1mm)10%
SR57	第1層 褐色土	10YR4/4	
SR58	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ70mm)1%未滿混入
	第2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ30mm)1%未滿、炭化物(φ3~15mm)5%混入
SR59	第1層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ5~10mm)10%混入

※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SR60	第1層 ぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ1~5mm)10%未滿、炭化物(φ3~5mm)5%未滿混入
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ5~10mm)5%未滿、炭化物(φ1~5mm)10%混入
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~3mm)5%混入
SR62	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ0.1~0.3mm)10%未滿、炭化物(φ2~10mm)15%混入
SR63	第1層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~4mm)1%混入
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)1%未滿、炭化物(φ2~5mm)5%混入
SR64	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ2~30mm)5%、炭化物(φ1~5mm)10%混入

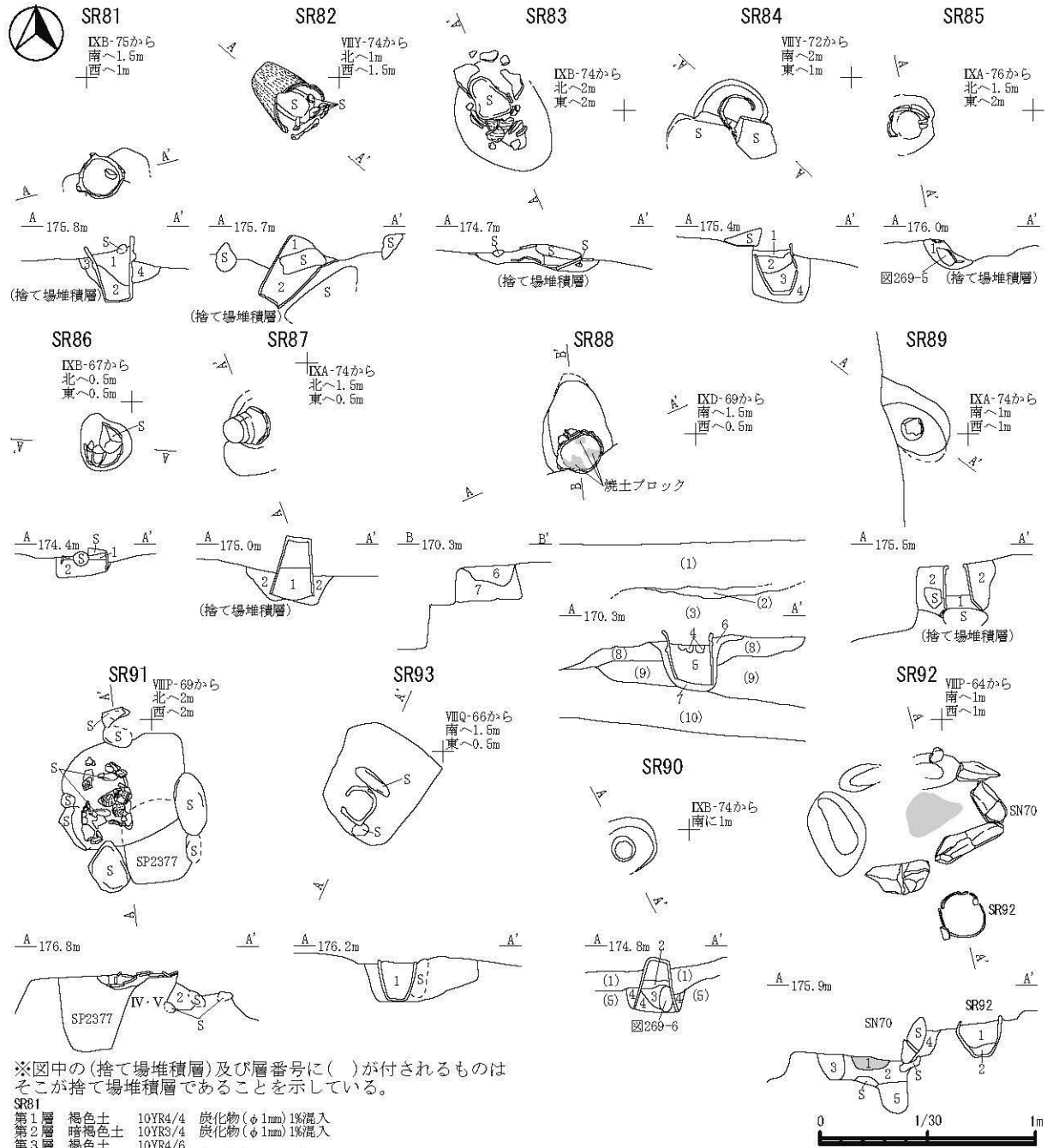
図24 土器埋設遺構4(SR51~64)



※図中の(捨て場積層)及び層番号に()が付されるものは
 その捨て場積層であることを示している。

SR65		
第1層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	暗褐色土	10YR3/4
第3層	褐色土	10YR4/6
第4層	褐色土	10YR4/6
SR67		
第1層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	暗褐色土	10YR3/4
SR68		
第1層	褐色土	10YR4/4
第2層	褐色土	10YR4/6
第3層	暗褐色土	7.5YR3/4
第4層	褐色土	10YR4/6
SR69		
第1層	褐色土	10YR4/4
第2層	褐色土	10YR4/6
SR70		
第1層	褐色土	10YR4/4
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3
第3層	暗褐色土	10YR3/4
SR71		
第1層	黒褐色土	10YR2/2
第2層	暗褐色土	10YR3/3
第3層	暗褐色土	10YR3/4
第4層	褐色土	10YR4/4
SR72		
第1層	褐色土	10YR4/6
第2層	褐色土	10YR4/6
SR73		
第1層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	暗褐色土	10YR3/4
SR77		
第1層	暗褐色土	10YR3/4
第2層	褐色土	10YR4/4
SR78		
第1層	暗褐色土	10YR3/4
第2層	暗褐色土	10YR3/3
SR80		
第1層	暗褐色土	10YR3/4
第2層	褐色土	10YR4/4
第3層	暗褐色土	10YR3/3

図25 土器埋設遺構5 (SR65~80)



※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SR81	IXB-75から 南へ1.5m 西へ1m	175.8m	(捨て場堆積層)
第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1mm)1%混入
第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm)1%混入
第3層	褐色土	10YR4/6	
第4層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%混入
SR82	VIIIY-74から 北へ1m 西へ1.5m	175.7m	(捨て場堆積層)
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ50~300mm)5%、炭化物(φ1~2mm)10%混入
第2層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~2mm)20%、焼土粒(φ1~2mm)5%混入
SR83	IXB-74から 北へ2m 東へ2m	174.7m	(捨て場堆積層)
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ9mm)1%未満、炭化物(φ1~3mm)2%混入
SR84	VIIIY-72から 南へ2m 東へ1m	175.4m	
第1層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~10mm)5%未満、炭化物(φ1~2mm)5%未満混入
第2層	褐色土	10YR4/6	
第3層	黄褐色土	10YR5/6	
第4層	褐色土	10YR4/6	
SR85	IXA-76から 北へ1.5m 東へ2m	176.0m	(捨て場堆積層)
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ100mm)1%未満、炭化物(φ2~5mm)1%混入
SR86	IXB-67から 北へ0.5m 東へ0.5m	174.4m	
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~100mm)30%混入
第2層	褐色土	10YR4/6	
SR87	IXA-74から 北へ1.5m 東へ0.5m	175.0m	(捨て場堆積層)
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ4~20mm)1%未満混入
第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ2~20mm)2%混入
SR88	IXD-69から 南へ1.5m 西へ0.5m	170.3m	焼土ブロック
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~30mm)10% 炭化物(φ1~5mm)5%混入
第2層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1mm)5%未満混入
第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ3~30mm)5% 炭化物(φ1mm)10%混入
第4層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物(φ1mm)5%未満混入
第5層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ10~15mm)5% 炭化物(φ1mm)10%混入、砂質土
第6層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)5%未満 炭化物(φ2~3mm)5%混入
第7層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)5%未満 炭化物(φ2~3mm)5%混入
第8層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)5%未満 炭化物(φ1~5mm)5%混入
第9層	褐色土	10YR4/6	礫(φ3~30mm)5% 炭化物(φ1mm)5%未満混入
第10層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~20mm)5% 炭化物(φ2~3mm)5%未満混入
SR89	IXA-74から 南へ1m 西へ1m	175.6m	(捨て場堆積層)
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~100mm)3%、粘性弱、しまり弱
SR90	IXB-74から 南へ1m	174.8m	
第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~50mm)30%、粘性やや弱、しまりやや強
第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~150mm)20%、粘性弱、しまりやや強
SR91	VIIIY-69から 北へ2m 西へ2m	176.8m	
第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~2mm)、5%未満混入
第2層	褐色土	10YR4/6	
第3層	灰黄褐色土	10YR4/2	粘性土
第4層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~5mm)5%未満混入
第5層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~50mm)5%、炭化物(φ2~3mm)10%混入
SR92	VIIIY-64から 南へ1m 西へ1m	175.9m	
第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm未満)1% 暗褐色焼土5YR3/4(φ1~5mm)10% 炭化物(φ1~2mm)3%
第2層	黒褐色土	10YR2/3	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	粘性やや弱、しまり強
SN70			
第1層	赤褐色焼土	5YR3/4	炭化物(φ1mm)1%
第2層	暗褐色土	10YR3/4	
第3層	褐色土	10YR4/4	黄褐色粒(φ1mm)2%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	
第5層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)2%

図26 土器埋設遺構6 (SR81~93)

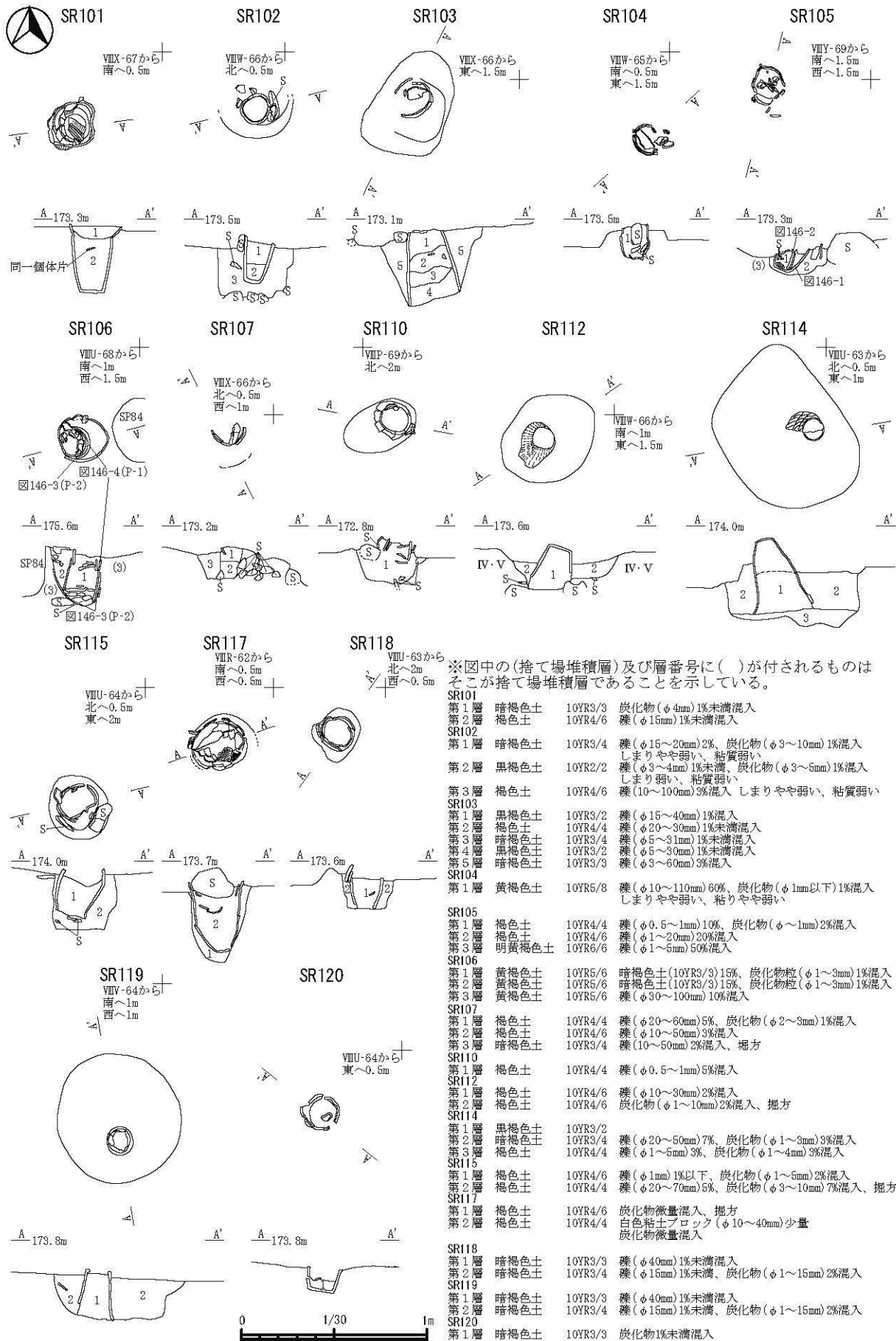


図27 土器埋設遺構7(SR101~114)

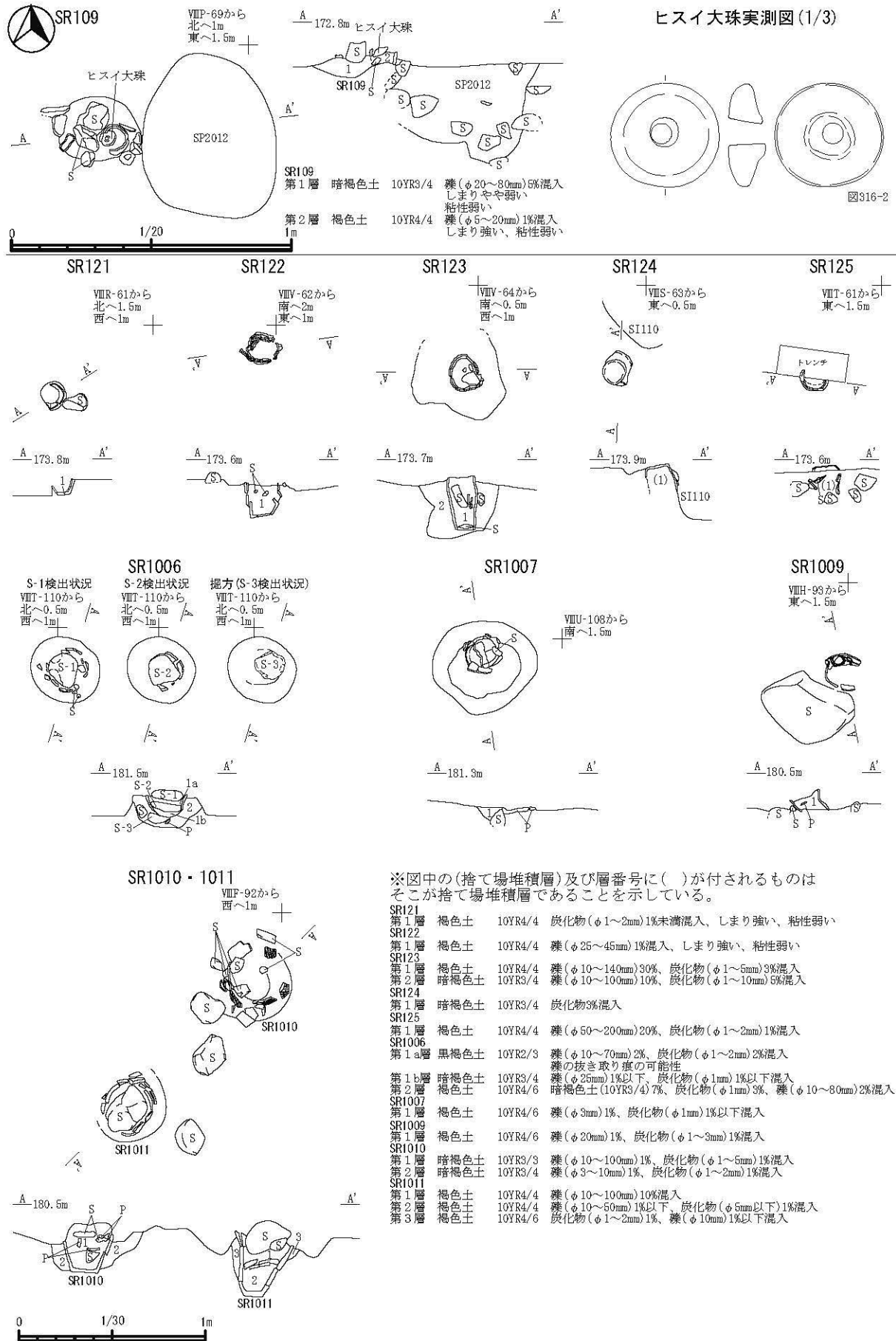
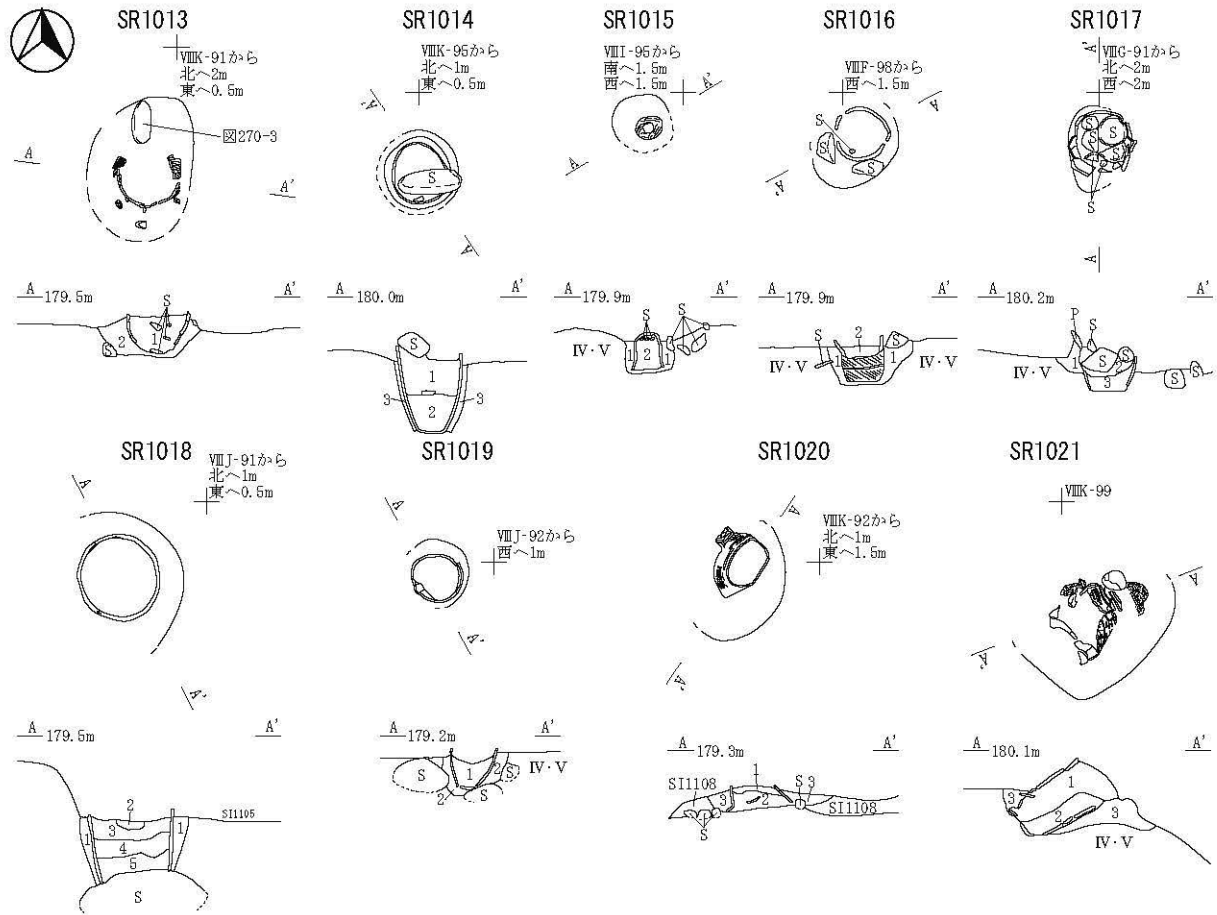


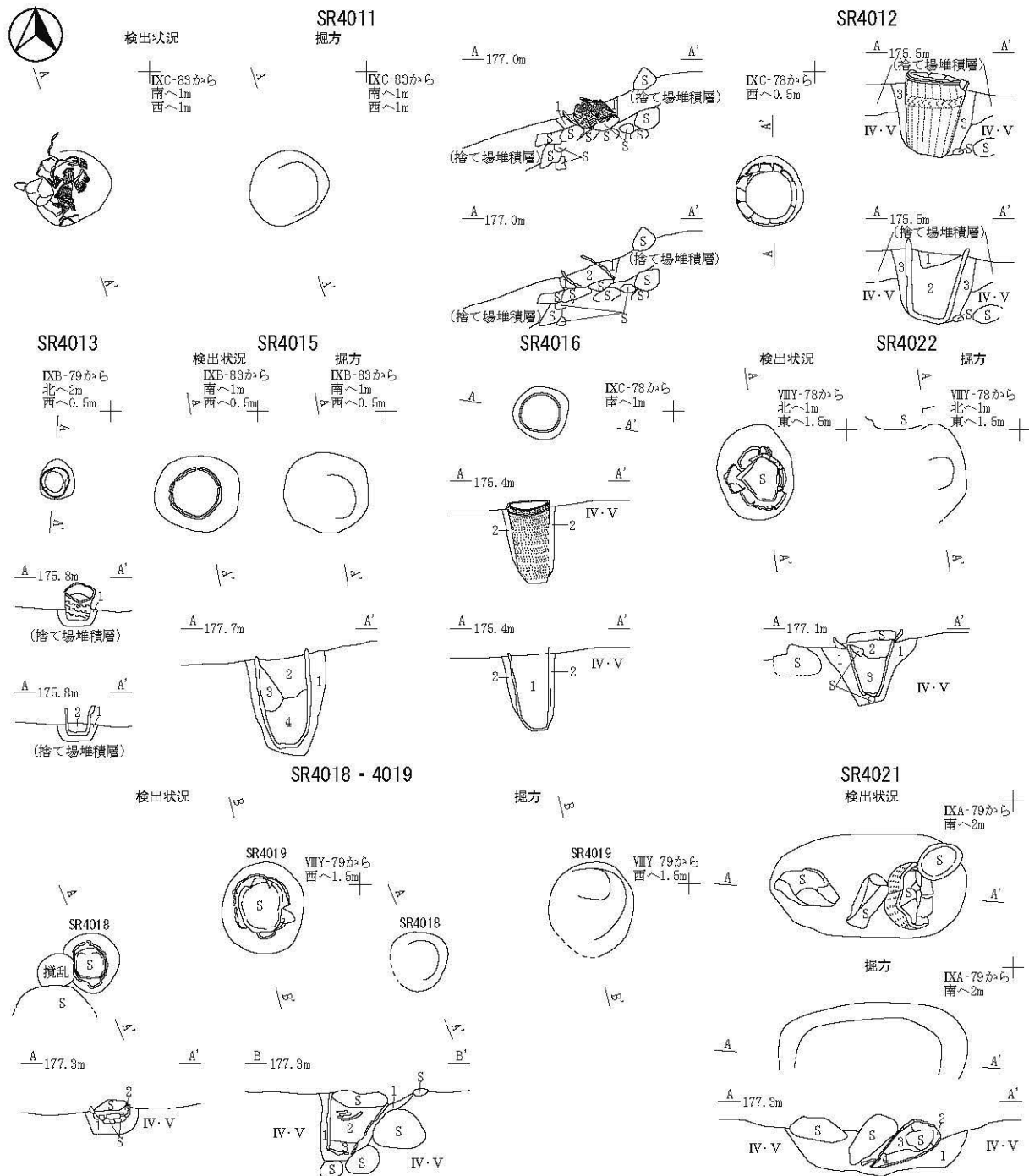
図28 土器埋設遺構8(SR109~1011)



※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

Site	Layer	Soil Color	Soil Code	Contents
SR1013	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~45mm)3%、炭化物(φ2~3mm)2%混入
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~20mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまり弱い、粘性弱い
SR1014	第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)、礫(φ10~90mm)15%混入、しまりやや弱い、粘性やや強い
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)1%混入、しまり強い、粘性強い
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ3~50mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまりやや弱い、粘性やや弱い
SR1015	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~20mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまり弱い、粘性やや弱い
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ5~50mm)40%、炭化物(φ1~2mm)混入
SR1016	第1層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまりやや弱い、粘性弱い
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~20mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入、しまり強い、粘性やや弱い
SR1017	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%、粘性：有、しまり：有
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~150mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%
	第3層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ5mm)1%以下、炭化物(φ1~2mm)1%以下、粘性：有、しまり：やや弱
SR1018	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~30mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%、粘性：なし、しまり：なし
	第2層	暗褐色土	7.5YR3/3	粘性：弱、しまり：弱
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10mm)1%、炭化物(φ1mm)1%、粘性：弱、しまり：弱
	第4層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物(φ1~20mm)3%、粘性：弱、しまり：弱
	第5層	極暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物(φ1~20mm)2%、粘性：弱、しまり：弱
SR1019	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~25mm)5%、炭化物(φ5mm以下)1%
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~30mm)10%
SR1020	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~10mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm)1%
SR1021	第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ30mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	
	第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ10mm以下)1%
SR1022	第2層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	礫1%
	第3層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物5%
	第4層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1mm)1%
	第5層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	
	第6層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	
	SR1023	第1層	黒褐色土	10YR3/2
第2層		暗褐色土	10YR3/3	10YR4/4褐色土5%、礫(φ3~14mm)1%

図29 土器埋設遺構9(SR1013~1023)



※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそれが捨て場堆積層であることを示している。

SR4011	1層 褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%, 掘方
	2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~2mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%
SR4012	1層 褐色土	10YR4/6	炭化物1%
	2層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物3%
	3層 褐色土	10YR4/6	礫(?1~5mm)1%, 炭化物1%, 掘方
SR4013	1層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物1%, 掘方
	2層 褐色土	10YR4/4	炭化物1%
SR4015	1層 にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物(φ1mm)1%
	2層 黄褐色土	10YR5/8	炭化物(φ1mm)1%
	3層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1mm)2%
	4層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1mm)2%
SR4016	1層 褐色土	10YR4/6	小礫(?5~20mm)5%, 地山土・炭化物1%
	2層 褐色土	10YR4/4	炭化物1%, 掘方
SR4018	1層 黄褐色土	10YR5/8	礫(φ10mm)1%, 炭化物(φ3mm)1%, 掘方
	2層 褐色土	10YR4/6	黒褐色土(10YR2/3)5%, 炭化物(φ1mm)1%

SR4019	1層 黄褐色土	10YR5/6	礫(φ20~30mm)1%, 炭化物(φ1mm)1%, 掘方
	2層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1mm)1%
	3層 褐色土	10YR4/6	黒褐色土(10YR2/3)5%, 炭化物(φ1mm)1%
SR4021	1層 黄褐色土	10YR5/6	礫(φ10~400mm)20%, 炭化物(φ1~3mm)1%, 掘方
	2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ150mm)40%, 炭化物(φ1mm)1%
	3層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm)1%
SR4022	1層 黄褐色土	10YR5/8	礫(φ30mm)2%, 炭化物(φ1~18mm)3%, 掘方
	2層 褐色土	10YR4/6	礫(φ20~60mm)10%, 炭化物(φ1~4mm)2%
	3層 褐色土	10YR4/6	礫(φ14~23mm)1%, 炭化物(φ1mm)1%

図31 土器埋設遺構11(SR4011~4022)

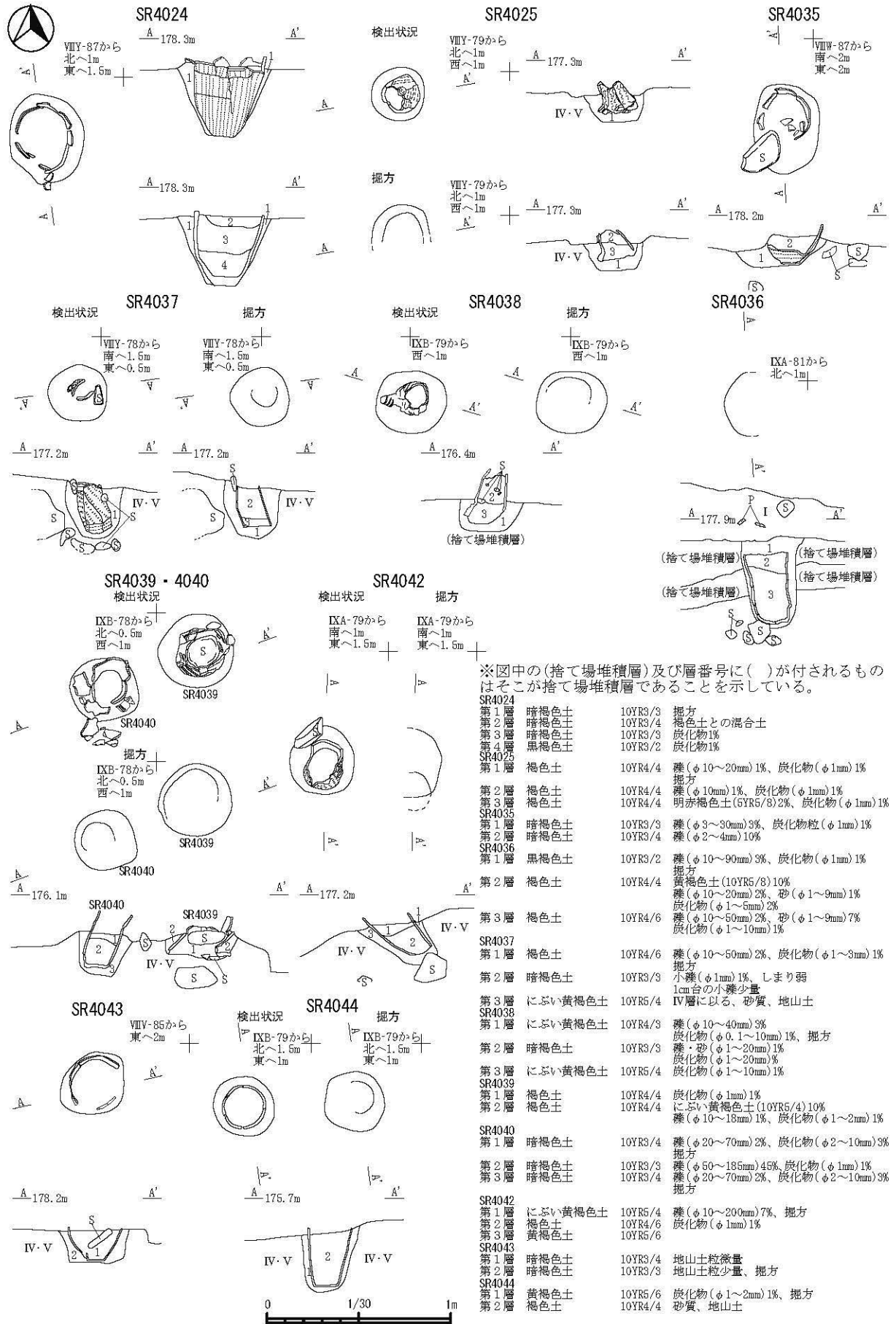


図32 土器埋設遺構12(SR4024~4044)

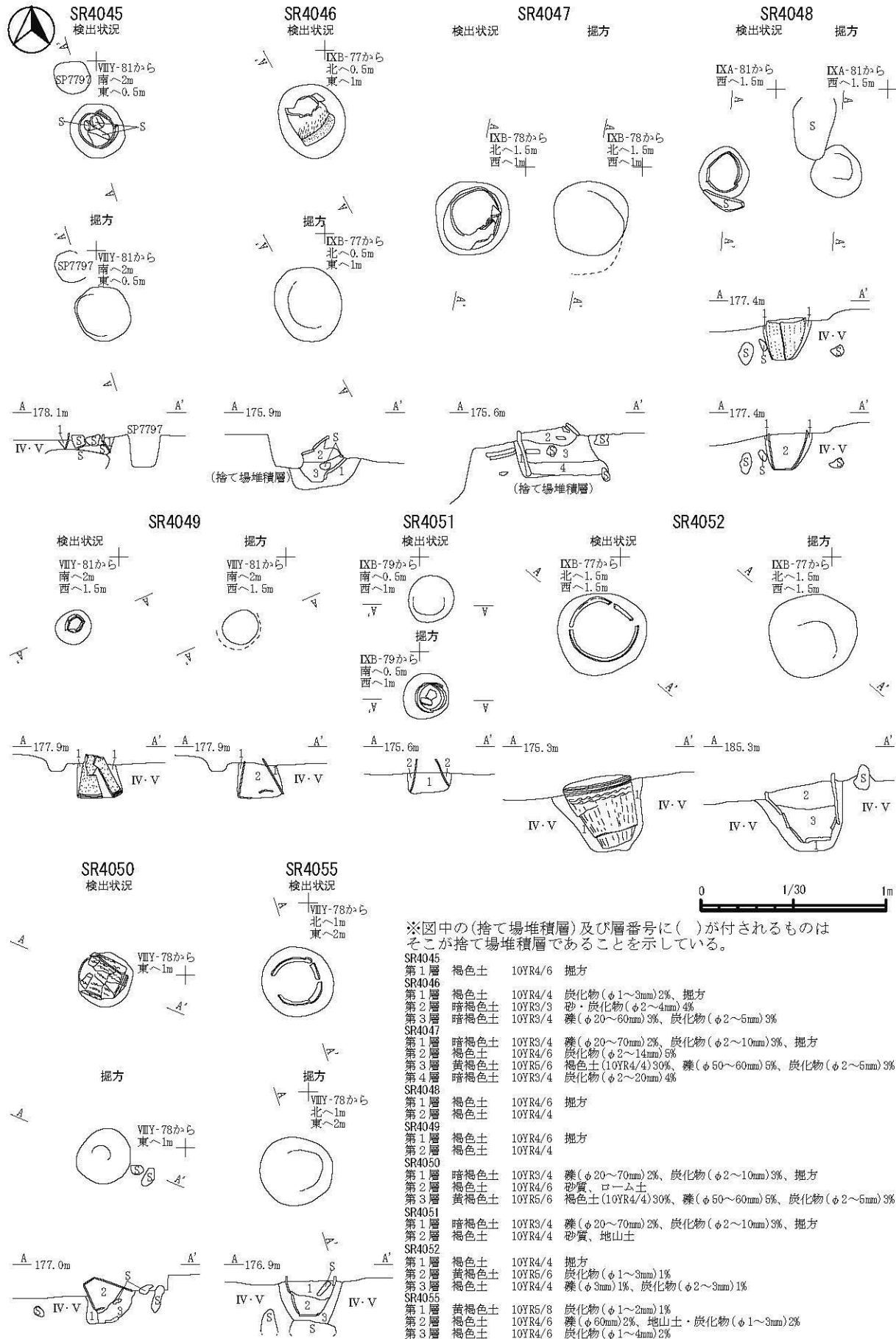
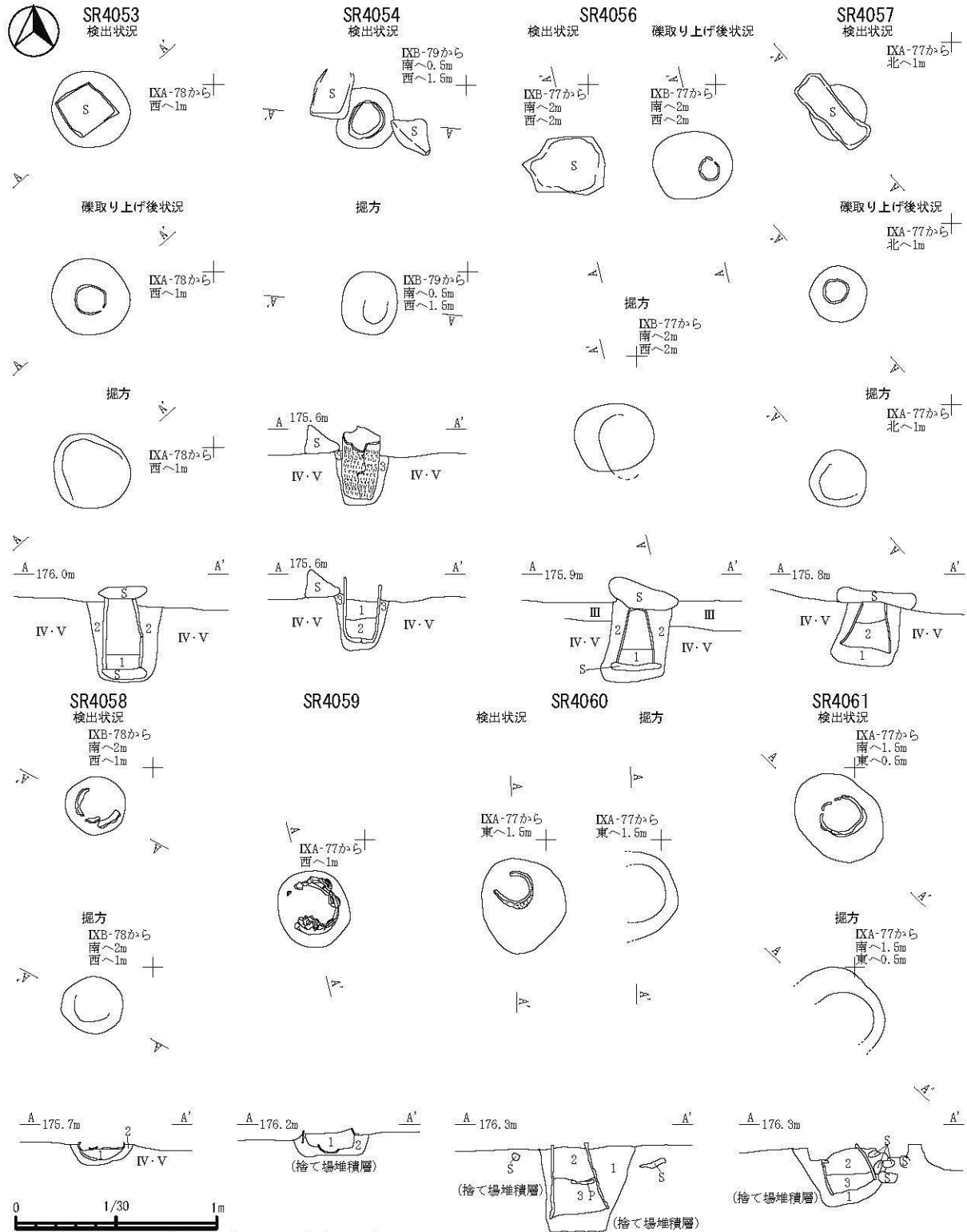


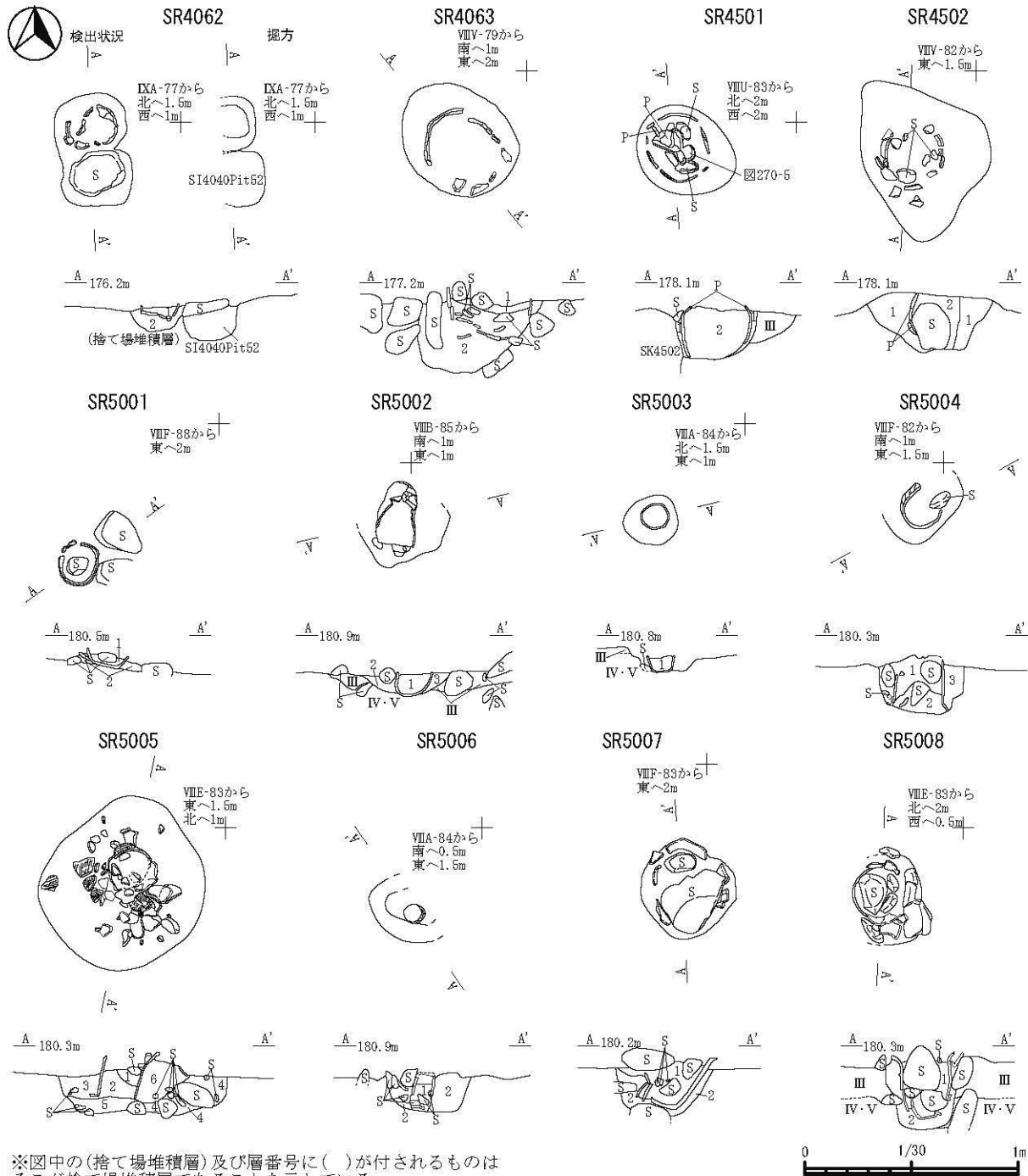
図33 土器埋設遺構13(SR4045~4055)



※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SR4053	第1層 にない黄褐色土	10YR5/4	礫(φ70~200mm)10%、炭化物(φ1~3mm)1%
	第2層 にない黄褐色土	10YR5/3	暗褐色土(10YR3/4)10%、炭化物(φ1mm)1%
SR4054	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~70mm)2%、炭化物(φ2~10mm)3%、掘方
	第2層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1mm)1%
	第3層 黄褐色土	10YR5/6	礫(φ30mm)2%、炭化物(φ1mm)1%
SR4056	第1層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1mm)1%
	第2層 褐色土	10YR4/4	
SR4057	第1層 褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%
	第2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ30~150mm)10%
SR4058	第1層 暗褐色土	10YR3/4	黄褐色土(10YR5/6)20%、炭化物(φ1~3mm)2%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~15mm)1%、炭化物(φ1~3mm)3%
SR4059	第1層 褐色土	10YR4/6	黄褐色土(10YR5/8)10%、炭化物(φ1~4mm)2%
	第2層 黄褐色土	10YR5/8	褐色土(10YR4/6)40%、炭化物(φ1~14mm)2%
SR4060	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~20mm)3%、炭化物(φ1~4mm)2%
	第2層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ2~5mm)3%
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ3~8mm)5%
SR4061	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ20~70mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
	第2層 褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%
	第3層 黄褐色土	10YR5/6	炭化物(φ1~2mm)1%

図34 土器埋設遺構14(SR4053~4061)

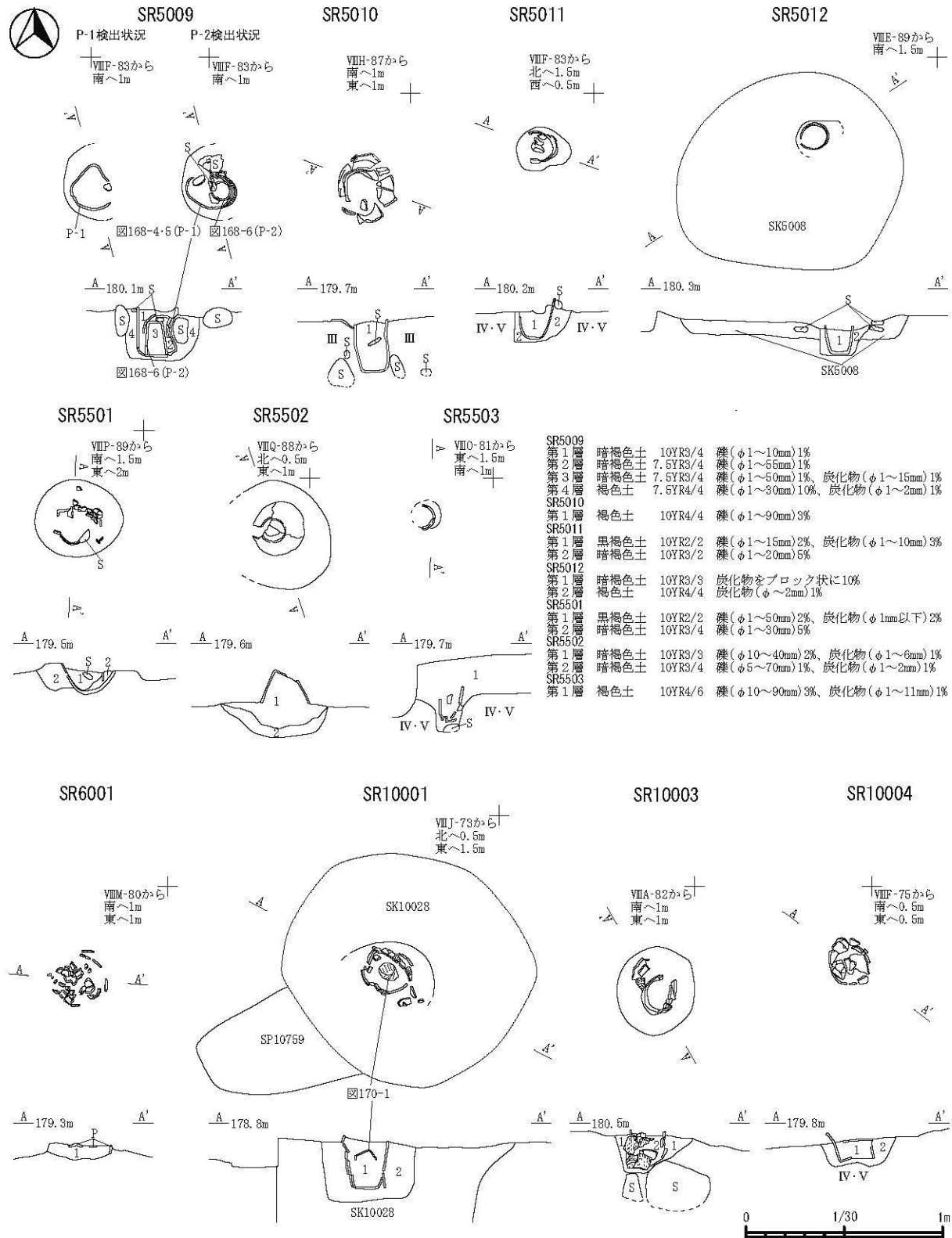


※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SR4062	第1層	黄褐色土	10YR5/6	暗褐色土(10YR3/4)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
	第2層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	暗褐色土(10YR3/4)10%、炭化物(φ1mm)1%
SR4063	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~110mm)60%、炭化物(φ1mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ30~100mm)30%、炭化物(φ1mm)1%
SR4501	第1層	暗褐色土	10YR3/4	小礫(φ1~2mm)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/2	中礫(φ2~5mm)3%
SR4502	第1層	暗褐色土	10YR3/4	
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫極大(φ20~50mm)50%
SR5001	第1層	黒褐色土	10YR2/2	
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	
SR5002	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~20mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~90mm)60%
	第3層	暗褐色土	7.5YR3/4	赤褐色焼土(5YR4/8)?%、礫(φ10~40mm)50% 5YR4/8赤褐色焼土(φ1~2mm)1%
SR5003	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~10mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%
SR5004	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~130mm)25%
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ5~130mm)25%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~110mm)15%

SR5005	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ30~70mm)30%、炭化物(φ20mm以下)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~20mm)1%、炭化物(φ15mm以下)50%
	第3層	褐色土	7.5YR4/3	礫(φ5~40mm)10%、炭化物(φ5mm以下)1%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~210mm)50%、炭化物(φ1mm以下)1%
	第5層	褐色土	7.5YR4/4	礫(φ5~20mm)5%、炭化物(φ1mm以下)1%
	第6層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~30mm)5%、炭化物(φ15mm以下)1%
SR5006	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~60mm)20%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ5~90mm)15%、炭化物(φ10mm以下)1%
SR5007	第1層	暗褐色土	7.5YR3/4	礫(φ30~300mm)35%、炭化物(φ5mm)1%
	第2層	褐色土	7.5YR4/4	礫(φ40~80mm)10%、炭化物(φ5mm)3%
SR5008	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~190mm)50%、炭化物(φ5mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20mm)10%、炭化物(φ5mm)1%

図35 土器埋設遺構15(SR4062~5008)



SR5009	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~10mm)1%
	第2層	暗褐色土	7.5YR3/4	礫(φ1~5mm)1%
	第3層	暗褐色土	7.5YR3/4	礫(φ1~50mm)1%、炭化物(φ1~15mm)1%
	第4層	褐色土	7.5YR4/4	礫(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%
SR5010	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~90mm)3%
SR5011	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~15mm)2%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/2	礫(φ1~20mm)5%
SR5012	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物をブロック状に10%
	第2層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ~2mm)1%
SR5501	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~50mm)2%、炭化物(φ1mm以下)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~30mm)5%
SR5502	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)2%、炭化物(φ1~6mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~70mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
SR5503	第1層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~90mm)3%、炭化物(φ1~11mm)1%

※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SR6001	第1層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)3%、礫(φ3~30mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、土器多量を含む
SR10001	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~50mm)7%、炭化物(φ1~5mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~70mm)15%、炭化物(φ1~2mm)2%
SR10003	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~70mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%、掘方
	第2層	黄褐色土	10YR5/6	
SR10004	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~5mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%、掘方

図36 土器埋設遺構16 (SR5009~10004)

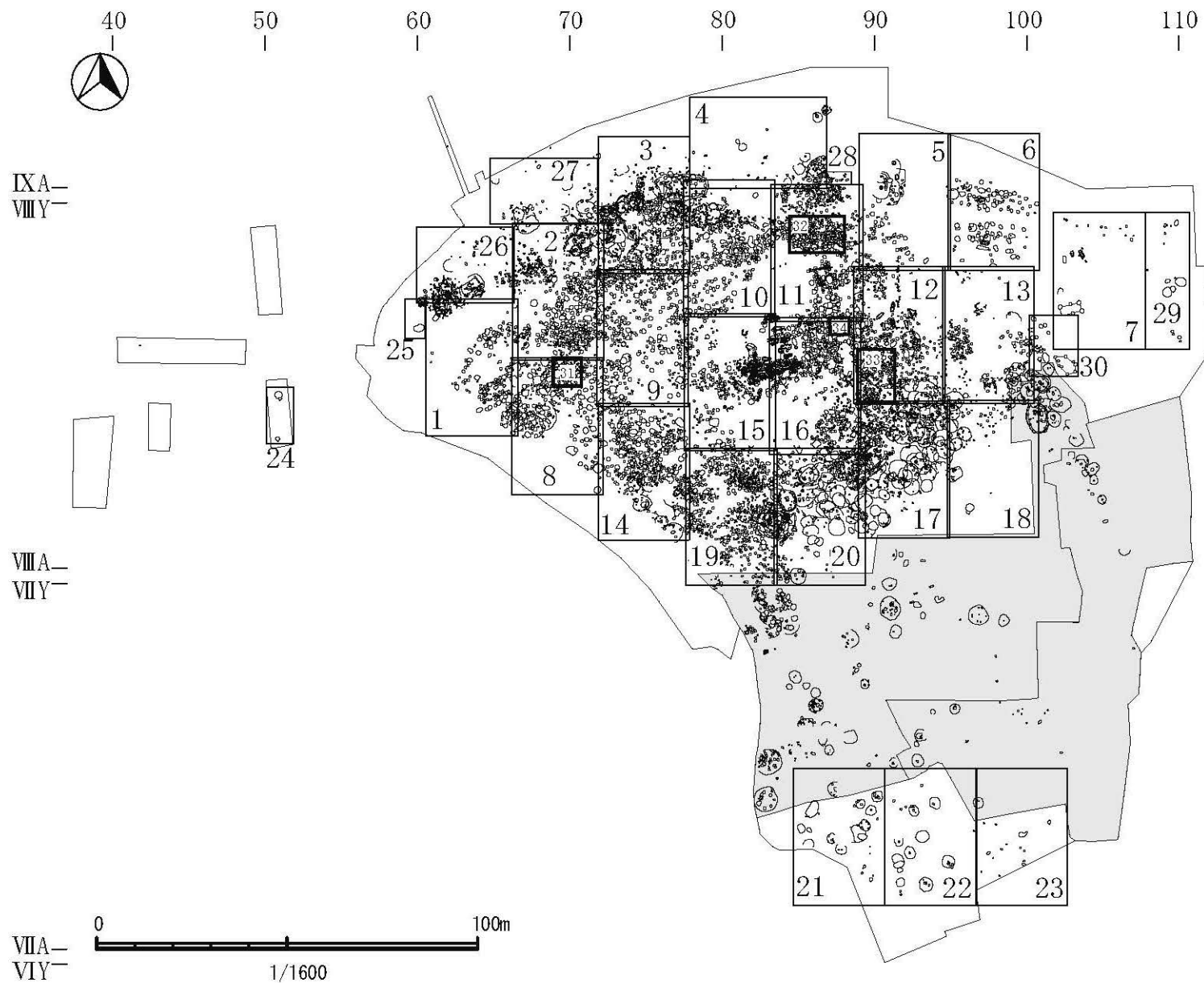


図37 土坑・ピット配置図位置図

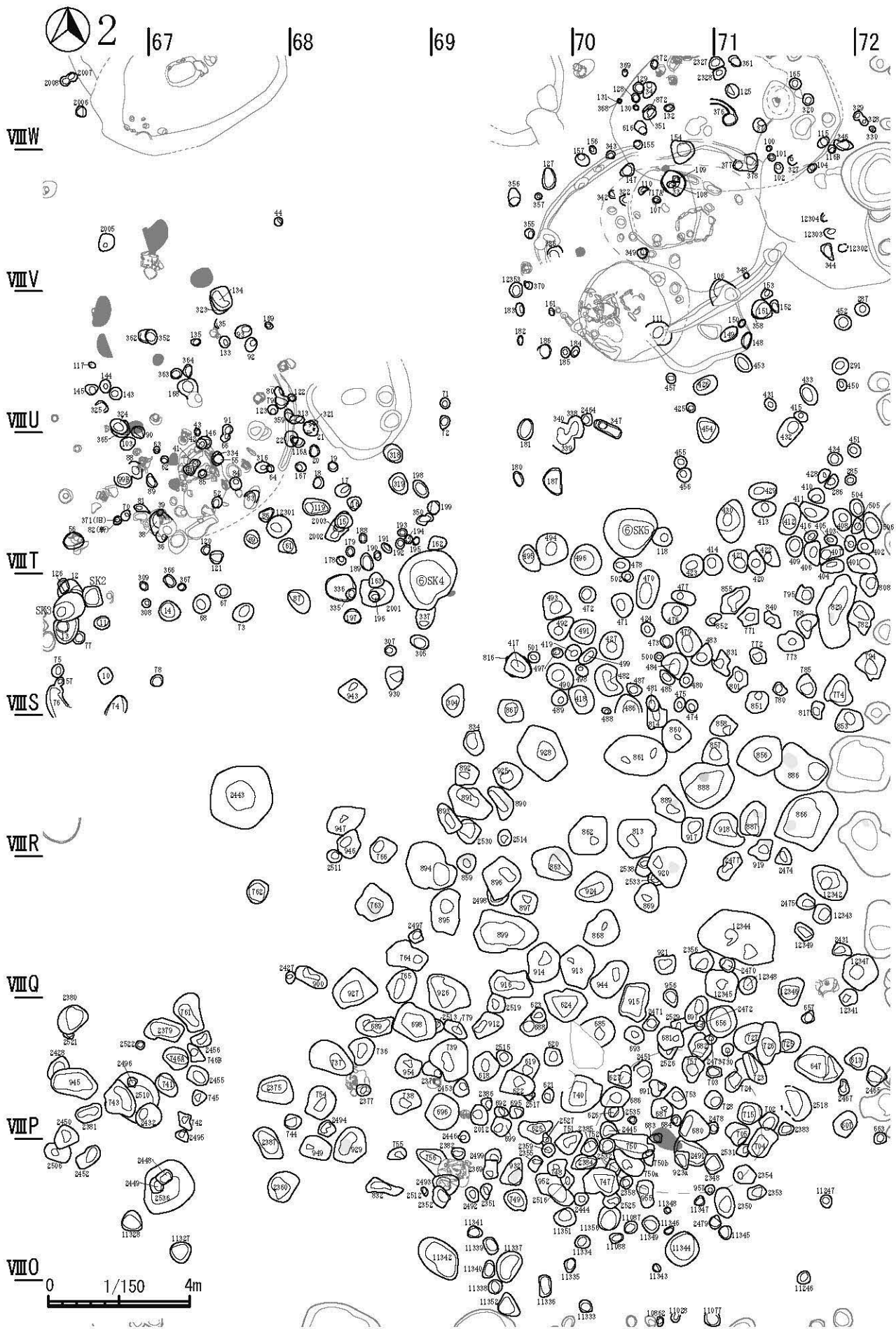


図39 土坑・ピット配置図2

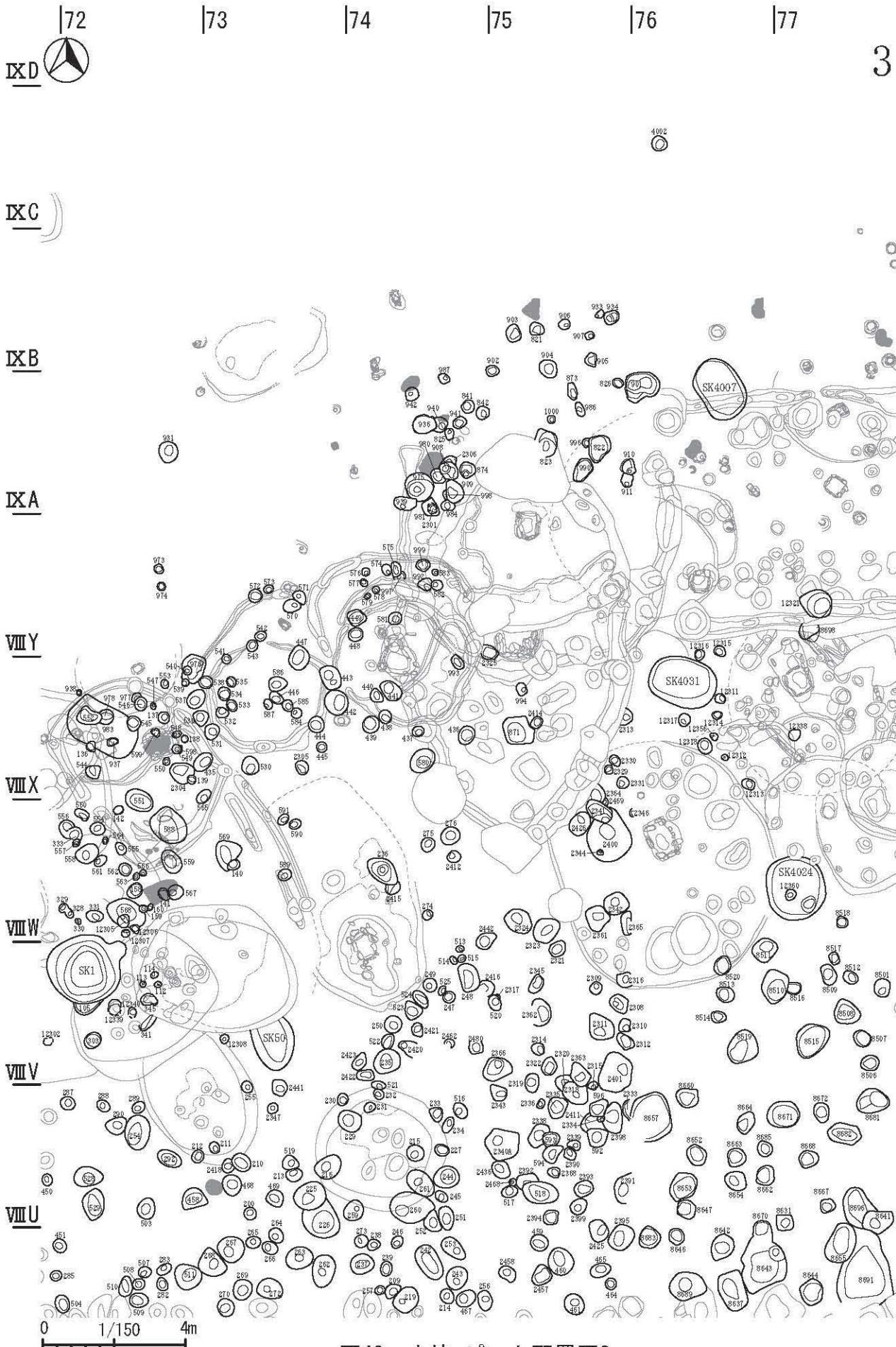


図40 土坑・ピット配置図3

79 | 80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 4



IXF

IXE

IXD

IXC

IXB

IXA

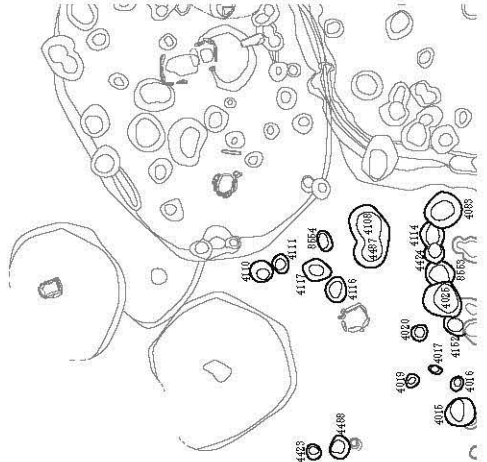
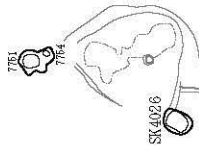
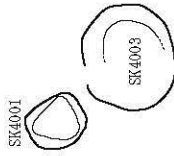
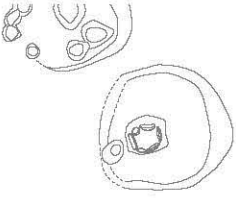
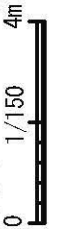


図41 土坑・ピット配置図4



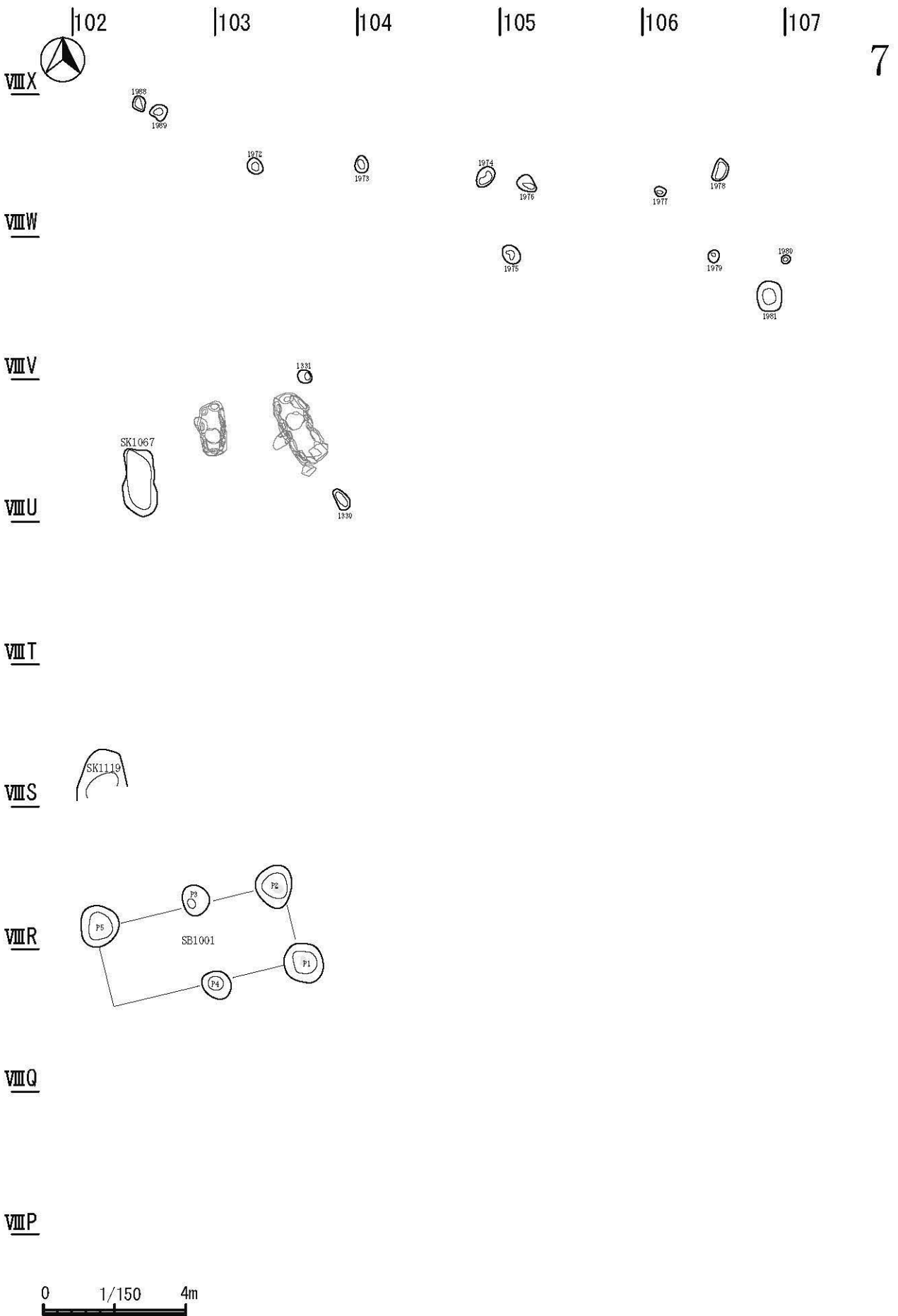


図44 土坑・ピット配置図7

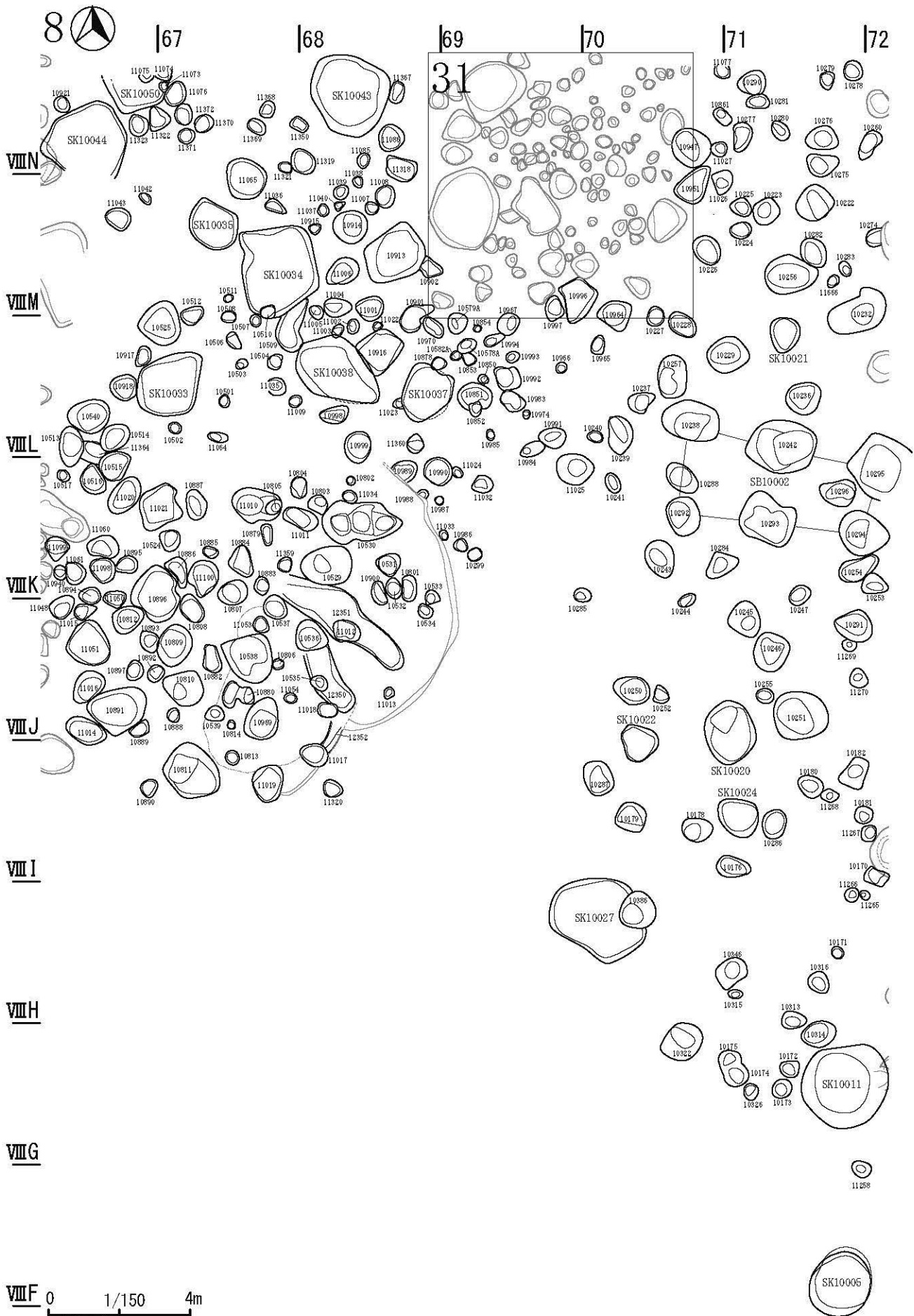


図45 土坑・ピット配置図8

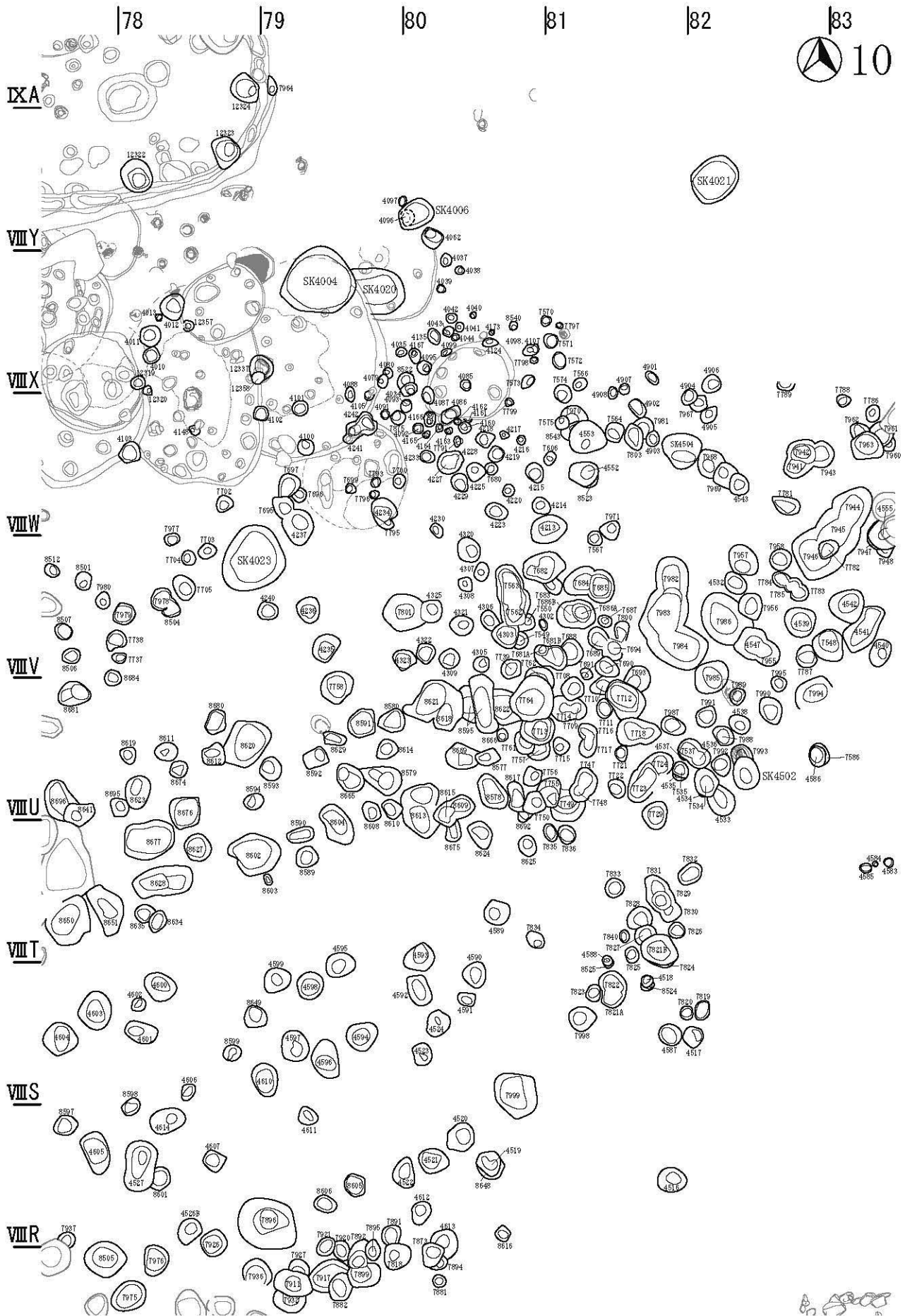


図47 土坑・ピット配置図10

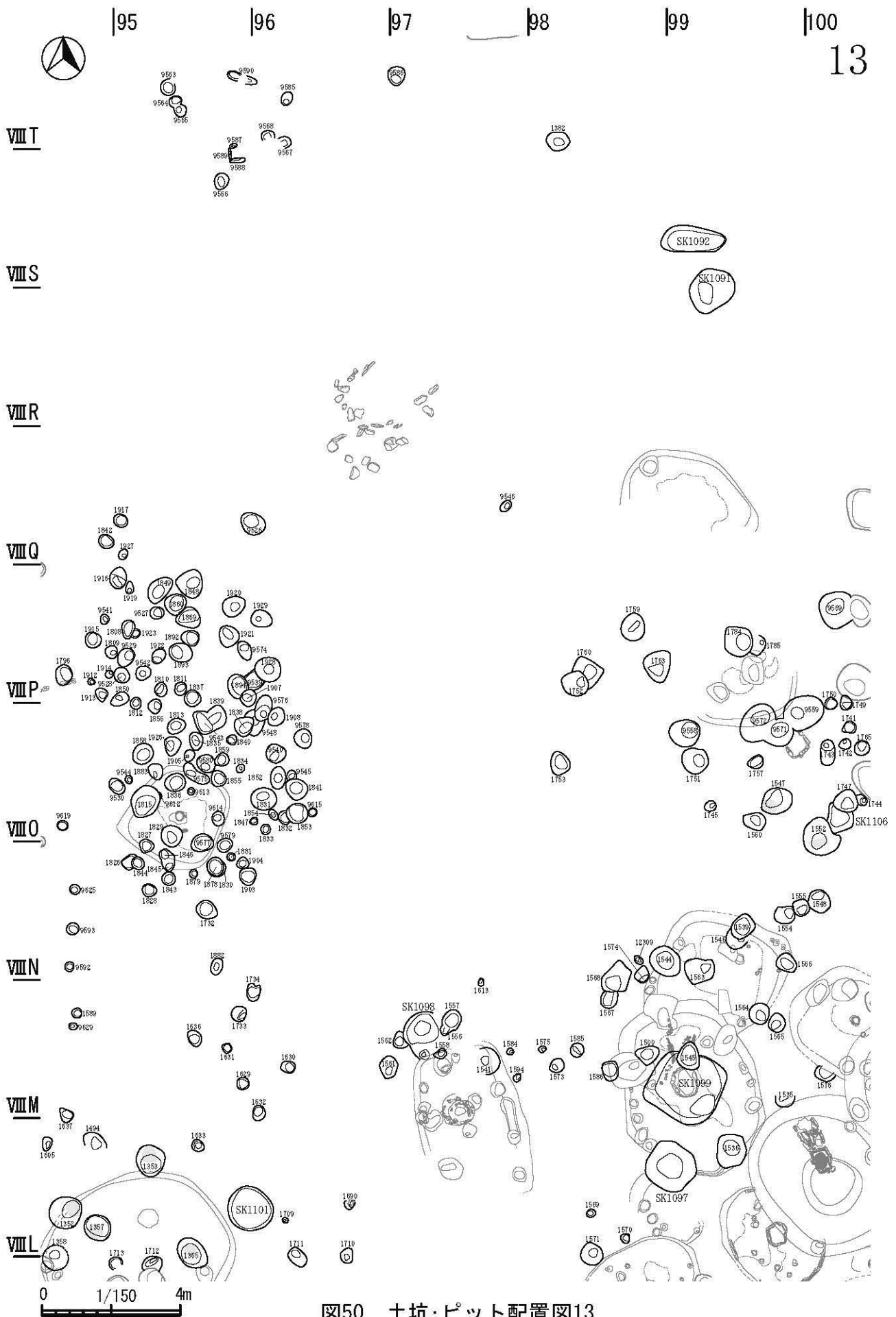


図50 土坑・ピット配置図13

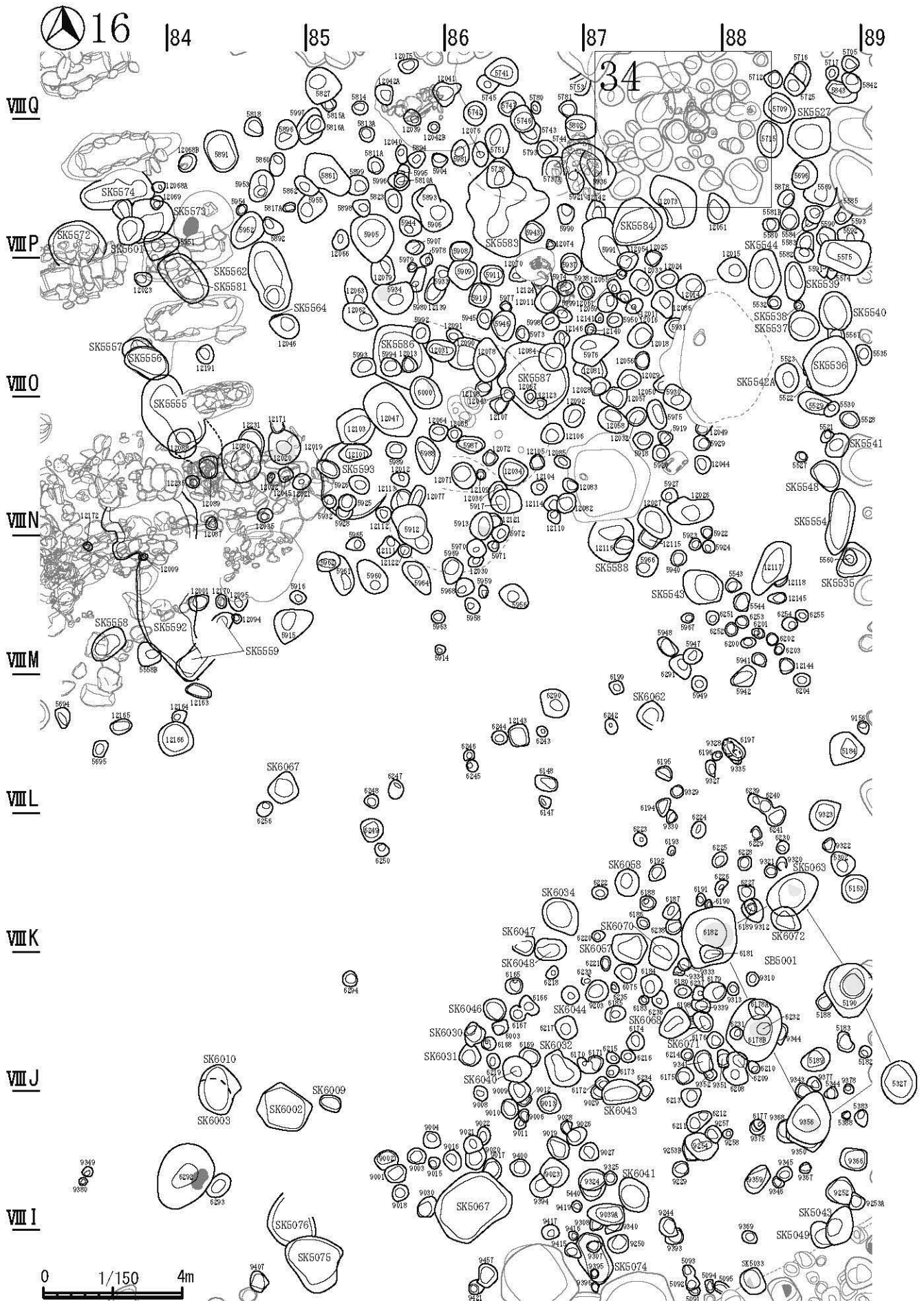


図53 土坑・ピット配置図16

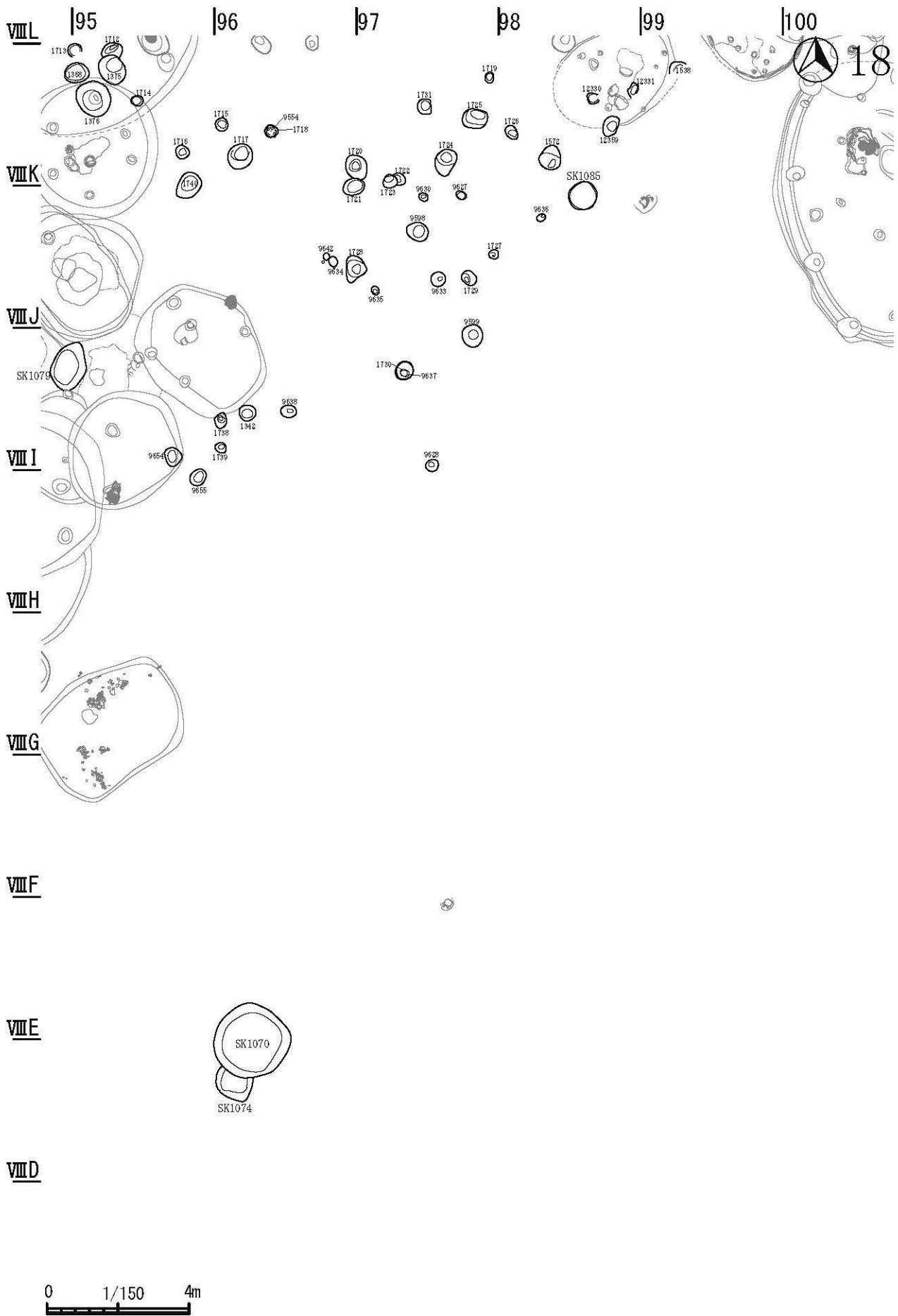


図55 土坑・ピット配置図18

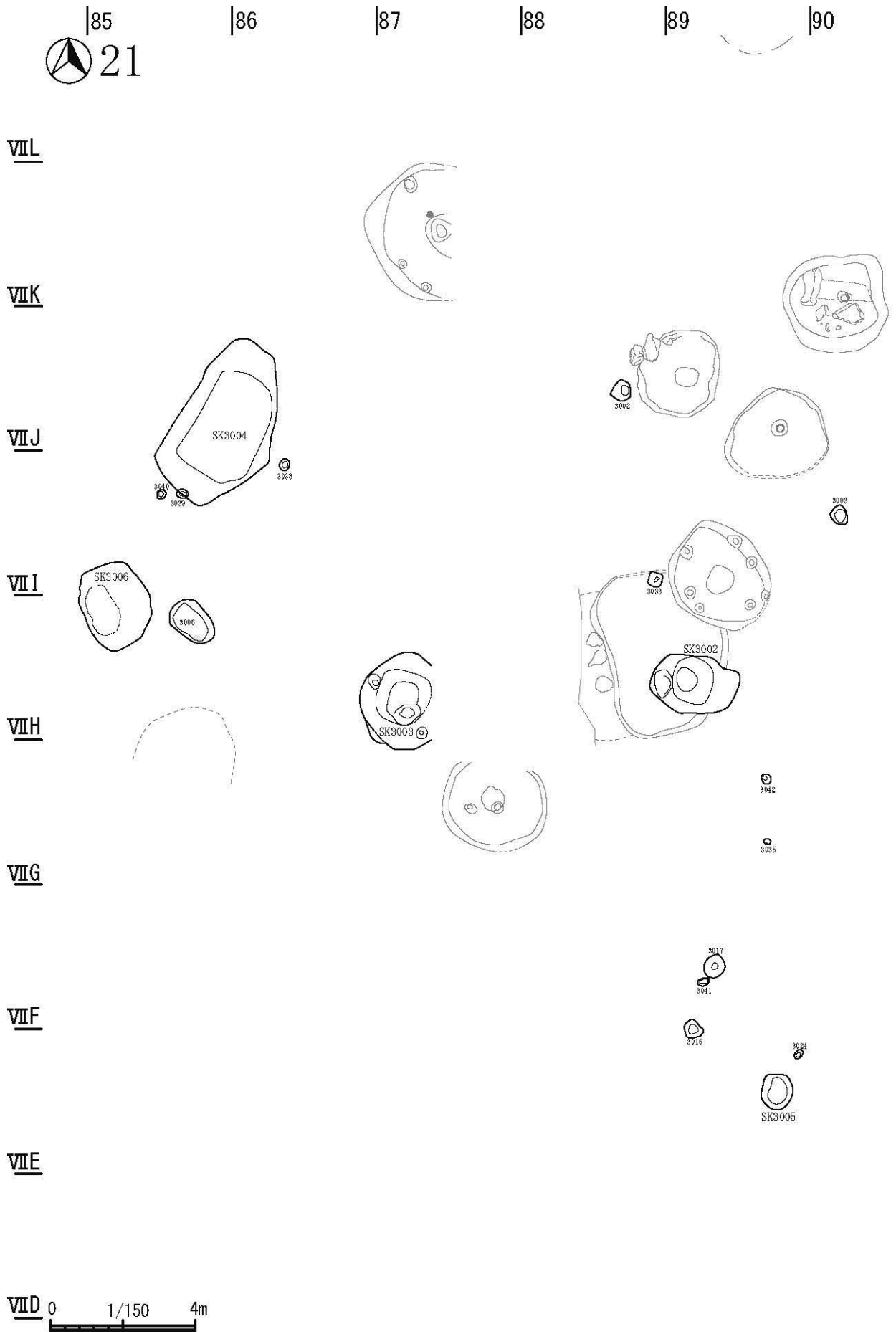


図58 土坑・ピット配置図21



図59 土坑・ピット配置図22

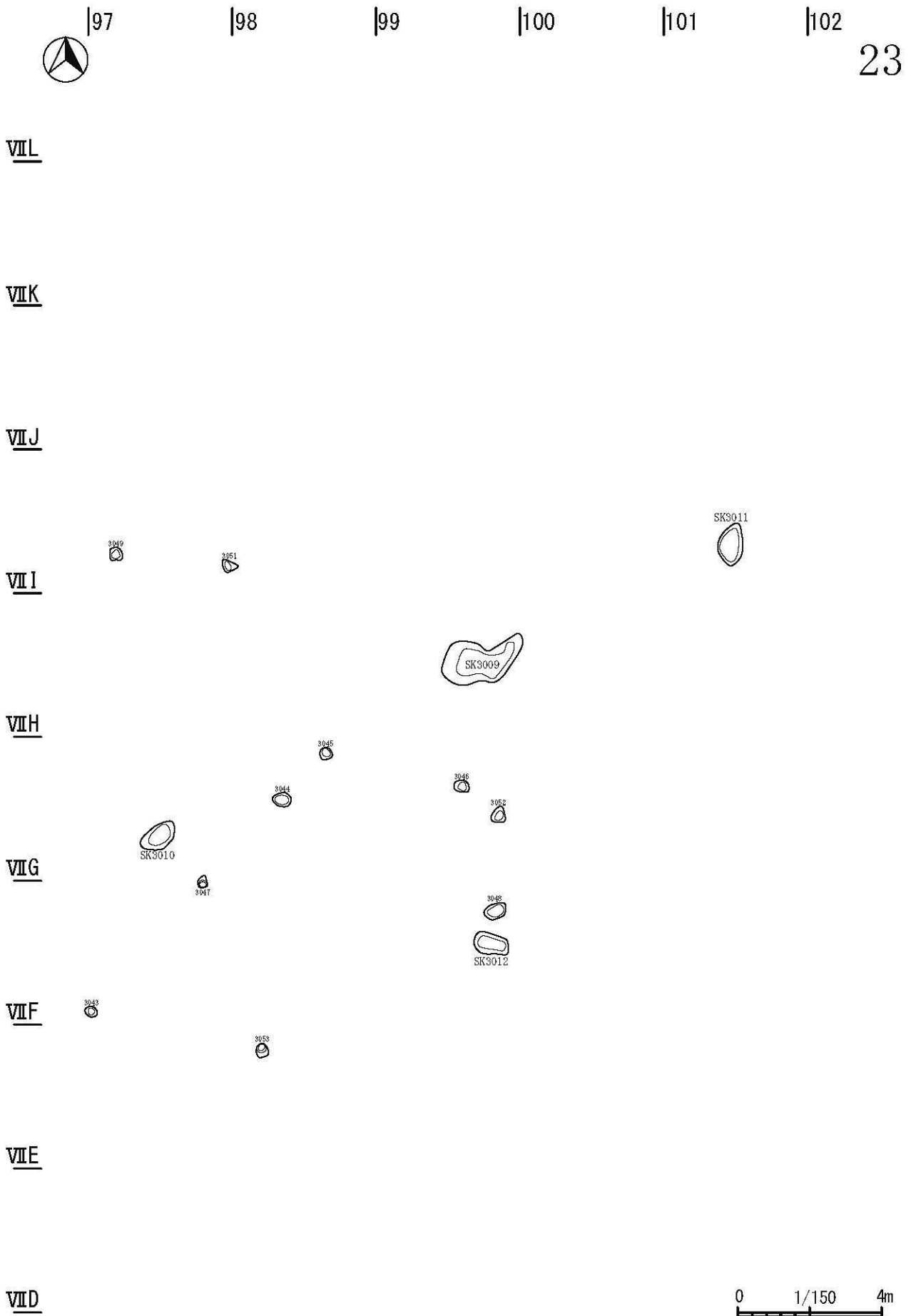


図60 土坑・ピット配置図23

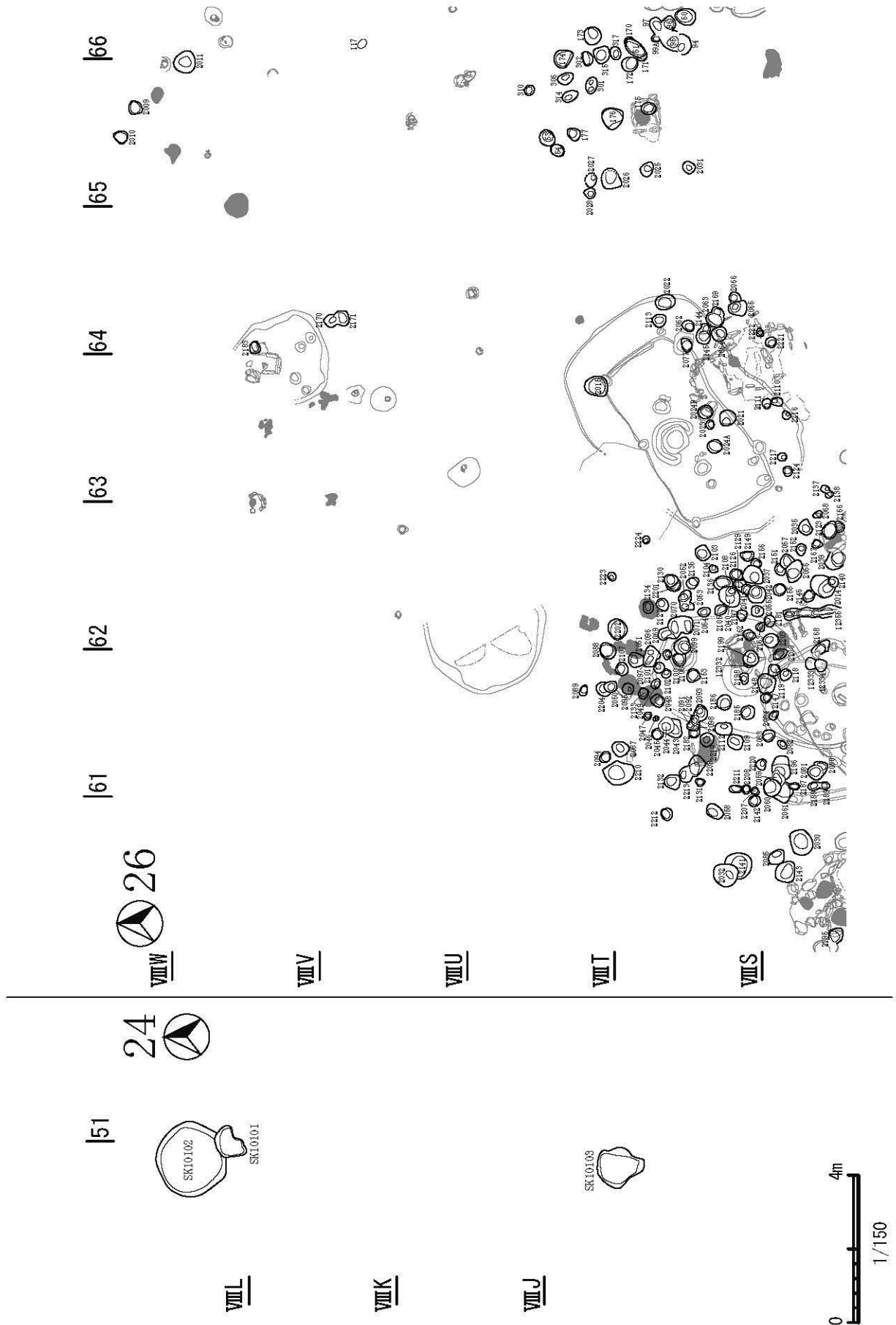


図61 土坑・ピット配置図24・26

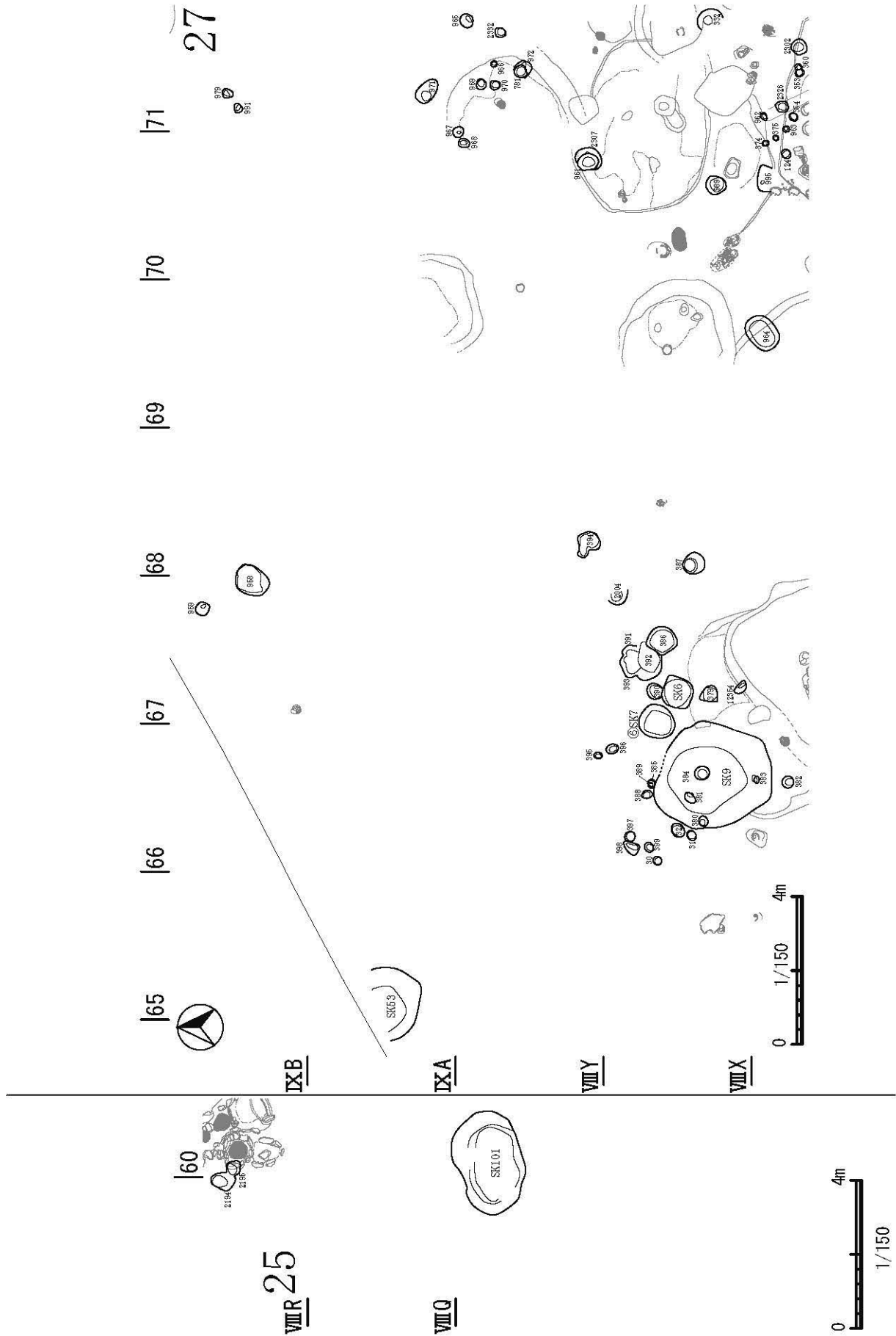


図62 土坑・ピット配置図25・27

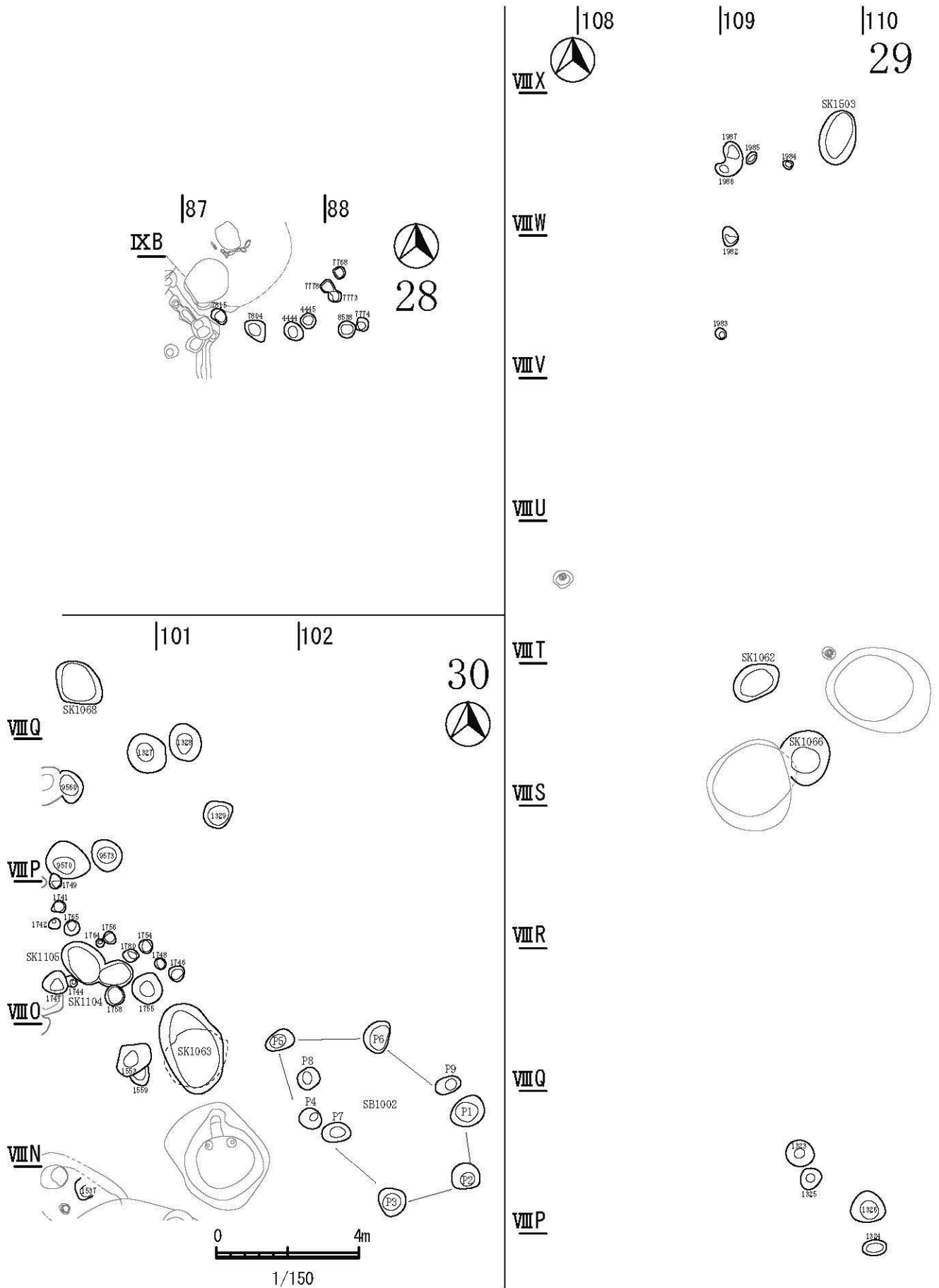


図63 土坑・ピット配置図28~30

VIII X

|85

|86

|87

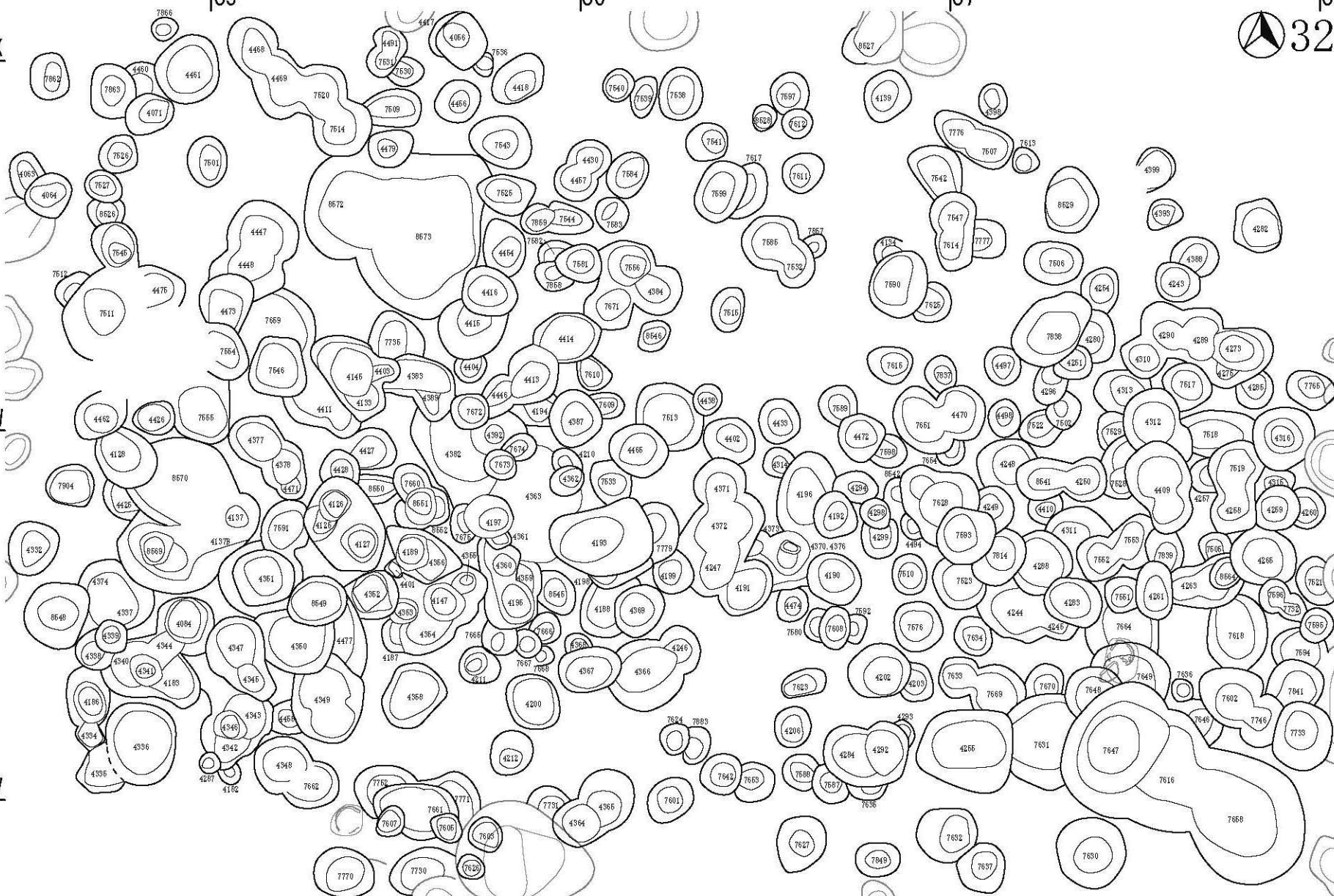
|88



- 103 -

VIII W

VIII V



1/60

図65 土坑・ピット配置図32

図

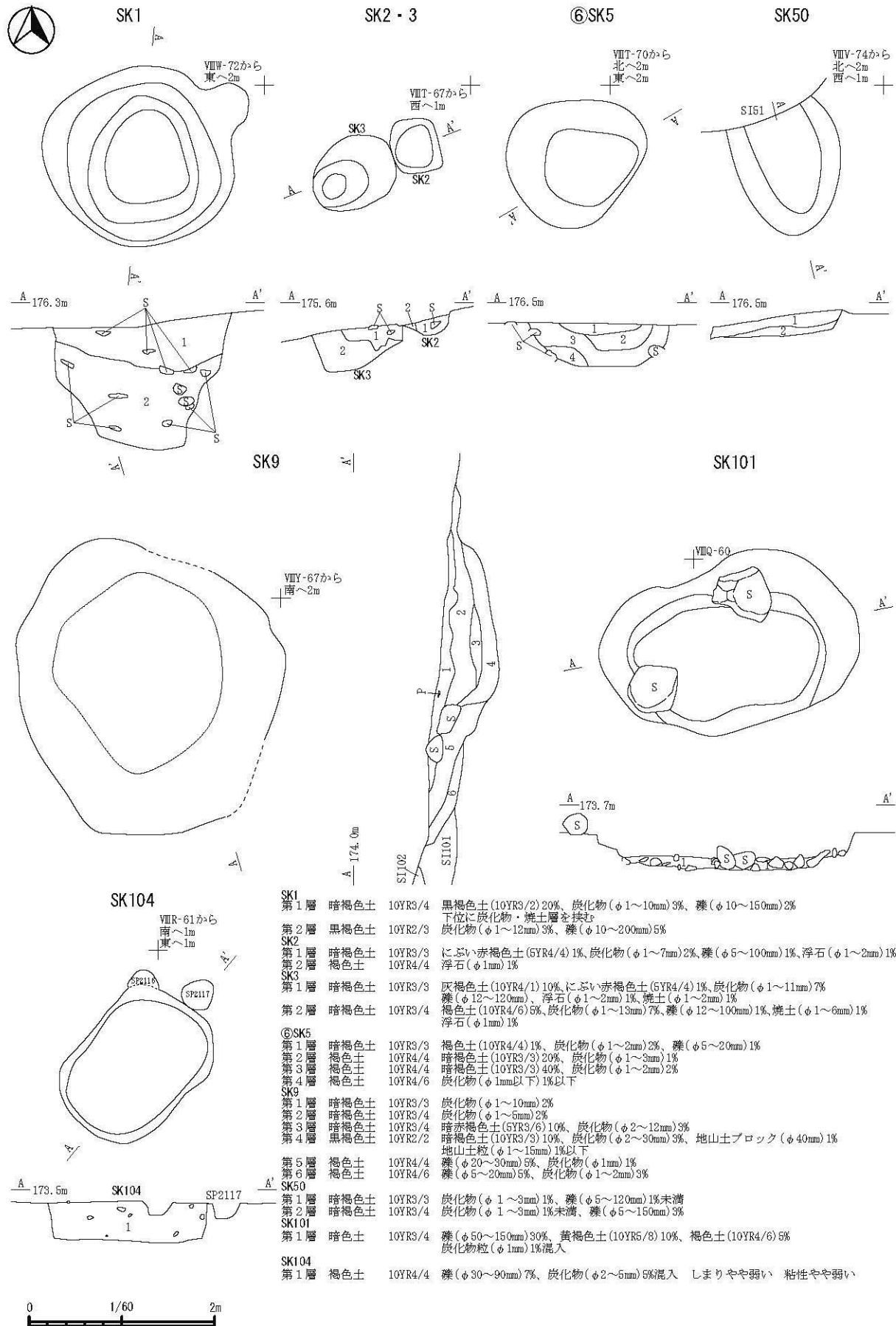
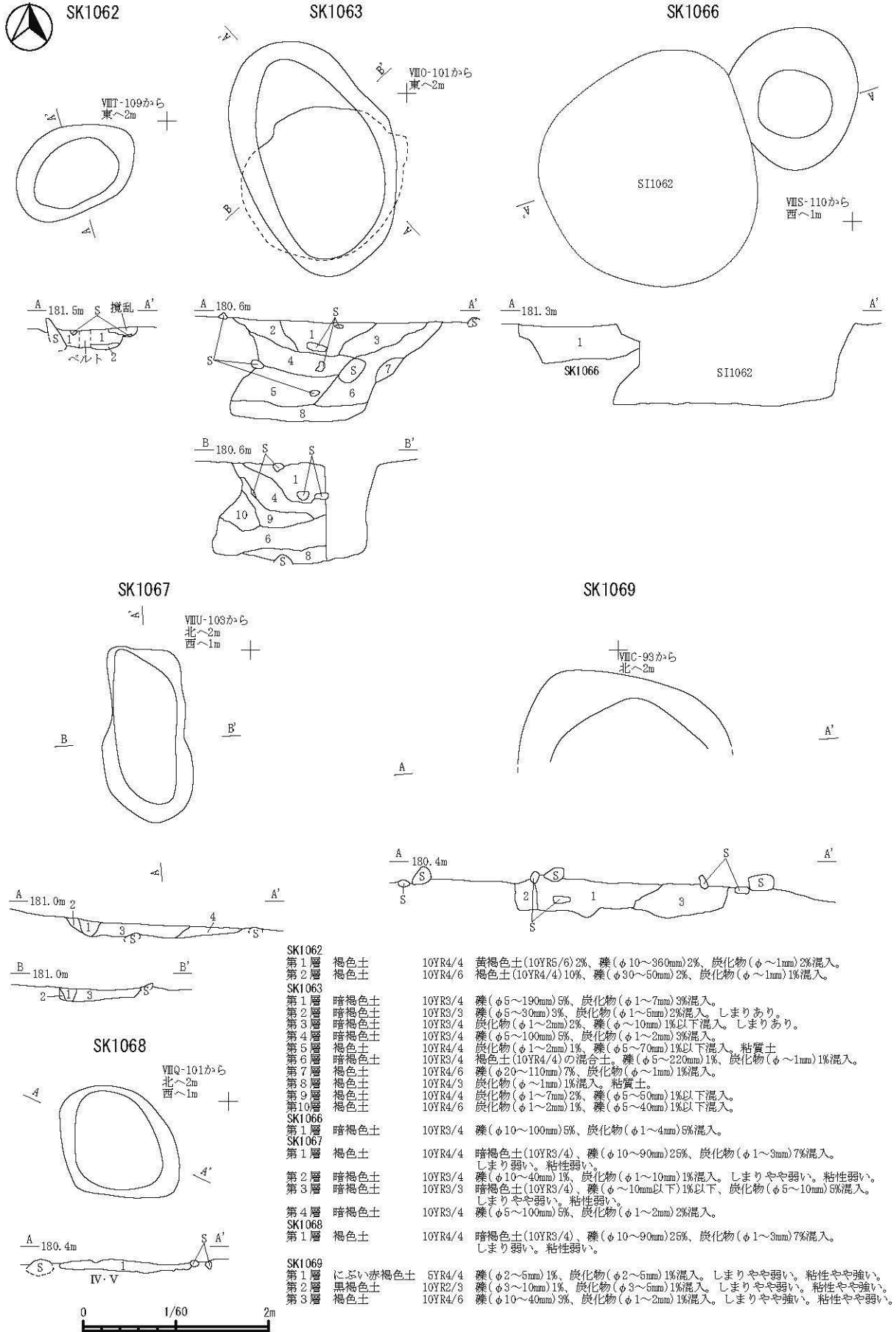
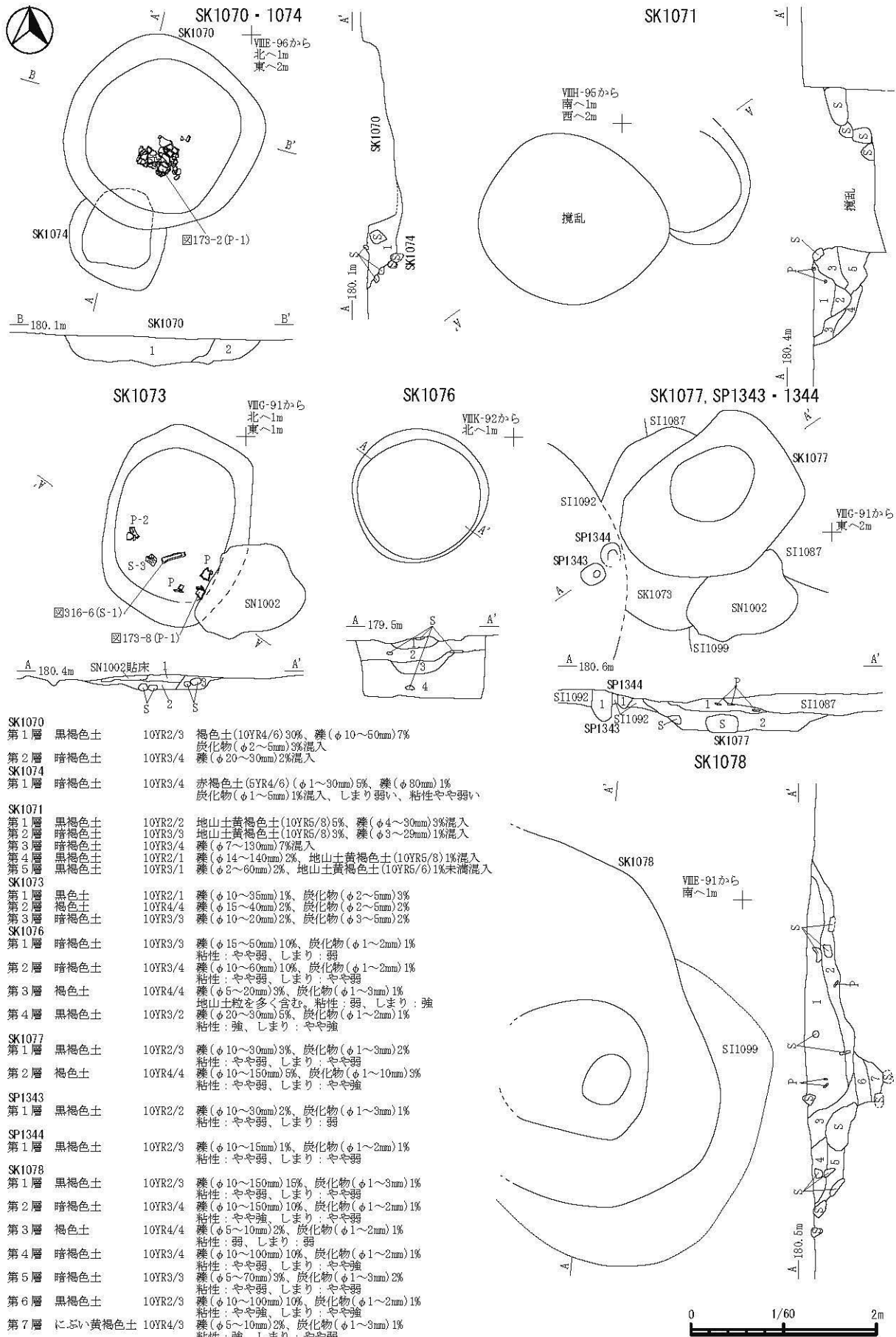


図67 土坑1(SK1~104)



SK1062	第1層 褐色土	10YR4/4	黄褐色土(10YR5/6)2%、礫(φ10~360mm)2%、炭化物(φ~1mm)2%混入。
	第2層 褐色土	10YR4/6	褐色土(10YR4/4)10%、礫(φ30~50mm)2%、炭化物(φ~1mm)1%混入。
SK1063	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~190mm)5%、炭化物(φ1~7mm)3%混入。
	第2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~30mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%混入。しまりあり。
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ~10mm)1%以下混入。しまりあり。
	第4層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%混入。
	第5層 褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ5~70mm)1%以下混入。粘質土
	第6層 暗褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/4)の混合土。礫(φ5~220mm)1%、炭化物(φ~1mm)1%混入。
	第7層 褐色土	10YR4/6	礫(φ20~110mm)7%、炭化物(φ~1mm)1%混入。
	第8層 褐色土	10YR4/3	炭化物(φ~1mm)1%混入。粘質土。
	第9層 褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~7mm)2%、礫(φ5~50mm)1%以下混入。
	第10層 褐色土	10YR4/6	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ5~40mm)1%以下混入。
SK1066	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~4mm)5%混入。
SK1067	第1層 褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)、礫(φ10~90mm)25%、炭化物(φ1~3mm)7%混入。しまり弱い。粘性弱い。
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~40mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%混入。しまりやや弱い。粘性弱い。
	第3層 暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)、礫(φ~10mm以下)1%以下、炭化物(φ5~10mm)5%混入。しまりやや弱い。粘性弱い。
	第4層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)2%混入。
SK1068	第1層 褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)、礫(φ10~90mm)25%、炭化物(φ1~3mm)7%混入。しまり弱い。粘性弱い。
SK1069	第1層 にぶい赤褐色土	5YR4/4	礫(φ2~5mm)1%、炭化物(φ2~5mm)1%混入。しまりやや弱い。粘性やや強い。
	第2層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ3~10mm)1%、炭化物(φ3~5mm)1%混入。しまりやや弱い。粘性やや強い。
	第3層 褐色土	10YR4/6	礫(φ10~40mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%混入。しまりやや強い。粘性やや弱い。

図68 土坑2(SK1062~1069)



SK1070			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	褐色土(10YR4/6)30%、礫(φ10~50mm)7% 炭化物(φ2~5mm)3%混入
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~30mm)2%混入
SK1074			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	赤褐色土(5YR4/6)(φ1~30mm)5%、礫(φ80mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%混入、しまり弱、粘性やや弱
SK1071			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	地山土黄褐色土(10YR5/8)5%、礫(φ4~30mm)3%混入
第2層	暗褐色土	10YR3/3	地山土黄褐色土(10YR5/8)3%、礫(φ3~29mm)1%混入
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ7~130mm)7%混入
第4層	黒褐色土	10YR2/1	礫(φ14~140mm)2%、地山土黄褐色土(10YR5/8)1%混入
第5層	黒褐色土	10YR3/1	礫(φ2~60mm)2%、地山土黄褐色土(10YR5/6)1%未混入
SK1073			
第1層	黒色土	10YR2/1	礫(φ10~35mm)1%、炭化物(φ2~5mm)3%
第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ15~40mm)2%、炭化物(φ2~5mm)2%
第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~20mm)2%、炭化物(φ3~5mm)2%
SK1076			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ15~50mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:やや弱、しまり:弱
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~60mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:やや弱、しまり:やや弱
第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ5~20mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1% 地山土粒を多く含む、粘性:弱、しまり:強
第4層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ20~30mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:強、しまり:やや強
SK1077			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2% 粘性:やや弱、しまり:やや弱
第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~150mm)5%、炭化物(φ1~10mm)3% 粘性:やや弱、しまり:やや強
SP1343			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1% 粘性:やや弱、しまり:弱
SP1344			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~15mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:やや弱、しまり:やや弱
SK1078			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~150mm)15%、炭化物(φ1~3mm)1% 粘性:やや弱、しまり:やや弱
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:やや強、しまり:やや弱
第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ5~10mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:弱、しまり:弱
第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:やや弱、しまり:やや強
第5層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~70mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2% 粘性:やや弱、しまり:やや弱
第6層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性:やや強、しまり:やや強
第7層	ぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ5~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1% 粘性:強、しまり:やや弱

図69 土坑3(SK1070~1078)

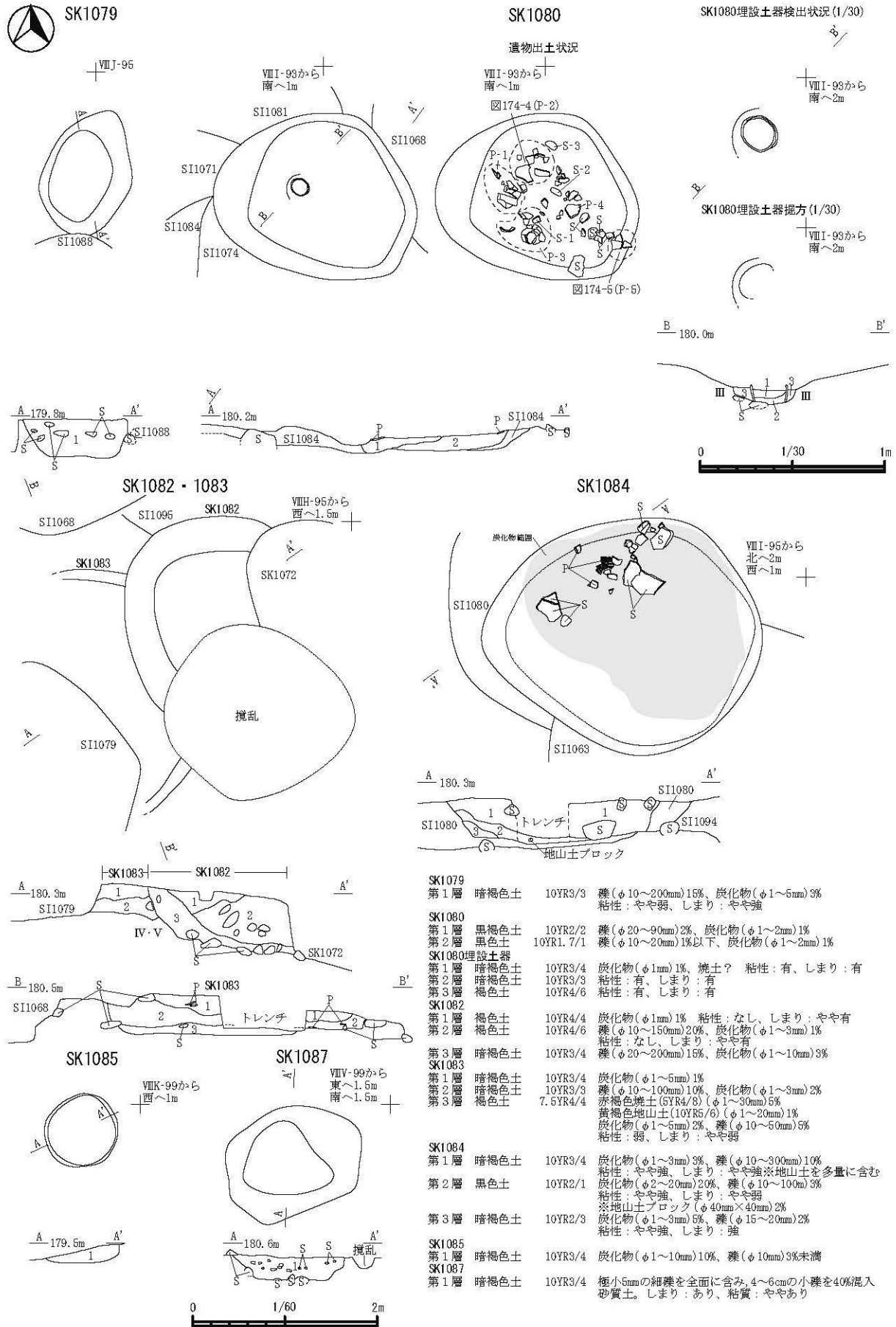
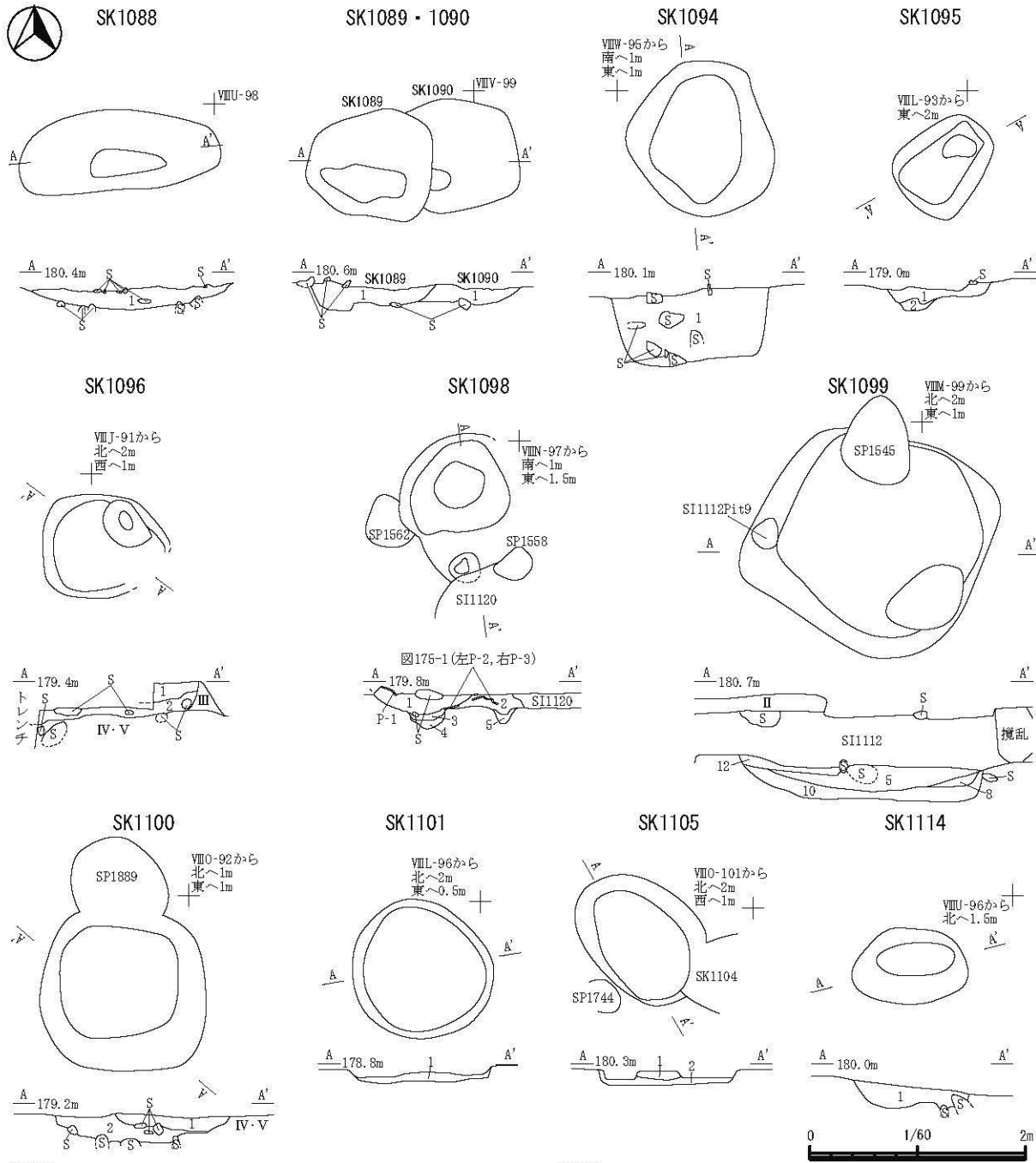


図70 土坑4(SK1079~1087)



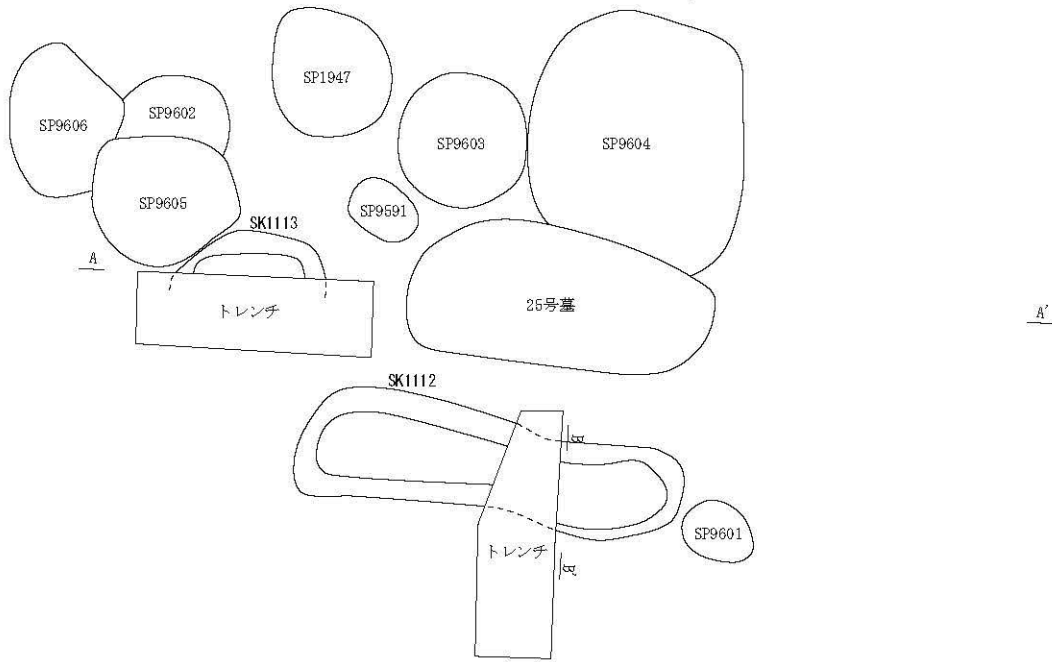
SK1088	第1層	暗褐色土	10YR3/4	小礫(φ40~100mm)30%混入, 1層の中央付近に集中して出土 砂質土。しまり: あり, 粘性: ややあり	SK1099	第5層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~150mm)3%, 炭化物(φ1~5mm)3% 掘方
SK1089	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~150mm)5% 粘質土。しまり: やや強 粘性: やや弱	第8層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~20mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%	
SK1090	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)10% 砂質土。しまり: 弱, 粘性: やや弱	第10層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~50mm)10%, 炭化物(φ1mm)1%	
SK1094	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm)2%, 礫(φ10~240mm)25% 粘質土。 しまり: やや強, 粘性: 弱	第12層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~10mm)1%, 炭化物(φ1mm)1% 本層上面がSI1112床面	
SK1095	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~20mm)3%, 炭化物(φ1~3mm)2% 5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%	SK1100	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ2~70mm)3%, 炭化物(φ1~8mm)3%
SK1096	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~40mm)20%, 炭化物(φ1mm)1%	第2層	黒褐色土	10YR2/2	5YR4/8赤褐色焼土10%, 礫(φ4~220mm)5% 炭化物(φ6~30mm)5%	
SK1098	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~30mm)1%, 炭化物(φ1~8mm)1%	SK1101	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ3~30mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%未満
SK1098	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~260mm)3%, 炭化物(φ1~5mm)1%	SK1105	第1層	褐色土	10YR4/3	炭化物(φ1~2mm)1%
SK1098	第3層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~280mm)10%, 炭化物(φ1~6mm)2%	第2層	にぶい黄褐色土	10YR5/4		
SK1098	第4層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~20mm)2%, 炭化物(φ1~2mm)1%	SK1114	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ4~150mm)10% 炭化物(φ2~20mm)2%
SK1098	第5層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~70mm)5%, 炭化物(φ1~5mm)1%					
SK1098	第5層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%					
SK1098	第5層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~10mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%					

図71 土坑5(SK1088~1114)



SK1112・1113

VIIIW-97から
東へ2m



- SK1112
第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 細砂粒(φ1~2mm)20%、小礫(φ5~20mm)15%混入
- SK1113
第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 砂礫(φ1~2mm)50%、小礫(φ10~50mm)50%、砂がまだら状に混入

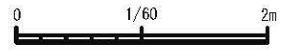
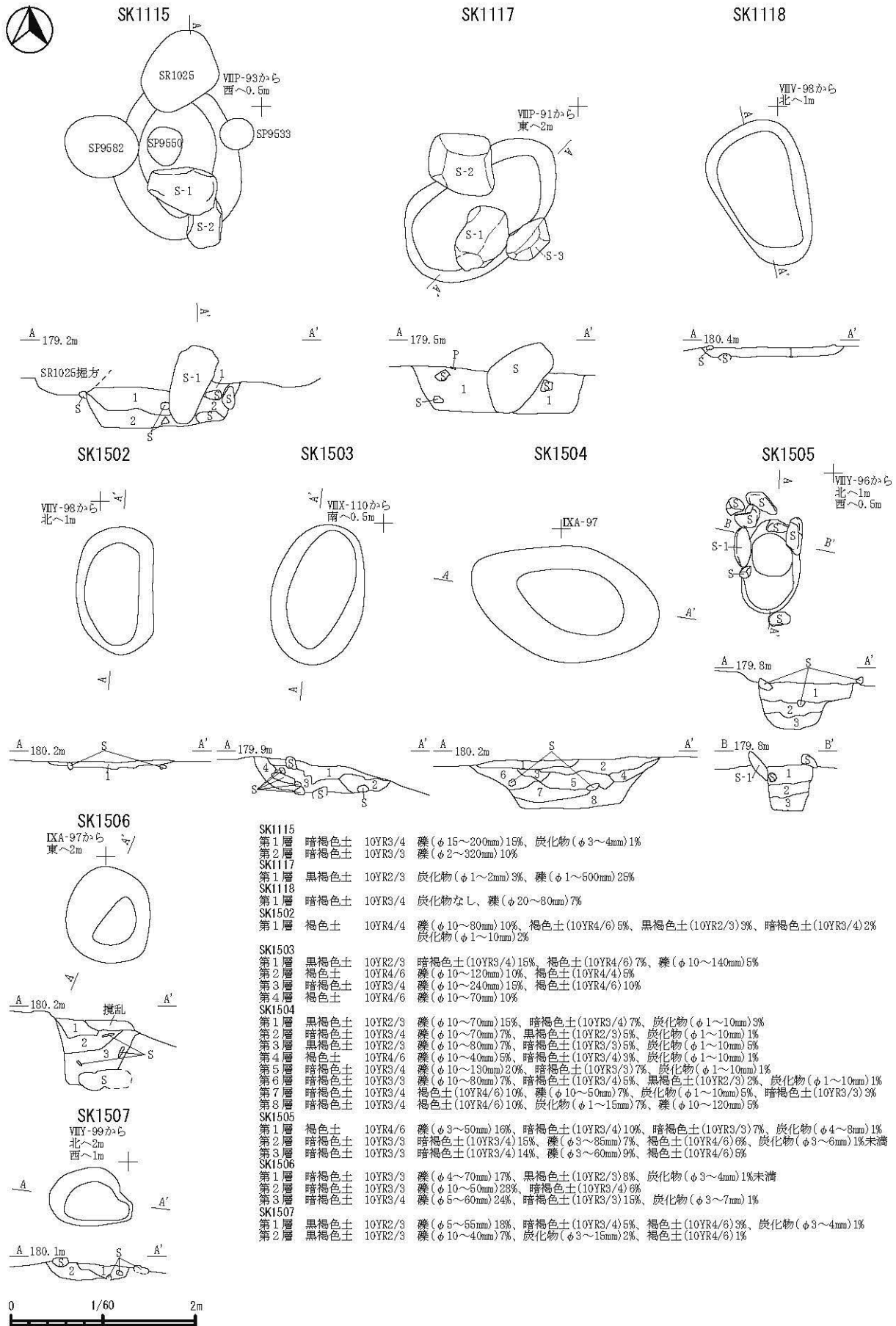


図72 土坑6(SK1112・1113)



SK1115	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ 15~200mm) 15%、炭化物 (φ 3~4mm) 1%
SK1117	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 2~320mm) 10%
SK1118	第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 (φ 1~2mm) 3%、礫 (φ 1~500mm) 25%
SK1502	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物なし、礫 (φ 20~80mm) 7%
SK1503	第1層	褐色土	10YR4/4	礫 (φ 10~80mm) 10%、褐色土 (10YR4/6) 5%、黒褐色土 (10YR2/3) 3%、暗褐色土 (10YR3/4) 2%
SK1504	第1層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土 (10YR3/4) 15%、褐色土 (10YR4/6) 7%、礫 (φ 10~140mm) 5%
SK1505	第2層	褐色土	10YR4/6	礫 (φ 10~120mm) 10%、褐色土 (10YR4/6) 5%
SK1505	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~240mm) 15%、褐色土 (10YR4/6) 10%
SK1505	第4層	褐色土	10YR4/6	礫 (φ 10~70mm) 10%
SK1506	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ 10~70mm) 15%、暗褐色土 (10YR3/4) 7%、炭化物 (φ 1~10mm) 3%
SK1506	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ 10~70mm) 7%、黒褐色土 (10YR2/3) 5%、炭化物 (φ 1~10mm) 1%
SK1506	第3層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ 10~80mm) 7%、暗褐色土 (10YR3/3) 5%、炭化物 (φ 1~10mm) 5%
SK1506	第4層	褐色土	10YR4/6	礫 (φ 10~40mm) 5%、暗褐色土 (10YR3/4) 3%、炭化物 (φ 1~10mm) 1%
SK1506	第5層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ 10~130mm) 20%、暗褐色土 (10YR3/3) 7%、炭化物 (φ 1~10mm) 1%
SK1506	第6層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~80mm) 7%、暗褐色土 (10YR3/4) 5%、黒褐色土 (10YR2/3) 2%、炭化物 (φ 1~10mm) 1%
SK1506	第7層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土 (10YR4/6) 10%、礫 (φ 10~50mm) 7%、炭化物 (φ 1~10mm) 5%、暗褐色土 (10YR3/3) 3%
SK1506	第8層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土 (10YR4/6) 10%、炭化物 (φ 1~15mm) 7%、礫 (φ 10~120mm) 5%
SK1507	第1層	褐色土	10YR4/6	礫 (φ 3~50mm) 16%、暗褐色土 (10YR3/4) 10%、暗褐色土 (10YR3/3) 7%、炭化物 (φ 4~8mm) 1%
SK1507	第2層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土 (10YR3/4) 15%、礫 (φ 3~85mm) 7%、褐色土 (10YR4/6) 6%、炭化物 (φ 3~6mm) 1%未済
SK1507	第3層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土 (10YR3/4) 14%、礫 (φ 3~60mm) 9%、褐色土 (10YR4/6) 5%
SK1507	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 4~70mm) 17%、黒褐色土 (10YR2/3) 8%、炭化物 (φ 3~4mm) 1%未済
SK1507	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~50mm) 23%、暗褐色土 (10YR3/4) 6%
SK1507	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ 5~60mm) 24%、暗褐色土 (10YR3/3) 15%、炭化物 (φ 3~7mm) 1%
SK1507	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ 5~55mm) 13%、暗褐色土 (10YR3/4) 5%、褐色土 (10YR4/6) 3%、炭化物 (φ 3~4mm) 1%
SK1507	第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ 10~40mm) 7%、炭化物 (φ 3~15mm) 2%、褐色土 (10YR4/6) 1%

図73 土坑7 (SK1115~1507)

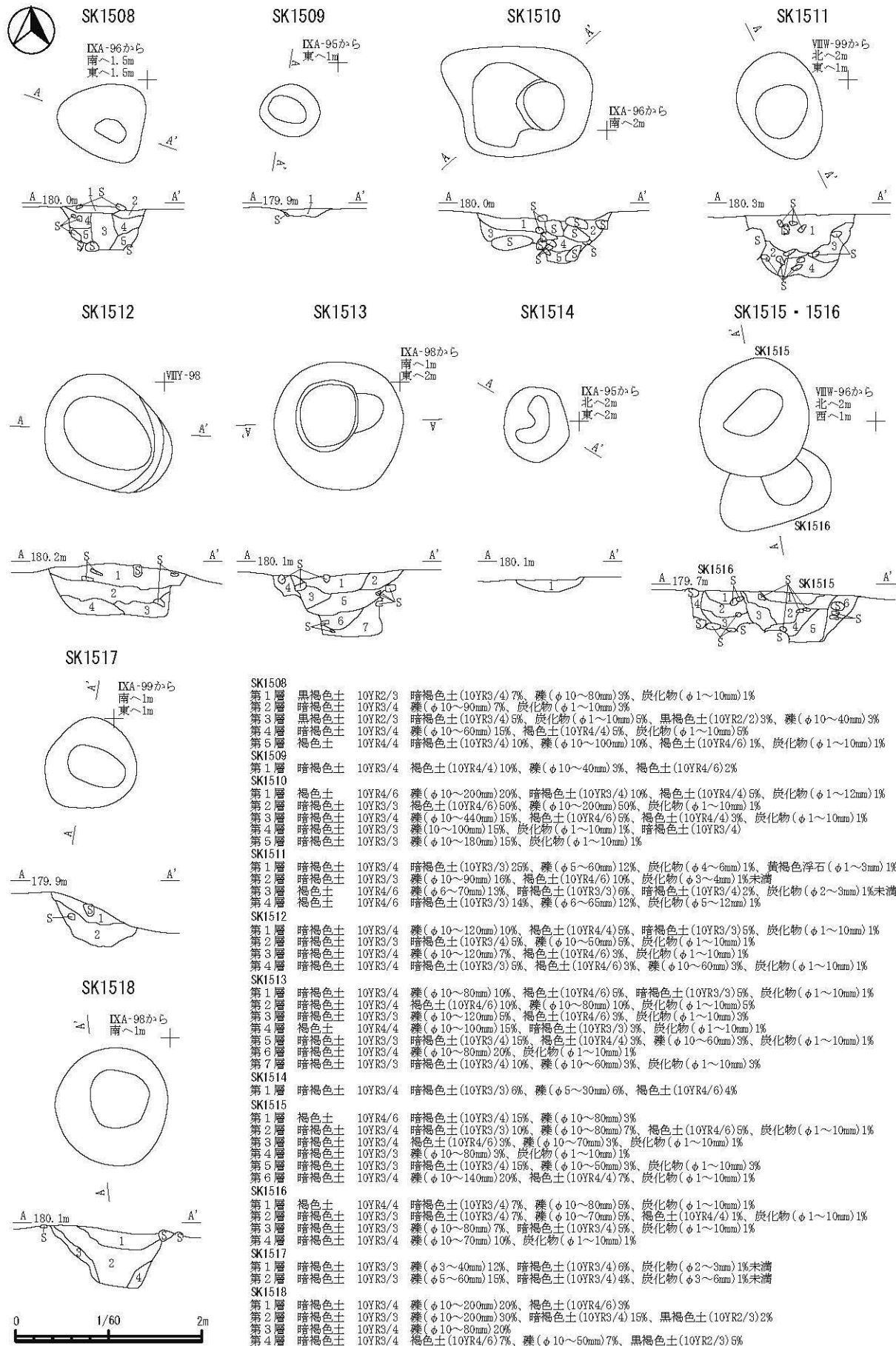


図74 土坑8(SK1508~1518)

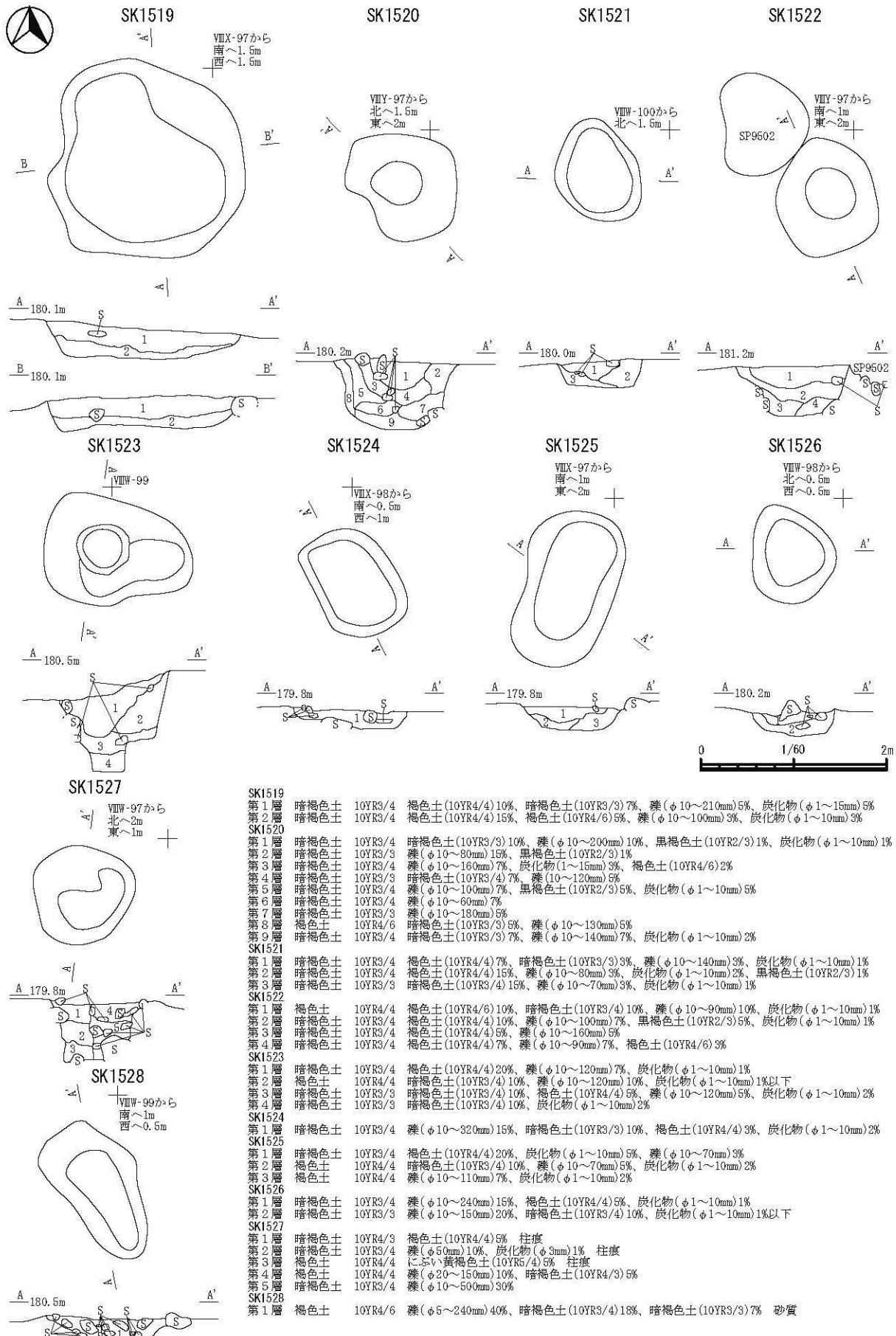


図75 土坑9(SK1519~1528)

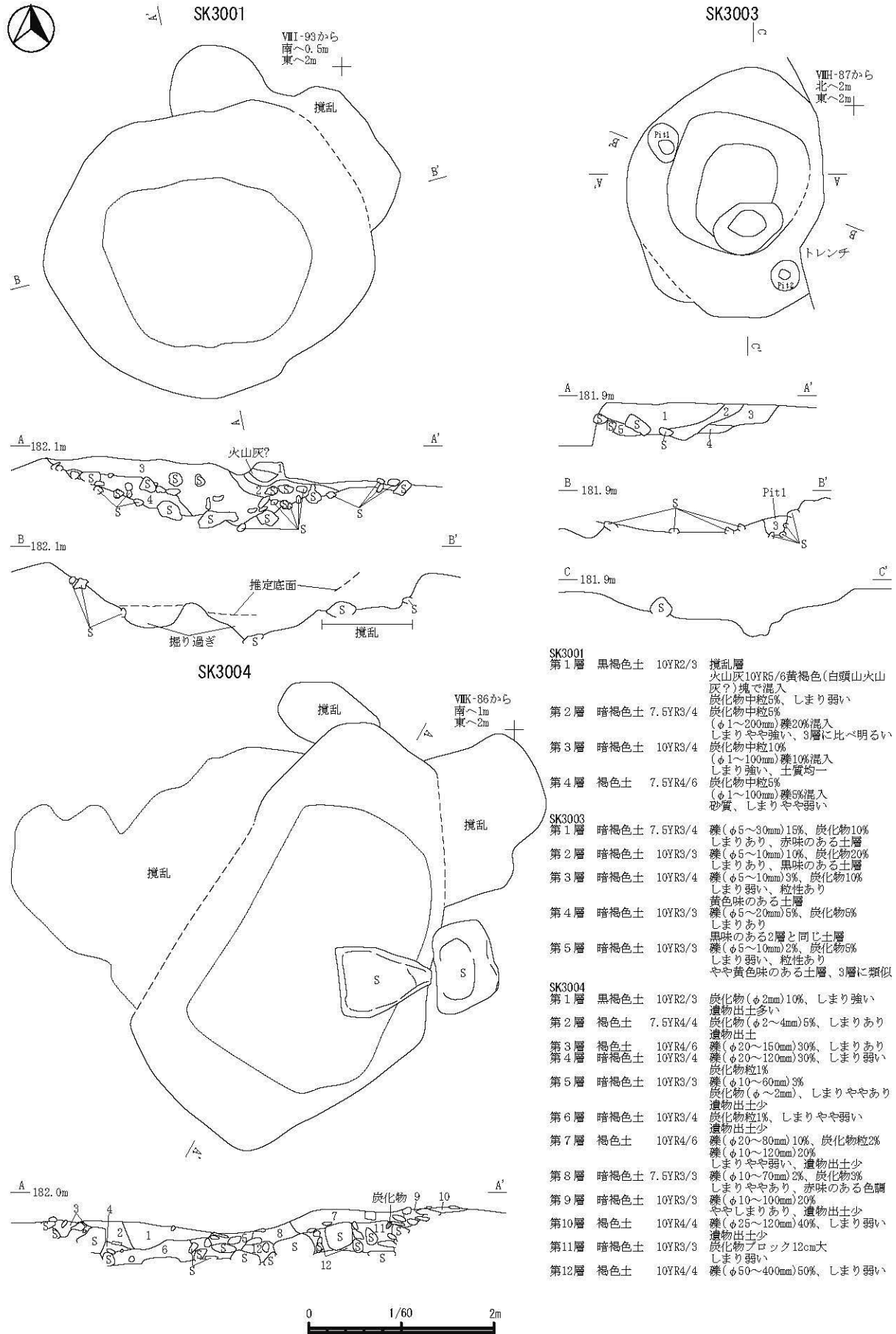


図76 土坑10(SK3001~3004)

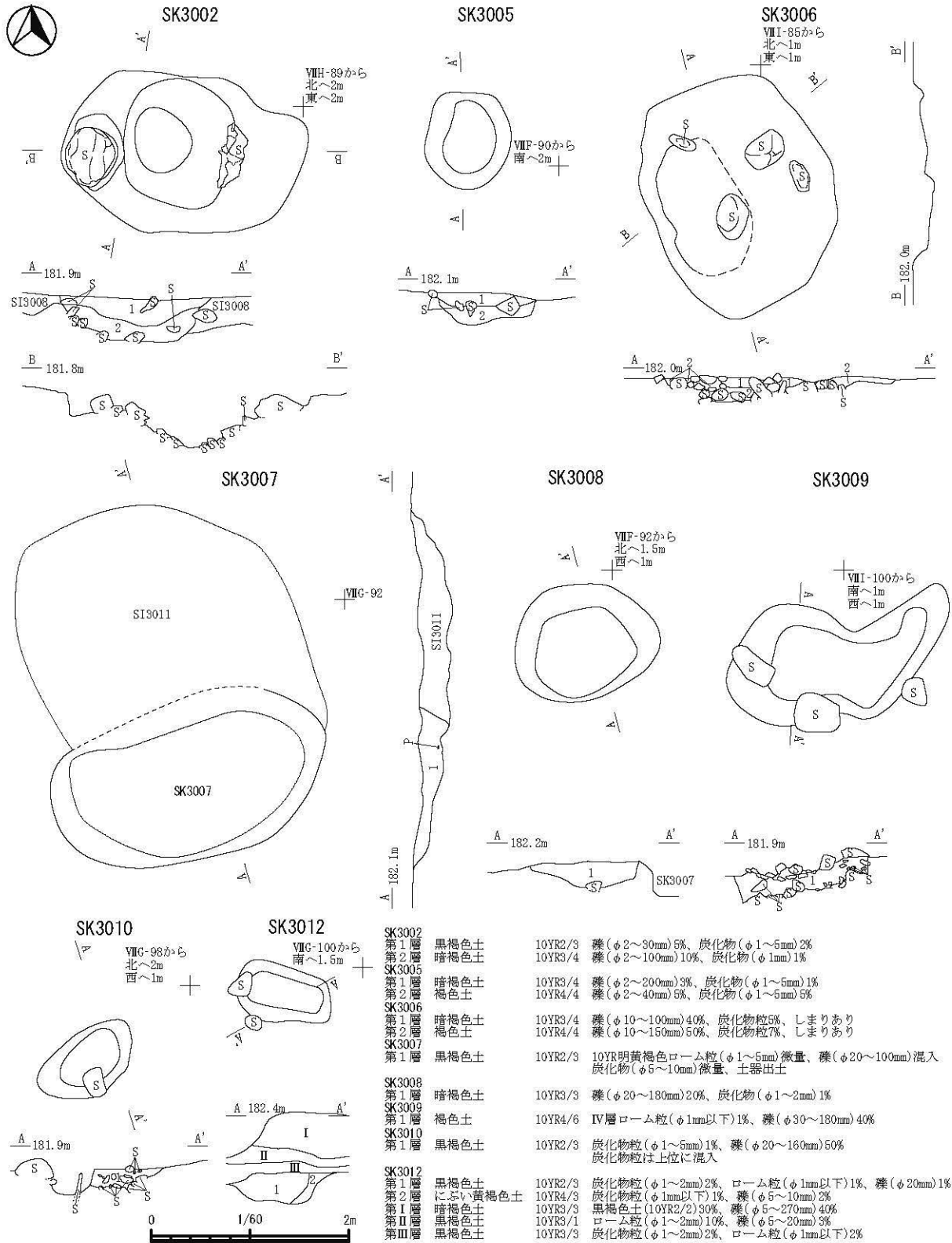
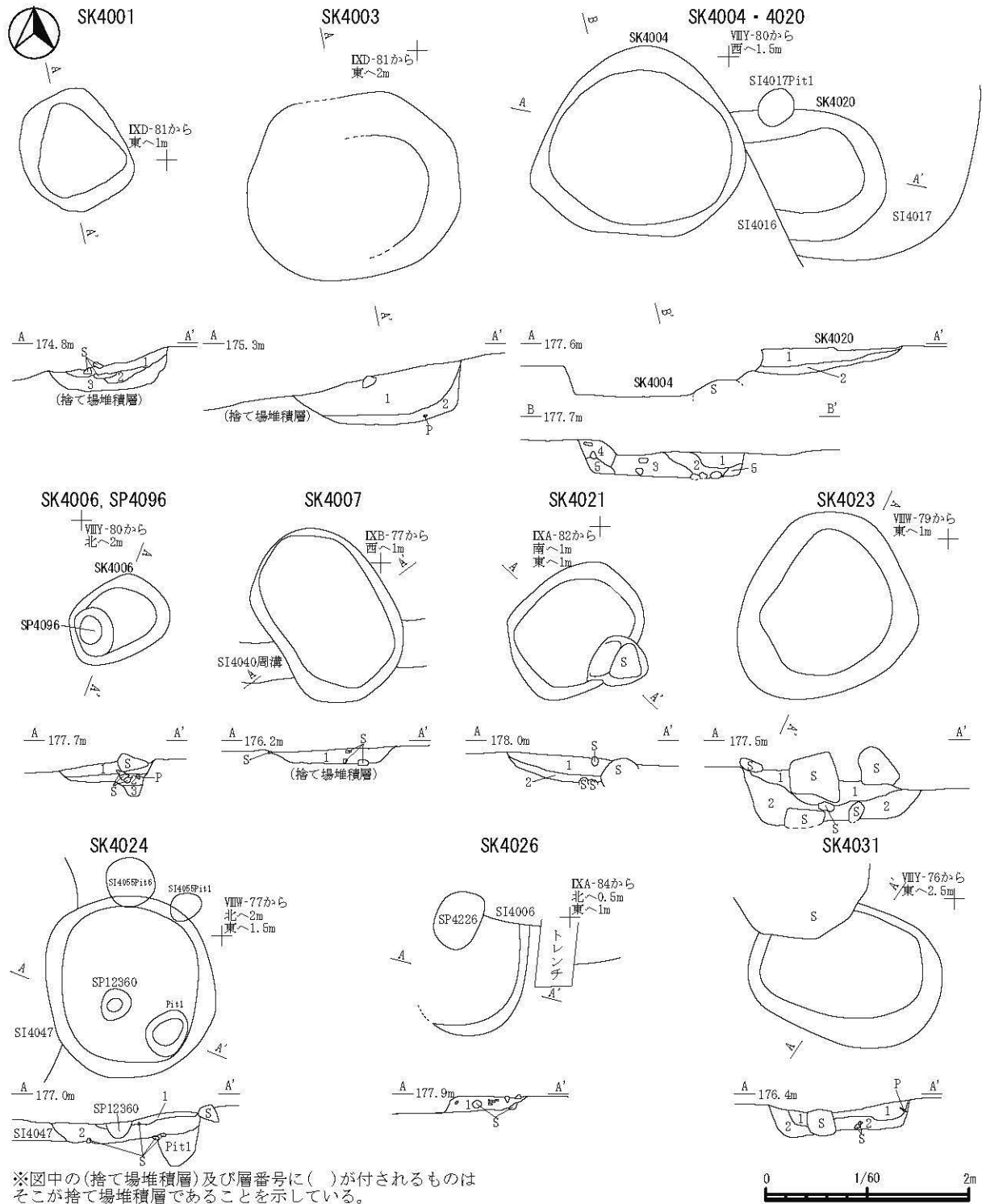


図77 土坑11(SK3002~3012)



※図中の(捨て場堆積層)及び層番号に()が付されるものはそこが捨て場堆積層であることを示している。

SK4001			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ1~10mm)2%、褐色土(10YR4/4)3%
第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~200mm)5%
第3層	褐色土	10YR3/3	
SK4003			
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ30~150mm)3%、炭化物(φ2~15mm)2%
第2層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ25mm)1%、炭化物(φ2mm)2%
SK4004			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ25~65mm)3%、炭化物(φ1~7mm)2%、黄褐色土(10YR5/8)40%
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ25~35mm)1%、炭化物(φ1~4mm)2%、褐色土(10YR4/6)5%
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ35~80mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%、黄褐色土(10YR5/8)20%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ40~60mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%、黄褐色土(10YR5/8)30%
第5層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%、黄褐色土(10YR5/8)10%
SK4020			
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20mm)1%、炭化物(φ1~4mm)1%
第2層	黄褐色土	10YR5/8	
SK4006, SP4096			
第1層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ13~280mm)35%、炭化物(φ2~20mm)2%
第2層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ20~90mm)15%、炭化物(φ1mm)1%
第3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1% SP4096堆積土
SK4007			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ15~90mm)3%、炭化物(φ2~13mm)1%
第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~100mm)3%、炭化物(φ5~10mm)5%
第3層	黄褐色土	10YR5/8	炭化物(φ1~2mm)1%
SK4021			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~340mm)60%、炭化物(φ1mm)1%
第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ15~190mm)25%、炭化物(φ1mm)1%
SK4023			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm)1%
第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%
SK4024			
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~60mm)8%、炭化物粒2%
SK4026			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)20%、礫(φ10~300mm)30%
第2層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物(φ1~2mm)2%
第3層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ10~30mm)7%、炭化物(φ1~3mm)3%

図78 土坑12(SK4001~4031)

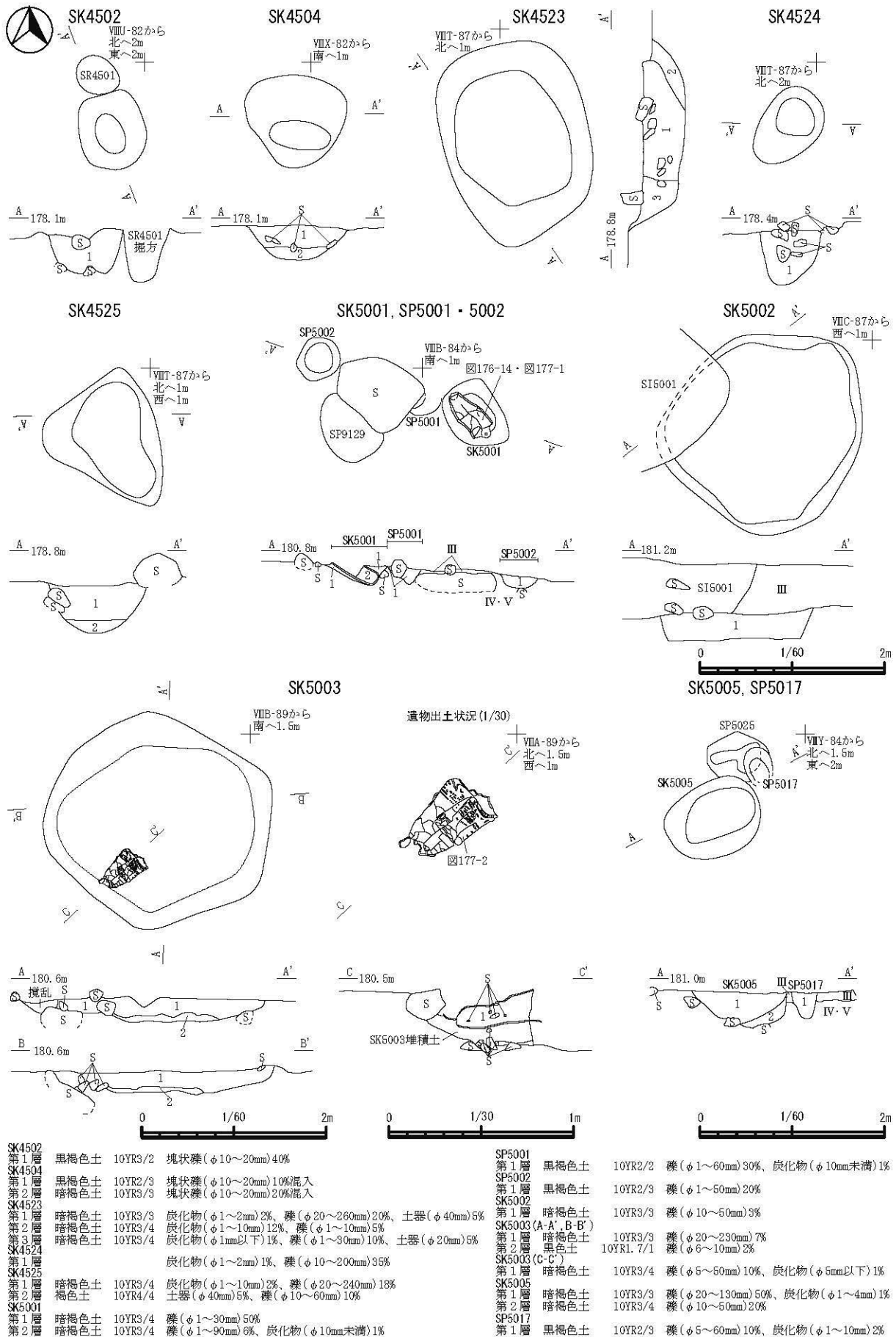


図79 土坑13(SK4502~5005)

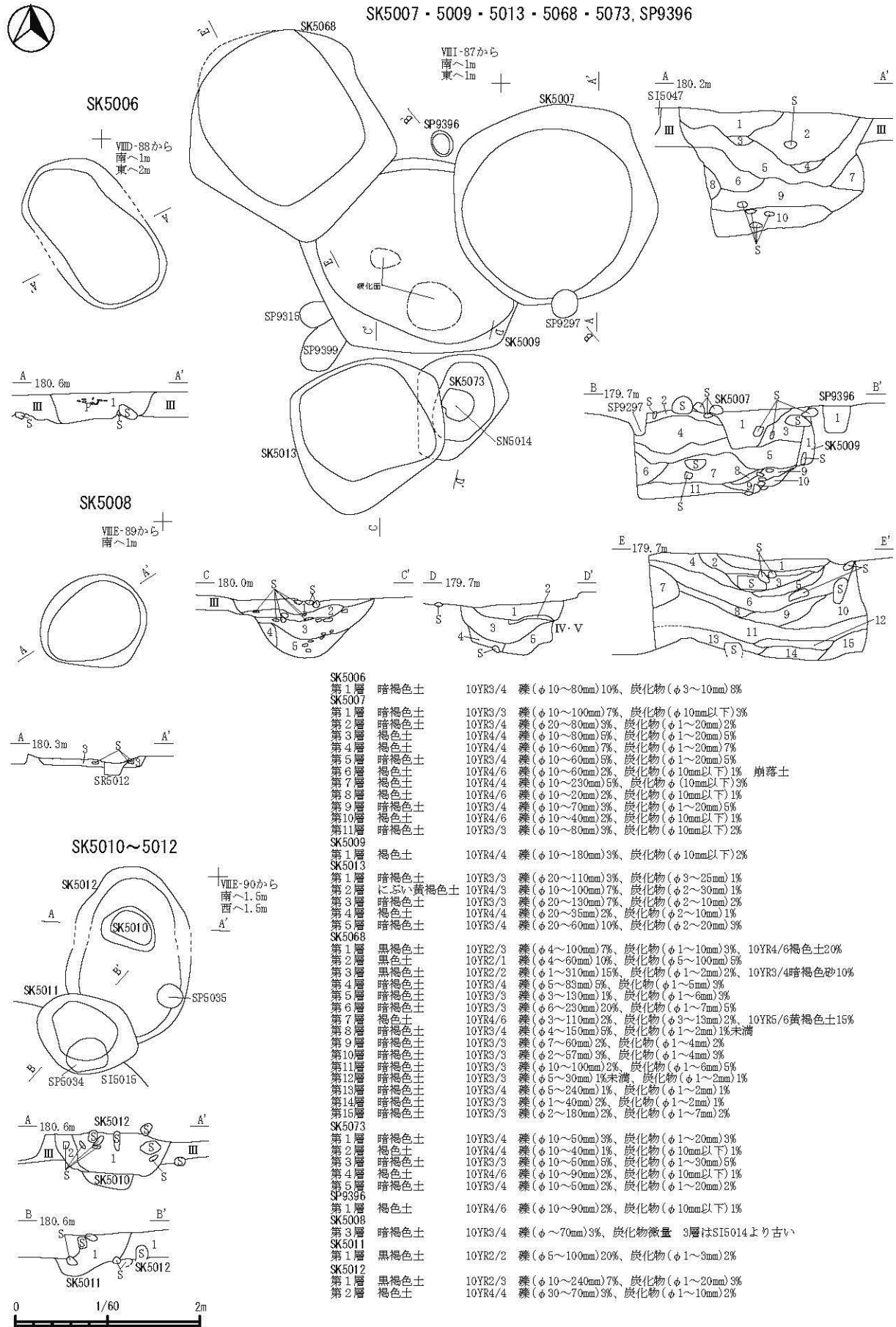


図80 土坑14(SK5006~5012)

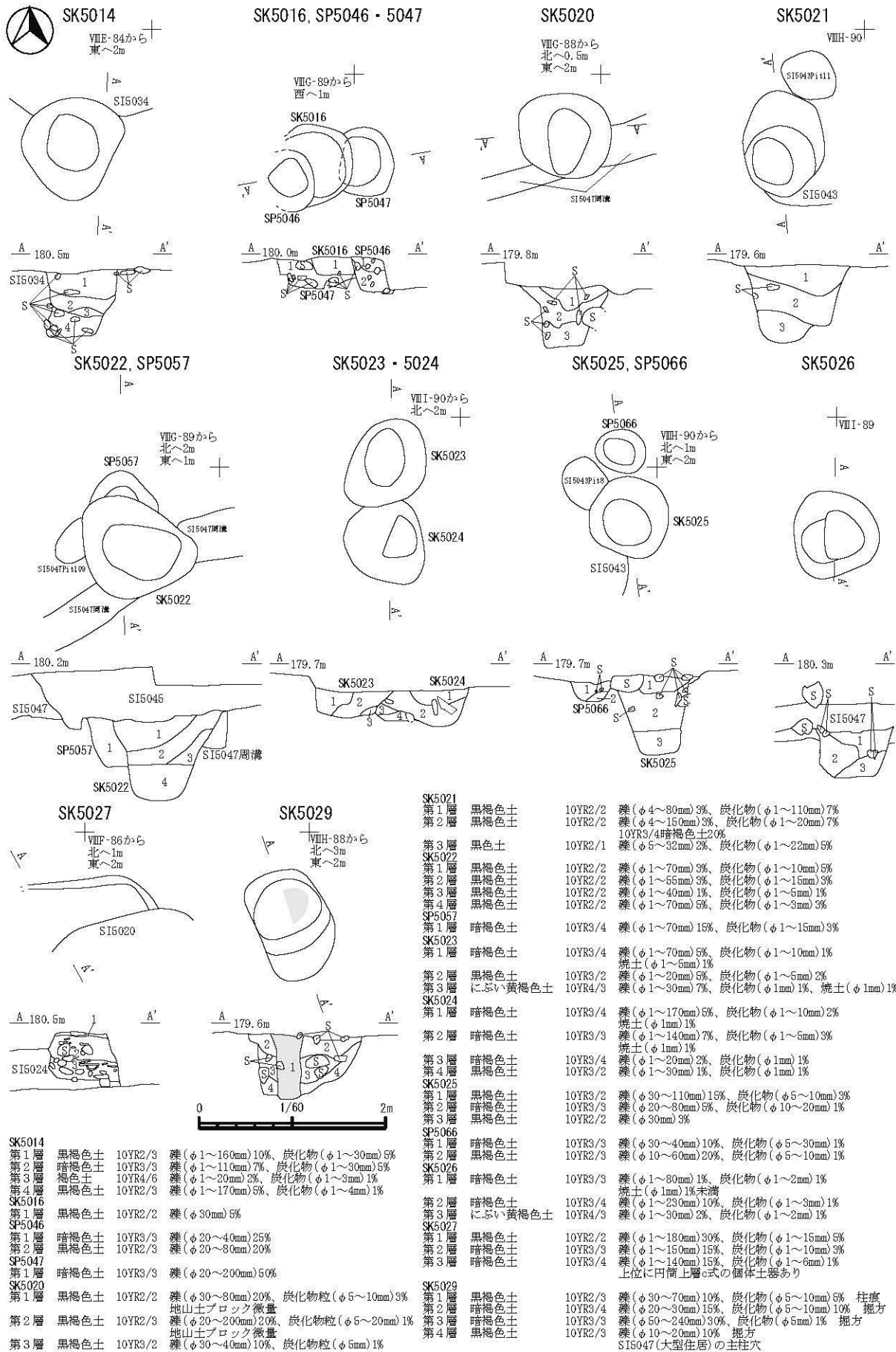


図81 土坑15(SK5014~5029)

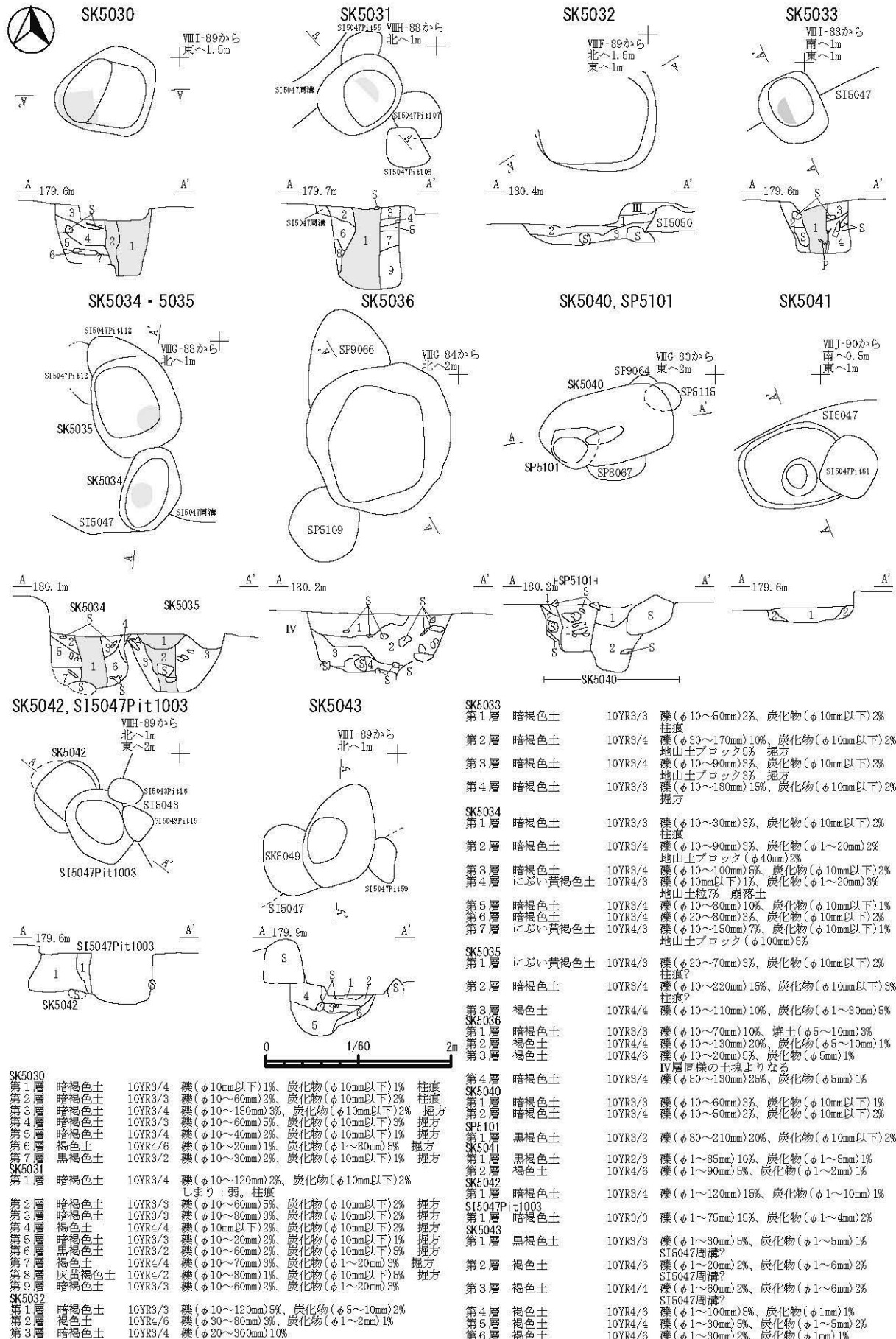
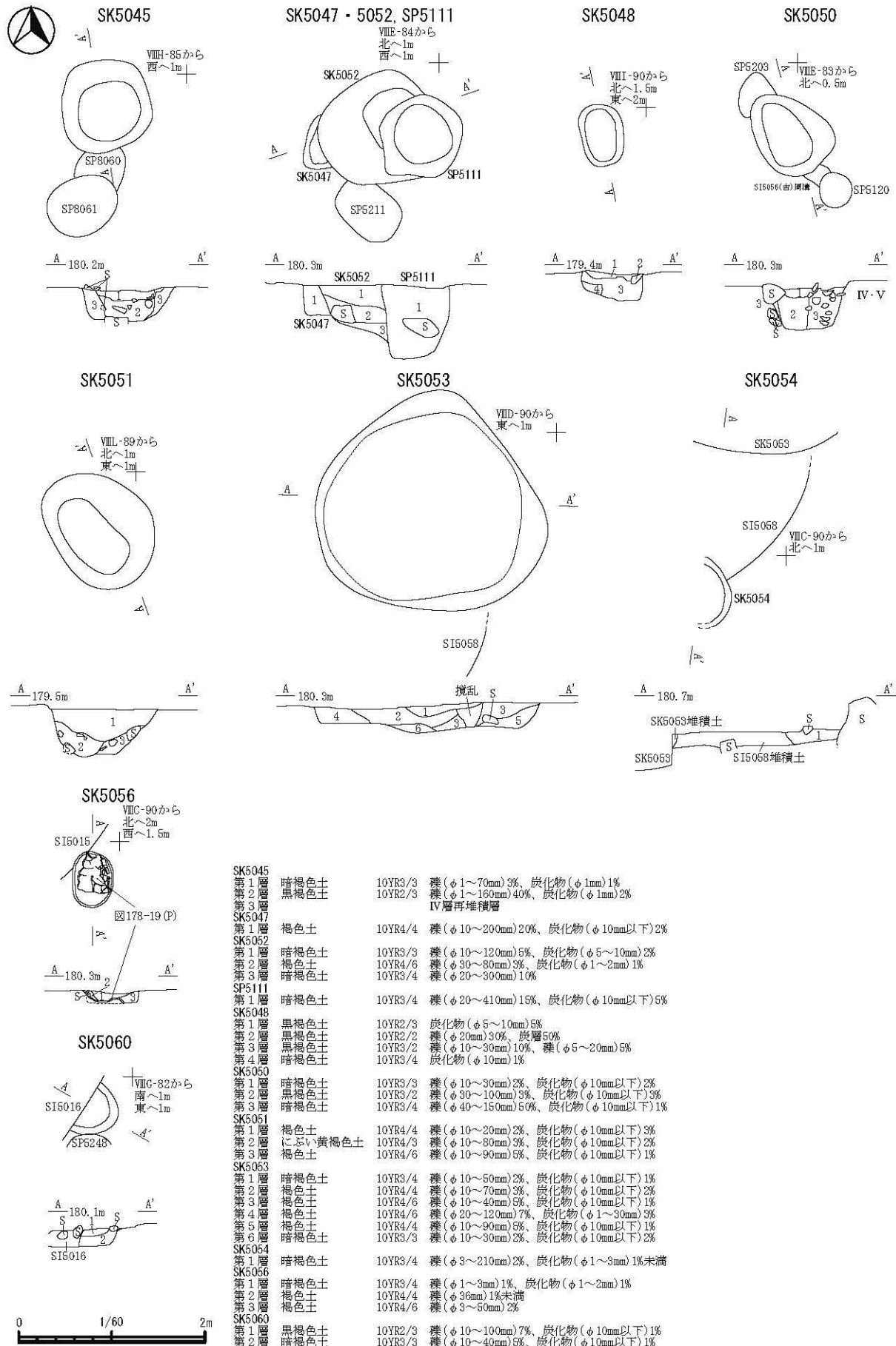
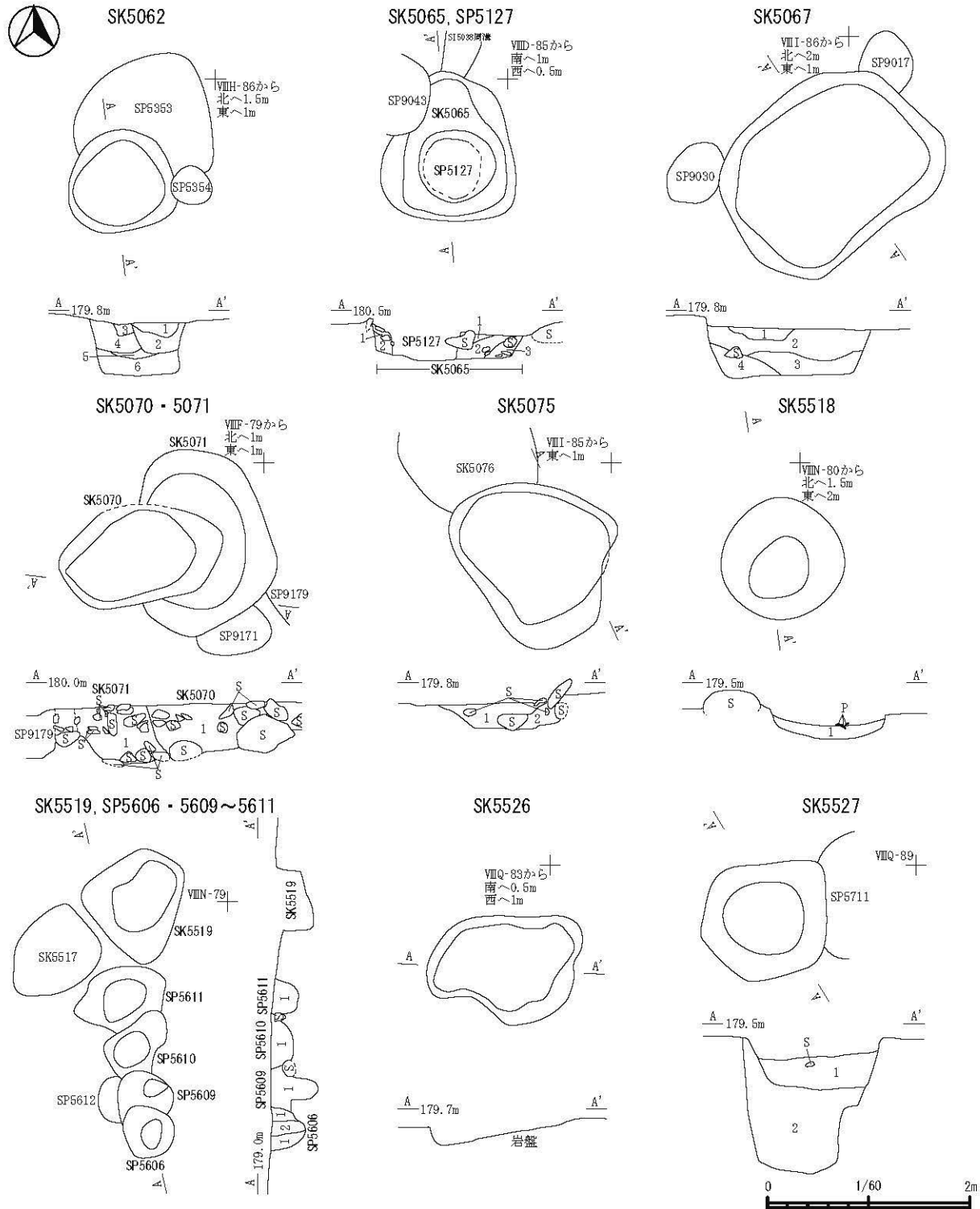


図82 土坑16(SK5030~5043)



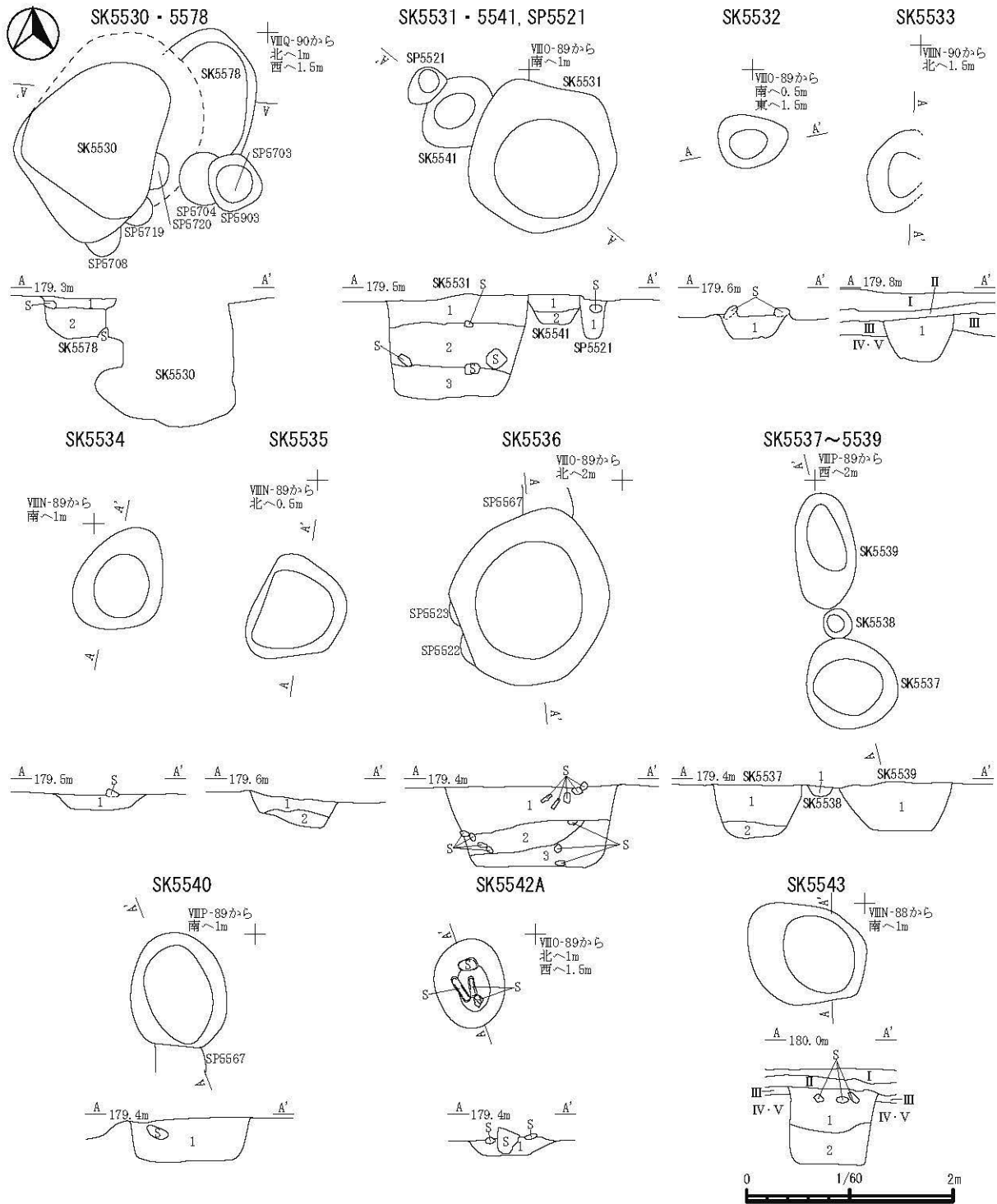
SK5045	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~70mm)3%、炭化物(φ1mm)1%
	第2層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~160mm)40%、炭化物(φ1mm)2%
	第3層		IV層再堆積層
SK5047	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~200mm)20%、炭化物(φ10mm以下)2%
SK5052	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~120mm)5%、炭化物(φ5~10mm)2%
	第2層 褐色土	10YR4/6	礫(φ30~80mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~300mm)10%
SP5111	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~410mm)15%、炭化物(φ10mm以下)5%
SK5048	第1層 黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ5~10mm)5%
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	礫(φ20mm)30%、炭層50%
	第3層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~30mm)10%、礫(φ5~20mm)5%
	第4層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ10mm)1%
SK5050	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ10mm以下)2%
	第2層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ30~100mm)3%、炭化物(φ10mm以下)3%
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ40~150mm)50%、炭化物(φ10mm以下)1%
SK5051	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~20mm)2%、炭化物(φ10mm以下)3%
	第2層 にごい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ10~80mm)3%、炭化物(φ10mm以下)2%
	第3層 褐色土	10YR4/6	礫(φ10~90mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
SK5053	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~70mm)3%、炭化物(φ10mm以下)2%
	第3層 褐色土	10YR4/6	礫(φ10~40mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
	第4層 褐色土	10YR4/6	礫(φ20~120mm)7%、炭化物(φ1~30mm)3%
	第5層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~90mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
	第6層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ10mm以下)2%
SK5054	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ3~210mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%未滿
SK5056	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ3mm)1%未滿
	第3層 褐色土	10YR4/6	礫(φ3~50mm)2%
SK5060	第1層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~100mm)7%、炭化物(φ10mm以下)1%
	第2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%

図83 土坑17(SK5045~5060)



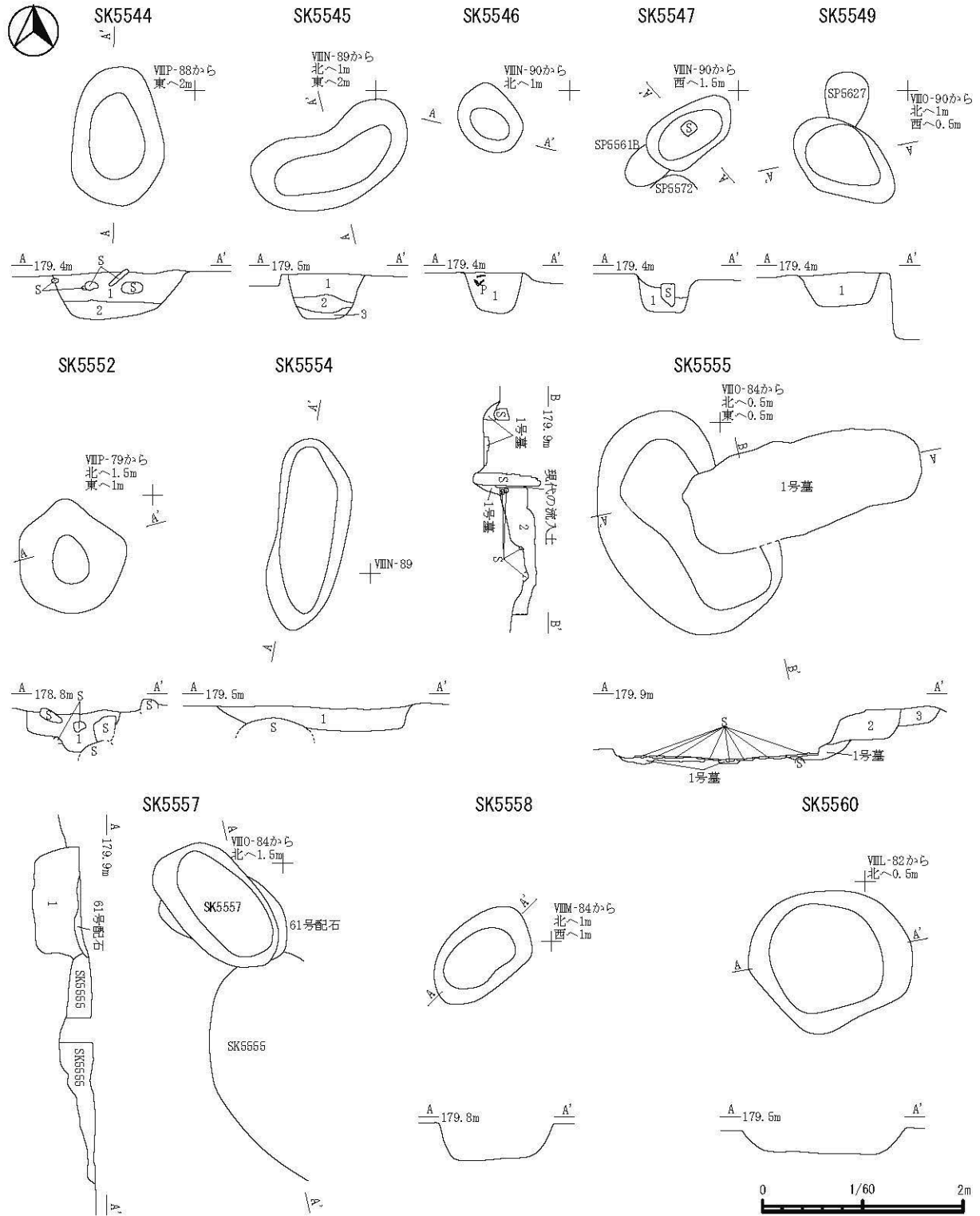
SK5062	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ50~61mm)1%、黄褐色土ブロック5%
	第2層	単褐色土	10YR2/3	礫(φ2~36mm)1%未滿
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ2~40mm)1%未滿、炭化物(φ1~2mm)1%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	5YR4/8赤褐色土焼土粒(φ7mm)
	第5層	褐色土	10YR4/4	礫(φ4~150mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%未滿
	第6層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ2~30mm)1%、炭化物(φ1mm)1%未滿
SK5065	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ30~100mm)40%、炭化物(φ10mm以下)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~70mm)15%、炭化物(φ1~30mm)2%
	第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~150mm)50%、炭化物(φ10mm以下)3%
SK5067	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~70mm)7%、炭化物(φ10mm以下)2%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ10mm以下)3%
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
SK5070	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ50~510mm)25%、炭化物(φ10mm以下)3%
SK5071	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ20~160mm)20%、炭化物(φ10mm以下)1%
SK5075	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~130mm)10%、炭化物(φ10mm以下)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~70mm)7%、炭化物(φ10mm以下)1%
SK5518	第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~10mm)2%、礫(φ20~170mm)7%
SK5519	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~20mm)5%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ1~50mm)3%
SK5526	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~100mm)7%
SK5527	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~120mm)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~3mm)3%、礫(φ1~160mm)5%
	第3層	暗褐色土	10YR2/3	炭化物(φ10~15mm)1%、礫(φ12~110mm)3%
	第4層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~7mm)1%、礫(φ30~280mm)10%

図84 土坑18(SK5062~5527)



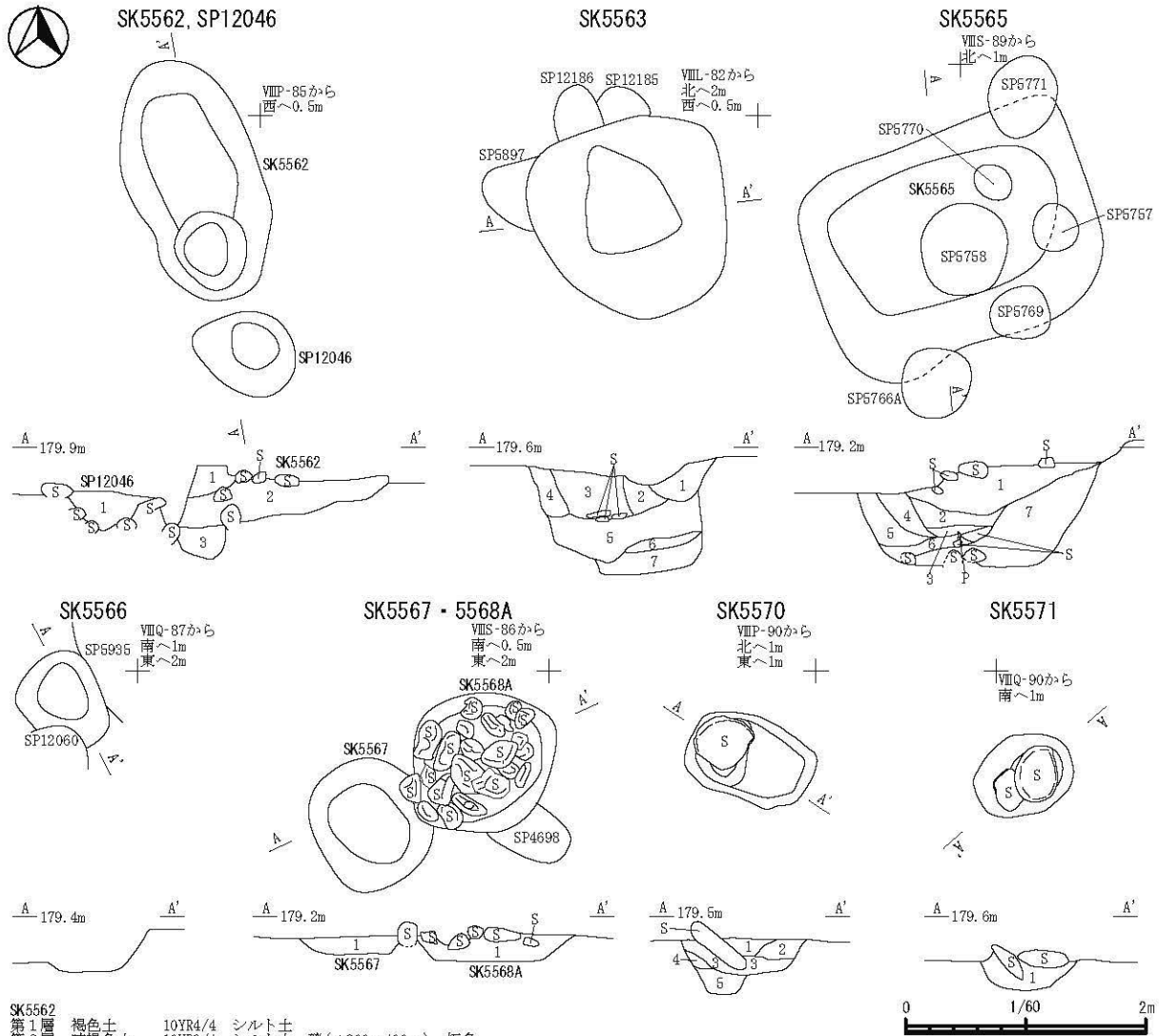
SK5578	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ20~70mm)5%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ10~210mm)20%
SK5531	第1層	暗褐色土	10YR3/4	小礫(φ4~10mm)20%、砂礫(φ1~2mm)50%混入
	第2層	褐色土	10YR4/4	小礫(φ2~4mm)2%、砂礫(φ1~2mm)50%混入 地山土混入
	第3層	黒褐色土	10YR2/3	砂礫(φ1~2mm)50%含む
SK5541	第1層	黄褐色土	10YR5/6	小礫(φ5mm)、砂礫(φ1~2mm)25%
	第2層	黒褐色土	10YR3/2	砂礫(φ1~2mm)50%
SP5521	第1層	黒褐色土	10YR2/2	砂礫(φ1~2mm)50%
SK5532	第1層	暗褐色土	10YR3/3	細礫を全面に含み、小礫(φ2~3mm)5%
SK5533	第1層	黒褐色土	10YR3/2	細礫(φ1~2mm)20%、小礫(φ2~4mm)10%
SK5534	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm以下)2%、礫(φ1~120mm)7%
SK5535	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm以下)1%未滿、礫(φ10~80mm)7%
	第2層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物(φ1mm以下)1%未滿、礫(φ10~40mm)5%
SK5536	第1層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ4~5mm)3%
	第2層	赤褐色土	2.5YR4/6	炭化物(φ1~2mm)5%、暗褐色土混入 全面に赤焼土が混入
	第3層	黒褐色土	7.5YR3/2	小礫(φ1~2mm)50%混入、小礫(φ2~4mm)20%混入 砂質
SK5537	第1層	黒褐色土	7.5YR3/2	砂礫1~2mmを全体に含み、黒褐色土混入
	第2層	褐色土	7.5YR4/3	砂礫1~2mmを全体に含み、黒褐色土混入
SK5538	第1層	暗褐色土	7.5YR3/3	砂礫及び小礫(φ2~4mm)20%混入
SK5539	第1層	黒褐色土	7.5YR3/2	小礫(φ2~4mm)20%混入、砂礫を全体に含む
SK5540	第1層	褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/6)20%混入、礫(φ1~200mm)15% 砂質
SK5542A	第1層	暗褐色土	10YR3/3	砂礫(φ1~2mm)50%
SK5543	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~120mm)5%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~70mm)3% 柱穴と思われる。

図85 土坑19(SK5530~5543)



- | | | | | |
|--------|-----|------|---------|------------------------------|
| SK5544 | 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 砂礫(φ1~2mm)50%混入 |
| | 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 砂礫(φ1~2mm)20%混入 |
| SK5545 | 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 小礫(φ4mm)15%、細礫(φ1~2mm)を全面に混入 |
| | 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 小礫(φ2~4mm)5%、細礫(φ1~2mm)を50% |
| | 第3層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 細礫(φ1~2mm)50% |
| SK5546 | 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 2~4cmの小礫を50%混入 |
| SK5547 | 第1層 | 暗褐色土 | 10YR | 砂礫(φ1~2mm)を50%混入 |
| SK5549 | 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 礫(φ1~60mm)40% |
| SK5552 | 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 礫(φ1~240mm)30% |
| SK5554 | 第1層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 礫(φ1~60mm)5% |
| SK5555 | 第2層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 礫(φ1~15mm)2%、炭化物(φ1~3mm)7% |
| | 第3層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | 礫(φ20mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3% |
| SK5557 | 第1層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 炭化物プロやが多い、土器片(上層c)微量含む |

図86 土坑20(SK5544~5560)



SK5562			
第1層	褐色土	10YR4/4	シルト土、礫(φ200~400mm) 極多
第2層	暗褐色土	10YR3/4	シルト土、礫(φ200~400mm) 極多
第3層	褐色砂質土	10YR4/4	地山砂少量含む
SP12046			
第1層	褐色土	10YR4/6	シルト土、礫(φ50~80mm)
SK5563			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~5mm)2%、礫(φ1~50mm)1%
第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~6mm)3%、礫(φ1~85mm)3%
第3層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~25mm)1%、礫(φ1~160mm)10%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~6mm)1%、礫(φ1~100mm)5%
第5層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~5mm)1%、礫(φ1~150mm)10%
第6層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~10mm)1%、礫(φ1~65mm)3%
第7層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~8mm)1%、礫(φ1~90mm)5%
SK5565			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~10mm)3%、礫(φ20~240mm)
第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~15mm)7%
第3層	褐色焼土	7.5YR4/4	炭化物(φ1~5mm)2%
第4層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~130mm)20%
第5層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm以下)1%程度、礫(φ1~15mm)30%
第6層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物(φ1mm以下)1%、礫(φ10~240mm)15%、土器(φ70mm)7%
第7層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物(φ3~5mm)3%、礫(φ10~80mm)20%
SK5567			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物(φ1mm以下)1% 砂質
SK5568A			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ50~300mm)40%
SK5570			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ20~25mm)5%
第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ20~30mm)8%
第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)3%
第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ13~20mm)2%
第5層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ15~80mm)3%
SK5571			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ10~15mm)5%

図87 土坑21(SK5562~5571)

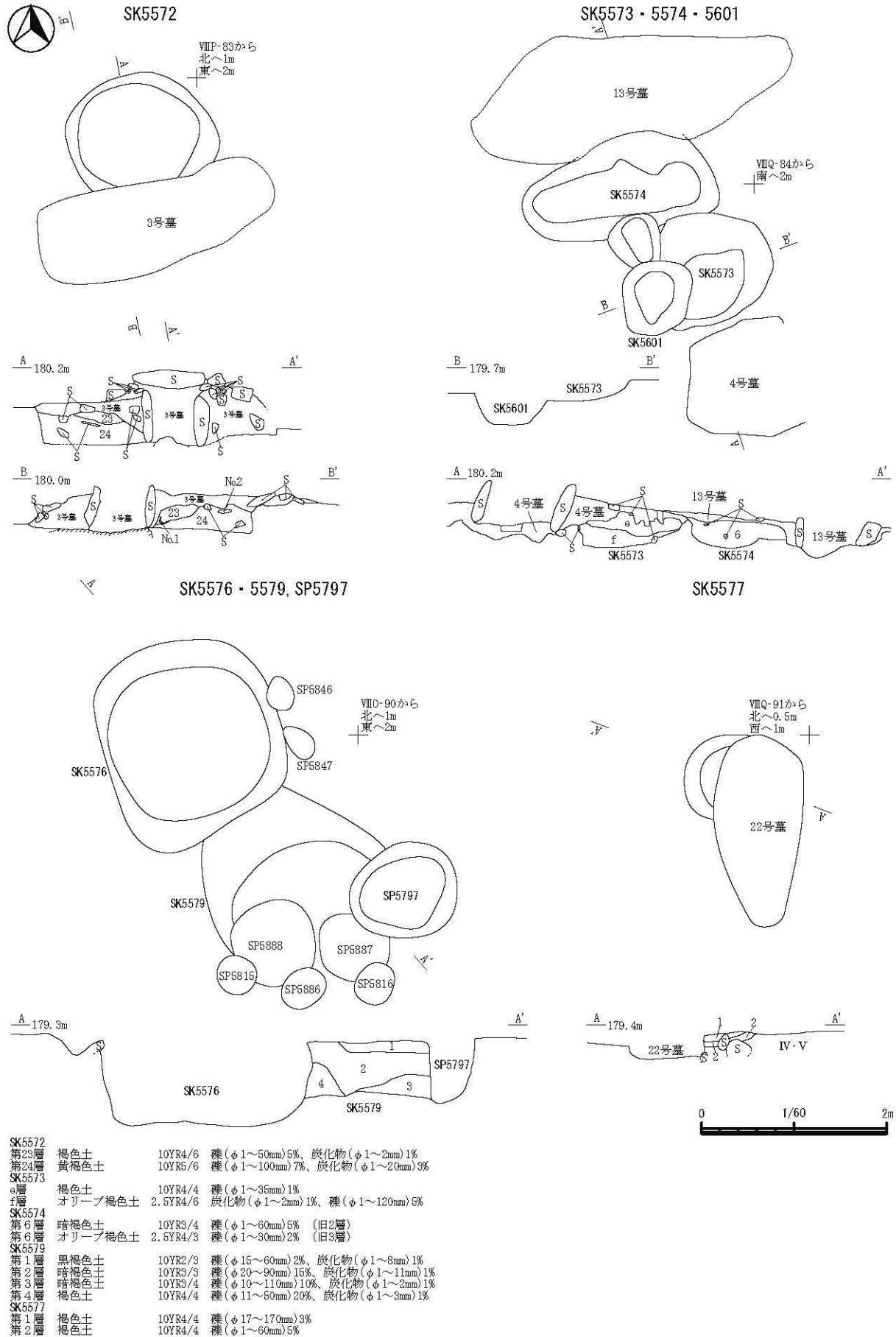


図88 土坑22(SK5572~5579)

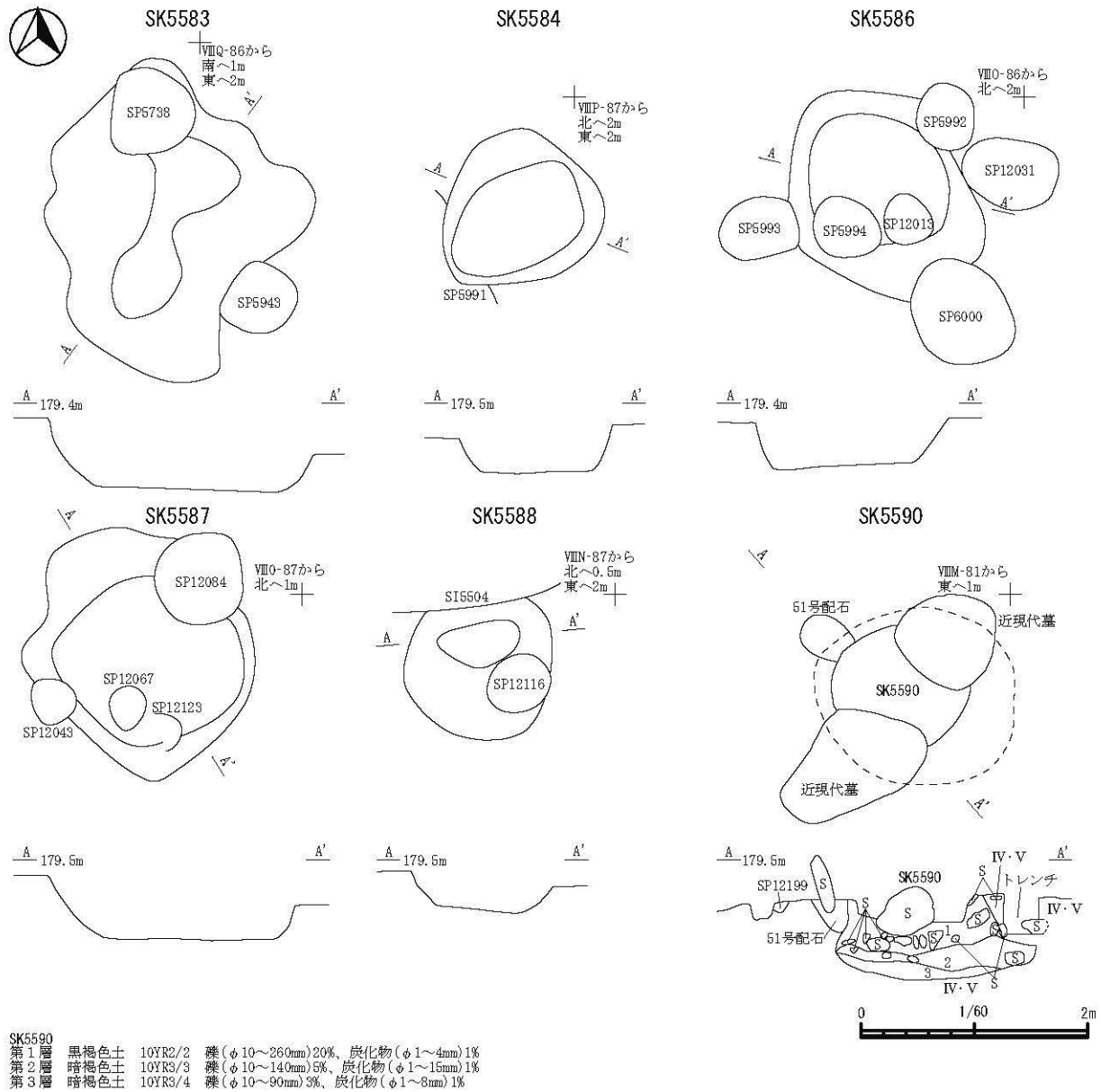


図89 土坑23(SK5583~5590)

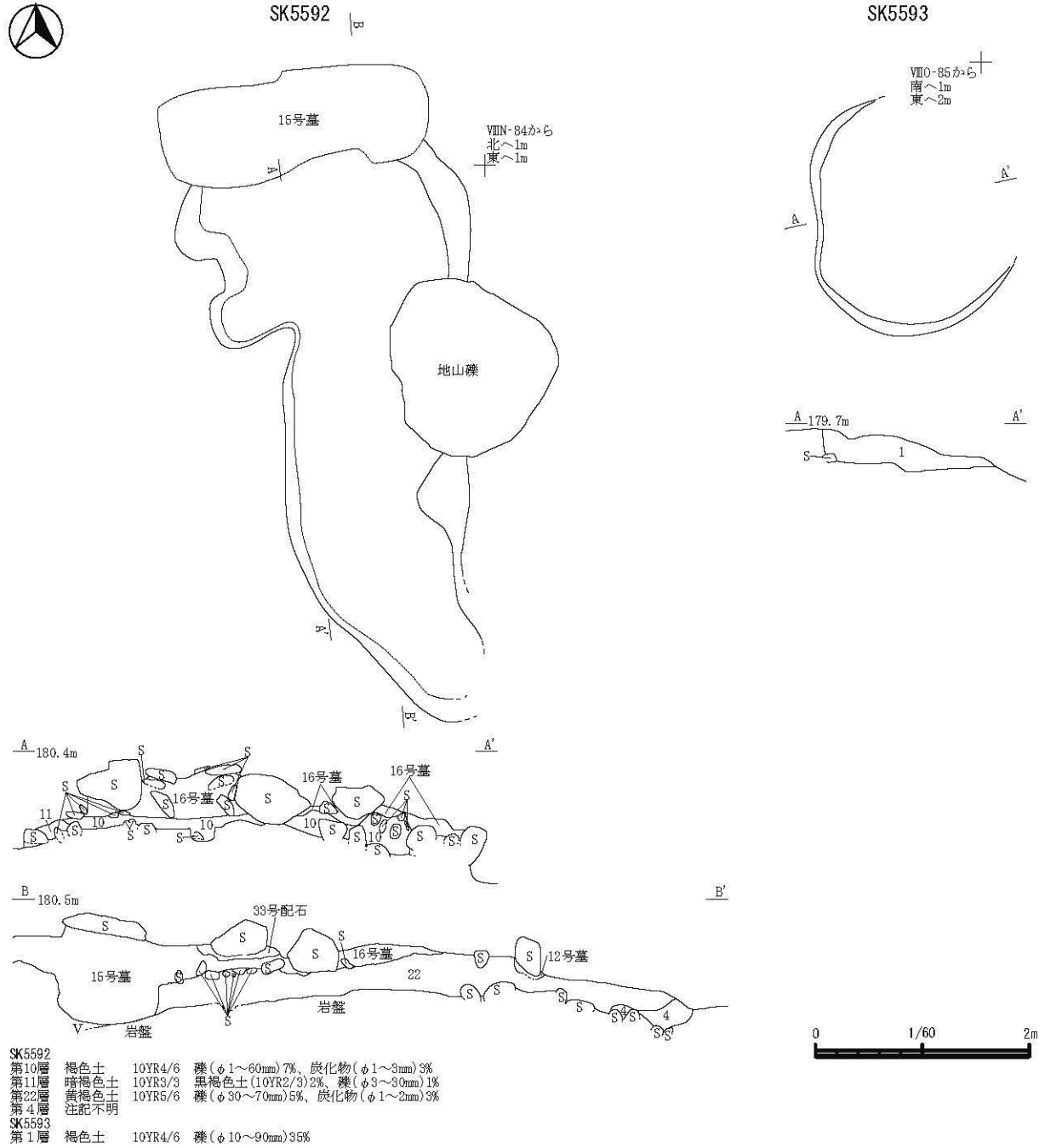
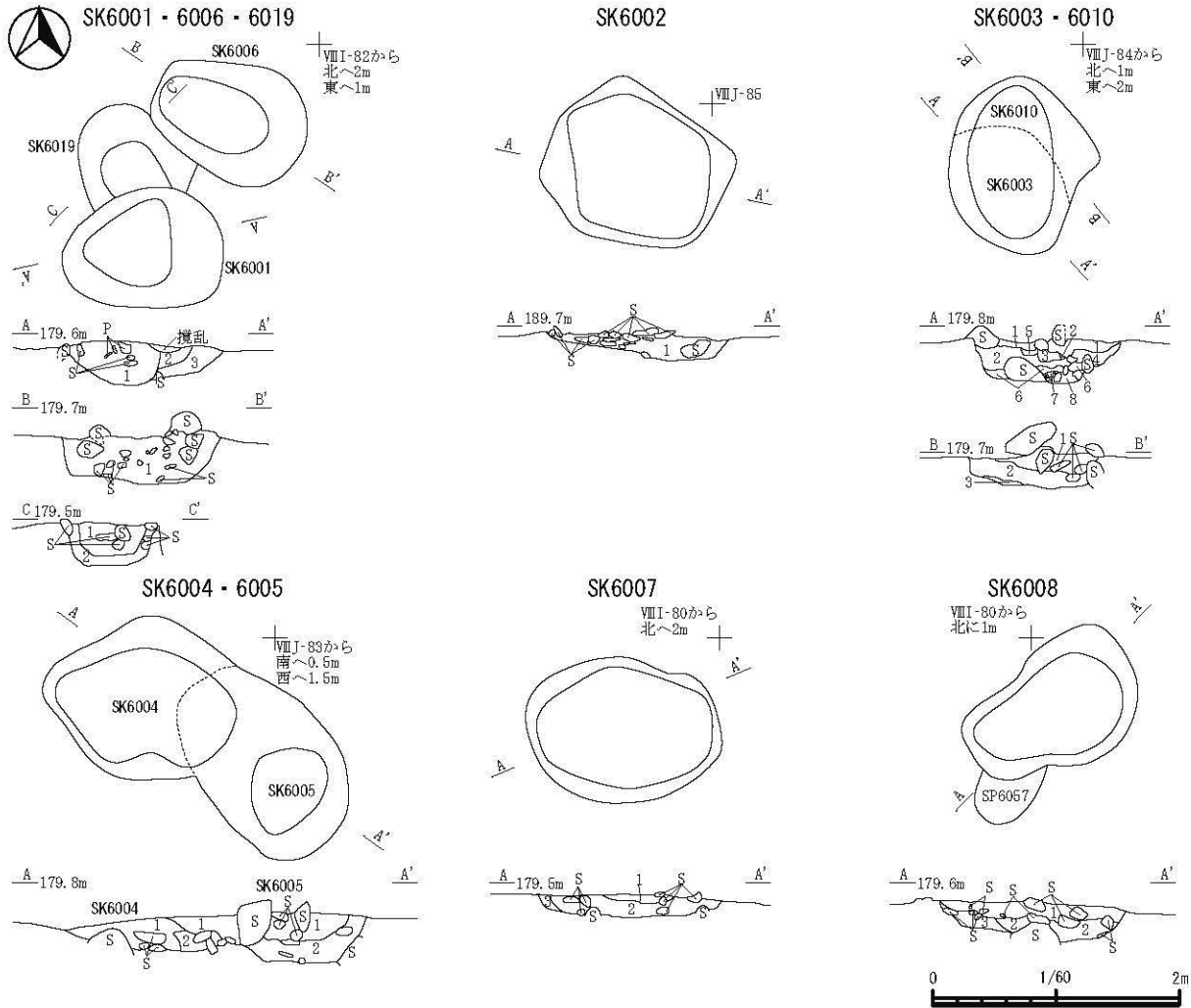
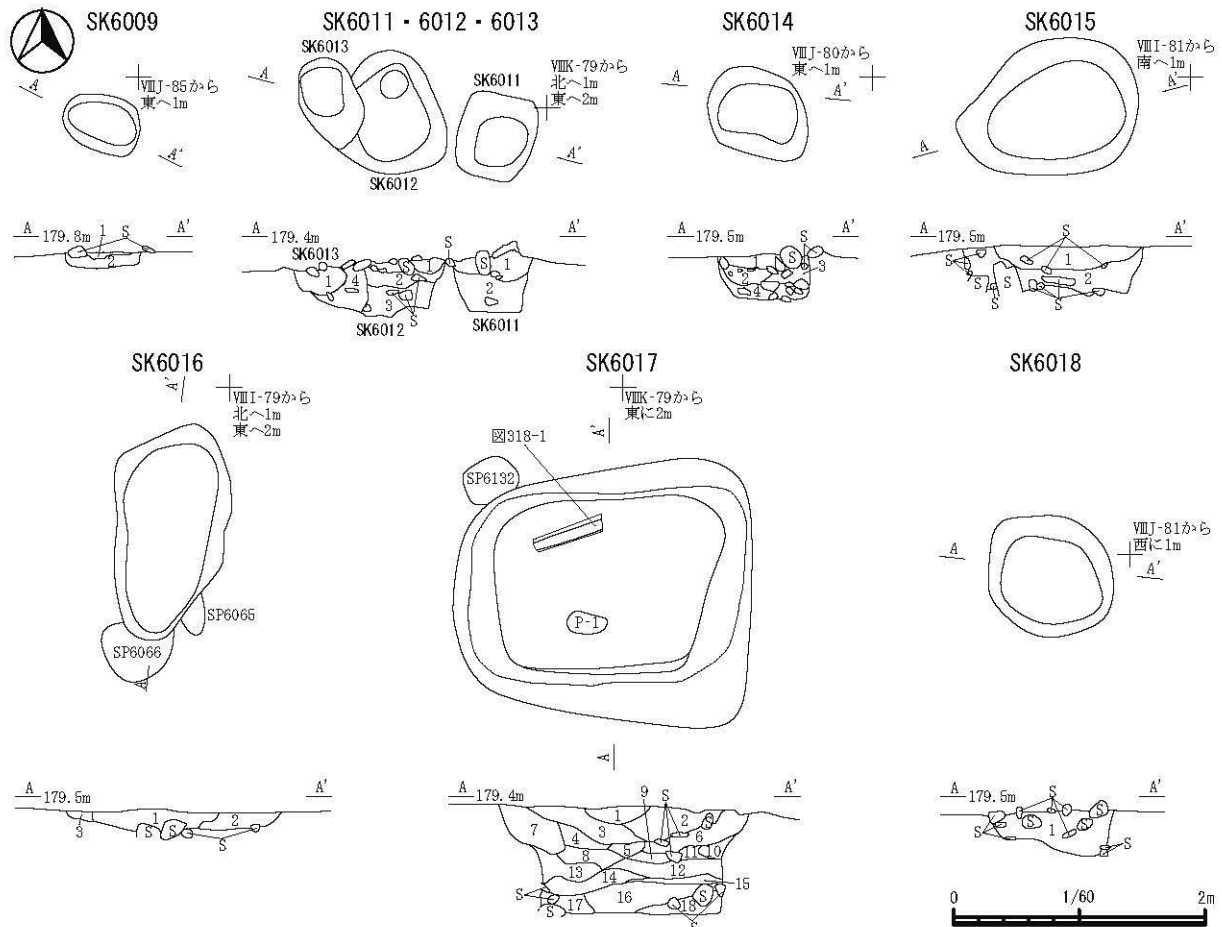


図90 土坑24(SK5592・5593)



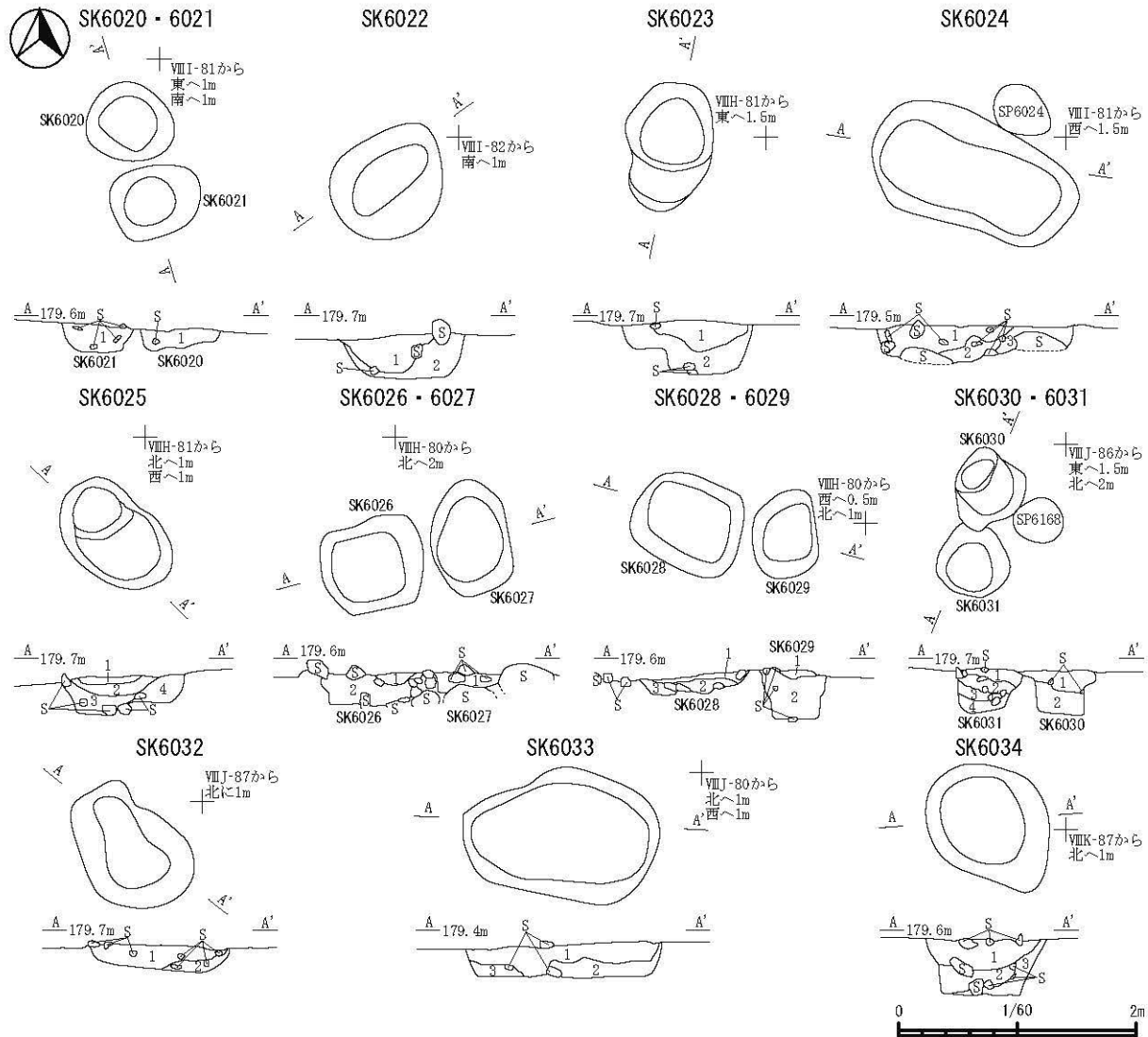
SK6001	第1層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土(10YR3/3)3%	黒色土(10YR2/1)2%	礫(φ2~100mm)6%	炭化物(φ1~3mm)1%未測	土器含む
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)2%	礫(φ3~50mm)3%			
	第3層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)3%	礫(φ2~40mm)5%			
SK6006	第1層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)5%	礫(φ5~40mm)10%	炭化物(φ5~10mm)3%	黄褐色浮石(φ1mm以下)20%	
SK6019	第1層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)10%	礫(φ10~240mm)50%	炭化物(φ1~10mm)1%		
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)7%	礫(φ10~50mm)5%	炭化物(φ1~10mm)2%		
SK6002	第1層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)5%	褐色土(10YR4/6)2%	褐色土(7.5YR4/4)1%	礫(φ10~250mm)40%	炭化物(φ1~10mm)1%
SK6003	第1層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/4)3%	礫(φ3~40mm)7%			
	第2層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/3)2%	礫(φ5~10mm)5%			
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)5%	礫(φ1~40mm)5%			
	第4層	褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/6)3%	礫(φ1~40mm)3%			
	第5層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/4)3%	礫(φ1~40mm)3%	炭化物(φ1~2mm)1%		
	第6層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)5%	礫(φ3~10mm)3%			
	第7層	褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/6)3%	礫(φ5~40mm)20%			
	第8層	褐色土	10YR4/6	褐色土(10YR4/4)2%	礫(φ3~40mm)10%			
SK6010	第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)7%	暗褐色土(10YR3/3)3%	礫(φ40~200mm)10%	炭化物(φ1~10mm)1%	
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)7%	褐色土(10YR4/4)5%	礫(φ1~120mm)5%	炭化物(φ1~20mm)2%	
	第3層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)10%	礫(φ1~50mm)3%	炭化物(φ1~10mm)1%		
SK6004	第1層	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)5%	暗褐色土(10YR3/4)3%	礫(φ40~120mm)10%	炭化物(φ1~10mm)1%	
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)10%	暗褐色土(10YR3/3)2%	礫(φ10~250mm)7%	炭化物(φ1~10mm)1%以下	
SK6005	第1層	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)3%	黒色土(10YR2/1)2%	礫(φ30~270mm)40%	炭化物(φ1~10mm)1%	
	第2層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土(10YR3/3)3%	暗褐色土(10YR3/4)2%	礫(φ40~160mm)10%	炭化物(φ1~10mm)1%	
SK6007	第1層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)7%	礫(φ10~30mm)5%	炭化物(φ1~10mm)2%		
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)5%	黒褐色土(10YR3/2)3%	褐色浮石(10YR4/6, φ1~10mm)3%	礫(φ10~120mm)40%	炭化物(φ1~10mm)2%
	第3層	褐色土	10YR4/6	黒褐色土(10YR2/3)2%	黄褐色浮石(10YR5/6, φ1~10mm)2%	礫(φ10~25mm)3%	炭化物(φ1~10mm)1%以下	
SK6008	第1層	黒色土	10YR2/1	黒褐色土(10YR2/3)20%	礫(φ5~50mm)30%	炭化物(φ3~5mm)1%		
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	黒色土(10YR2/1)3%	礫(φ3~40mm)30%	炭化物(φ1~5mm)1%		
	第3層	黒褐色土	10YR2/2	黒色土(10YR2/1)5%	礫(φ3~40mm)40%	炭化物(φ3~10mm)1%	黄褐色浮石(φ1mm以下)3%	砂質

図91 土坑25(SK6001~6019)



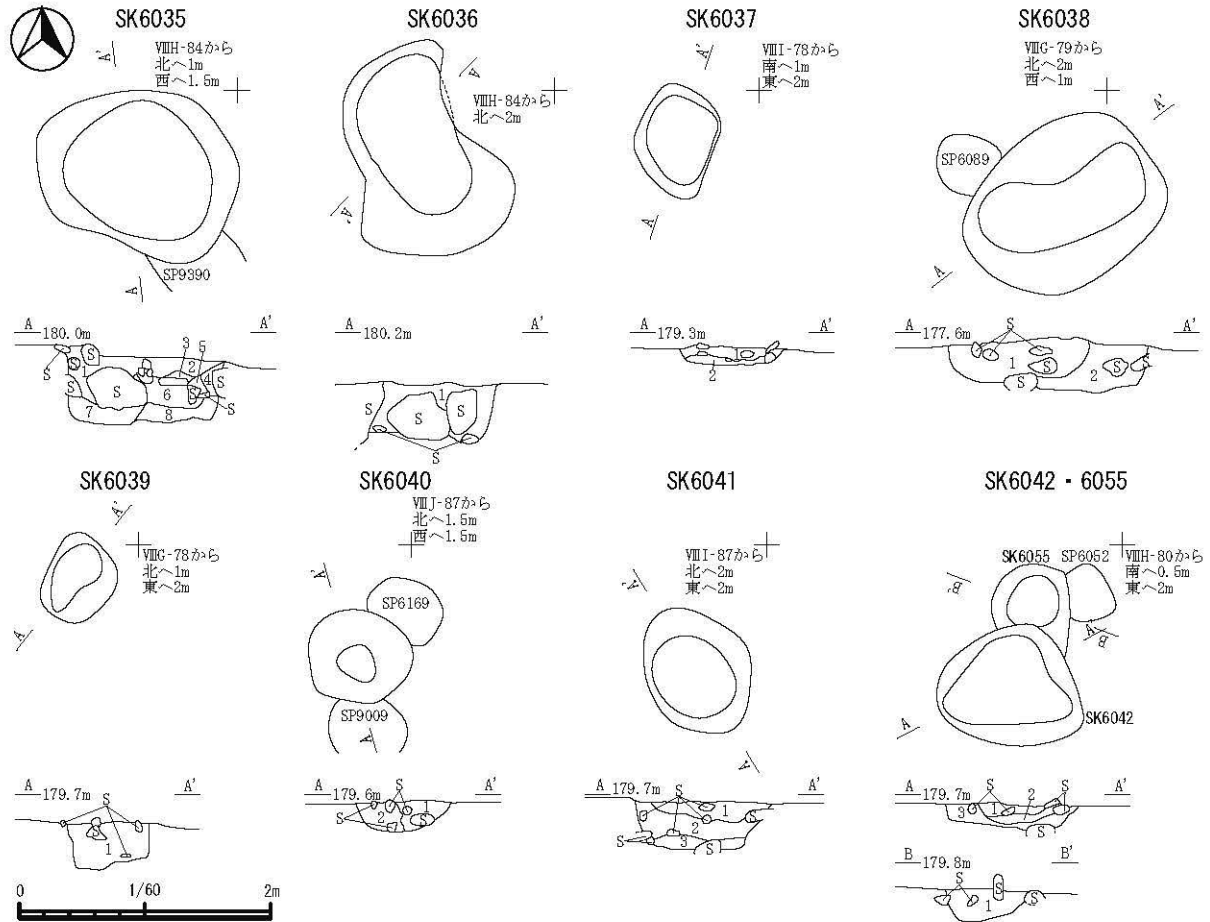
SK6009	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~130mm)3%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)7%、礫(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1~10mm)2%
SK6011	第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)7%、暗褐色土(10YR3/3)3%、礫(φ40~200mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)7%、褐色土(10YR4/4)5%、礫(φ1~120mm)5%、炭化物(φ1~20mm)2%
SK6012	第1層	褐色土	10YR4/6	黄褐色土(10YR5/6)6%、礫(φ10~35mm)10%
	第2層	褐色土	10YR4/6	黄褐色土(10YR5/6)3%、暗褐色土(10YR3/4)2%、礫(φ10~50mm)18%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)6%、礫(φ20~55mm)23%、炭化物(φ5~10mm)1%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)10%、礫(φ10~40mm)18%
SK6013	第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)3%、礫(φ10~50mm)8%、炭化物(φ2~3mm)1%
SK6014	第1層	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)4%、礫(φ3~35mm)15%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)7%、礫(φ5~50mm)40%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ3~40mm)40% 砂質
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/2)2%、礫(φ10~40mm)30% 砂質
SK6015	第1層	黒褐色土	10YR2/2	黒色土(10YR2/1)7%、黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層	黒色土	10YR2/1	黒褐色土(10YR2/2)10%、にぶい黄褐色粒(10YR5/4、φ1~10mm)3%、礫(φ40~240mm)30%、炭化物(φ1~10mm)1%
SK6016	第1層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)5%、にぶい黄褐色浮石(10YR5/4)(φ1~10mm)3%、暗褐色土(10YR3/4)1%、礫(φ20~200mm)7%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)3%、暗褐色土(10YR3/4)2%、礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/6	黒褐色土(10YR2/3)2%、黄褐色浮石(10YR5/6、φ1~10mm)3%、礫(φ1~25mm)2%、炭化物(φ1~10mm)1%
SK6017	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~70mm)5%、炭化物(φ1~15mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)10%、礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第3層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)10%、黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ10~90mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)3%、礫(φ10~60mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第5層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)10%、黒褐色土(10YR2/3)2%、礫(φ10~130mm)10%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第6層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)5%、黒褐色土(10YR2/3)2%、礫(φ10~60mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第7層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)5%、礫(φ10~40mm)5%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第8層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)3%、礫(φ10~50mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第9層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~140mm)10%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第10層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)との混合土、礫(φ10~140mm)50%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第11層	褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/6)3%、暗褐色土(10YR3/4)2%、礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第12層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)7%、黒褐色土(10YR2/3)3%、褐色土(10YR4/4)3%、礫(φ10~60mm)5%、炭化物(φ1~12mm)1%
	第13層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/4)5%、礫(φ10~50mm)7%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第14層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)5%、黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ10~70mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第15層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)7%、暗褐色土(10YR3/3)3%、礫(φ1~40mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第16層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)20%、暗褐色土(7.5YR3/4)3%、礫(φ10~120mm)7%、炭化物(φ1~10mm)5%、焼土粒(φ2~5mm)3%
	第17層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)5%、礫(φ10~200mm)7%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第18層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)10%、礫(φ10~200)30%、炭化物(φ1~10mm)1%
SK6018	第1層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)7%、礫(φ10~180mm)40%、炭化物(φ1~10mm)1%以下

図92 土坑26(SK6009~6018)



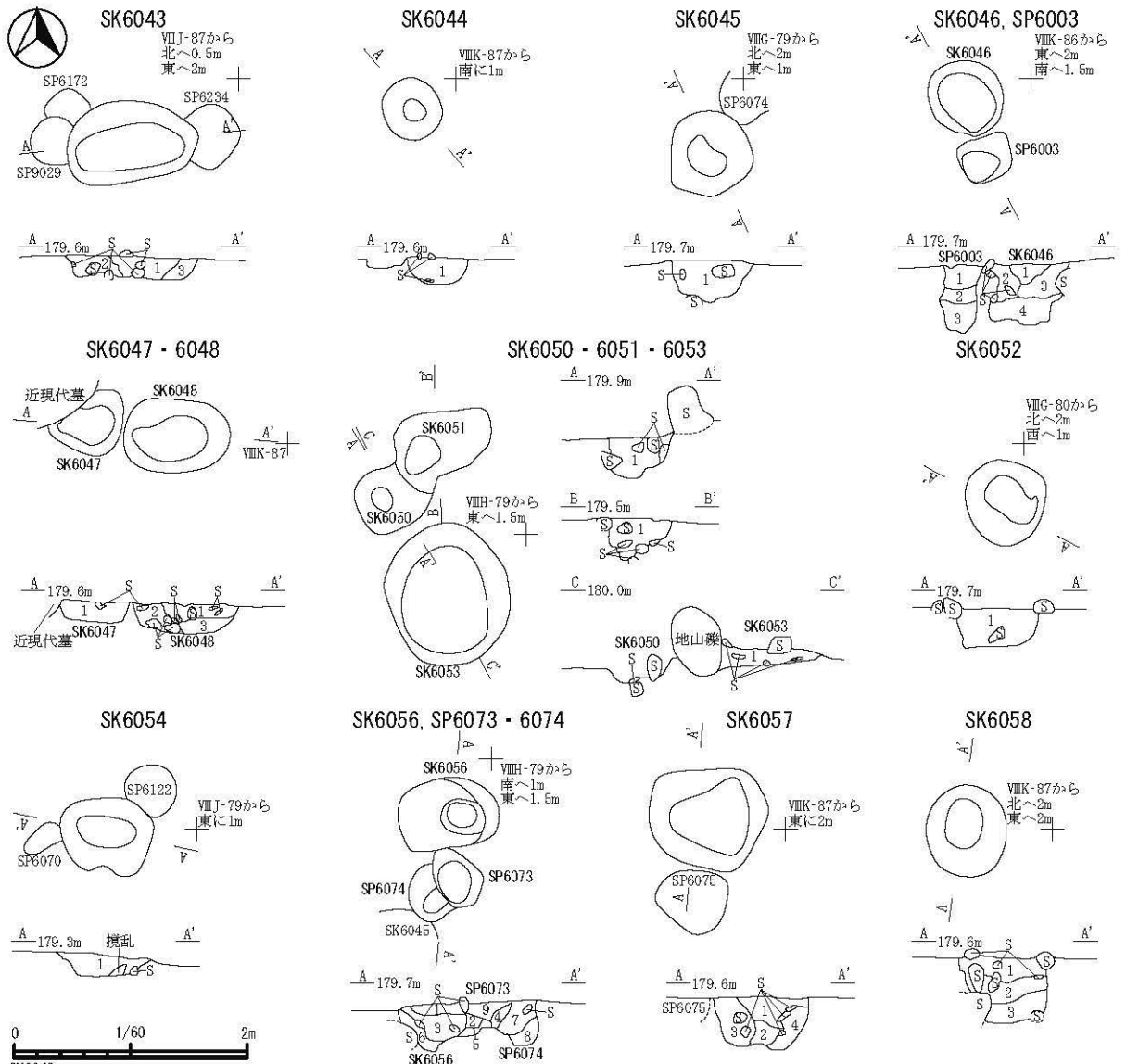
SK6020	第1層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)12%、褐色土(10YR4/6)2% 礫(φ5~50mm)7%、炭化物(φ5~10mm)2%
SK6021	第1層	黒色土	10YR2/1	黒褐色土(10YR2/3)8%、黒褐色土(10YR2/2)5% 礫(φ3~55mm)14%、炭化物(φ6~10mm)3% 黄褐色浮石(φ1mm未満)1% 2/2黒褐色土は砂質
SK6022	第1層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土(10YR3/4)10%、黒褐色土(10YR2/3)5% 礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%以下
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)7%、礫(φ10~80mm)10% 炭化物(φ1~10mm)1%
SK6023	第1層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土(10YR3/3)10%、礫(φ10~100mm)7% 炭化物(φ1~10mm)3%
	第2層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)7%、礫(φ1~100mm)15% 炭化物(φ1~10mm)5%
SK6024	第1層	黒褐色土	10YR2/2	黒色土(10YR2/1)5%、礫(φ20~50mm)7% 炭化物(φ5~10mm)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)3%、礫(φ15~50mm)8% 炭化物(φ2~3mm)1%
	第3層	褐色土	10YR4/6	黒褐色土(10YR2/3)14%、礫(φ10~40mm)5% 炭化物(φ6~20mm)3% 褐色土の部分 ³ が砂質
SK6025	第1層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ1~30mm)5% 炭化物(φ1~10mm)2%、草根多
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)5%、礫(φ10~80mm)15% 炭化物(φ1~10mm)3%
	第3層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)10%、礫(φ10~100mm)20% 炭化物(φ1~10mm)3%
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~80mm)25%、炭化物(φ1~10mm)1%
SK6026	第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)7%、黒褐色土(10YR2/3)3% 礫(φ10~60mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)5%、礫(φ10~160mm)20% 炭化物(φ1~10mm)3%、小石(φ1~10mm)5%
SK6027	第1層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)7%、礫(φ10~140mm)25% 炭化物(φ1~10mm)1%
SK6028	第1層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)5%、黒褐色土(10YR2/3)5% 礫(φ10~60mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)7%、礫(φ10~100mm)7% 炭化物(φ1~10mm)2%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)15%、礫(φ1~120mm)15% 炭化物(φ1~10mm)1%
SK6029	第1層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)7%、礫(φ10~70mm)10% 炭化物(φ1~10mm)2%
	第2層	黒褐色土	10YR2/2	黒色土(10YR2/1)15%、礫(φ10~60mm)7% 炭化物(φ1~10mm)3%
SK6030	第1層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)8%、礫(φ5~30mm)6% 炭化物(φ3~6mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~40mm)14%、炭化物(φ2~3mm)1%
SK6031	第1層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)16%、礫(φ10~40mm)5% 炭化物(φ3~8mm)2%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)6%、礫(φ6~40mm)12% 炭化物(φ3~5mm)2%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)4%、礫(φ10~40mm)10% 炭化物(φ3~5mm)1%
	第4層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/6)15%、礫(φ14~50mm)20% 炭化物(φ3~15mm)2% 褐色土の部分 ³ が砂質
SK6032	第1層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)6%、礫(φ10~40mm)12% 炭化物(φ3~5mm)1%
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)5%、礫(φ15~50mm)25% 炭化物(φ5~15mm)4%
SK6033	第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)15%、褐色土(10YR4/4)5% 礫(φ10~120mm)25%、炭化物(φ1~15mm)5%
	第2層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)10%、礫(φ10~140mm)15% 炭化物(φ1~10mm)1%、小石(φ1~20mm)5%
	第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~80mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1% 小石(φ1~20mm)7%
SK6034	第1層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)15%、礫(φ10~55mm)6% 炭化物(φ5~10mm)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)5%、礫(φ10~50mm)10%
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)4%、礫(φ8~50mm)14%

図93 土坑27(SK6020~6034)



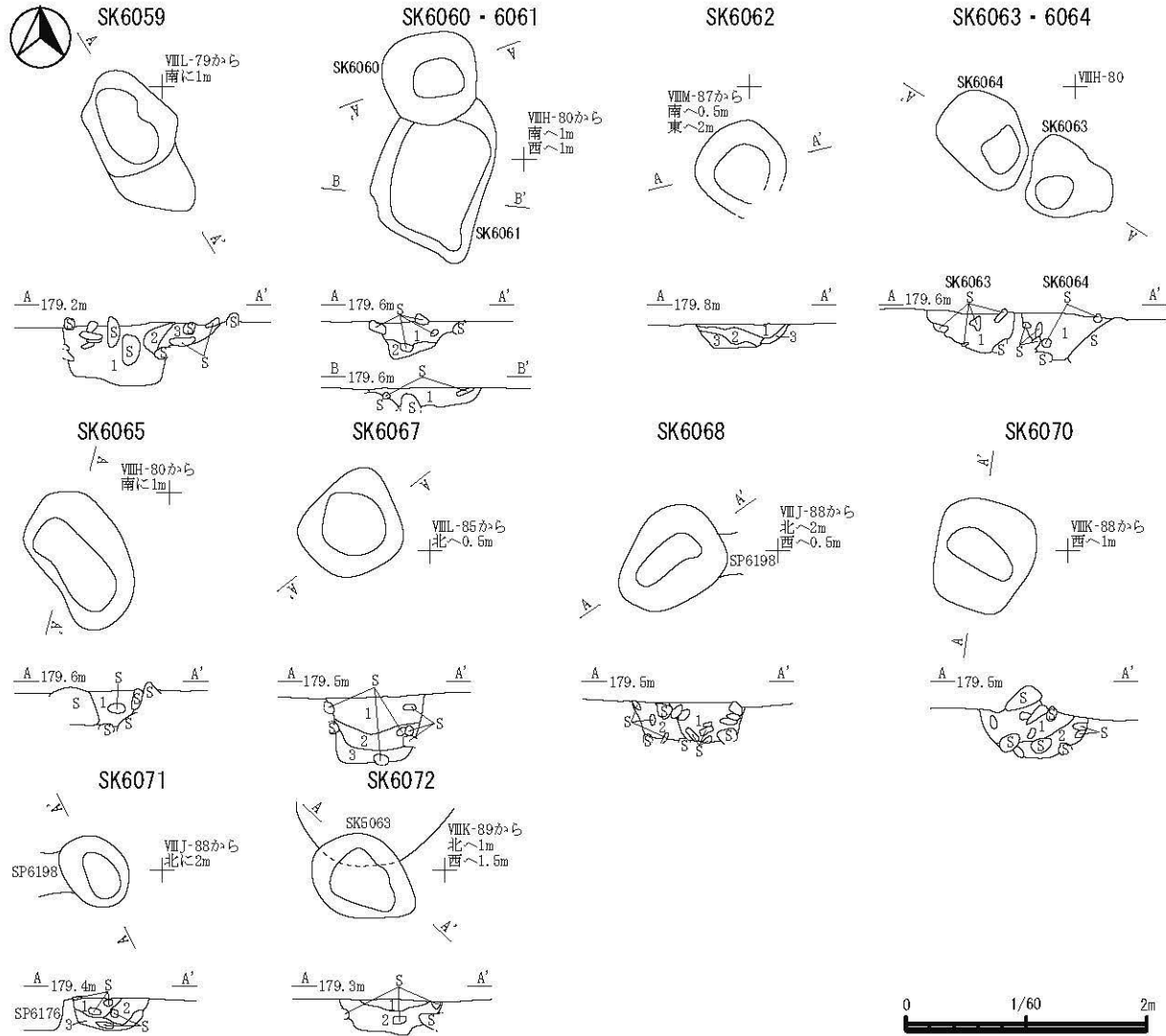
SK6035	褐色土 10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4) 20%、黒褐色土(10YR2/3) 5%、褐色土(10YR4/6) 5%、礫(φ10~460mm) 30%、炭化物(φ1~10mm) 2%	
第2層	暗褐色土 10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3) 3%、礫(φ10~60mm) 7%、炭化物(φ1~10mm) 5%	
第3層	黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3) 5%、暗褐色土(10YR3/4) 2%、礫(φ1~30mm) 2%、炭化物(φ1~10mm) 2%	
第4層	暗褐色土 10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3) 5%、礫(φ1~30mm) 3%、炭化物(φ1~10mm) 1%	
第5層	暗褐色土 10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4) 7%、礫(φ10~30mm) 10%、炭化物(φ1~10mm) 3%	
第6層	黒褐色土 10YR2/2	暗褐色土(10YR3/3) 7%、礫(φ10~240mm) 15%、炭化物(φ1~10mm) 1%	
第7層	黒褐色土 10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2) 10%、褐色土(10YR4/6) 3%、礫(φ10~100mm) 20%、炭化物(φ1~10mm) 1%	
第8層	黒褐色土 10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3) 7%、暗褐色土(10YR3/4) 3%、礫(φ10~60mm) 10%、炭化物(φ1~10mm) 3%	
SK6036	第1層	黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3) 3%、礫(φ10~45mm) 7%、炭化物(φ6~18mm) 5%
SK6037	第1層	黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3) 5%、暗褐色土(10YR3/4) 2%、礫(φ10~30mm) 7%
第2層	褐色土 10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4) 4%、礫(φ10~28mm) 10%	
SK6038	第1層	黒色土 10YR2/1	黒褐色土(10YR2/2) 20%、黒褐色土(10YR2/3) 10%、礫(φ10~300mm) 20%、炭化物(φ1~15mm) 5%
第2層	暗褐色土 10YR3/4	褐色土(10YR4/6) 10%、礫(φ10~200mm) 40%、炭化物(φ1~10mm) 2%	
SK6039	第1層	黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3) 3%、礫(φ10~55mm) 10%、炭化物(φ3~8mm) 1%
SK6040	第1層	暗褐色土 10YR3/3	褐色土(10YR4/6) 5%、礫(φ12~50mm) 12%
第2層	暗褐色土 10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3) 7%、礫(φ10~45mm) 15% 砂質	
SK6041	第1層	暗褐色土 10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3) 10%、褐色土(10YR4/6) 7%、礫(φ10~200mm) 7%、炭化物(φ1~20mm) 3%
第2層	褐色土 10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4) 20%、礫(φ10~80mm) 25%、炭化物(φ1~12mm) 3%	
第3層	黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4) 7%、黒褐色土(10YR2/2) 5%、礫(φ10~200mm) 5%、炭化物(φ1~15mm) 7%	
SK6042	第1層	黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4) 10%、礫(φ10~110mm) 10%、炭化物(φ1~15mm) 3% 砂粒多量
第2層	炭化物層	黒褐色土(10YR2/3) 3%、暗褐色土(10YR3/4) 3%、礫(φ10~120mm) 5%	
第3層	黒褐色土 10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2) 10%、礫(φ10~120mm) 7%、炭化物(φ1~10mm) 5% 砂粒多量	
SK6055	第1層	暗褐色土 10YR3/3	黒褐色土(10YR2/2) 15%、礫(φ10~200mm) 20%、炭化物(φ1~15mm) 5%、小石(φ1~10mm) 5%

図94 土坑28(SK6035~6055)



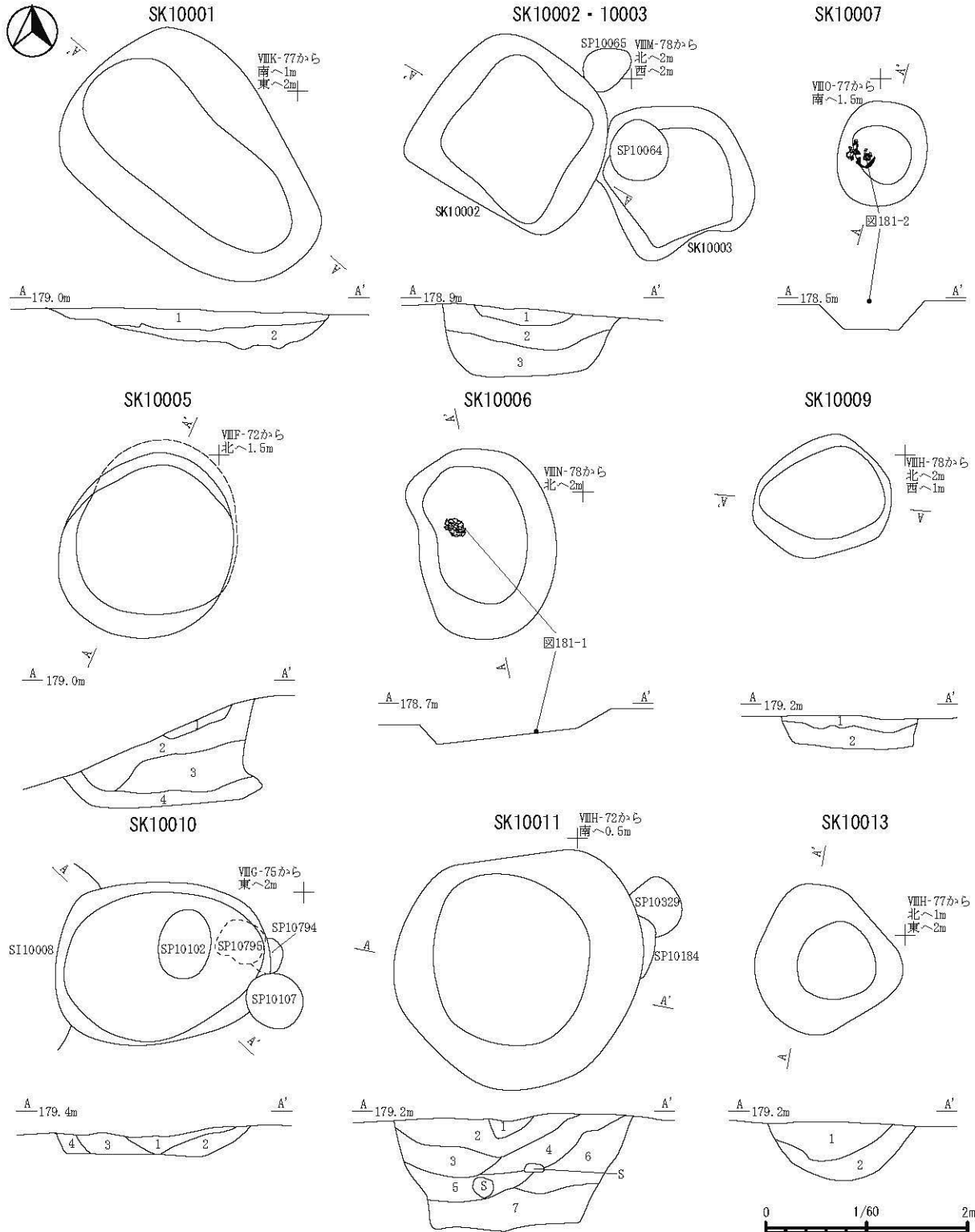
SK6043 第1層 暗褐色土 10YR3/4 褐色土(10YR4/6)15%、礫(φ10~120mm)5% 炭化物(φ1~10mm)2%	SK6052 第1層 黒褐色土 10YR2/3 暗褐色土(10YR3/4)10%、礫(φ10~160mm)15% 炭化物(φ1~10mm)2%
SK6044 第1層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%	SK6054 第1層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%
SK6045 第1層 暗褐色土 10YR3/3 黒褐色土(10YR2/2)15%、礫(φ10~200mm)20% 炭化物(φ1~15mm)5%、小石(φ1~10mm)5%	SK6055 第1層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/4)3%、礫(φ10~40mm)2%
SK6046 第1層 黒褐色土 10YR2/3 暗褐色土(10YR3/3)3%、礫(φ4~40mm)8% 炭化物(φ3~10mm)6%	SK6056, SP6073・6074 第1層 黒褐色土 10YR2/2 黒褐色土(10YR2/3)10%、暗褐色土(10YR3/3)5% 礫(φ10~140mm)10%、炭化物(φ1~10mm)3%
SK6047 第2層 暗褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10YR2/3)5%、褐色土(10YR4/6)2% 礫(φ5~45mm)6%、炭化物(φ3~15mm)1%	SK6057 第1層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/4)12%、黒褐色土(10YR2/3)5% 礫(φ5~25mm)4%、炭化物(φ2~5mm)1%
SK6048 第3層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/4)7%、礫(φ10~60mm)5%	SK6058 第1層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/4)7%、礫(φ5~30mm)7% 炭化物(φ3~10mm)2%
SK6048 第2層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/3)6%、褐色土(10YR4/6)4% 礫(φ5~60mm)25%	SK6057 第2層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/4)12%、黒褐色土(10YR2/3)10% 礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
SK6048 第3層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/4)4%、礫(φ5~75mm)15%	SK6057 第3層 褐色土 10YR4/6 暗褐色土(10YR3/4)18%、黒褐色土(10YR2/2)1% 礫(φ4~60mm)30%
SK6050 第1層 黒褐色土 10YR2/2 暗褐色土(10YR2/2)3%、礫(φ5~30mm)7% 炭化物(φ3~10mm)2%	SK6058 第2層 暗褐色土 10YR3/4 暗褐色土(10YR3/4)6%、礫(φ10~40mm)30%
SK6051 第1層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土(10YR4/6)5%、暗褐色土(10YR3/4)3% 礫(φ10~120mm)15%、炭化物(φ1~10mm)3%	SK6058 第3層 褐色土 10YR4/6 暗褐色土(10YR3/4)18%、黒褐色土(10YR2/2)1% 礫(φ4~60mm)30%
SK6053 第1層 黒褐色土 10YR2/2 褐色土(10YR4/6)5%、暗褐色土(10YR3/4)3% 礫(φ10~420mm)15%、炭化物(φ1~10mm)3%、小石(φ1~10mm)5%	SK6058 第1層 暗褐色土 10YR3/4 褐色土(10YR4/6)7%、黒褐色土(10YR2/3)2% 礫(φ5~60mm)14%、炭化物(φ2~6mm)1%

図95 土坑29(SK6043~6058)



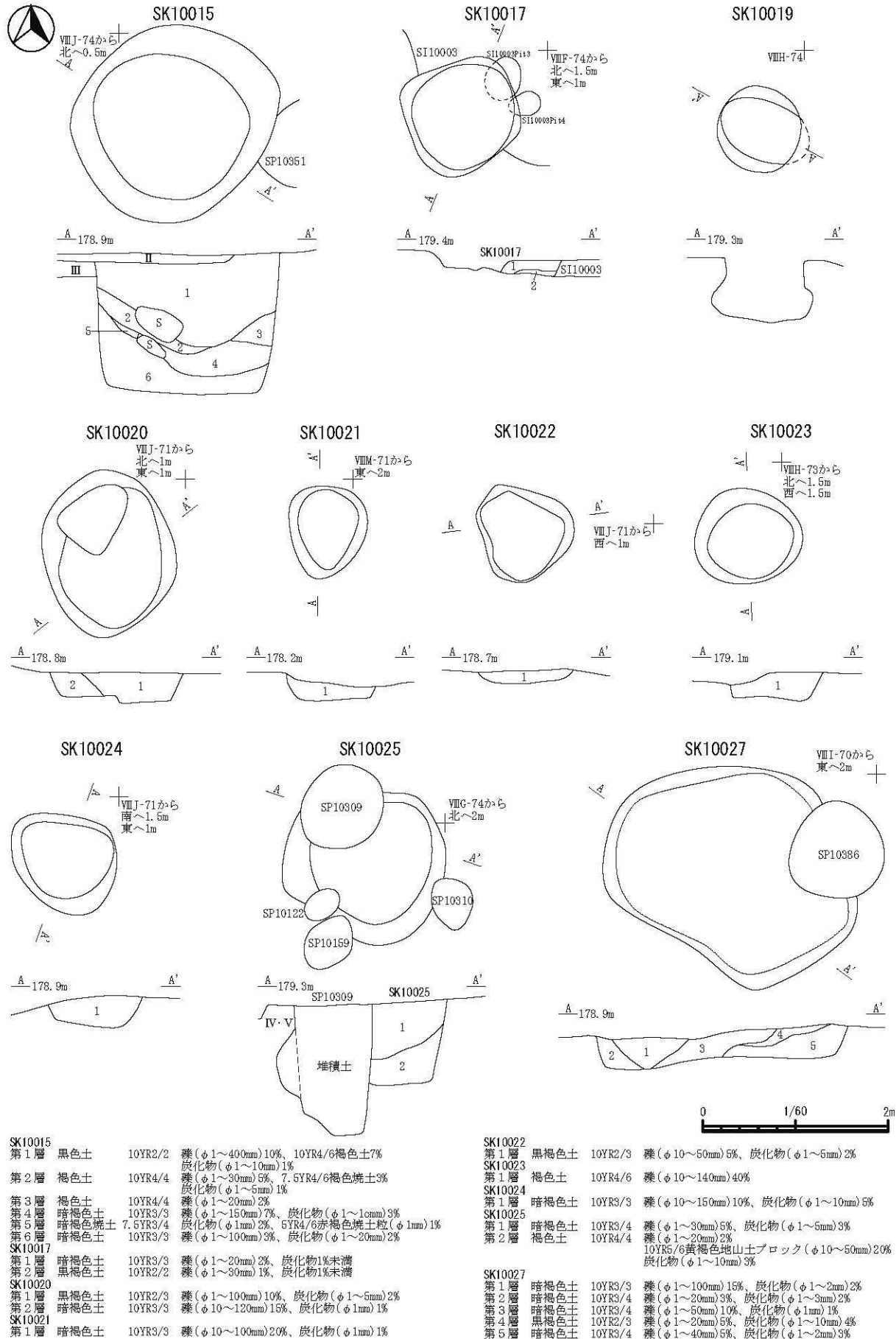
SK6059	第1層 暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/4)10%、礫(φ10~240mm)40%、炭化物(φ1~10mm)5%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~40mm)5%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第3層 褐色土	10YR4/6	黄褐色土(10YR5/6)3%、礫(φ10~250mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1%
SK6060	第1層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)2%、礫(φ10~160mm)7%、炭化物(φ1~10mm)2%
	第2層 褐色土	10YR4/6	黒褐色土(10YR2/3)5%、礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%
SK6061	第1層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)7%、褐色土(10YR4/6)2%、礫(φ10~260mm)15%、炭化物(φ1~10mm)2%
SK6062	第1層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)2%、礫(φ3~30mm)3%、炭化物(φ3~10mm)2%
	第2層 暗褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)4%、暗褐色土(10YR3/3)2%、 <small>にぶい</small> 黄褐色土(10YR5/4)1%、礫(φ5~15mm)1%、炭化物(φ10~15mm)1%
	第3層 暗褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)8%、黒褐色土(10YR2/2)3%、褐色土(10YR4/6)1%、礫(φ5~35mm)1%、炭化物(φ2~5mm)1%未滿
SK6063	第1層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)10%、礫(φ10~120mm)15%、炭化物(φ1~15mm)3%
SK6064	第1層 黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)10%、褐色土(10YR4/6)5%、礫(φ10~80mm)10%、炭化物(φ1~15mm)5%
SK6065	第1層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/4)15%、礫(φ10~400mm)20%、炭化物(φ1~15mm)5%
SK6067	第1層 黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土(10YR3/3)2%、礫(φ3~100mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%
	第2層 暗褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)4%、礫(φ2~80mm)3%
	第3層 暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)5%、褐色土(10YR4/4)2%、礫(φ2~100mm)2%
SK6068	第1層 暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ2~100mm)10%、炭化物(φ1~4mm)1%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)4%、礫(φ3~100mm)8%、炭化物(φ1mm)1%
SK6070	第1層 暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)5%、礫(φ3~250mm)8%、炭化物(φ1~3mm)1%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土(10YR2/3)8%、礫(φ5~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
SK6071	第1層 黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)2%、暗褐色土(10YR3/4)1%、礫(φ5~80mm)4%、炭化物(φ1~2mm)1%未滿
	第2層 暗褐色土	10YR3/3	暗褐色土(10YR3/4)4%、黒褐色土(10YR2/3)2%、礫(φ3~60mm)2%
	第3層 暗褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)2%、暗褐色土(10YR3/3)1%、礫(φ5~100mm)6%
SK6072	第1層 暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3)3%、黄褐色浮石(φ1~2mm)2%、礫(φ3~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
	第2層 暗褐色土	10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)2%、礫(φ3~100mm)、炭化物(φ2~4mm)1%

図96 土坑30(SK6059~6072)



SK10001	第1層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ10~20mm)5%	
	第2層 黒褐色土 10YR2/2 礫(φ20~120mm)10%	
SK10002	第1層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ10~90mm)10%	
	第2層 黒褐色土 10YR3/2 礫(φ20~90mm)15%	
	第3層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ20~70mm)5%	
SK10005	第1層 褐色土 10YR4/6 礫(φ10~120mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%	
	第2層 褐色土 10YR4/4 礫(φ10~110mm)45%、炭化物(φ1~3mm)1%	
	第3層 褐色土 10YR4/4 礫(φ10~150mm)25%、炭化物(φ1~15mm)1%	
	第4層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~170mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%	
SK10009	第1層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ1~70mm)5%	
	第2層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ30~240mm)25%、地山土粒(φ20~40mm)10%	
SK10010	第1層 暗褐色土 10YR3/4 10YR4/6褐色土10%、礫(φ1~40mm)10%、炭化物(φ1~3mm)1%	
	第2層 暗褐色土 10YR2/3 10YR4/6褐色土15%、礫(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1mm)1%	
	第3層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ1~50mm)7%、炭化物(φ1~5mm)2%	
	第4層 褐色土 10YR4/4 礫(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1~2mm)2%	
SK10011	第1層 黒褐色土 10YR2/2 礫(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%	
	第2層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ1~70mm)7%、炭化物(φ1~5mm)2%	
	第3層 暗褐色土 10YR3/2 礫(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%	
	第4層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ1~60mm)10%、炭化物(φ1~15mm)7%	
	第5層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ1~200mm)25%、炭化物(φ1~5mm)3%	
	第6層 褐色土 10YR4/4 礫(φ1~50mm)30%、炭化物(φ1~2mm)1%	
	第7層 褐色土 10YR4/4 礫(φ1~100mm)15%、炭化物(φ1~10mm)2%	
SK10013	第1層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~120mm)40%、地山土粒(φ30mm)3%	
	第2層 褐色土 10YR4/4 礫(φ50~190mm)50%	

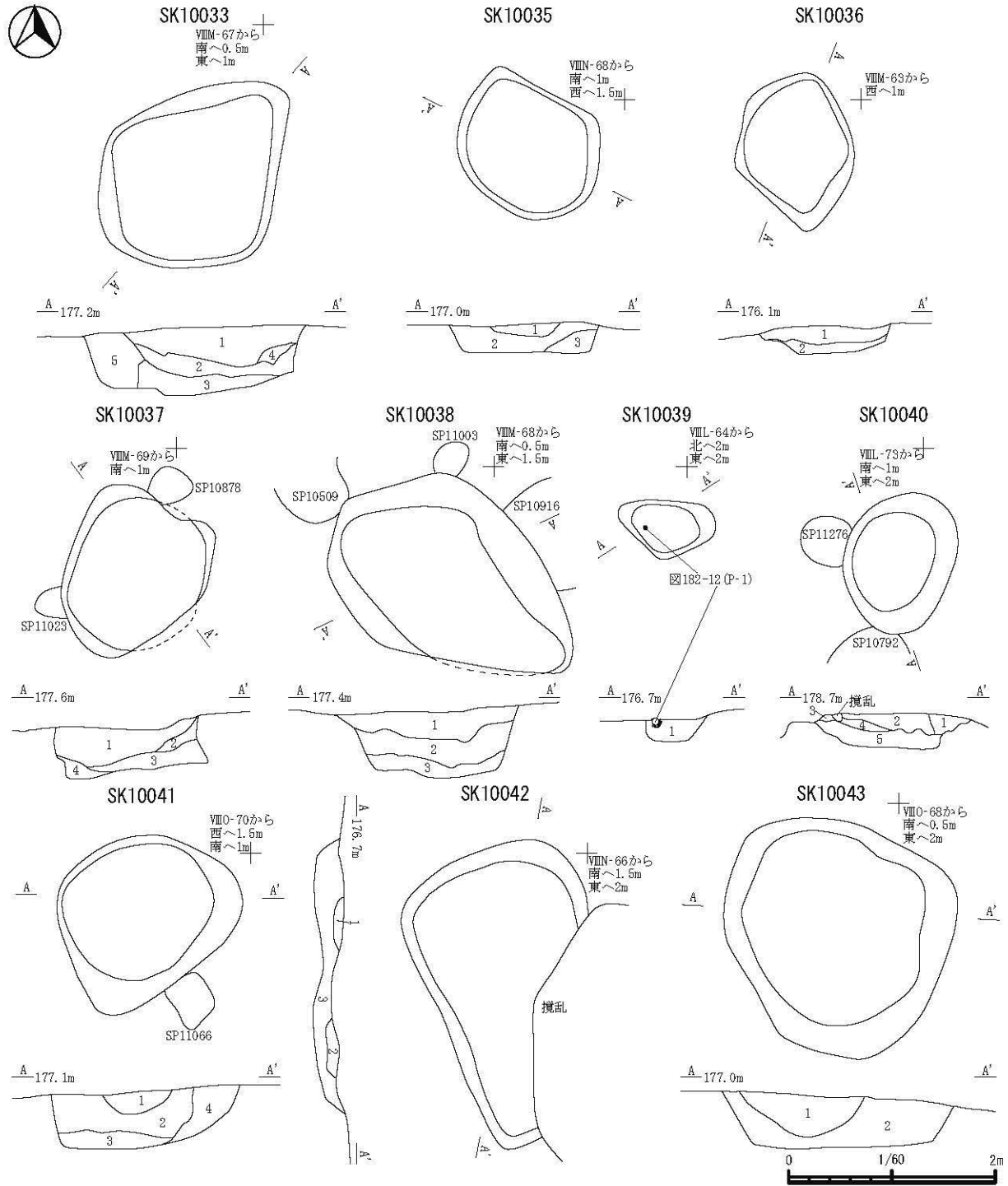
図97 土坑31(SK10001~10013)



SK10015	第1層 黒色土	10YR2/2	礫(φ1~40mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1%
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~30mm)5%、7.5YR4/6褐色焼土3%
	第3層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)2%
	第4層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~150mm)7%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第5層 暗褐色焼土	7.5YR3/4	炭化物(φ1mm)2%、5YR4/6赤褐色焼土粒(φ1mm)1%
	第6層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~100mm)3%、炭化物(φ1~20mm)2%
SK10017	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~20mm)2%、炭化物1%未測
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~30mm)1%、炭化物1%未測
SK10020	第1層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~100mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%
	第2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~120mm)15%、炭化物(φ1mm)1%
SK10021	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)20%、炭化物(φ1mm)1%

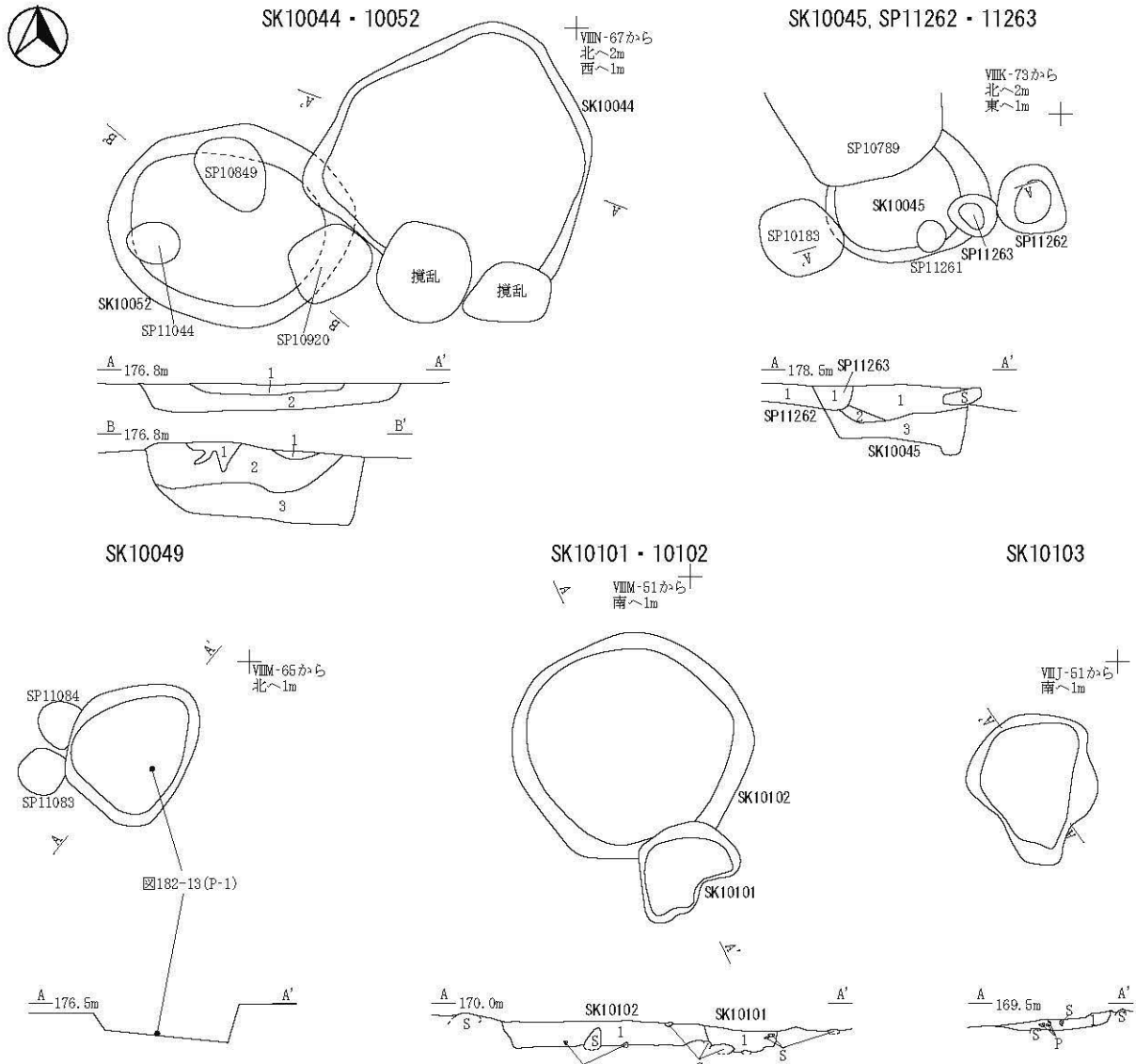
SK10022	第1層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ1~5mm)2%
SK10023	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ10~140mm)40%
SK10024	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~150mm)10%、炭化物(φ1~10mm)5%
SK10025	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)2%、10YR5/6黄褐色地山土ブロック(φ10~50mm)20%、炭化物(φ1~10mm)3%
SK10027	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~100mm)15%、炭化物(φ1~2mm)2%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~50mm)10%、炭化物(φ1mm)1%
	第4層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~10mm)4%
	第5層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~40mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%

図98 土坑32(SK10015~10027)



SK10033	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)15%、炭化物(φ5~10mm)2%
	第2層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ5~15mm)2%
	第3層 にぎい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ10~150mm)15%、炭化物(φ1~5mm)1%
	第4層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~40mm)3%、炭化物(φ5mm)1%
	第5層 黒褐色土	7.5YR3/2	礫(φ10~20mm)2%、炭化物(φ2~10mm)3%
SK10035	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~60mm)15%、炭化物(φ20mm)3%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~120mm)20%、炭化物(φ5~10mm)5%
	第3層 褐色土	10YR4/6	礫(φ20~50mm)7%
SK10036	第1層 黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~100mm)15%、炭化物(φ10~20mm)3%
	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~120mm)20%、炭化物(φ5mm)1%
SK10037	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)15%、地山土粒(φ20~70mm)10%
	第2層 褐色土	10YR4/4	炭化物(φ5~30mm)5%
	第3層 黄褐色土	10YR5/6	礫(φ30mm)5%、炭化物(φ5~10mm)3%
	第4層 にぎい黄褐色土	10YR5/4	礫(φ5~10mm)3%、炭化物(φ5~10mm)3%
		10YR5/4	礫(φ20~90mm)15%
SK10038	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%
	第2層 褐色土	10YR4/6	礫(φ7~150mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%
	第3層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%
SK10039	第1層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~110mm)40%、炭化物(φ10mm)1%
SK10040	第1層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~50mm)10%、5YR8/1灰白色浮石(φ1~2mm)5%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~30mm)5%
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%
	第4層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~10mm)2%
	第5層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~20mm)5%、7.5YR4/6褐色土3% 炭化物(φ1mm)1%
SK10041	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)25%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~120mm)10%、炭化物(φ5~10mm)1%
	第3層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~90mm)5%、地山土粒(φ100mm)3%
			炭化物(φ5mm)1%
	第4層 褐色土	10YR4/4	礫(φ10~70mm)15%
SK10042	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~20mm)15%、炭化物(φ10mm)3%
	第2層 黒褐色土	2.5YR3/2	5YR3/6暗赤褐色土40%、礫(φ50mm)3%
	第3層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~310mm)40%、炭化物(φ5mm)1%
SK10043	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~350mm)70%
	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~340mm)50%、炭化物(φ10mm)1%

図100 土坑34(SK10033~10043)



SK10044	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~40mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ5~10mm)1%
SK10045	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~40mm)20%、炭化物(φ1~2mm)3%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~10mm)3%
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~10mm)40%
SP11262	第1層	黄褐色土	10YR5/6	礫(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1mm)1%
SP11263	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~50mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%
SK10052	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~300mm)15%、2.5YR7/1灰白色浮石(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~50mm)5%、2.5YR7/1灰白色浮石(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
SK10101	第1層	暗褐色土	10YR3/3	しまり弱、砂質、炭化物(φ2~3mm)2%
SK10102	第1層	褐色土	10YR4/3	しまり弱、砂質、炭化物(φ2~4mm)1%
SK10103	第1層	暗褐色土	10YR3/4	しまり弱、砂質、礫(φ30~40mm)1%、炭化物(φ2~3mm)2%



図101 土坑35(SK10044~10103)

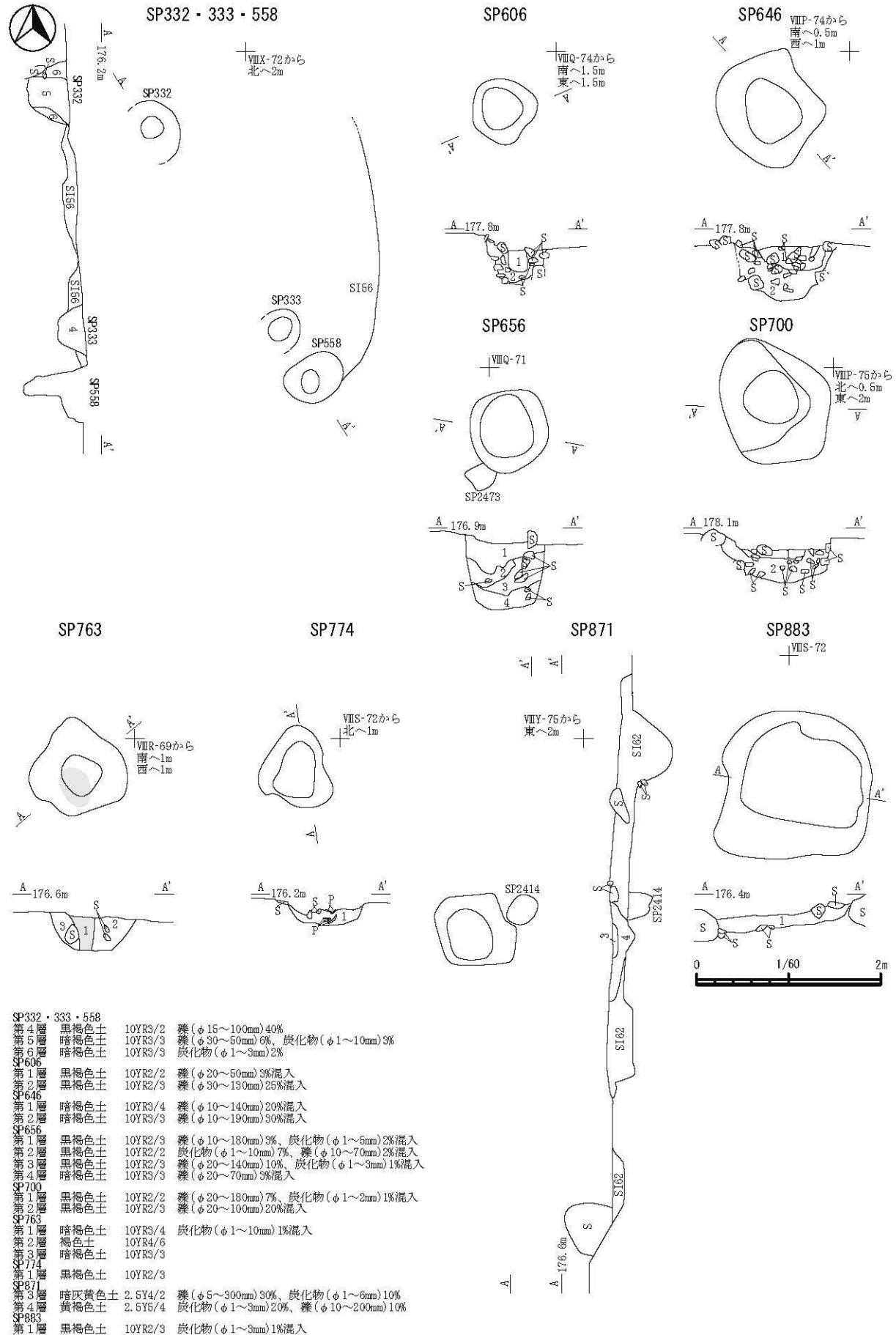
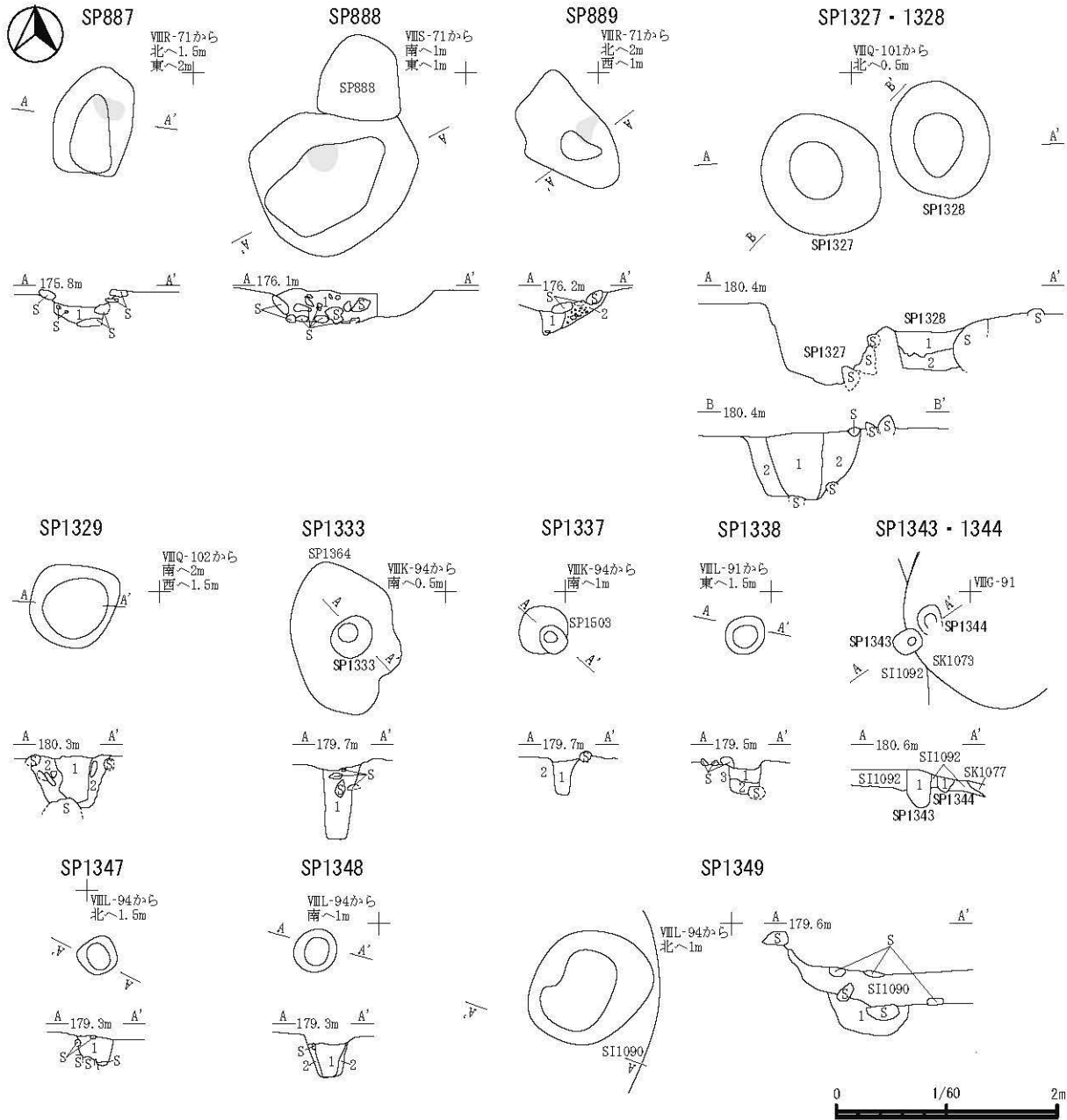
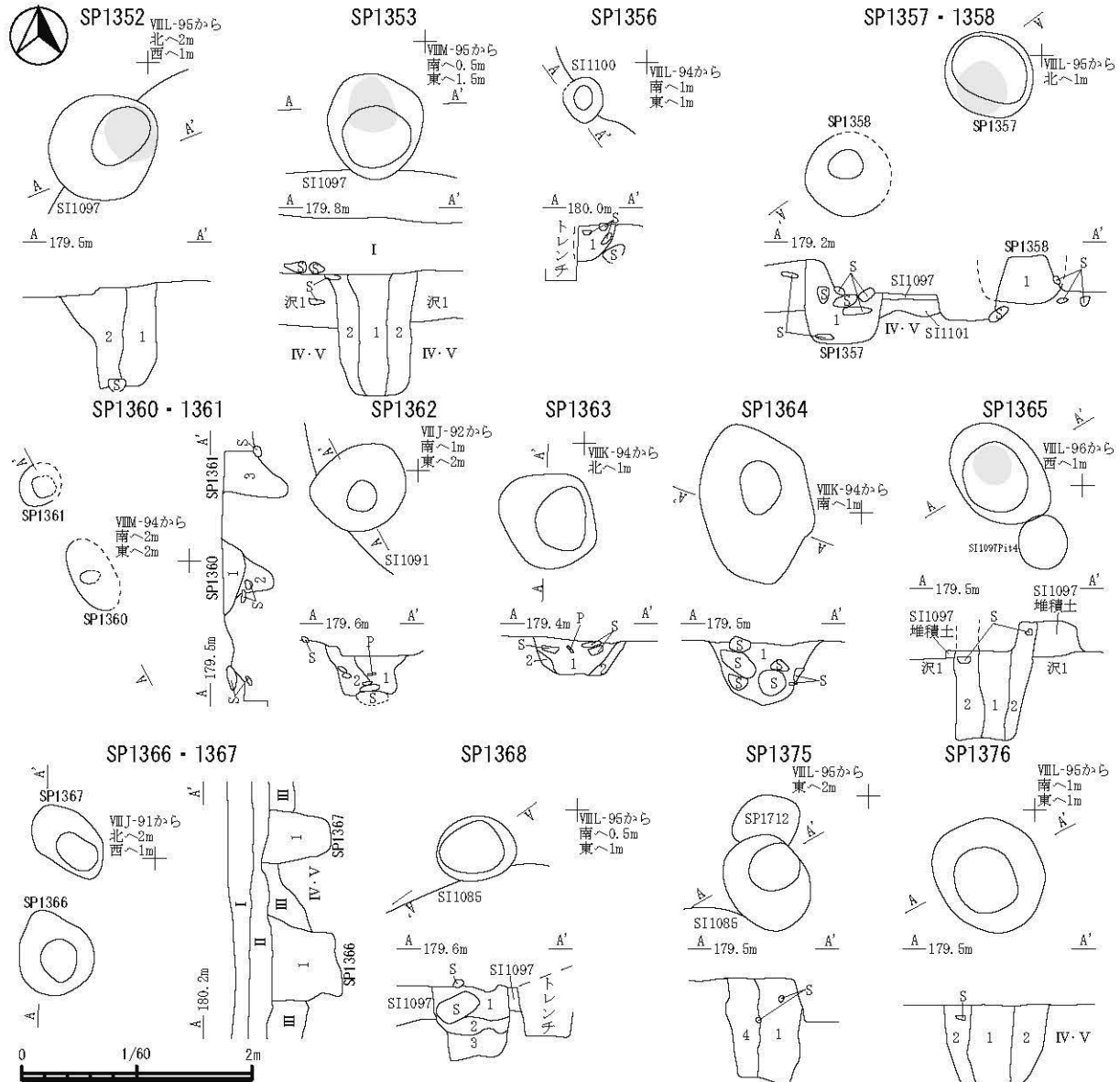


図102 ピット1(SP332~883)



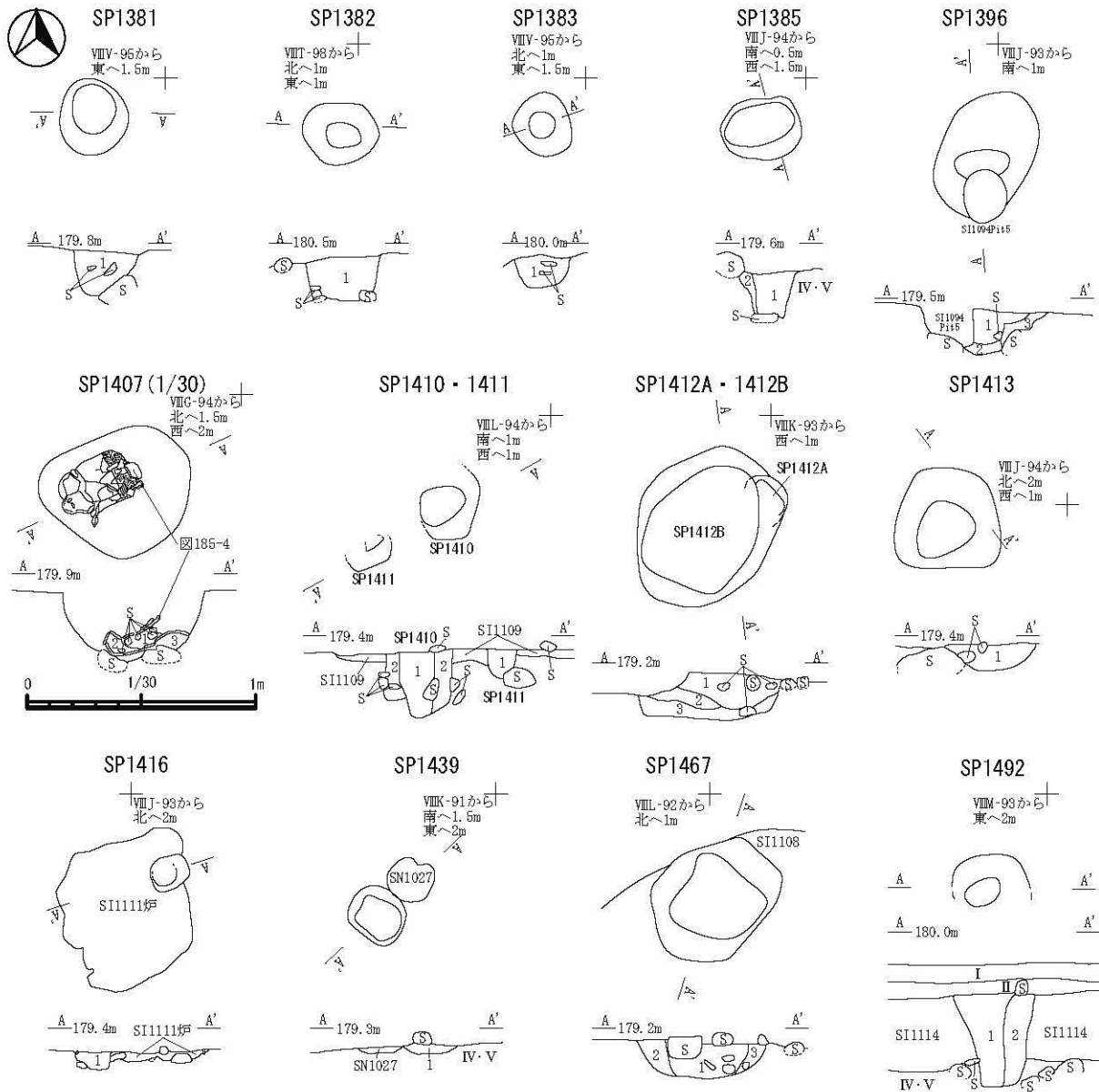
SP887 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~25mm)30%混入
SP888 第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)20%、炭化物(φ1~2mm)1%混入
SP889 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~20mm)20%、炭化物(φ1mm)1%混入
SP1327 第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫多量に含む
SP1327 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~90mm)1%、炭化物(φ1~3mm)3%、柱痕
SP1328 第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)20%、炭化物(φ~1mm)2%
SP1328 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~90mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%
SP1329 第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~25mm)1%、炭化物(φ~1mm)1%以下
SP1329 第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ10~50mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%、柱痕
SP1333 第2層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)、礫(φ10~140mm)20%
SP1333 第1層	褐色土	10YR4/4	礫(10~160mm)15%、炭化物(φ5~10mm)1%混入。しまりやや弱い。粘性弱い。
SP1337 第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~60mm)1% 粘性：やや弱、しまり：やや弱
SP1338 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ3~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1% 粘性：弱、しまり：やや強
SP1338 第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ2~10mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性：やや弱、しまり：やや強
SP1343 第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1% 粘性：やや弱、しまり：弱
SP1344 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~15mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1% 粘性：やや弱、しまり：やや弱
SP1347 第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~60mm)3% 粘性：やや強、しまり：やや強
SP1348 第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ40~60mm)2% 粘性：やや強、しまり：やや強
SP1348 第2層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~60mm)3% 粘性：やや強、しまり：やや強
SP1349 第1層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物(φ1mm)1% 粘性：弱、しまり：やや強

図103 ピット2(SP887~1349)



SP1352	第1層	暗褐色土	10YR3/4	暗褐色土(10YR3/3)5%、黄褐色地山土(φ3~20mm)3%、礫(φ5~40mm)1%以下、炭化物(φ1~5mm)1%	柱痕。粘性:なし、しまり:有
SP1352	第2層	暗褐色土	10YR3/4	黄褐色地山土(φ5~25mm)10%、礫(φ5~60mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%	根がため。粘性:なし、しまり:有
SP1353	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)1%、炭化物(φ1~5mm)3%	柱痕。粘性:やや弱、しまり:やや強
SP1353	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ1~5mm)3%	粘性:やや強、しまり:やや強
SP1355	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~280mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%	粘性:なし、しまり:やや強
SP1358	第1層	暗褐色土	10YR3/3	黄褐色地山土(10YR5/8)(φ3~5mm)2%、礫(φ10~200mm)15%、炭化物(φ1~10mm)3%	粘性:有、しまり:弱
SP1360・1361	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%	粘性:有、しまり:有
SP1360・1361	第2層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%	粘性:有、しまり:やや有
SP1360・1361	第3層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~50mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%	粘性:有、しまり:有
SP1360・1361	第4層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物(φ1~5mm)2%	粘性:有、しまり:有
SP1362	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)3%、炭化物(φ1~5mm)5%	粘性:有、しまり:やや弱
SP1362	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%	粘性:有、しまり:有
SP1363	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%	粘性:やや強、しまり:やや強
SP1363	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%	粘性:強、しまり:やや強
SP1364	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~250mm)15%、炭化物(φ1~3mm)1%	粘性:やや強、しまり:弱
SP1366	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ5~30mm)1%、炭化物(φ1~5mm)3%	粘性:やや弱、しまり:弱 柱痕
SP1366	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%	地山土を多量に含む。粘性:やや弱、しまり:やや強
SP1366	第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%	
SP1366	第4層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~110mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%	
SP1367	第1層	暗褐色土	10YR3/3	褐色地山土(10YR4/4)3%、礫(φ10~140mm)1%、炭化物(φ1~3mm)2%	
SP1368	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~5mm)2%、礫(φ10~35mm)20%	
SP1368	第2層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)15%、炭化物(φ1~3mm)2%	
SP1368	第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1~2mm)1%	
SP1375	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~5mm)5%、礫(φ10~30mm)3%	粘性:やや弱、しまり:やや強
SP1375	第2層	褐色土	10YR4/4	10YR5/8黄褐色地山土ブロック(φ1~20mm)20%、炭化物(φ1~2mm)2%、礫(φ10~20mm)5%	粘性:弱、しまり:強
SP1376	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%	粘性:やや弱、しまり:やや弱
SP1376	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ1~5mm)3%	粘性:やや強、しまり:やや強

図104 ピット3(SP1352~1376)



SP1381	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~5mm)、礫(φ20~100mm)2%、礫(φ1~2mm)20%	砂質土。しまり:やや強、粘質:弱
SP1382	第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物粒(φ1~2mm)2%、礫(φ50~80mm)2%、礫(φ1~2mm)20%	砂質土。しまり:やや強、粘質:やや弱
SP1383	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)3%	粘質土(細礫が非常に多く、さらさらしない)。しまり:強、粘質:やや弱
SP1385	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~30mm)1%、炭化物(φ1~15mm)1%	
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~30mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%未済	
SP1396	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~60mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%	
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~20mm)1%、炭化物(φ1mm)1%	
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~50mm)2%、炭化物(φ1mm)2%	
SP1407	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~40mm)10%、炭化物(φ10mm以下)1%	
	第2層	褐色土	7.5YR4/4	礫(φ1~30mm)5%	
	第3層	褐色土	7.5YR4/4	礫(φ1~30mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%	
SP1410	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~100mm)7%、炭化物(φ1~5mm)2%	
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~80mm)15%、炭化物(φ1~2mm)1%	
SP1411	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ5~50mm)5%、炭化物(φ1~5mm)5%	
SP1412B	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~140mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%	
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~50mm)3%、炭化物(φ10mm以下)1%	
	第3層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~130mm)1%、炭化物(φ15mm以下)1%	
SP1413	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~30mm)7%、炭化物(φ1~5mm)5%	
SP1416	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~25mm)1%、炭化物(φ5mm以下)1%未済	
SP1439	第1層	黒褐色土	10YR2/3	5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%	
SP1467	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~300mm)25%、炭化物(φ15mm以下)1%未済 柱穴跡	
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~50mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%未済	
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~60mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%未済	
SP1492	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~200mm)30%、炭化物(φ1mm)1%	
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%	



図105 ピット4(SP1381~1492)

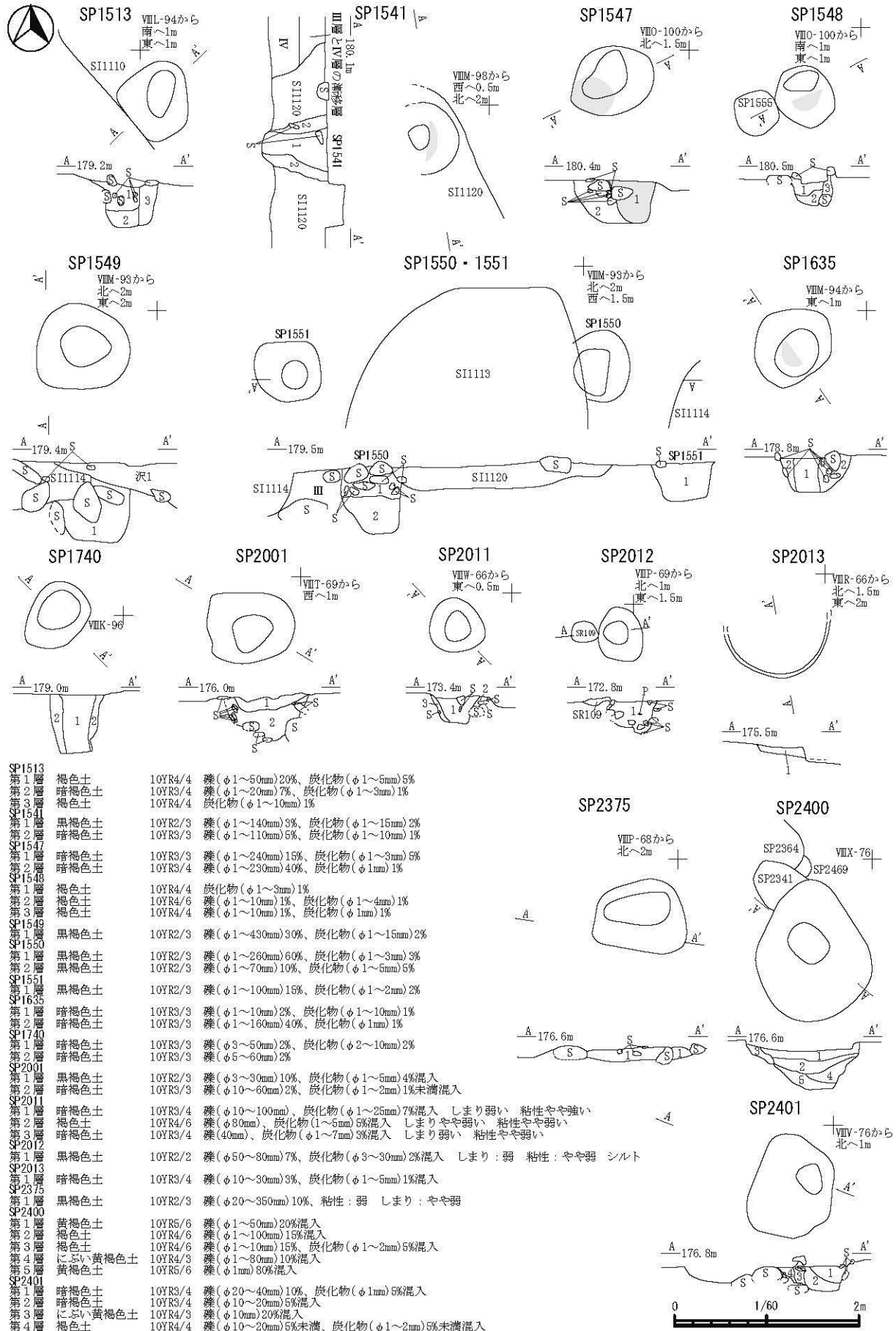
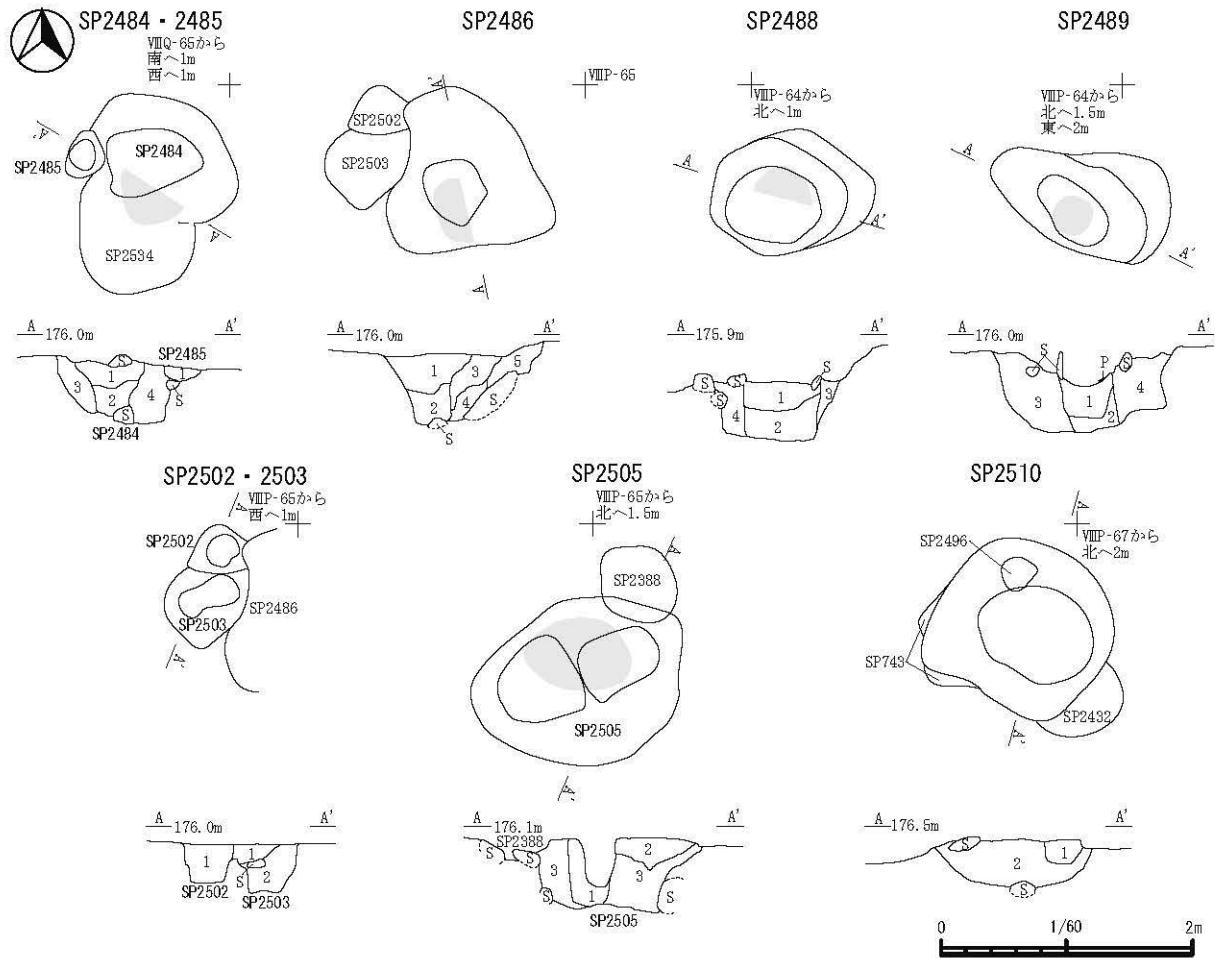
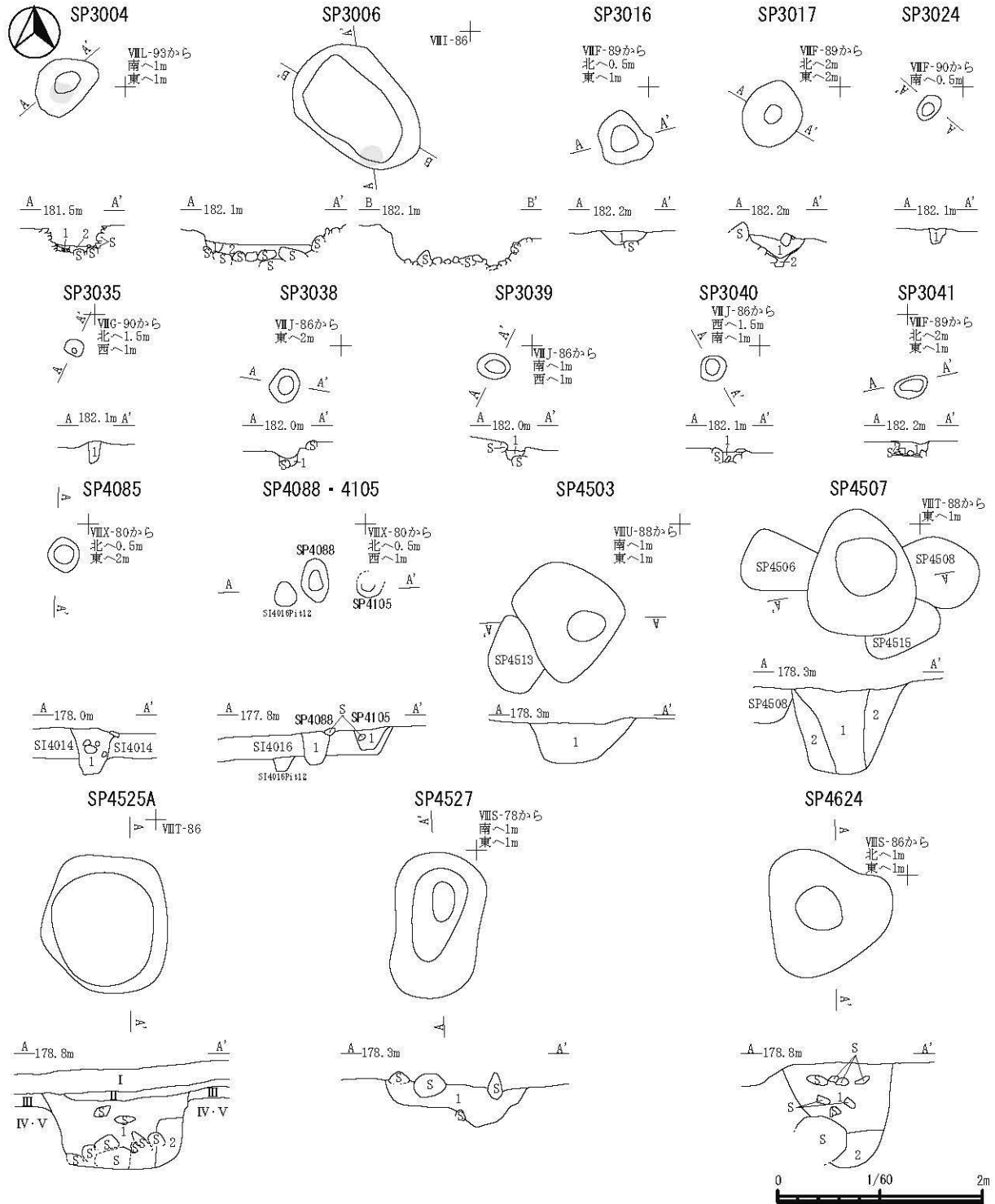


図106 ピット5(SP1513~2401)



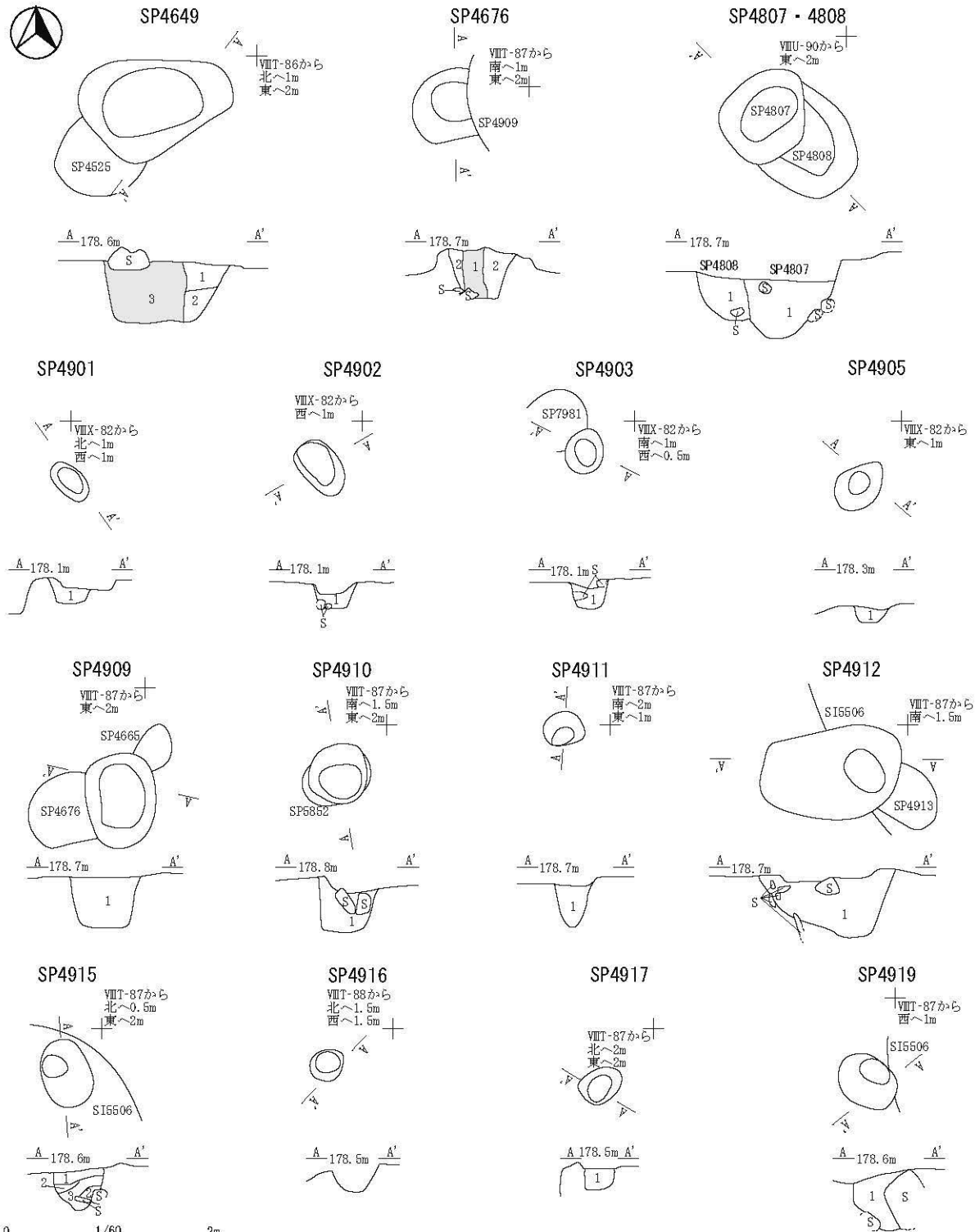
SP2484	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ3~5mm)2%	褐色粒(φ3mm)	黄褐色土(φ3mm)	ごく微量	柱痕
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ3~5mm)2%	褐色粒(φ3mm)	黄褐色土(φ3mm)1%	ごく微量	柱痕
	第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ3mm)2%	ごく微量			
	第4層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ10mm)	ごく微量			
SP2485	第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ10mm)	ごく微量			
SP2486	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ3~5mm)2%	褐色粒(φ3mm)	ごく微量	柱痕	
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ5mm)	ごく微量	柱痕		
	第3層	褐色土	10YR2/2	炭化物(φ3mm)2%				
	第4層	褐色土	10YR4/4					
	第5層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ10mm)	ごく微量			
SP2488	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ2~5mm)10%、炭化物(φ1mm)30%	柱痕			
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10mm)5%未満、炭化物(φ1mm)20%	柱痕			
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~2mm)5%未満、炭化物なし				
	第4層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~20mm)10%、炭化物(φ~1mm)1%				
SP2489	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ100mm)2%、炭化物(φ3mm)	ごく微量	柱痕		
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ50mm)5%	柱痕			
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)10%				
	第4層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ50~140mm)9%、黄褐色粒(φ3mm)1%				
SP2502	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ3~5mm)1%				
SP2503	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ5mm)	ごく微量			
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ3~5mm)	ごく微量			
SP2505	第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ5~40mm)20%、炭化物(φ1~2mm)10%	柱痕			
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ50mm)15%、炭化物(φ1mm)5%				
	第3層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	礫(φ1~120mm)50%、炭化物(φ1~2mm)10%				
SP2510	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ2~5mm)1%、炭化物(φ1~3mm)3%				
	第2層	褐色土	10YR3/4	礫(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%				

図107 ピット6(SP2484~2510)



SP3004	第1層 黒褐色土	10YR3/2	しまりあり 柱痕	SP3041	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ10~60mm)15%、炭化物(φ1mm)2%
SP3004	第2層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~10mm)10%	SP4085	第1層 黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~2mm)2%
SP3006	第1層 暗褐色細砂シルト	10YR3/4	礫(φ2~5mm)5%、柱痕	SP4088	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
SP3006	第2層 褐色細砂シルト	10YR4/6	礫(φ2~30mm)7%、炭化物(φ2mm)1%	SP4105	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ30~50mm)5%、炭化物(φ2~5mm)2%
SP3016	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~50mm)15%、炭化物(φ1~2mm)2%	SP4503	第1層 黒褐色土	10YR3/2	礫中(φ2~5mm)20%混入
SP3016	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ30~180mm)25%	SP4507	第1層 暗褐色土	10YR3/4	礫極大(φ10mm以上)50%混入
SP3016	第2層 黄褐色土	10YR5/6	礫(φ10~40mm)15%	SP4507	第2層 褐色土	10YR4/4	礫中(φ2~5mm)20%混入
SP3024	第1層 暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)30%	SP4525A	第1層 暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~5mm)2%、礫(φ1~360mm)20%
SP3035	第1層 黒褐色土	10YR3/2	礫(φ50mm)5%	SP4527	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ100mm)25%
SP3038	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ100mm)25%	SP4527	第2層 褐色土	10YR4/4	礫(φ1~140mm)30%
SP3039	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ20mm~)40%	SP4527	第1層 黒褐色土	10YR2/2	極大塊状礫(φ10~150mm)40%混入
SP3040	第1層 褐色土	10YR4/6	礫(φ10~80mm)25%	SP4624	第1層 黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ30mm)2%、礫(φ20~200mm)30%
				SP4624	第2層 暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~50mm)7%

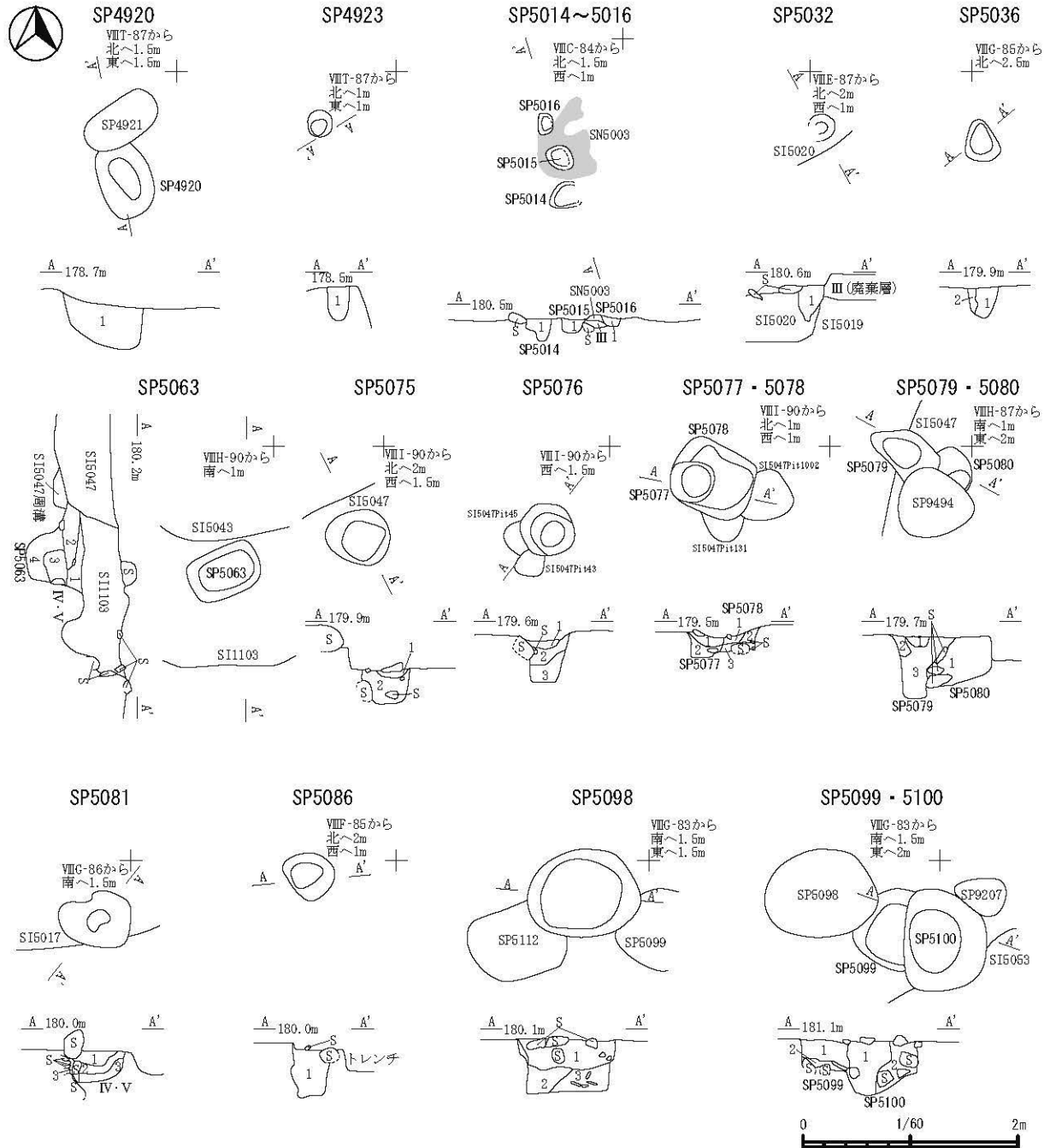
図108 ピット7(SP3004~4624)



SP4649	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~50mm)15%混入
第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%, 礫(φ100~150mm)15%混入
第2層	暗褐色土	10YR3/4	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物(φ1~2mm)1%, 礫(φ10~20mm)3%混入
SP4676	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~50mm)5% 柱底
第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1mm程度)2%, 礫(φ10~200mm)15%
SP4807	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)1%, 礫(φ5~10mm)5%混入
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)10%混入
SP4901	暗褐色土	10YR3/4	礫小(φ1~2mm)2%混入
第1層	暗褐色土	10YR3/4	
SP4902	黒褐色土	10YR2/3	礫塊(φ10~20mm)10%混入
第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫中(φ2~5mm)5%混入
第1層	黒褐色土	10YR2/2	

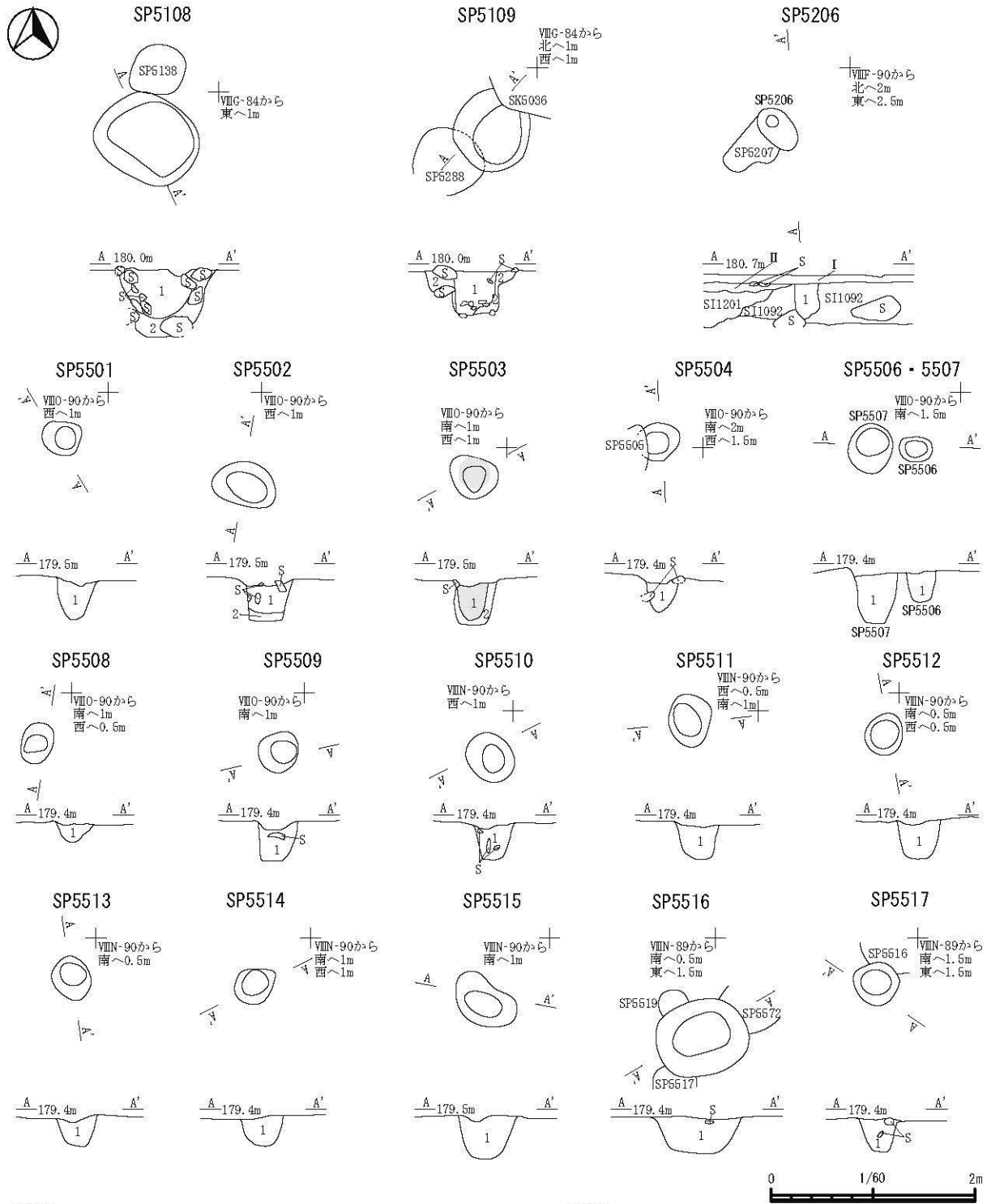
SP4905	黒褐色土	10YR3/2	小礫(φ1~2mm)5%混入
第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm以下)1%, 礫(φ20~80mm)5%
SP4910	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm以下)1%, 礫(φ30~260mm)40%
第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ2~5mm)2%, 礫(φ20~40mm)7%
SP4912	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1mm)2%, 礫(φ20~220mm)18%
第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm以下)1%
SP4915	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1mm以下)1%
第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1mm以下)1%
第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1mm以下)1%, 礫(φ20~120mm)15%
第3層	暗褐色土	10YR3/4	
SP4917	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ13mm)3%, 礫(φ20~40mm)7%
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ20~600mm)40%
SP4919	暗褐色土	10YR3/3	
第1層	暗褐色土	10YR3/3	

図109 ピット8(SP4649~4919)



SP4920 第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~2mm)3%、礫(φ20~130mm)5%	SP5077 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ30~50mm)3%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP4923 第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~12mm)4%、礫(φ10~60mm)15%	第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ30~100mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5014 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~30mm)10%、炭化物(φ1~2mm)2%	SP5078 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5015 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~40mm)3%	第2層	褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5016 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ1mm)1%	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ20~130mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5032 第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ40~150mm)10%、炭化物(φ1~20mm)2%	SP5079 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10mm以下)1%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5036 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5063 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~50mm)5%、炭化物(φ10mm)1%	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)3%、炭化物(φ1~20mm)7%
SP5075 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ20~100mm)10%、炭化物(φ5~10mm)1%	SP5080 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~190mm)7%、炭化物(φ10mm以下)2%
SP5076 第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ20~120mm)5%、炭化物(φ5~10mm)1%	SP5098 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)20%、炭化物(φ5~10mm)3%
SP5077・5078 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)15%、炭化物(φ5~10mm)1%	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ30~40mm)10%、炭化物(φ5~20mm)5%
SP5079・5080 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ60~220mm)10%、炭化物(φ5mm)1%	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ50mm)15%、炭化物(φ5~20mm)3%
SP5081 第1層	暗褐色土	10YR2/2	礫(φ20~120mm)5%、炭化物(φ5~10mm)1%	SP5099 第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~20mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5086 第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~2mm)1%	第2層	暗褐色土	10YR3/2	礫(φ30~110mm)5%、炭化物(φ10mm以下)2%
SP5088 第1層	暗褐色土	10YR2/2	礫(φ10~70mm)5%、炭化物(φ1~9mm)1%	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~20mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5098 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~30mm)10%	SP5100 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~170mm)3%、炭化物(φ1mm)3%
SP5099・5100 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~80mm)10%	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~190mm)7%、炭化物(φ1mm)1%

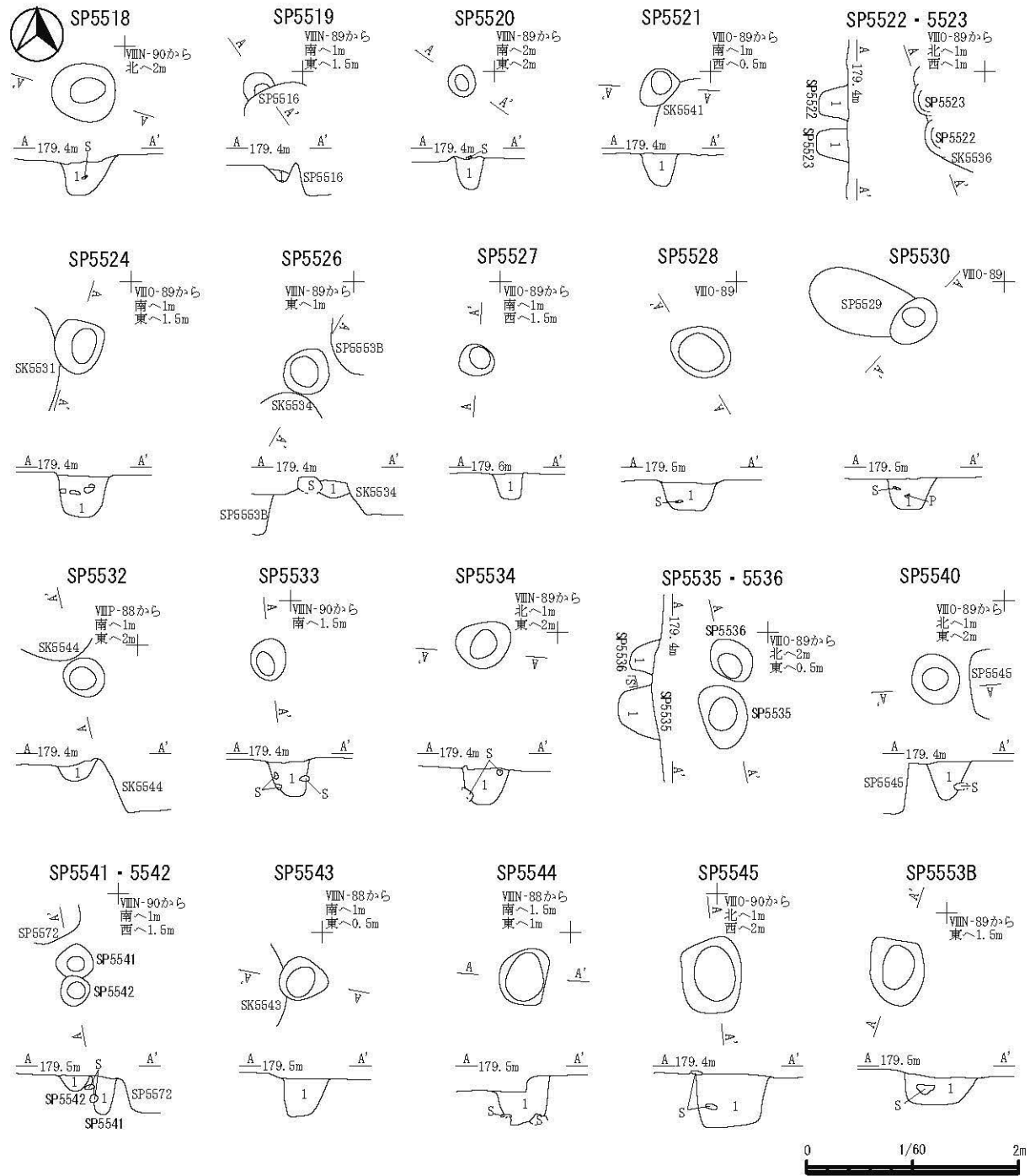
図110 ピット9(SP4920~5100)



SP5108	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ20mm~150mm)20%、炭化物(φ5mm)3%
第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ40mm)5%、炭化物(φ5mm)1%
SP5109	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ30~100mm)5%、炭化物(φ10mm以下)1%
第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~60mm)3%、炭化物(φ10mm以下)1%
SP5206	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~60mm)1%、炭化物(φ1~3mm)3%
SP5501	暗褐色土	10YR3/3	礫小(φ1~2mm)10%混入
SP5502	黒褐色土	10YR2/2	礫大(φ5~60mm)30%混入
第2層	暗褐色土	10YR3/3	
SP5503	暗褐色土	10YR3/4	礫小(φ1~2mm)10%混入
第2層	黒褐色土	10YR3/2	礫小(φ1~2mm)10%混入
SP5504	暗褐色土	10YR3/4	礫小(φ1~10mm)20%
SP5506	暗褐色土	10YR3/3	礫小(φ1~2mm)5%混入
SP5507	黒褐色土	10YR3/2	礫中(φ2~5mm)3%混入

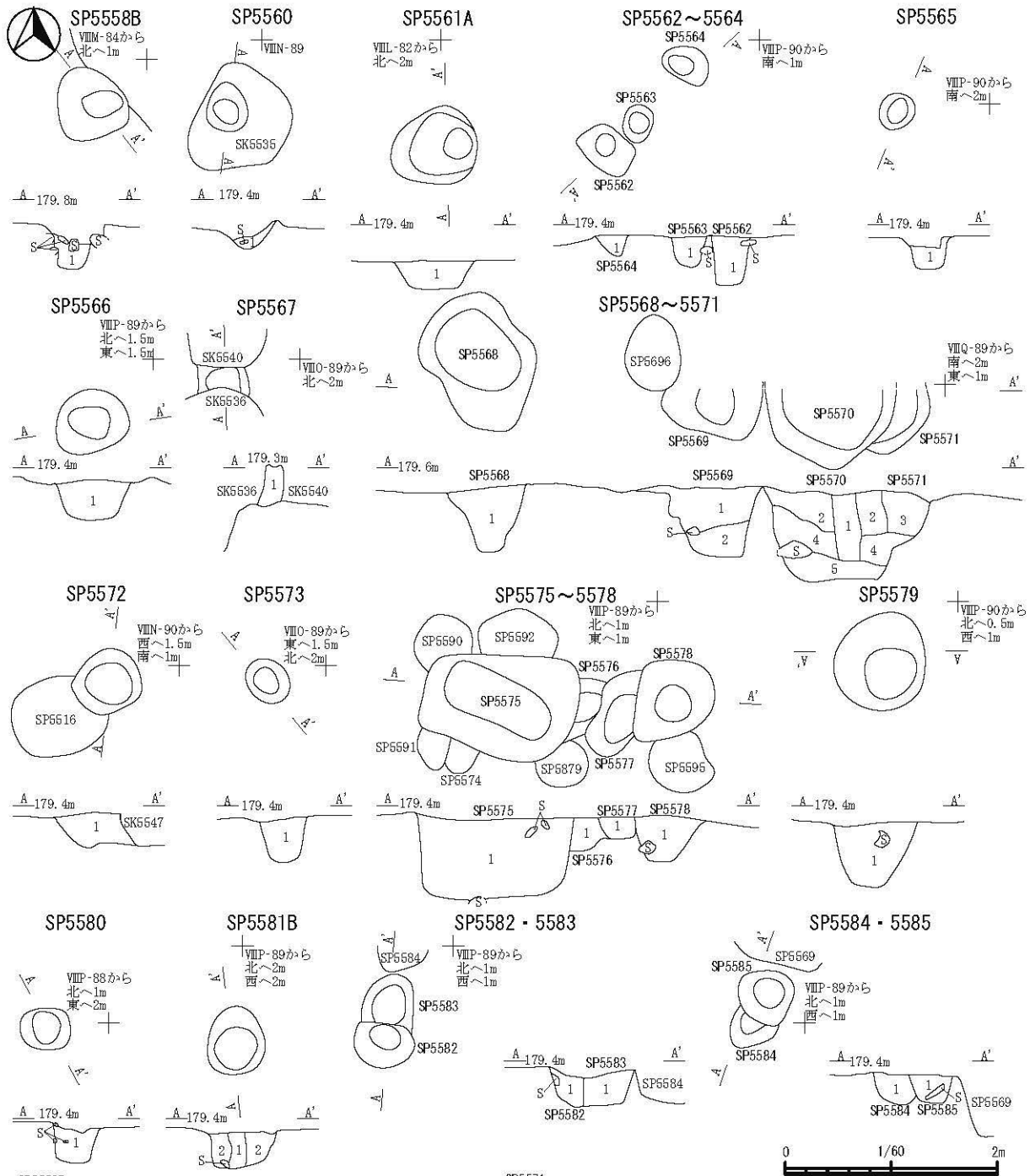
SP5508	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫小(φ1~2mm)10%混入
SP5509	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫中(φ2~5mm)7%混入
SP5510	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫大(φ5~10mm)40%混入
SP5511	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫小(φ1~2mm)5%混入
SP5512	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫小(φ1~2mm)3%混入
SP5513	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫小(φ1~2mm)5%混入
SP5514	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫極小(φ0~5mm)3%混入
SP5515	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~2mm)20%混入
SP5516	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫小(φ2~5mm)10%
SP5517	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫小(φ2~5mm)5%

図111 ピット10(SP5108~5517)



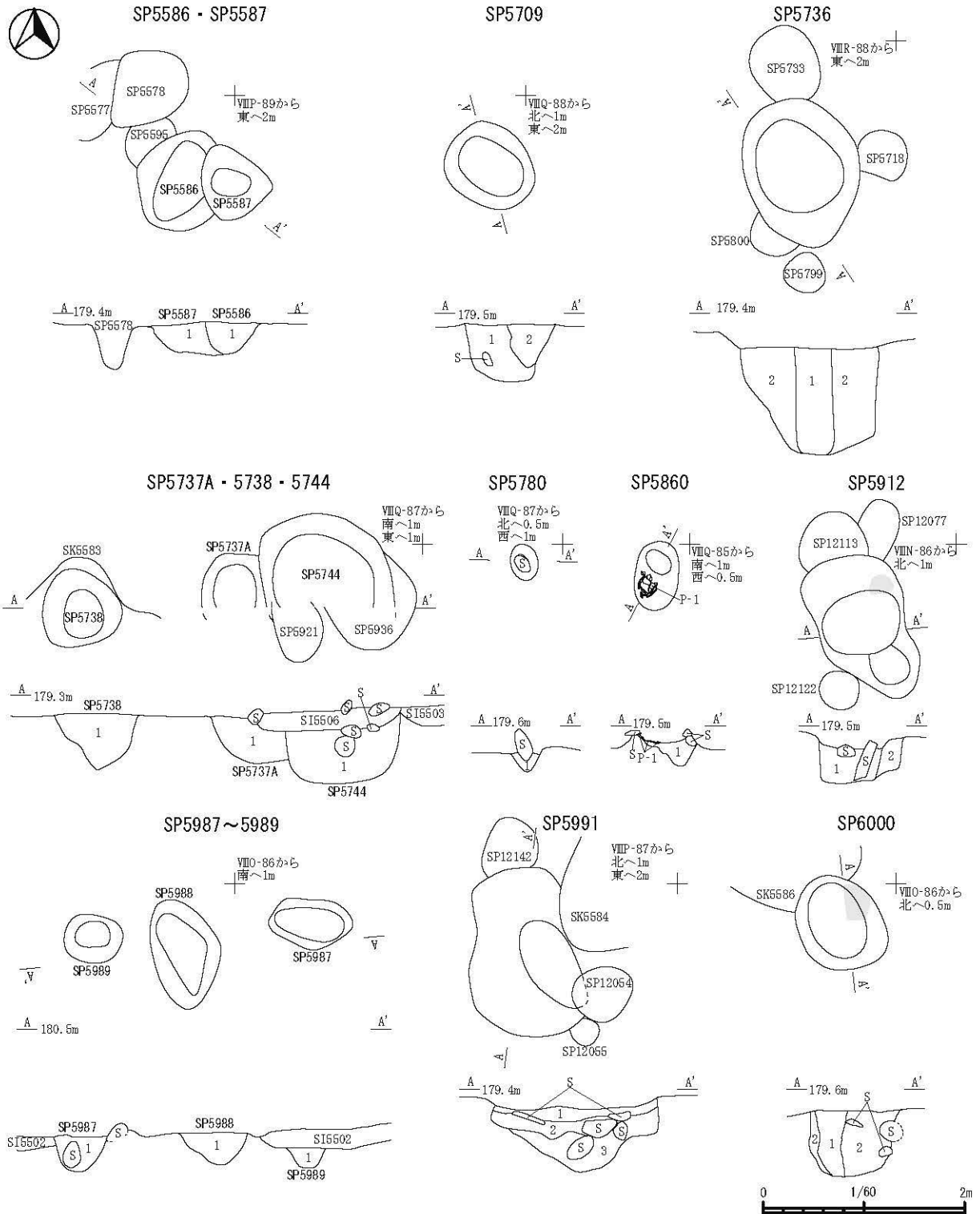
SP5518	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫小3%混入
SP5519	第1層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~30mm)2%
SP5520	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫小(φ2~5mm)3%
SP5521	第1層	黒褐色土	10YR2/2	砂礫(φ1~2mm)50%
SP5522	第1層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物(φ1~2mm)2%, 細礫(φ1~2mm)5%
SP5523	第1層	暗褐色土	7.5YR3/4	細礫(φ1~2mm)5%
SP5524	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ2~5mm)20%混入
SP5526	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~250mm)10%
SP5527	第1層	黒褐色土	10YR2/2	細砂礫(φ1~2mm)50%
SP5528	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~90mm)1%
SP5530	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~80mm)2%
SP5532	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫極小(φ0~5mm)1%
SP5533	第1層	黒色土	10YR2/3	礫小(φ1~2mm)20%混入
SP5534	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫大(φ5~10mm)10%混入
SP5535	第1層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~60mm)5%
SP5536	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~10mm)3%
SP5540	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~30mm)5%
SP5541	第1層	黒褐色土	10YR3/2	板状礫(φ2~10mm)3%
SP5542	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~2mm)3%
SP5543	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~70mm)5%
SP5544	第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物(φ1mm以下)1%未滿, 礫(φ1~200mm)7%
SP5545	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~180mm)15%
SP5553B	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ20~190mm)10%

図112 ピット11(SP5518~5553)



SP5558B 第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫 (φ20~130mm) 20%
SP5560 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ1~90mm) 15% ※SK5535の底面で検出
SP5561A 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ1~50mm) 20%
SP5562 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ1~140mm) 10%
SP5563 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ1~50mm) 20%
SP5564 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ1~30mm) 40%
SP5565 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ1~40mm) 12%
SP5566 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ1~70mm) 20%
SP5567 第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ1~30mm) 7%
SP5568 第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物 (φ1~5mm) 1%, 礫 (φ20~240mm) 3%
SP5569 第1層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物 (φ1~2mm)、礫小 (φ1~2mm) 5%
SP5570 第2層	黒褐色土	10YR2/2	礫小 (φ1~2mm) 1%
SP5571 第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫中 (φ2~5mm) 1%
SP5572 第2層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 (φ1~2mm) 2%
SP5573 第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物 (φ1~2mm) 1%
SP5574 第5層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物 (φ1~2mm) 3%
SP5575 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫中 (φ2~5mm) 7%、礫小 (φ1~2mm) 3%
SP5576 第3層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ1~30mm) 15%
SP5577 第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物 (φ1~3mm) 2%、礫 (φ1~50mm) 5%
SP5578 第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物 (φ1~5mm) 3%、礫 (φ1~20mm) 3%
SP5579 第1層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物 (φ1~2mm) 2%、礫 (φ1~140mm) 15%
SP5580 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ1~160mm) 7%、礫小 (φ1~3mm) 2%
SP5581B 第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫極小 (φ0~1mm) 5%
SP5582 第1層	黒色土	10YR2/1	炭化物 (φ1~5mm) 10%
SP5583 第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫中 (φ1~5mm) 10%
SP5584 第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物 (φ1~5mm) 1%、礫極小 (φ0~5mm) 5%
SP5585 第1層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	礫極小 (φ0~5mm) 3%

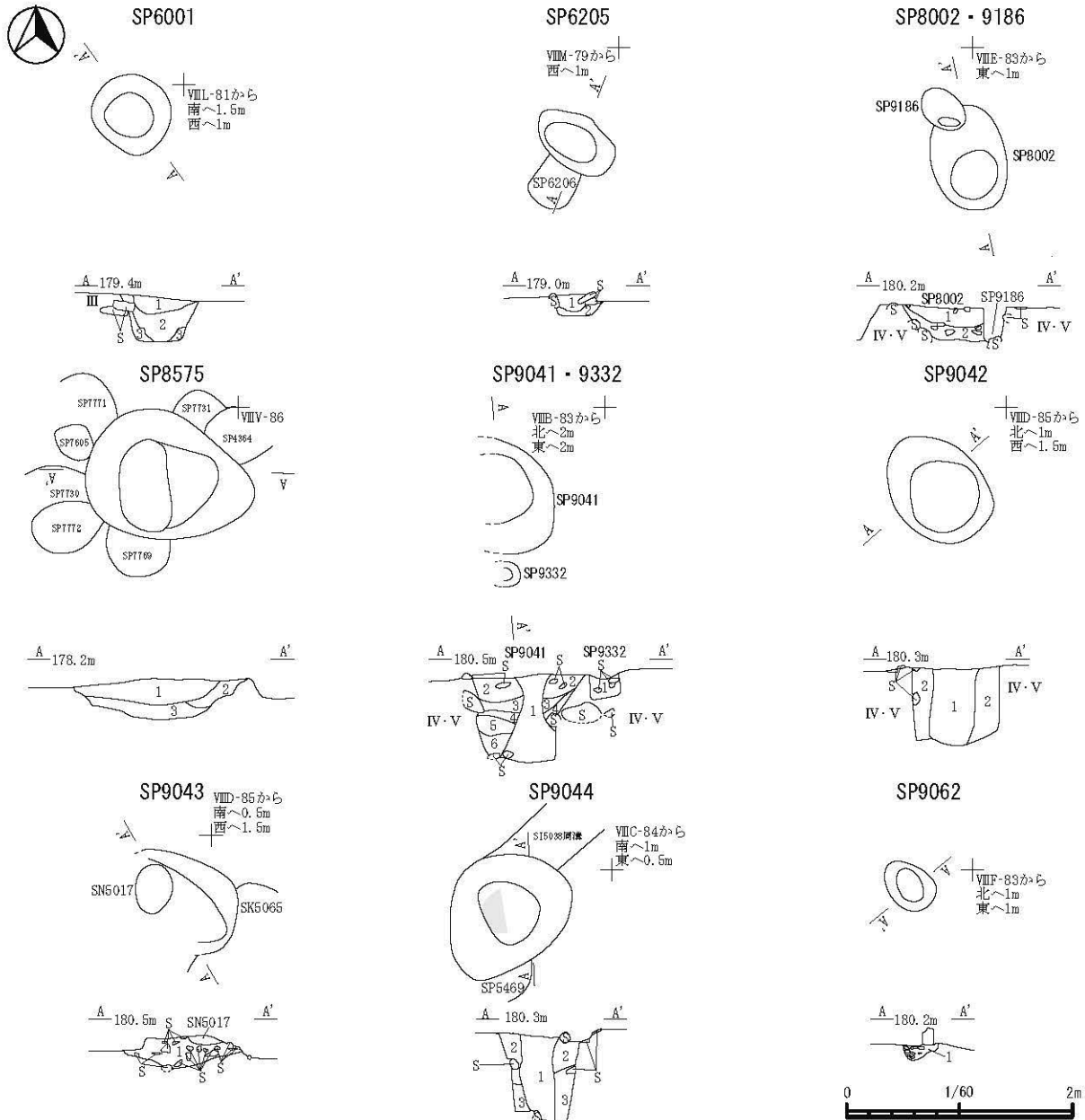
図113 ピット12 (SP5558B~5585)



SP5586	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~5mm)3%、礫(φ1~50mm)20%
SP5587	第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~3mm)1%未滿、礫(φ1~30mm)7%
SP5709	第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物(φ1~20mm)10%、礫(φ20~160mm)3%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~5mm)6%、礫(φ30~110mm)2%
SP5736	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ2~4mm)1%、礫(φ10~60mm)5%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ20~90mm)10%
SP5737A	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~100mm)30%
SP5738	第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物(φ1~2mm)1%、礫(φ1~50mm)10%
SP5744	第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物(φ1~2mm)1%、大礫(φ150~200mm)30%
				礫(φ1~100mm)30%
SP5780	第1層	黒褐色土	10YR2/3	大礫(φ150mm以上)30%、礫(φ50~100mm)3%

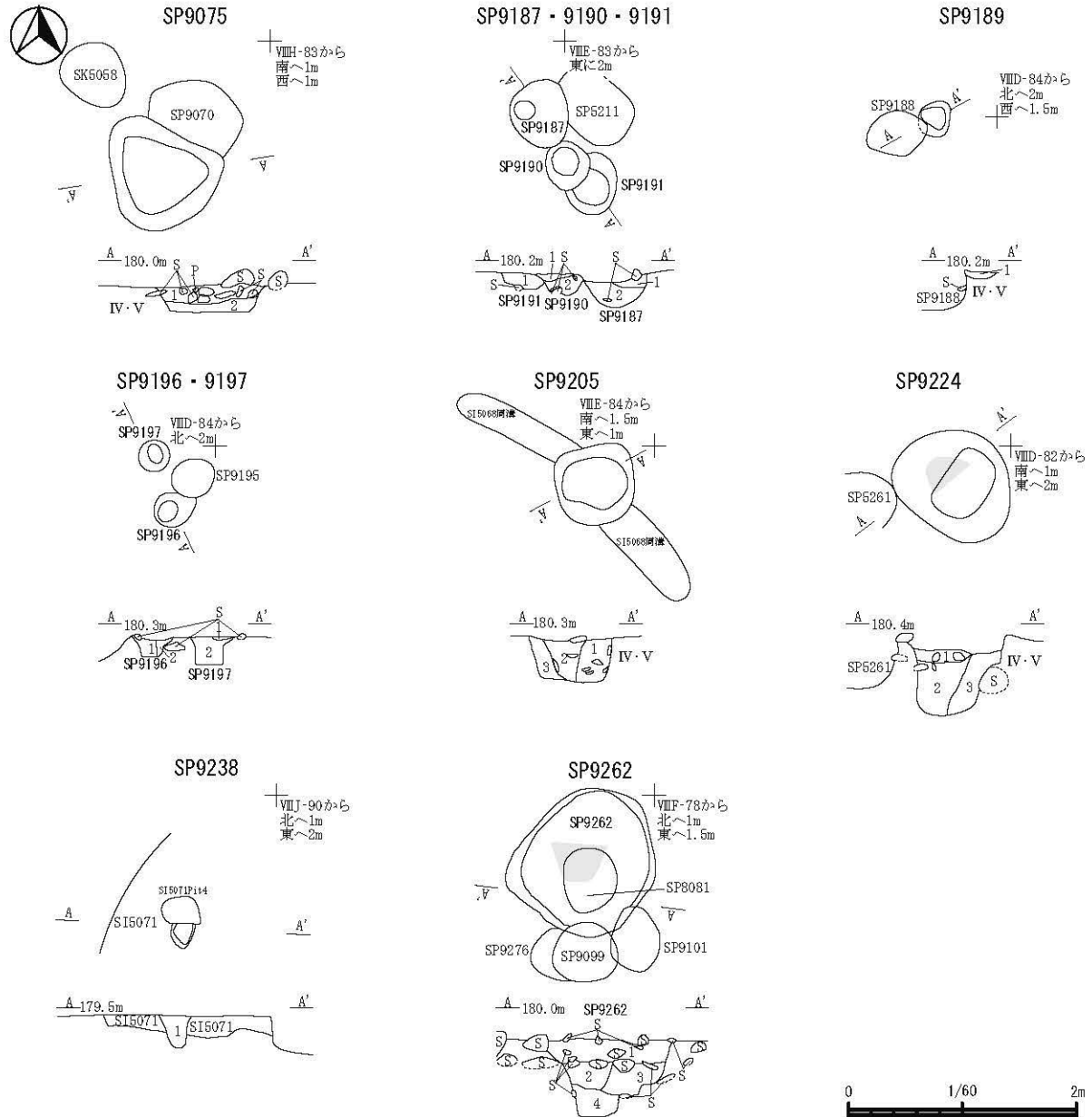
SP5860	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ20~60mm)40%
SP5912	第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~5mm)1%、礫(φ10~160mm)40%
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~200mm)75%
SP5987	第1層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ100~280mm)40%、炭化物(φ1~20mm)9%
SP5988	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~110mm)10%、土器(φ60)5%
SP5989	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~110mm)25%、炭化物(φ1~10mm)5%
SP5991	第1層	黒褐色土	10YR2/2	10YR4/6褐色土粒(φ10~30mm)10%、礫(φ20~120mm)5%
	第2層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ10~20mm)3%
	第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ20~70mm)15%
				礫(φ10~230mm)50%
SP6000	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%、柱痕
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~180mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%

図114 ピット13(SP5586~6000)



SP6001	第1層 黒褐色土 10YR2/2	黒褐色土(10YR2/3)7%、礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ1~10mm)5%
	第2層 黒褐色土 10YR2/1	黒褐色土(10YR2/2)10%、礫(φ10~50mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第3層 黒褐色土 10YR2/2	黒色土(10YR2/1)20%、礫(φ1~30mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%
SP6205	第1層 黒褐色土 10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)5%、礫(φ10~130mm)10%、炭化物(φ1~10mm)3%
	第2層 暗褐色土 10YR3/3	褐色土(10YR4/4)7%、黒褐色土(10YR2/3)3%、礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~10mm)
SP8002	第1層 褐色土 10YR4/6	礫(φ1~80mm)7%、炭化物(φ1~5mm)3%
	第2層 暗褐色土 10YR3/4	礫(φ110mm)10%、炭化物(φ1mm)1%
SP8575	第1層 暗褐色土 10YR3/4	炭化物微量、φ1~30mm大の円小礫少量
	第2層 暗褐色土 10YR3/3	φ10mm未満の小礫少量
	第3層 暗褐色土 10YR3/3	φ3~50mm大の礫混入
SP9041	第1層 黒褐色土 10YR2/3	礫(φ10~90mm)5%、炭化物(φ10mm以下)2% 柱痕
	第2層 暗褐色土 10YR3/4	礫(φ20~140mm)7%、炭化物(φ10mm以下)3% 埋め土の互層
	第3層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ10~60mm)5%、炭化物(φ10mm以下)2% 埋め土の互層
	第4層 黒褐色土 10YR3/2	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1% 埋め土の互層
	第5層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ10mm以下)2% 埋め土の互層
	第6層 黒褐色土 10YR3/2	礫(φ10~80mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1% 埋め土の互層
SP9332	第1層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ10~90mm)3%、炭化物(φ10mm以下)2%
SP9042	第1層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ1~70mm)5%、炭化物(φ1~5mm)2% 柱痕 しまり：なし
	第2層 暗褐色土 10YR3/4	礫(φ1~130mm)15%、炭化物(φ1~10mm)5% 埋め土
SP9043	第1層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ10~120mm)50%、炭化物(φ1mm)1%
SP9044	第1層 黒褐色土 10YR3/2	礫(φ1~100mm)3%、炭化物(φ1~10mm)2% 柱痕 しまり：なし
	第2層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ5~160mm)20%、炭化物(φ1~5mm)1% 埋め土上層
	第3層 暗褐色土 10YR3/4	礫(φ1~80mm)3%、炭化物(φ1mm)1% 埋め土下層
SP9062	第1層 暗褐色土 10YR3/3	礫(φ30~70mm)40%、炭化物(φ10mm以下)2%

図115 ピット14(SP6001~9062)

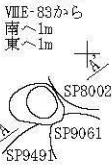


SP9075				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~190mm)15%、炭化物(φ10mm以下)2%	
第2層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~40mm)3%、炭化物(φ10mm以下)3%	
SP9187				
第1層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ10mm以下)2%	SI貼床
第2層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~70mm)5%、炭化物(φ10mm以下)3%	
SP9190				
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~20mm)3%、炭化物(φ1~20mm)3%	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~50mm)2%、炭化物(φ10mm以下)1%	
SP9191				
第1層	褐色土	10YR3/2	礫(φ10~30mm)1%、炭化物(φ10mm以下)1%	
SP9189				
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~40mm)3%、炭化物(φ10mm以下)5%、焼土粒(φ10mm以下)1%	
SP9196				
第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~30mm)3%、炭化物(φ10mm以下)3%	
第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~20mm)2%、炭化物(φ10mm以下)2%	
SP9197				
第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物(φ10mm以下)1%	
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)5%、炭化物(φ1~20mm)3%	
SP9205				
第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~110mm)3%、炭化物(φ1~20mm)5%	柱痕
第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~90mm)2%、炭化物(φ1~20mm)2%、焼土粒塊(φ5~40mm)20%混入	埋め土
第3層	暗褐色土	10YR3/4	IV層ブロック30%混入	
SP9224				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~80mm)3%、炭化物(φ10mm以下)1%	柱痕上堆積土
第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~110mm)5%、炭化物(φ10mm以下)3%	柱痕
第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ20~80mm)7%、炭化物(φ1~20mm)2%	埋め土
SP9238				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~40mm)3%、炭化物(φ10mm以下)5%	
SP9262				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ30~120mm)10%、炭化物(φ10mm以下)2%	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~130mm)15%、炭化物(φ10mm以下)2%	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~50mm)7%、炭化物(φ10mm以下)1%	
第4層	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~150mm)15%、炭化物(φ10mm以下)3%	

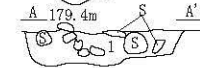
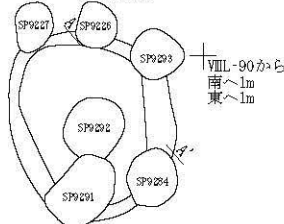
図116 ピット15(SP9075~9262)



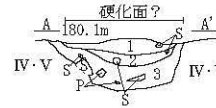
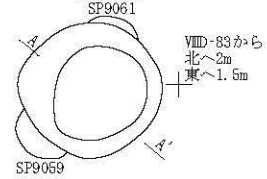
SP9273



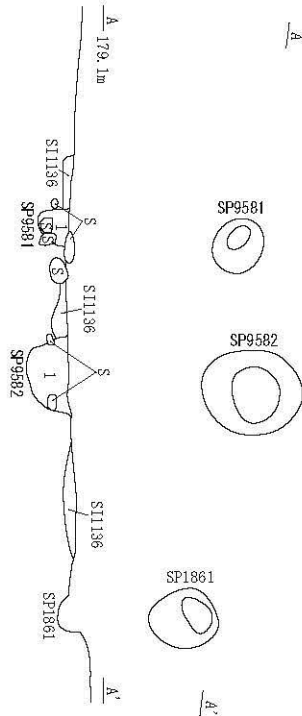
SP9493



SP9491

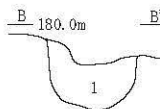
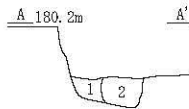
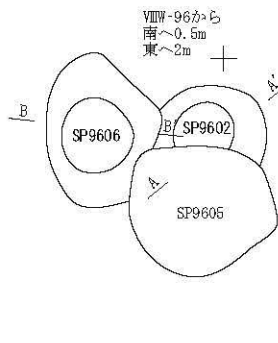


SP9581 - 9582

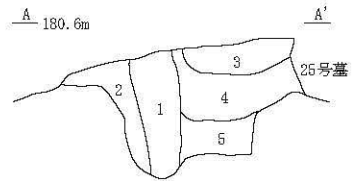
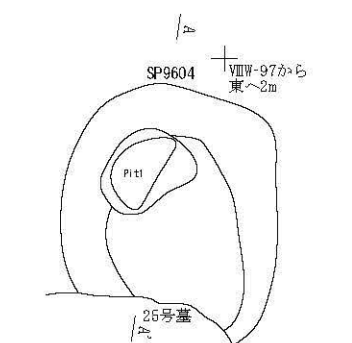


VIII-P-93から
西へ1.5m

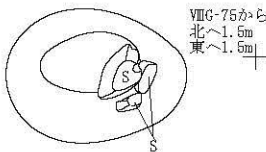
SP9602 - 9606



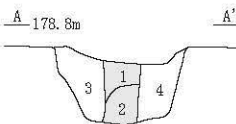
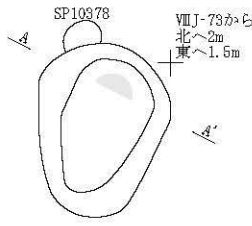
SP9604



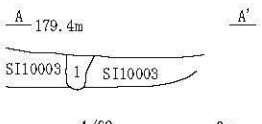
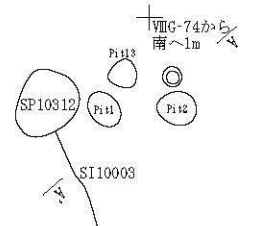
SP10101 (1/30)



SP10143



SP10152



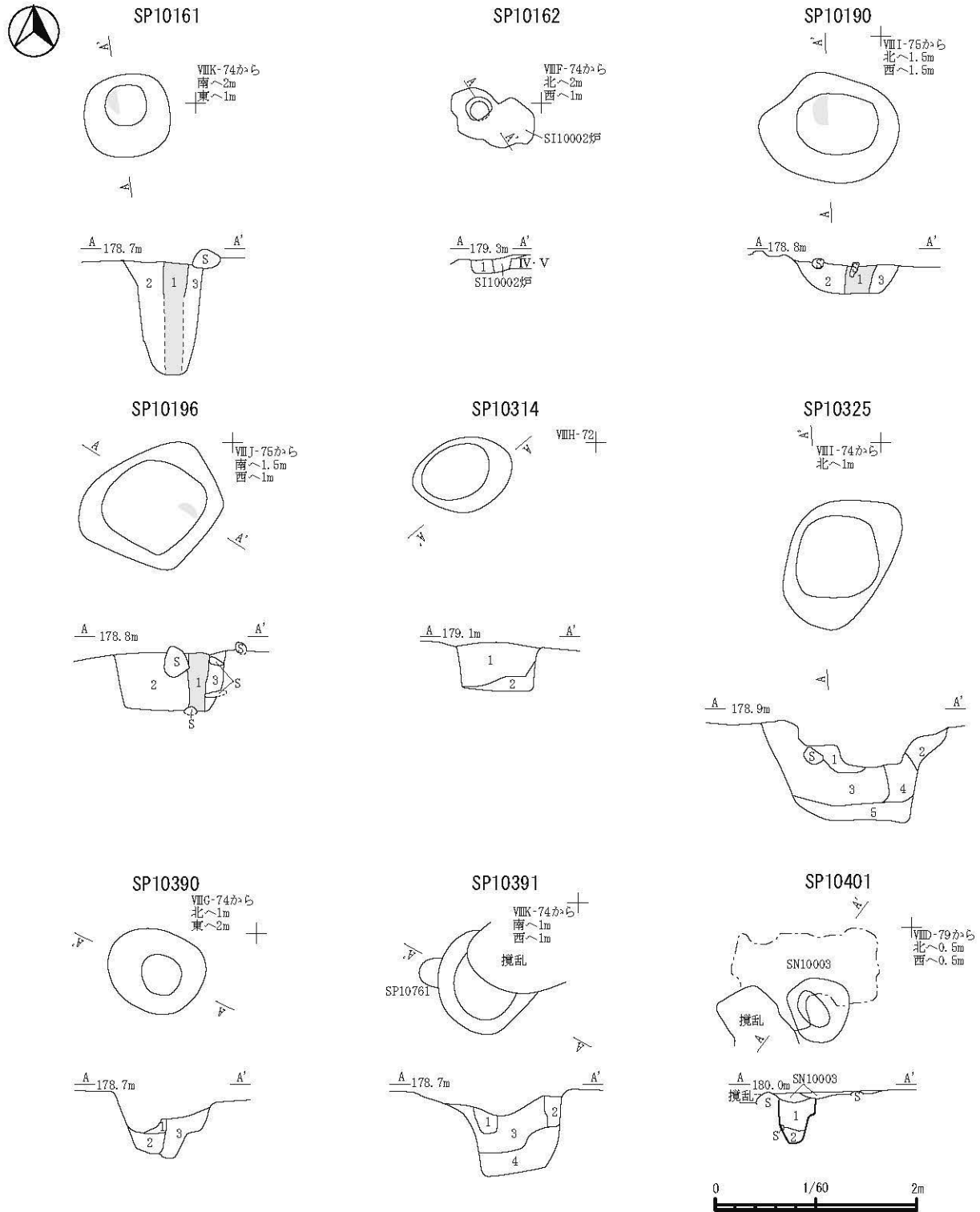
0 1/30 1m

SP9273	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~50mm) 2%, 炭化物 (φ 10mm以下) 3%
SP9493	第2層	黒褐色土	10YR3/2	礫 (φ 10~50mm) 3%, 炭化物 (φ 1~20mm) 2%
SP9491	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 30~200mm) 40%, 炭化物 (φ 10mm以下) 3%
SP9581	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫 (φ 1~100mm) 3%, 炭化物 (φ 1~10mm) 3%
SP9582	第2層	黒褐色土	10YR3/1	礫 (φ 1~60mm) 3%, 炭化物 (φ 1~5mm) 2%
SP9581	第3層	黒褐色土	10YR3/2	礫 (φ 1~150mm) 5%, 炭化物 (φ 1~5mm) 2%
SP9581	第1層	黒褐色土	10YR3/2	礫 (φ 8~140mm) 7%
SP9582	第1層	黒褐色土	10YR3/1	礫 (φ 1~60mm) 3%, 炭化物 (φ 1~5mm) 2%
SP9602	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~50mm) 7% 混入
SP9602	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物 (φ 1~20mm) 2%, 礫 (φ 10~20mm) 3% 混入

SP9606	柱痕	SP9606	第1層	暗褐色土	10YR3/4	小礫 (φ 0~10mm) 1% 混入
SP9602	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~50mm) 3% 混入		
SP9602	第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物 (φ 1~2mm) 1%, 礫 (φ 10~100mm) 15% 混入		
SP9602	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 10~100mm) 20% 混入		
SP9602	第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物 (φ 1~2mm) 1%, 礫 (φ 10~20mm) 5% 混入		
SP9602	第5層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物 (φ 1~2mm) 1%, 礫 (φ 10~20mm) 3% 混入		
SP10143	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 1~50mm) 7%, 炭化物 (φ 1~5mm) 2%		
SP10143	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫 (φ 1~20mm) 5%, 炭化物 (φ 1~10mm) 1%		
SP10143	第3層	褐色土	10YR4/4	礫 (φ 10~150mm) 30%, 炭化物 (φ 1mm) 1%		
SP10143	第4層	褐色土	10YR4/4	礫 (φ 10~200mm) 45%		
SP10152	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫 (φ 1~20mm) 3%, 10YR4/4褐色土2%, 炭化物 (φ 1~2mm) 1%		

0 1/60 2m

図117 ピット16 (SP9273~10152)



SP10161	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%	柱痕
	第2層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~100mm)10%、炭化物(φ1mm)1%	
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)40%	
SP10162	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1mm)1%	
SP10190	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~130mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%	柱痕
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~110mm)3%、炭化物(φ1~10mm)2%	
	第3層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~70mm)5%、炭化物(φ1~1.5mm)1%	
SP10196	第1層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~120mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%	柱痕
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~250mm)25%、炭化物(φ1~1.5mm)1%	
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~200mm)10%、炭化物(φ1~2mm)2%	
SP10314	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~100mm)15%、炭化物(φ1~5mm)3%	
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~50mm)7%、炭化物(φ1mm)1%	

SP10325	第1層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~50mm)15%、炭化物(φ1~5mm)1%	
	第2層	褐色土	10YR4/6	礫(φ1~70mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%	
	第3層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~10mm)2%	
	第4層	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~100mm)20%、炭化物(φ1mm)1%	
	第5層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~20mm)7%、炭化物(φ1~3mm)1%	
SP10390	第1層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物(φ1~5mm)1%	
	第2層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~20mm)2%	
	第3層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ5~150mm)20%	
SP10391	第1層	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~40mm)10%	
	第2層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~50mm)25%	
	第3層	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~260mm)50%	
	第4層	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~100mm)15%	
SP10401	第1層	黒褐色土	10YR3/1	礫(φ30~60mm)10%、炭化物(φ2~4mm)1%	
	第2層	黒褐色土	10YR3/1	礫(φ20~70mm)5%、炭化物(φ1mm)1%	

図118 ピット17(SP10161~10401)

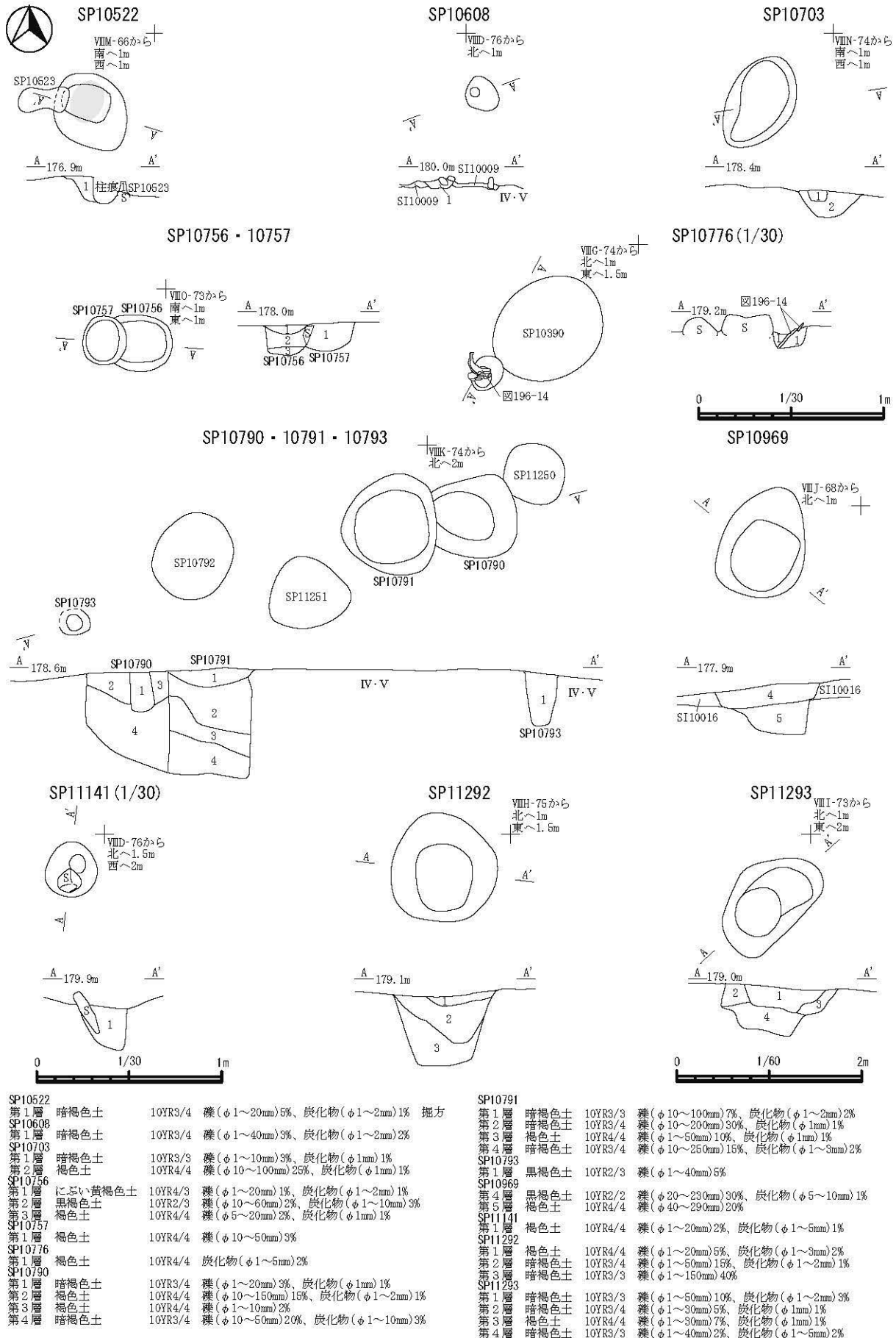


図119 ピット18 (SP10522~11293)

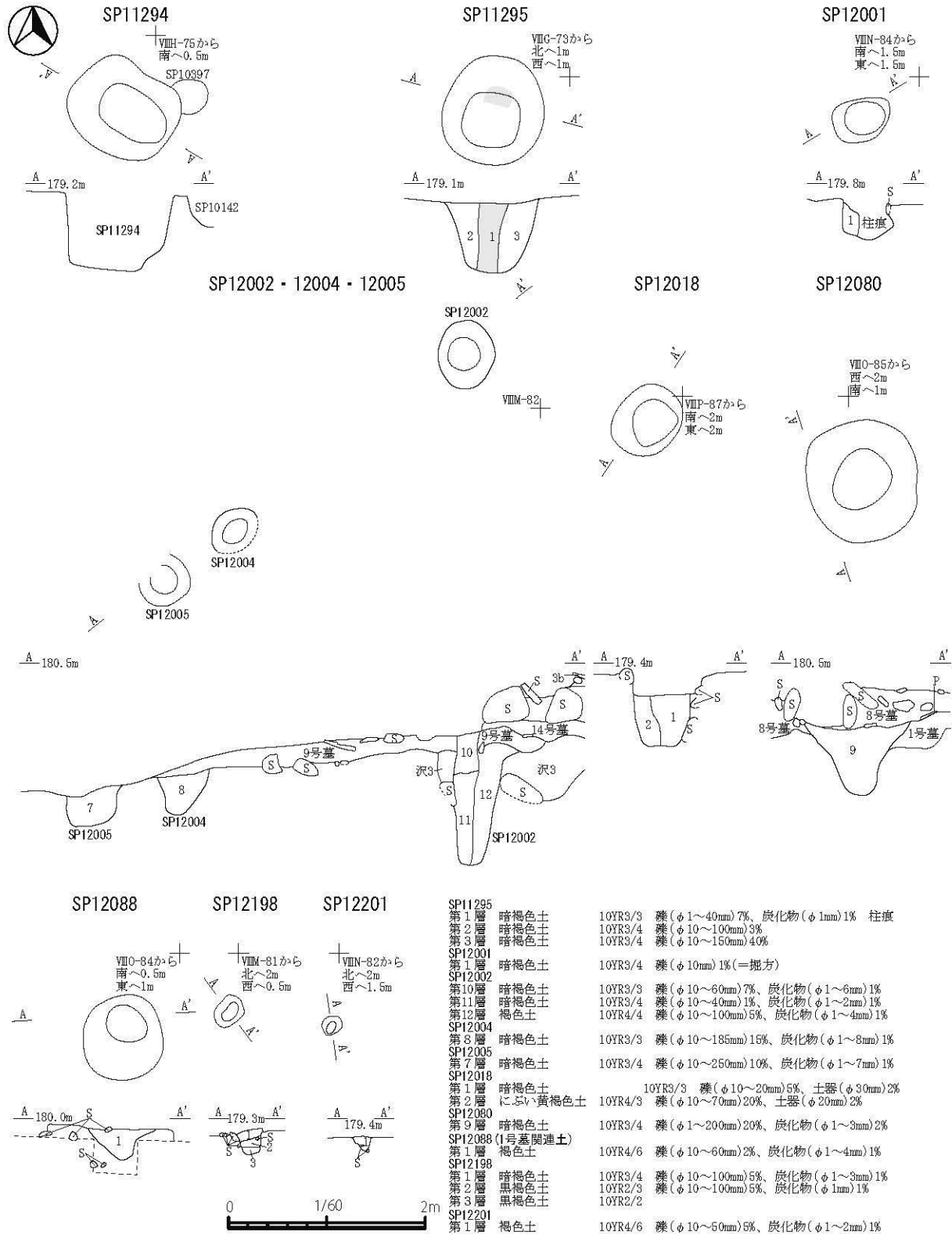
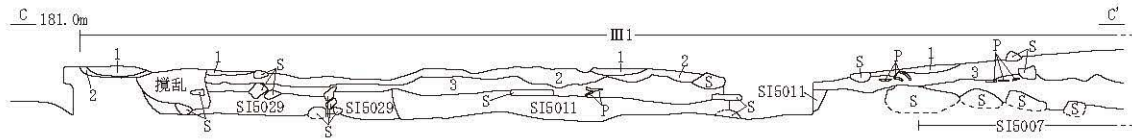
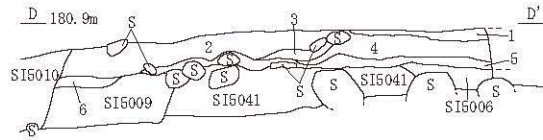


図120 ピット19 (SP11294~12201)

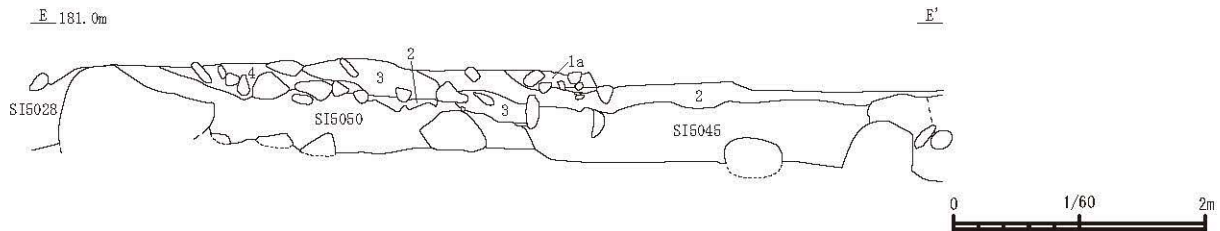
Ⅲ(廃棄層)1 断面



Ⅲ(廃棄層)11 断面



Ⅲ(廃棄層)13 断面



Ⅲ(廃棄層)1(C-C')

- 第1層 濃い褐色焼土 7.5YR5/4 礫(φ2~20mm)2%,炭化物(φ1~3mm)1%,焼土・投棄土器・焼土層
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 礫(φ40~100mm)1%,焼土・投棄土器・炭化物層
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ30~330mm)5%,炭化物(φ2~3mm)1%,焼土・土器投棄層

Ⅲ(廃棄層)11(D-D')

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ5~30mm)3%,炭化物(φ1~5mm)5%
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~140mm)30%,炭化物(φ1~10mm)7%
- 第3層 褐色土 7.5YR4/6 赤褐色焼土(5YR4/6)(φ1~3mm)5%,礫(φ1~20mm)5%,炭化物(φ1~7mm)6%
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~50mm)10%,炭化物(φ1~3mm)5%
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ10~150mm)20%,炭化物(φ1~50mm)15%,(北側は炭化物主体)
- 第6層 褐色土 10YR4/6 赤褐色焼土(5YR4/8)(φ1~7mm)7%,礫(φ10~50mm)5%,炭化物(φ1~15mm)2%

Ⅲ(廃棄層)13(F-F')

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~120mm)20%,炭化物(φ10mm以下)2%
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~160mm)50%,炭化物(φ10mm以下)5%
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ20~210mm)5%,炭化物(φ10mm以下)1%

単位名	細分層数	位置	長(m)	層構成(層番号)			住居・盛土単位との重複関係		土器型式下限	備考
				Sa	Sb	Sc	旧	新		
Ⅲ1	3	ⅧC-85~90 ⅧP-85~90	10.4×5.6	1	2	3	SI5005-5007-5008-5011-5019-5021-5029-5037-5040-5041、Ⅲ2~9-12	—	榎林2	2・3層から個体土器
Ⅲ2	3	ⅧD-86~87 ⅧE-86~87	1.7×1.7	2	—	1	SI5019-5020、Ⅲ3~5	Ⅲ1	榎林1	
Ⅲ3	3	ⅧD-86~87 ⅧE-86~87	3.6×2.3	1	3	2	SI5019(・5020)、Ⅲ4・5・8	Ⅲ1-2、SI5011	円上e	
Ⅲ4	6	ⅧD-86~87 ⅧE-86~87	4.7×2.4	1	3・5a・5b	4	SI5019-5028、SI5028-1層、Ⅲ5	SI5011-5020、Ⅲ1~3	不明	SI5011-5020>Ⅲ4>Ⅲ5の重複より円上e期
Ⅲ5	5	ⅧD-86~87 ⅧE-86~87	4.8×2.4	2a・2b	3	1	SI5019-5028-5037、SI5028-1a・c層、Ⅲ7・8	SI5011-5020、Ⅲ1~4・7	円上e	
Ⅲ6	3	ⅧD-85~86	2.8	—	2	1	SI5040-5041、Ⅲ7・9	Ⅲ1	円上d	
Ⅲ7	4	ⅧD-85~86	3.5	3・4	1・4	2	SI5040-5041、Ⅲ8・9・11・12	Ⅲ1・5・6	円上d	
Ⅲ8	2	ⅧD-86	0.8	1	2	—	SI5040	Ⅲ5・7	不明	SI5040<Ⅲ8<Ⅲ7の重複より円上d期
Ⅲ9	2	ⅧD-86	0.9	—	1・2	—	SI5041	SI5006-5040、Ⅲ7-12	不明	SI5041<Ⅲ9<Ⅲ7の重複より円上c~d期
Ⅲ10										Ⅲ13に統合
Ⅲ11	6	ⅧC-84~85 ⅧE-84~85	4×3.8	1	5	3・6	SI5006-5009-5041	SI5010、Ⅲ12	円上d	
Ⅲ12	1	ⅧD-85~86	7.2	1	—	—	SI5041-5009、Ⅲ11-4・5	Ⅲ7	不明	SI5041<Ⅲ12<Ⅲ7の重複より円上d期
Ⅲ13	3	ⅧE-88~90 ⅧG-88~90	8.4×6.1	—	2	—	SI1104-5044-5045-5050	SI5039	榎林	
Ⅲ14										大木7b SI5028-1に統合
SI5028-1	4	ⅧE-86~88 ⅧP-86~88	6.3×4.1	1a~d	—	—	SI5028-5042-5054-5051	Ⅲ3~5	円上e	
SI5004-1~5	4	ⅧD-88~89 ⅧE-88~89	4.8×3.5	—	4	3	SI5004	Ⅲ13?	榎林	

盛土構成単位一覧

図122 盛土遺構2

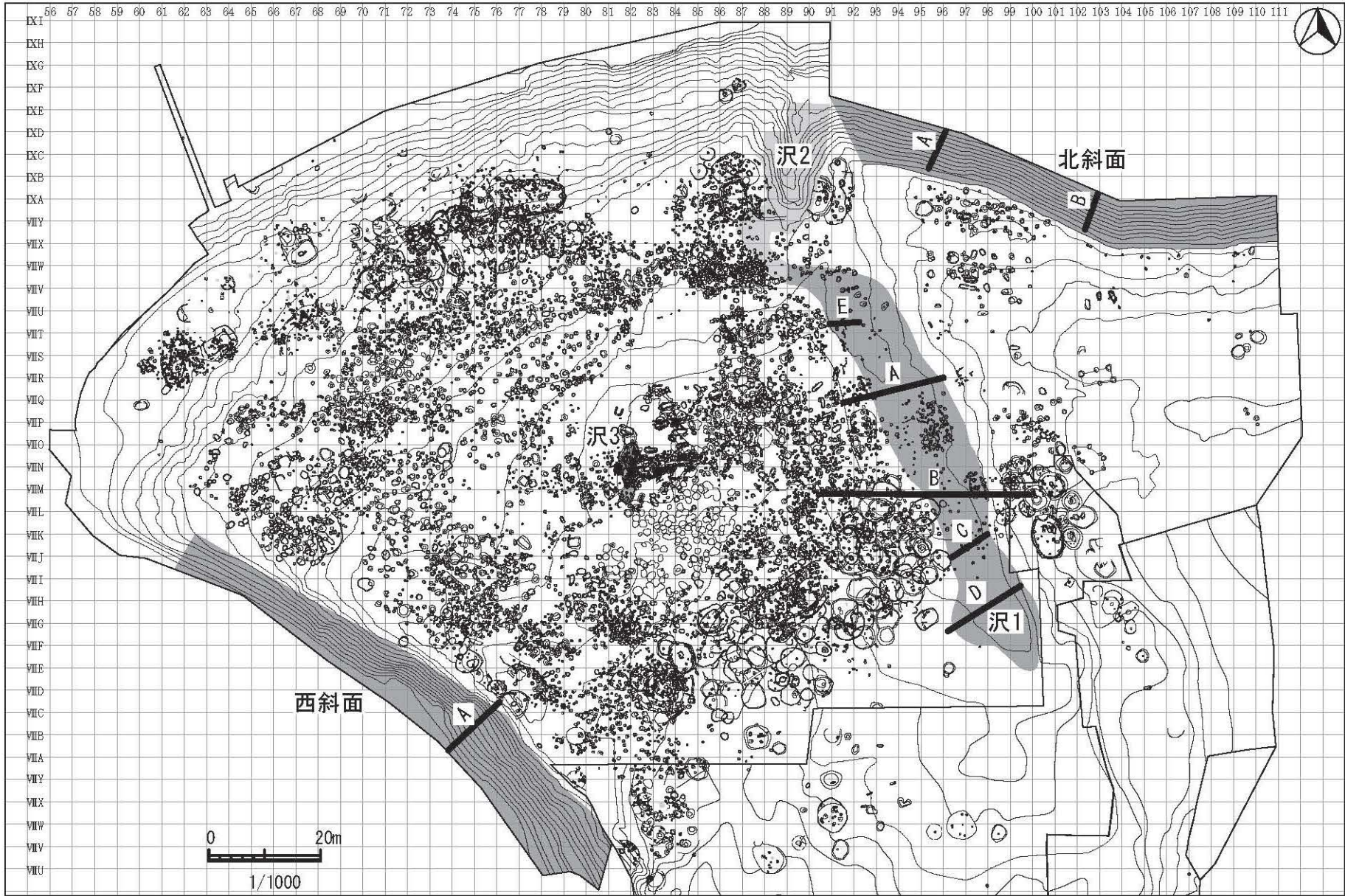


图123 沢1~3・北斜面・西斜面位置图

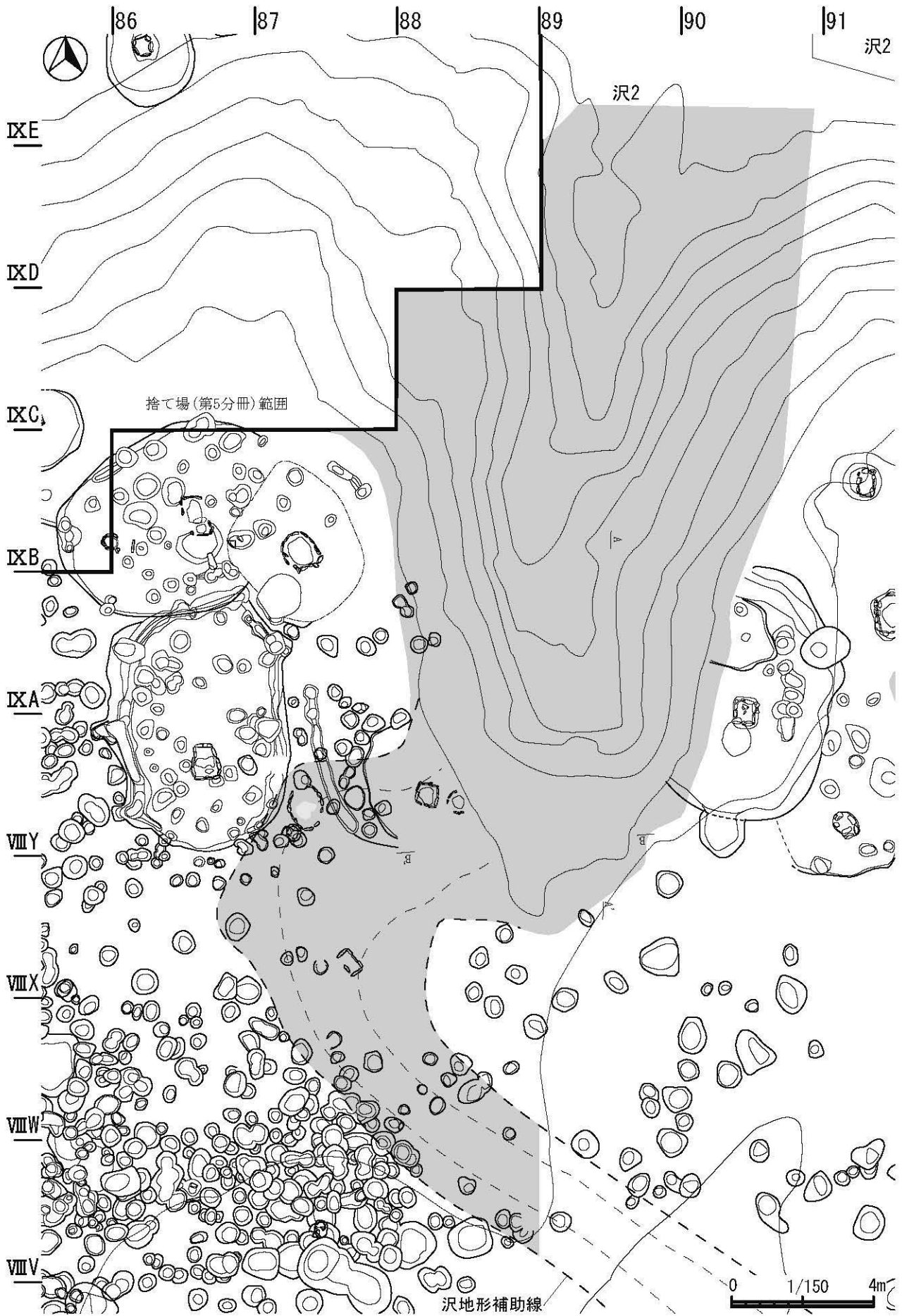


図124 沢2範囲図

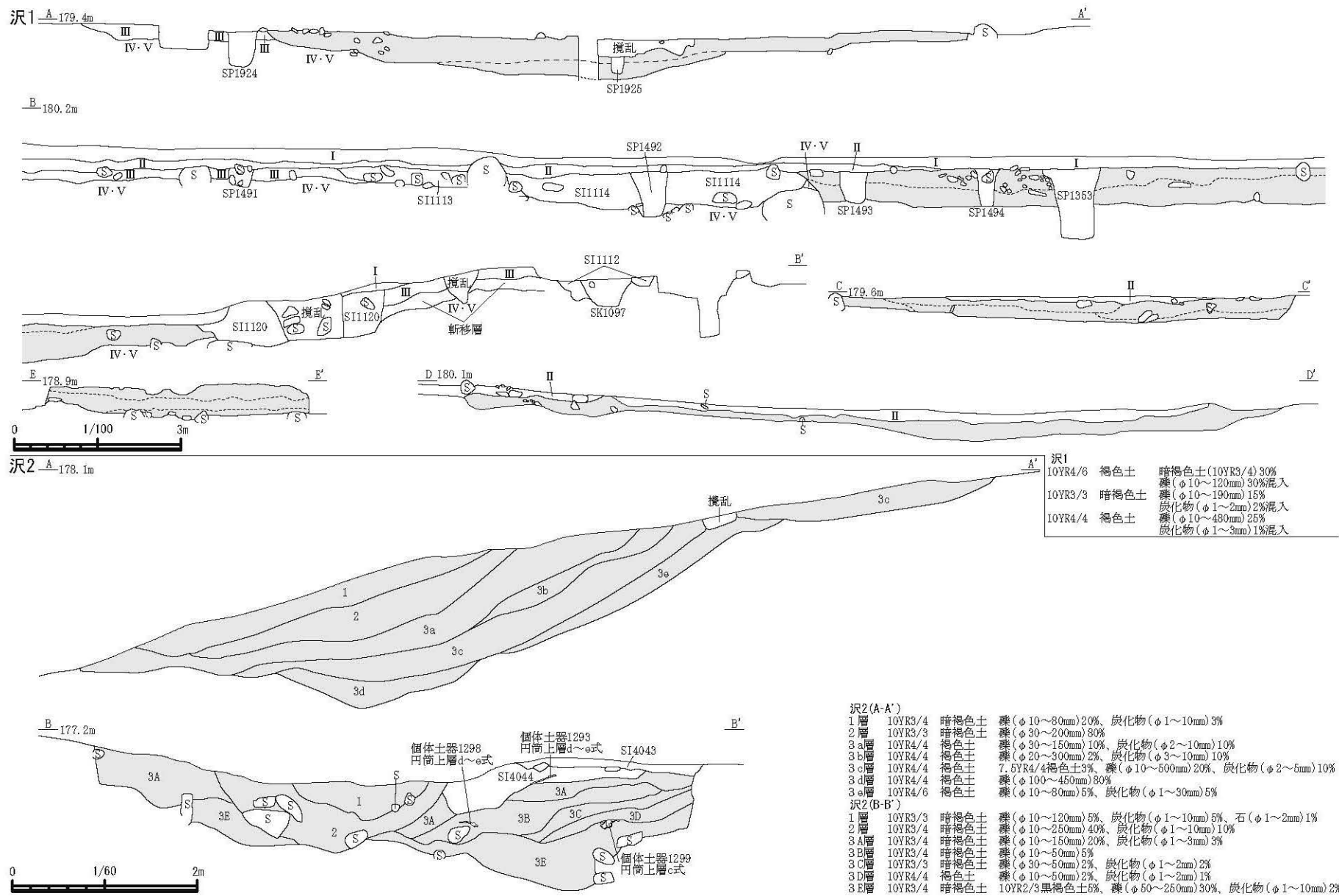


图125 沢1・2断面图

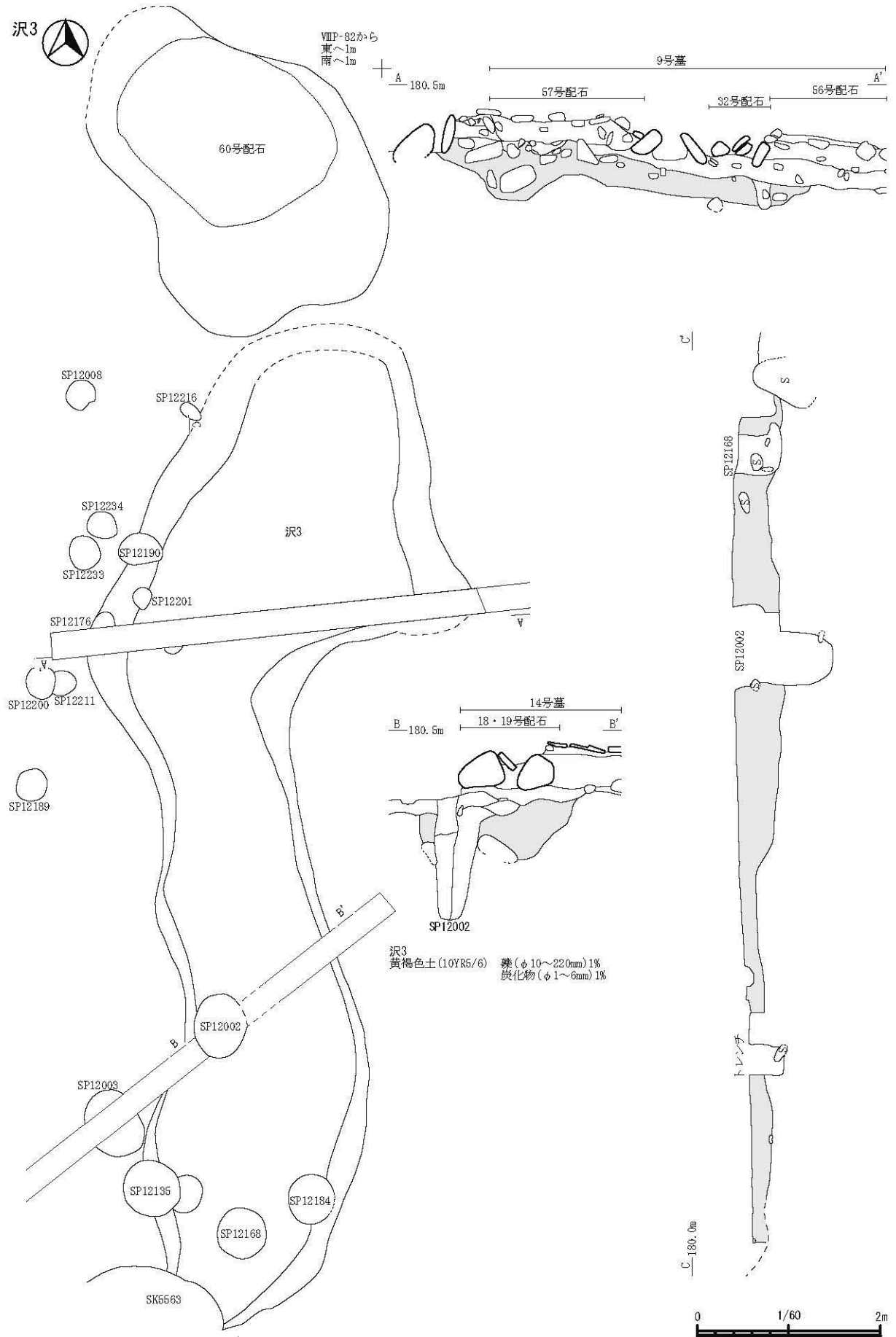
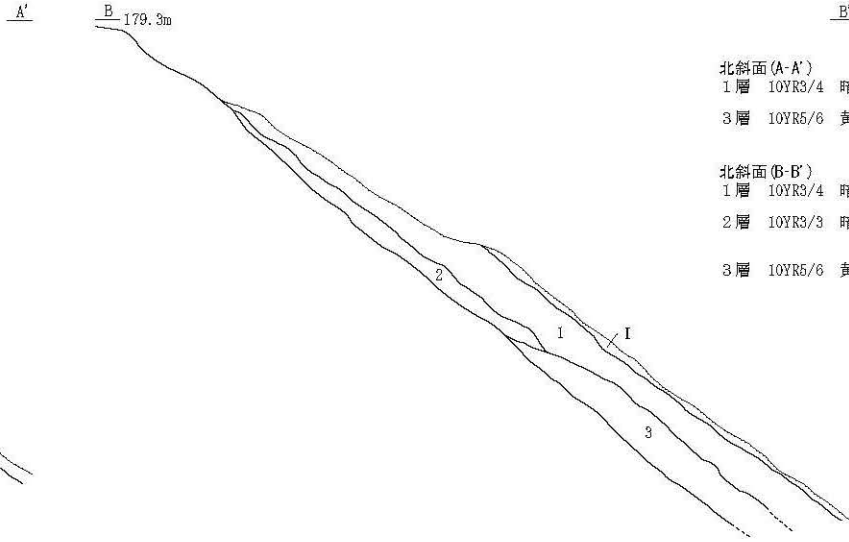
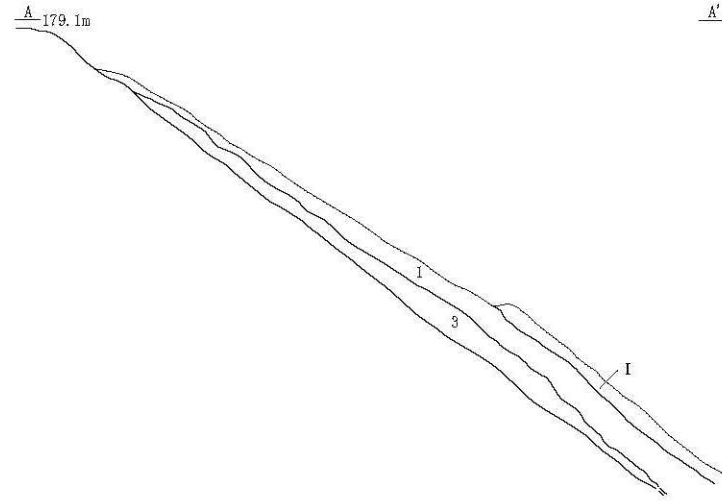


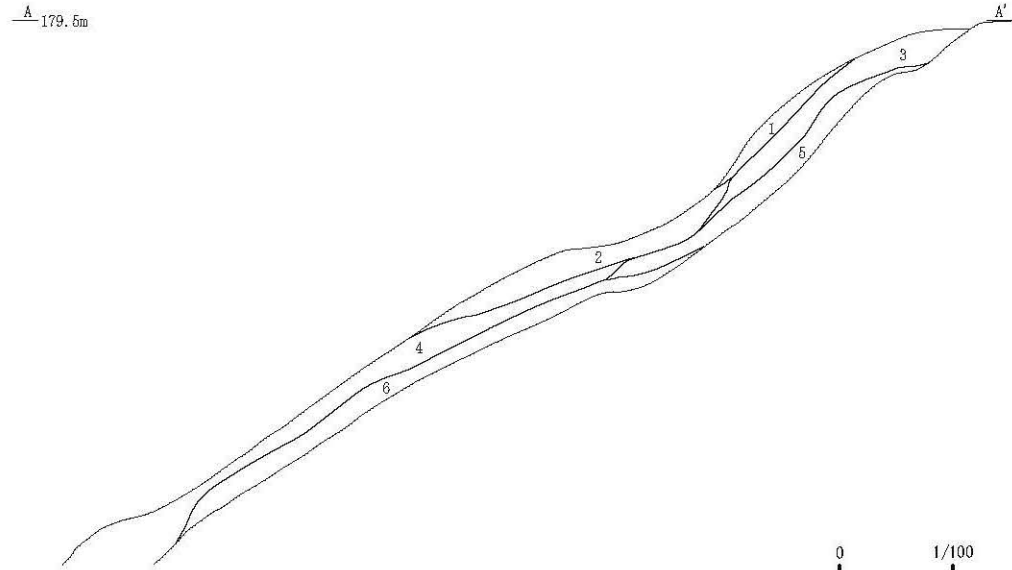
図126 沢3範囲図・断面図

北斜面



- 北斜面(A-A')
- | | | | |
|----|---------|------|--------------------|
| 1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 円礫(φ30~80mm)5% |
| | | | 遺物包含層 |
| 3層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 円礫(φ30~80mm)3% |
| | | | 角礫(岩盤片:φ50~80mm)5% |
| | | | しまり有り、無遺物層 |
- 北斜面(B-B')
- | | | | |
|----|---------|------|--------------------|
| 1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 円礫(φ30~100mm)5% |
| | | | 遺物包含層 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 円礫(φ30~150mm)5% |
| | | | 角礫(岩盤片:φ50~80mm)5% |
| | | | しまり有り、無遺物層 |
| 3層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 円礫(φ30~100mm)5% |
| | | | しまり有り、無遺物層 |

西斜面



- 西斜面
- | | | | |
|----|---------|------|---|
| 1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 礫(φ30~130mm)15%、炭化物(φ1~3mm)1%、表土 |
| 2層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 暗褐色土(10YR3/4)、礫(φ20~230mm)5%、炭化物(φ2~8mm)3% |
| 3層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 礫(φ20~210mm)5%、炭化物(φ1~12mm)2% |
| 4層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 暗褐色土(10YR3/4)20%、礫(φ20~220mm)5%、炭化物(φ1mm)1% |
| 5層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 礫(φ20~250mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2% |
| 6層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 暗褐色土(10YR3/4)20%、礫(φ30~240mm)5%、炭化物(φ1mm)1% |

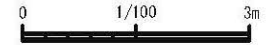


图127 北斜面・西斜面断面图